

2026 履修ガイド

生活科学科
文科

この「履修ガイド」は、入学から卒業までの履修についての規定や卒業要件など学修を進めていくうえで指針となるべき事項を集約したものです。

履修計画や諸手続きについては、オリエンテーションで詳しく説明しますが、「履修ガイド」を機会あるごとに参照し、十分に活用してください。わからないことがある場合には、担任（アカデミック・アドバイザー）に指導を受けたり、教務課に相談してください。

「履修ガイド」は入学時にのみ配付します。卒業するまで紛失しないようにしてください。

紛失した場合は、再配付しません。また、内容の一部が変更される場合にはオリエンテーション時の説明、追補録の配付または kyonet でお知らせいたします。

なお、各年度の授業内容については、kyonet 上の共立シラバスで確認してください。

2026履修ガイド

(生活科学科、文科)

I
履修要項

教養教育

生活科学科

文科

短
期
大
学
開
放
期
目
録

II
全
学
科
共
通

III
諸
規
程
等

IV
伝
達
他

共立女子短期大学

目次

| | |
|---------------------------|----|
| 本学のおゆみ | 4 |
| 本学の組織 | 6 |
| 建学の精神 | 7 |
| 校訓 | 7 |
| 共立女子大学・短期大学ビジョン（KWU ビジョン） | 7 |
| 共立女子短期大学の人材養成目的 | 8 |
| 共立女子短期大学の3つのポリシー | 8 |
| 共立リーダーシップ® | 11 |
| 教育課程（カリキュラム）編成の考え方 | 11 |
| 履修にあたって | 11 |
| カリキュラム・マップ | 12 |
| カリキュラム・ツリー | 12 |
| 履修系統図・科目ナンバリング | 12 |
| 履修モデル | 12 |

I. 履修要項

■教養教育科目

| | |
|-------------------|----|
| 1. 教養教育の人材養成目的 | 13 |
| 2. 教養教育の目指すもの | 13 |
| 3. 教養教育科目の全体の構成 | 13 |
| 4. 教養教育科目の履修上の注意点 | 14 |

■生活科学科

| | |
|------------------------|----|
| 1. 生活科学科の人材養成目的 | 22 |
| 2. 生活科学科の教育目標 | 22 |
| 3. 生活科学科の3つのポリシー | 22 |
| 4. 学科の概要 | 26 |
| 5. カリキュラムの全体像 | 27 |
| 6. 専門教育科目 | 27 |
| 7. 卒業の要件 | 30 |
| 8. 教育課程（カリキュラム）および履修方法 | 31 |
| 9. カリキュラム・マップ | 37 |
| 10. カリキュラム・ツリー | 58 |
| 11. 履修系統図 | 60 |
| 12. 履修モデル | 62 |

■文科

| | |
|---------------|----|
| 1. 文科の人材養成目的 | 64 |
| 2. 文科の教育目標 | 64 |
| 3. 文科の3つのポリシー | 64 |
| 4. 学科の概要 | 68 |
| 5. カリキュラムの全体像 | 69 |
| 6. 専門教育科目 | 69 |
| 7. 卒業の要件 | 71 |

| | |
|------------------------|-----|
| 8. 教育課程（カリキュラム）および履修方法 | 72 |
| 9. カリキュラム・マップ | 79 |
| 10. カリキュラム・ツリー | 102 |
| 11. 履修系統図 | 104 |
| 12. 履修モデル | 107 |
| ■短期大学開放科目 | 110 |

II. 全学科に共通する事項

| | |
|--|-----|
| 1. 学籍について | 112 |
| 2. 学生証 | 112 |
| 3. 学籍異動（休学・復学・退学・除籍・再入学・ 転学部・転学科・転専攻） | 113 |
| 4. 学費 | 114 |
| 5. 単位および授業期間 | 115 |
| 6. 授業 | 116 |
| 7. 履修登録 | 119 |
| 8. 既修得単位の認定 | 122 |
| 9. 試験 | 123 |
| 10. 進級 | 127 |
| 11. 海外留学・研修 | 128 |
| 12. 全学共通副専攻制度 | 130 |
| 13. 英語教育プログラム（KEIT〈ケイト〉） | 131 |
| 14. Kyoritsu サーティフィケート制度 | 132 |
| 15. 科目等履修 | 133 |
| 16. 編入学 | 133 |
| 17. 履修に関するQ&A | 134 |

III. 諸規程等

| | |
|--------------------------|-----|
| 1. 共立女子短期大学学則 | 136 |
| 2. 共立女子短期大学学位規程 | 148 |
| 3. 共立女子大学・共立女子短期大学学生懲戒規程 | 149 |

| | |
|----------|-----|
| IV. 伝達 他 | 151 |
|----------|-----|

本学のあゆみ

本学の歴史は、女子教育が黎明期を迎えたばかりの明治 19 年に「女子の社会的地位を高めるには、専門の職業を身につけ、自活の能力を得させなければならない」と、宮川保全、鳩山春子ら女子教育の先覚者 34 名が、共同で「共立女子職業学校」を創立した時にさかのぼる。「共立」という校名は、この共同の設立に由来する。

そこでは、専門の職業活動に必要な学術技能を教育することが中心となったが、同時に、女子が自立するために必要な教養を習得させることが目指されたのである。したがって、本学建学の精神は、女性の社会的地位向上のための、自活の能力の習得と自立した女性として必要な教養の習得であったといえる。やがてこの建学の精神から「誠実・勤勉・友愛」の三つの徳目が生まれ育ち、本学の伝統的精神のよりどころとなった。昭和 3 年、「共立女子専門学校」が設立されたが、そこでもこの建学の精神は受け継がれ、社会に多大な貢献をした。

第二次世界大戦の激動期を経て、日本は世界の平和と人類の福祉のため、文化国家建設に全力を注ぐことになった。教育面では学制改革が行なわれ、それを機に、本学においては、昭和 24 年、家庭生活についての実際的な専門的知識と社会人としての広い視野とをもつ人間の育成をめざして、「共立女子大学家政学部」を発足させた。さらに昭和 28 年には、文学と芸術の世界を広く深く理解できる人間の育成をめざして、大学に「文芸学部」を開設した。平成 2 年には、日本社会の国際化に対応し、豊かな国際感覚をもち、国際化した社会で積極的に活躍できる人間の育成をめざして、「国際文化学部」を八王子キャンパスに開設。平成 19 年度からは、家政学部に新たに「児童学科」を開設し「生活美術学科」を「建築・デザイン学科」とし、文芸学部は従来の文学と芸術を学ぶ特徴を生かしながらメディアという視点から「文芸学部文芸学科」を、国際文化学部は社会科学系の科目を充実させて「国際学部」として再編した。平成 25 年度には、短期大学看護学科の教育実績を踏まえ、「看護学部」を開設した。令和 2 年度には都心のキャンパスを舞台に、あらゆるフィールドでリーダーシップを発揮できる女性の育成を目指し、大学に「ビジネス学部」を開設した。令和 5 年度には、「家政学部」より「建築・デザイン学科」を「建築・デザイン学部」に、令和 8 年度には、「児童学科」を「児童学部」に独立させ、より一層の教育の充実を図っている。

また短期大学は、昭和 25 年に「共立女子大学短期大学部家政科」を設置したことに始まり、昭和 28 年には実務的・実地的知識と教養とを身につけた人間の育成をめざして、短期大学部に「文科第一部」「文科第二部」を開設した。昭和 48 年、「共立女子大学短期大学部」は「共立女子短期大学」と改称され、短期大学としてのまとまりある教育・研究体制が整えられ、平成 16 年度の「看護学科」の開設、平成 19 年度の「文科第二部」の募集停止および「文科第一部」の「文科」への改称、大学看護学部の開設に伴う「看護学科」の廃止を経て、現在は「生活科学科」「文科」の 2 学科体制となっている。

大学院は、昭和 41 年に「文芸学研究科」(修士課程)を、55 年に「家政学研究科」(修士課程)を、さらに平成 6 年に「比較文化研究科」(修士課程)を設置し、また同年には「家政学研究科」に博士後期課程として「人間生活学専攻」を設置した。平成 23 年からは、家政学研究科(博士前期課程)に「建築・デザイン専攻」と「児童学専攻」を新たに設置し、「比較文化研究科」を募集停止し「国際学研究科」を設置した。平成 27 年には、「文芸学研究科」において、「日本文学専攻」「英文学専攻」「演劇学専攻」の学生募集を停止して新たに「文芸学専攻」を設置した。さらに、平成 29 年に「看護学研究科」(修士課程)を設置した。これら大学院は、高度の学術研究・教育機関として、ますます充実することを目指している。

本学では、昭和 54 年に都心に位置する神田一ツ橋キャンパスから、さらなる教育環境の充実を図るため、八王子に新キャンパスを設けた。八王子キャンパスは、長年にわたって本学の教育拠点のひとつであったが、かねてより大学・短期大学将来構想委員会では、教育機能の一層の充実をめざして、神田一ツ橋キャンパスを中心とした集中型教育の導入を検討、教育内容および教育方法の改革を含めた環境整備を行い、平成 18 年度より神田一ツ橋キャンパスへの集中化の実施に取り組み、平成 19 年度より大学・短期大学の授業が神田一ツ橋キャンパスで実施されることにより、学部・学科の枠を超え、教養教育の全学共通化を実現することとなった。

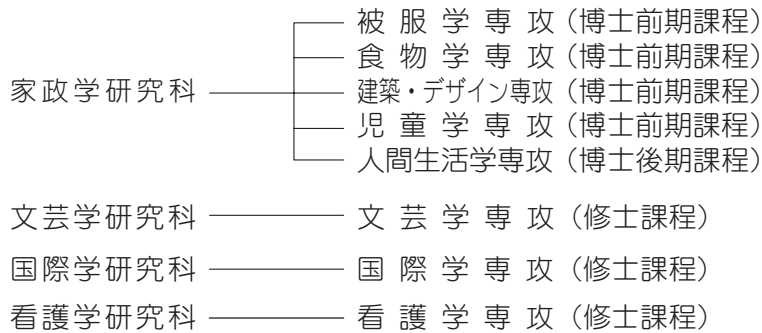
いまや我々をとりまく社会の高度技術化、国際化、情報化等の進歩は目覚ましいものがあり、卒業生には社会の各分野で主導的・積極的に活躍する場が開かれている。

社会の求める高度な能力とともに、本学の建学の精神にもとづいた、豊かな人間性を備え、確かな価値観を身に付けた女性を世に送り出すことが本学の目指す目標であり、本学の教育の方針である。

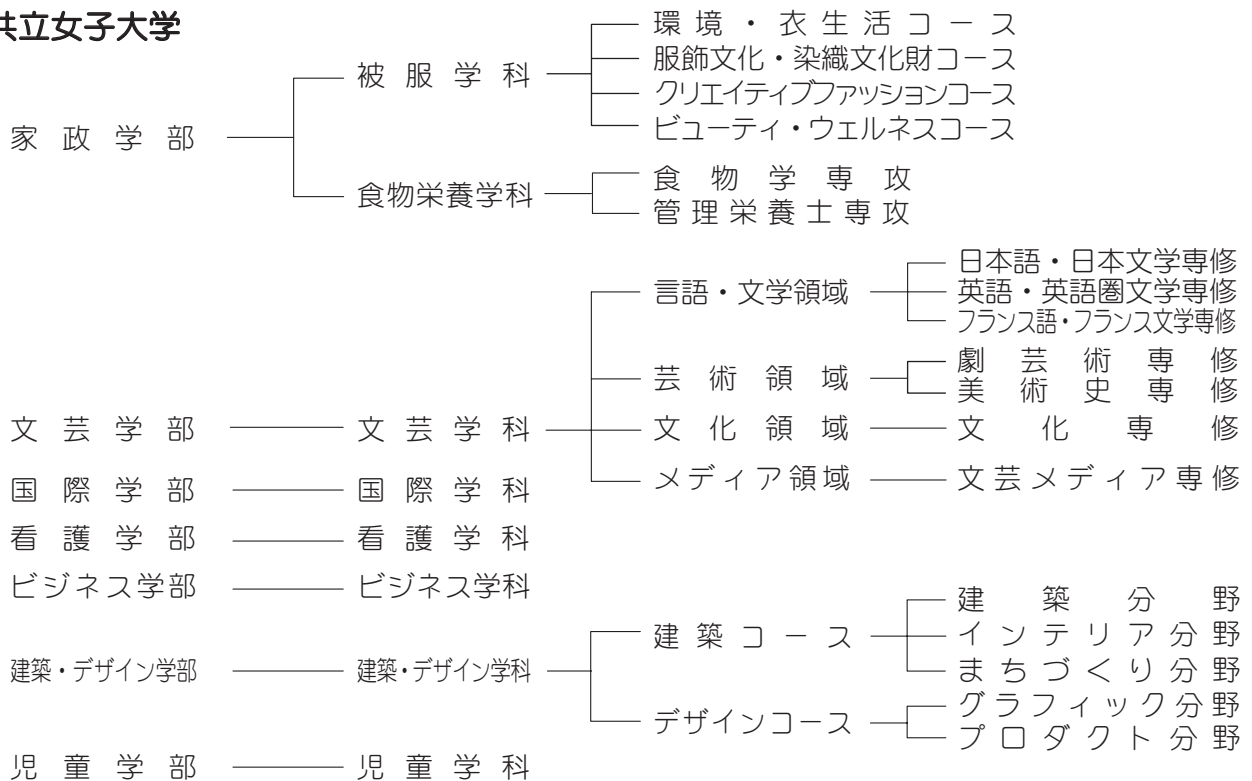
| 年 月 日 | 事 項 |
|------------|--|
| 明治19. 3.22 | 共立女子職業学校創立 |
| 大正14. 4. 1 | 共立女子職業学校専門学部設置 |
| 昭和 3.10. 1 | 共立女子専門学校設立 |
| 昭和25. 4. 1 | 共立女子大学短期大学部家政科設置 |
| 昭和26. 4. 1 | 被服別科設置 |
| 昭和28. 4. 1 | 文科第一部・第二部国語専攻、英語専攻設置 |
| 昭和35. 4. 1 | 定員変更 家政科（100名→200名） 文科第一部国語専攻（50名→100名） 英語専攻（50名→100名） |
| 昭和40. 4. 1 | 被服別科を別科（被服専修）と改称 |
| 昭和48. 4. 1 | 短期大学部を共立女子短期大学に名称変更 |
| 昭和53. 4. 1 | 定員変更 文科第二部国語専攻（50名→100名） 英語専攻（50名→100名） |
| 昭和59. 4. 1 | 別科（被服専修）を別科（家政専修）と改称 |
| 平成元 . 4. 1 | 家政科を生活科学科と改称 |
| 平成 2. 4. 1 | 別科（家政専修）を別科（生活科学専修）と改称 |
| 平成 3. 4. 1 | 臨時定員増 生活科学科（200名→280名） 文科第一部国語専攻（100名→150名） 英語専攻（100名→150名） 文科第二部国語専攻（100名→170名） 英語専攻（100名→170名） |
| 平成 6. 4. 1 | 文科第一部・第二部国語専攻を日本語・日本文学専攻、英語専攻を英語・英米文学専攻と改称 |
| 平成12. 4. 1 | 定員変更 生活科学科（200名→240名） 文科第一部日本語・日本文学専攻（100名→125名） 文科第一部英語・英米文学専攻（100名→125名） 文科第二部日本語・日本文学専攻（170名→100名） 文科第二部英語・英米文学専攻（170名→100名） |
| 平成16. 4. 1 | 共立女子短期大学看護学科設置 定員変更 生活科学科（240名→170名） 文科第一部日本語・日本文学専攻（125名→80名） 文科第一部英語・英米文学専攻（125名→90名） |
| 平成18. 3.31 | 別科（生活科学専修）を廃止 |
| 平成19. 4. 1 | 文科第二部の募集を停止 文科第一部日本語・日本文学専攻及び英語・英米文学専攻を文科（170名）と改称 |
| 平成20. 3.31 | 文科第二部を廃止 |
| 平成25. 4. 1 | 看護学科の募集を停止 |
| 平成27. 4. 1 | 定員変更 生活科学科（170名→100名） 文科（170名→100名） |
| 平成28. 3.31 | 看護学科を廃止 |

本学の組織

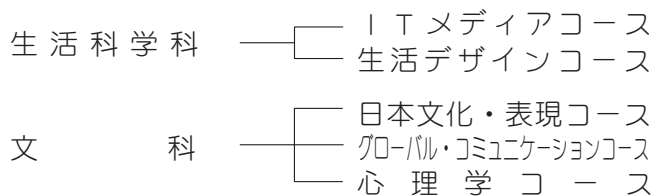
共立女子大学大学院



共立女子大学



共立女子短期大学



全学教育推進機構

| | | |
|---------|----------|------------------|
| 図書館 | 研究推進センター | こころとからだのサポートセンター |
| 博物館 | 国際交流センター | キャリアセンター |
| 総合文化研究所 | 社会連携センター | |

建学の精神に基づき、社会の求める高度な能力とともに、豊かな人間性を備え、確かな価値観を身に付けた女性を世に送り出すことが本学のめざすところであり、教育の方針です。

建学以降、受け継がれるこの精神から、「誠実・勤勉・友愛」の校訓が生まれ、本学の伝統的精神のよりどころとなっています。

校訓を自らのものとし常に身に備え、具体的にはKWUビジョンに基づき、社会で自立した女性として活躍する日をめざしてください。

建学の精神

「女性の自立と自活」

女性の社会的地位向上のために、「自活の能力」と「自立した女性として必要な教養」の習得をめざす

校 訓

『誠実』 他者を理解し自己を律し、自ら社会秩序を作り出すこと

『勤勉』 自ら進んで課題に取り組み、他者と共同して努力すること

『友愛』 他者を思いやり、ともに成長し生きていくこと

共立女子大学・短期大学ビジョン（KWU ビジョン）

①『自律と努力』 自己を確立し、生涯努力し続ける

「自己を確立し、生涯努力し続ける」ことを「自律と努力」として表現している。このビジョンは、精神的自立を念頭に置いている。精神的自立は、全ての自立の基礎をなす概念である。

「自己を確立し、生涯努力し続ける」ということは、自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき、夢と自信を持つこと、自らを律しつつ、他者と共に生きるために主体的に判断し、生涯努力し続けること、自己を見つめ、他者との関係を築き、夢と自信を持ち、全力で努力し続けることを意味する。

②『創造とキャリア』 新たな価値を創造し、社会を生き抜く

「新たな価値を創造し、社会を生き抜く」ことを「創造とキャリア」として表現している。このビジョンは、職業的自立（職業能力の育成）を念頭に置いている。本学の創設は、女性が職業能力を持つ必要性を痛感し、職業による女性の自立を支援することを目的としており、職業的自立（職業能力の育成）は、本学の最重要事項に位置づけられるものである。

「新たな価値を創造し、社会を生き抜く」ということは、常に見聞を深め、様々な側面から物事を思考・判断・表現し、主体的にキャリアを形成すること、主体的な学びによって得た学修成果により、将来の進路を自分らしく切り拓くこと、教養と専門性を備え、応用力により新たな価値を創造し、社会を生き抜く力を持つことを意味する。

③『協働とリーダーシップ』 他者と協働し、リーダーシップを発揮する

「他者と協働し、リーダーシップを発揮する」ことを「協働とリーダーシップ」として表現している。このビジョンは、社会的自立を念頭に置いている。多様な人々と協働し、社会的使命を果たすために、共同設立によって本学が創設された経緯は、まさに社会的自立を体現したものと言える。

「他者と協働し、リーダーシップを発揮する」ということは、自らの価値観と多様な価値観のあいだに和をもた

らし、能動的に協力・協働すること、アクティブラーニングによる学修経験を通じて、他者と協働し、様々な課題解決を行なうこと、協働力やコミュニケーション能力を身につけ、社会の発展のためにリーダーシップを発揮することを意味する。

共立女子短期大学の人材養成目的

本短期大学は、学生の主体的な学びを育み、専門の学芸を教授し、職業または实际生活に必要な能力と幅広く深い教養および総合的な判断力を培うとともに、誠実で豊かな人間性を涵養し、社会に広く貢献する自立した女性を育成することを目的とする。

共立女子短期大学の3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー

共立女子短期大学は、建学の精神「女性の自立と自活」を基本理念に、各科の所定の課程を修め、62単位以上の単位修得と必修等の卒業要件を充たし、幅広い教養と専門分野における知識・技術の学修を通して、以下に示す客観性・自律性、課題発見・解決力、リーダーシップを資質・能力として備えた人物に学位を授与する。

| 観点 | 内容 | 人材養成目的 KWU ビジョンとの対応 |
|-----------------|--|------------------------|
| DP1 客観性・自律性 | 多角的な視点から客観的に物事を理解し、主体的な判断のもと行動することができる。 | 人材養成目的 自律と努力 |
| DP2 課題発見・解決力 | 職業および社会生活に必要な内容について、課題を発見し、解決するための基礎的能力を身につけている。 | 人材養成目的 創造とキャリア |
| DP3 リーダーシップ | 目標を明確に掲げ共有した上で、率先して行動し、他者との相互支援関係を作ることで、目標達成に近づいていくことができる。 | 協働とリーダーシップ |

カリキュラム・ポリシー

共立女子短期大学は、ディプロマ・ポリシーに定める資質・能力を育成するために必要・適切な授業科目を精選し、順次性ある体系的な教育課程を編成する。その際、科目履修の順次性を通し、カリキュラムの体系的学修を可能にするために、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、ナンバリング、履修系統図を用いる。

その上で、教育課程の編成及び授業実施にあたり、教育内容、教育方法、学修成果の評価の方針を以下の通り定める。

教育内容

1. 教養教育科目

学生を、ひとりの女性・ひとりの人間として日々の生活を豊かに充実して生き、主体的に社会に参加・貢献して責任ある役割を果たす人材として育成するために、以下の「自律と努力コア」「創造とキャリアコア」「協働とリーダーシップコア」に区分する。

1-1. 自律と努力コア

・初年次教育科目・キャリア教育科目として、客観的に物事を理解し、自己を確立し生涯学び続けるための基礎的な力を養う科目群を編成する。

・学生生活への適応、論理的な考え方や文章作成技術の定着、ライフプランやキャリアプランの形成、課題発見、課題分析、情報収集、グループワーク、プレゼンテーションなどの課題解決に必要な技術の定着をはかると

もに、社会人として果たすべき責務を学ぶために、少人数で行う「基礎ゼミナール」「課題解決のためのリーダーシップ入門」を必修とする。

1-2. 創造とキャリアコア

- ・新たな価値を創造し社会と積極的に関わっていくための基礎的な力を身につけるとともに、社会人として必要な教養を養う科目群を編成する。
- ・英語においては、プレイスメントテストの結果を踏まえた習熟度に基づくクラスを編成し、学生の習熟度や希望に応じて体系的に科目群を編成する。現代の社会生活で必要となる英語コミュニケーション力を身につけるために「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を必修とする。また、今後、進展するグローバル環境におけるキャリア形成に必要な語学能力を養成するために TOEIC のスコアアップを目指す。
- ・情報リテラシーにおいては、情報化が加速する現代の社会生活で必要となる数理・データサイエンス・AI に関する基礎的なリテラシーを身に付けるために、「データサイエンスと ICT の基礎」を必修とする。

1-3. 協働とリーダーシップコア

- ・他者と協働しながら課題解決に導くための協働性やリーダーシップを養う科目群を編成する。
- ・他者と協働し様々な課題解決を行う中で、自らの価値観と多様な価値観を調整するために必要なコミュニケーション力やリーダーシップを身に付けることを目指して、PBL (Project Based Learning) の手法を用いて授業を行う。

2. 専門教育科目

- ・当該専門分野ごとに要求される専門性の深さを勘案し、順次性ある体系的な学びとなる教育課程を編成するため科目を精選する。
- ・初年次教育科目として、基礎科目を配置し、学問への導入に関する指導を行う。
- ・専門的な知識や技術を身に付けるために、初年次教育科目以降も、順次性ある体系的な学びを行うこと、必修科目を適切に設けること、配当学年および学期別の科目配置を適切に行うこととする。
- ・専門的な知識・技術を、実際に想定した場面で活用し、他者との協働の中で適切にリーダーシップが発揮できるように、PBL (Project Based Learning/Problem Based Learning) の教育方法を用いた科目を必修とする。
- ・卒業年次のアセスメント科目（卒業ゼミナール、卒業セミナー、卒業演習、卒業研究等）で、専門教育科目を中心とする教育内容を統合・深化させ、専門性を活用する力を身に付けることを目指す。

教育方法

- ・教育内容の実施にあたっては、対面教育を原則とし、その内容に相応しい適切な授業形態（講義、演習、実験・実習・実技）を用いる。また、その効果について十分に検討した上で、必要に応じ遠隔教育を活用することとする。
- ・授業開始後の学修の指針として機能するシラバスを作成し、授業計画に基づいて適切に指導を行う。
- ・すべての科目で形成的評価を適切に取り入れ、授業期間中に学生の理解度を把握し、確実にフィードバックする。
- ・教員と学生、学生間のインタラクションを取り入れた教育方法をすべての授業で行う。
- ・PBL (Problem Based Learning) を積極的に導入し、課題設定・調査・分析を行い、問題を解決する活動

を通して幅広い教養や専門的な知識・技術を高める。

・PBL (Project Based Learning) を積極的に導入し、幅広い教養や専門的な知識・技術を、実際に想定した場面で活用し、他者との協働の中でリーダーシップを発揮する力を伸長させる。

学修成果の評価

- ・各科目で到達目標を具体的に定め、その到達状況を適切に評価する。
- ・各科目で単位修得目標を具体的に定め、単位修得の可否を適切に評価する。
- ・各科目の学修成果の最終的な評価は試験により行う。また、授業科目の内容に応じて、課題、小テスト、レポート、意欲・態度等を適切に評価する。
- ・各科目の評価方法と評価割合を明確に定める。
- ・2年間の学修成果・卒業時到達目標の到達度については、アセスメント科目（卒業論文、卒業制作、卒業演習、卒業研究等）の発表等により総括的に評価する。

アドミッション・ポリシー

共立女子短期大学は、建学の精神である「女性の自立と自活」に基づき、本学が教育の基軸にすえる「リーダーシップ」教育と「実学」教育を積極的に受容する資質・能力を有し、以下に掲げる学力の三要素を備えた人物を受け入れる。

このような学生を適正に選抜するために、多様な選抜方法を適切に実施する。

| 学力の三要素 | AP No. | 内容 | DP・CPとの関連 |
|-----------------------|--------|---|--|
| [知識・技能] | AP1-1 | 高等学校の教育課程を幅広く修得している。 | CP1 (教養教育) CP2 (専門教育科目) |
| | AP1-2 | 専門分野の修学に必要な科目の基本的な知識・技能を有している。 | CP2 (専門教育科目) |
| [思考力・判断力・表現力] | AP2 | 他者の意見や考え方を尊重し、自らの考えを整理・表現するための基礎となる思考力・判断力・表現力を有している。 | DP1 : (客観性・自律性) 多角的な視点から客観的に物事を理解し主体的な判断のもと行動することができる。 |
| [主体性を持って多様な人々と協働する態度] | AP3-1 | 課題に対し、主体性を持って最後まで取り組む態度を有している。 | DP2 (課題発見・解決力) |
| | AP3-2 | リーダーシップを発揮し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲を有している。 | DP3 (リーダーシップ) CP2 : (専門教育科目) PBL |

※学力の三要素との対応を分かりやすくするため、以下の通りとする。なお、複数ある場合は枝番とする。

AP1 「知識・技能」

AP2 「思考力・判断力・表現力」

AP3 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」

※ 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の AP2 種類の順番を入れ替え、リーダーシップに関する内容を最後に配置することとする。

※ AP2 「必要な科目」部分には、各学部・科・学科 AP で、具体的な教科名を記載することとする。

共立リーダーシップ®

共立リーダーシップ®とは

「みずからを恃(たの)み「自立」し、「友愛」により他者と協働して目標達成を目指す力」です。

トップダウン型・支配型ではなく、リーダーのみならず、「指導権」など権限がない状態のメンバーにおいても発揮できるものを「共立リーダーシップ®」と定義し、本学のリーダーシップ教育の主軸としています。共立リーダーシップ®とは共立女子大学・短期大学の校訓の一つである「友愛」にもとづいて協働活動を進めることです。それは、状況に応じて全員がそれぞれの強みをいかして発揮している状態を目指す「シェアド・リーダーシップ」のアプローチを包含する、いわゆる他者との協働に根差した相互支援型の「リーダーシップ」であり、近年注目されているプロセスと関係性に注目した「21世紀型のリーダーシップ」とも評されます。

共立リーダーシップ®は、いわゆる「権限なきリーダーシップ」に共通する最小3要素、「目標の設定と共有」「率先垂範」「相互支援」から構成されています。

これに加えて、共立リーダーシップ®では、3要素を支える基盤として「包容性」という概念を設定しています。この「包容性」は、本学の校訓の一つである「友愛」という理念から生まれたものであり、多様な立場、考え、参加を受け入れ、それらを建設的に活用するというリーダーシップの基盤となるものです。



～「共立リーダーシップ®実践ガイド」より

※「共立リーダーシップ®」に関する詳細は、入学後に配布される『基礎ゼミナールテキスト』第1章「3 リーダーシップの共立」を確認してください。

※「共立リーダーシップ®」の養成に対応している授業科目は、以下の「カリキュラム・マップ」を参照してください。ディプロマ・ポリシー「リーダーシップ」欄に◎が付されている科目が該当する科目となります。

教育課程（カリキュラム）編成の考え方

本学では、教育課程（カリキュラム）の体系化と構造化、学生の主体的な学修を促すアクティブ・ラーニングの積極的な導入、学修成果を可視化する様々な取り組み等を念頭にして、教育課程（カリキュラム）を編成しています。

そのため、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）の策定にあたっては、「教育内容」、「教育方法」、「学修成果の評価」の3項目に分けて具体的な内容を記載し、特に教育内容の項目については、教養教育、専門教育と書き分ける中で、初年次教育、キャリア教育、専門教育の段階的学修の観点を具体的に記載し、多様な学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるようにしています。

履修にあたって

それぞれの学科の教育課程（カリキュラム）は、必修科目、選択必修科目および選択科目に区分されています。選択必修科目および選択科目の中には、学科によっては履修することを推奨する科目を設けています。推奨科目は、必ず履修しなくてはならない科目ではありません。

自身の卒業後のキャリアをイメージしながら、各学科が示す「カリキュラム・マップ」、「カリキュラム・ツリー」、「履修系統図」、「科目ナンバリング」、「履修モデル」を確認し、必要に応じて、教員から履修指導を受けながら、履修する授業科目を決定してください。

カリキュラム・マップ

各学科では、3つのポリシーの一体性、整合性、妥当性を担保する意味とディプロマ・ポリシー達成の観点から、個々の授業科目とディプロマ・ポリシーの関係を示した「カリキュラム・マップ」を作成しています。個々の科目には、「学生は～することができる。～を有する。」といった、学生を主体に記述した到達目標があり、各授業科目の到達目標とディプロマ・ポリシーとの関連性が高い順から「◎」→「○」と付して、必要な科目が過不足なく設定されているかを明らかにしています。

カリキュラム・マップに記載されている各科目の「到達目標」と、シラバスに記載されている「到達目標（成績評価A）」は同一の内容であり、学生は、この「到達目標」に記載されている内容を身に付けることを目指して授業を受けることとなります。どの科目でどのような能力を身に付けることになるのか、確認するようにしてください。

カリキュラム・ツリー

カリキュラム・マップを基に、学修内容の順次性と授業科目間の関連性を図で示し、カリキュラムの体系性、授業科目間のつながり、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの一体性・整合性・妥当性が一望できる「カリキュラム・ツリー」を作成しています。

履修系統図・科目ナンバリング

履修系統図とは、単に配当年次を示している表ではなく、学生が教育課程の体系が容易に理解できるように、教育課程の構造を分かりやすく明示しています。科目区分間、授業科目間の関係性や履修順序を示しています。

また、履修の順次性をより分かりやすく示すために授業科目ごとに「ナンバリング」をしています。これは授業科目の学修段階や順次性をアルファベットと数字で表し、教育課程の体系性を明らかにしています。

履修モデル

履修モデルとは、学生が卒業後の将来をイメージしながら学んでいくために、どのような授業科目を履修すればよいかを明示しています。

学生の履修指導にあたっては、学生が将来を描き、目標を認識してそれに向けて体系的に学修することが可能となるように、履修モデルを示しながら、学生の希望を尊重し学修能力・学修上の諸課題・卒業後の進路等を十分考慮して行います。

I 履修要項

■ 教養教育科目

1. 教養教育の人材養成目的

教養教育の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学・共立女子短期大学の人材養成目的に基づき、「ひとりの女性・ひとりの人間として日々の生活を豊かに充実して生き、主体的に社会に参加して責任ある役割を果たすために必要な、基本的な知識や技能、幅広く深い教養、総合的な判断力、そして豊かな人間性を有する女性を育成する」ことである。

2. 教養教育の目指すもの

一般に大学で勉強するということは、より専門性の高い学問に取り組むということを意味しています。学部・学科・コースなどの区別があって、それぞれの分野を個別、専門的に学ぶ道筋が用意されているのはそのためです。専門分野を深く探求すること、これが大学における勉学の最も基本的な姿だといっていでしょう。

その一方で、複雑化した現代社会にあって、錯綜する諸課題に的確に対応するためには、深い知識と同時に、広い視野と柔軟な思考力が求められます。本学において、学部・学科ごとの専門教育科目と並んで教養教育科目が置かれているのも、そうした社会の求めに応えて、幅広い教養と豊かな人間性に裏打ちされた総合的判断力を身につけた人材を育てるために他なりません。

本学の教養教育は、学部・学科の枠を超えて、本学に学ぶすべての学生諸君を対象に編成されています。当然のことながら、実に様々な目的・目標を持った授業科目が展開されています。みなさんはその中から自分で履修する科目を選び、履修計画を立てなければならぬのですが、最初はその多様さに戸惑うかもしれません。以下に教養教育科目全体の構成とそれぞれの目的・目標を大まかにまとめましたので、履修計画を組立てる際の参考にしてください。

3. 教養教育科目の全体の構成

教養教育科目は、以下の3つのコア科目群から構成されています。

(1) 自律と努力コア科目群

- ・自己を確立し、生涯学び続けるための基礎的な力を養う科目群です。
- ・「自己を肯定的に理解する力」「主体的に学ぶ力」「他者との関係を築く力」を養成します。

(2) 創造とキャリアコア科目群

- ・新たな価値を創造し、社会を生き抜くための基礎的な力を養う科目群です。
- ・「様々な側面から物事を思考・判断・表現するための幅広い知識と技能」「応用力により新たな価値を創造する力」「自らのライフプランやキャリアプランを創造する力」を養成します。

(3) 協働とリーダーシップコア科目群

- ・他者と協働し、リーダーシップを発揮するための基礎的な能力を養う科目群です。
- ・「協働力・コミュニケーション力」「協力・協働して社会に貢献するためのリーダーシップ」「他者との協働による課題解決能力」を養成します。

4. 教養教育科目の履修上の注意点

(1) 自律と努力コア

①基礎ゼミナール

- ・1年次の前期に開講される、全員必修の演習形式の科目です。
- ・科別に30名程度のクラスを設け、各学科の専任教員が担当します。
- ・具体的な達成目標としては、次のような事があげられます。
 - 1) 大学における「学修」の意味を理解し、大学生として、そして共立生として知っておくべきこと、自覚しておくべきことなど、学生生活に関する心構えやルールについて学び、ルールに基づいて行動できるようになる。
 - 2) 自らのキャリアを見据え、有意義で創造的な大学生活を送るための学修計画を自ら立てられるようになる。
 - 3) 図書館や学内システムの利用方法、演習、実験を行うための基礎的知識など、大学で学ぶための基本的な学修技法を身に付け、活用できるようになる。

②論理的思考・文章表現

- ・大学教育の基盤となる論理的思考力・文章表現力の育成を目的とする科目です。
- ・入学時のプレイスメントテストにより、履修登録が予め行われますが、テストの成績上位1/3の学生は履修が免除されます（単位の認定はありません）。ただし、文科は必修となります。
- ・この科目は、1年次前期に開講され、全員に強く履修を推奨する科目です。

③キャリアプランと自己実現

- ・基礎ゼミナールで描いたライフプランやキャリアプランをベースにして学修します。将来社会に出て生活していくために、自分の生き方について考える科目です。

④課題解決のためのリーダーシップ入門

- ・1年次の後期に開講される、全員必修の演習形式の科目です。
- ・基礎ゼミナールで学んだ共立リーダーシップ[®]を踏まえ、協働的活動を通して自分らしいリーダーシップを開発し、現状の分析、課題の発見、課題の解決方法の提案、といった課題解決の基礎力や、基本的なコミュニケーション能力、口頭による発表（プレゼンテーション）や討論の能力を身に付ける科目です。

(2) 創造とキャリアコア

①情報リテラシー

- 1) 「データサイエンスとICTの基礎」「情報処理」
 - ・「データサイエンスとICTの基礎」は、理論を学修する講義科目で、「情報処理」は演習科目です。

2) 「情報の分析と活用」

統計学の基礎と人文・社会科学、自然科学への適用方法、基礎的な知識、統計結果の見方について理論的に学修し、スプレッドシート等を用いた実践的な情報分析手法を身に付けます。

3) 「データエンジニアリングとプログラミング基礎」

データを収集・蓄積し、そして表現・処理する手法と利活用の流れを学ぶことを通じて、データから意味を抽出し、さらに課題解決に応用するための基本を身に付けます。

4) 「AIの基礎と応用」

人工知能を理解するために必要な関連知識とともに、人工知能について修得すべき基本的な概念と手法を身に付けます。

5) 「課題解決のためのデータエンジニアリング」

「情報の分析と活用」「データエンジニアリングとプログラミング基礎」で学んできた内容を踏まえ、アンケート調査等により得られた情報の特性に対応した統計処理の手法、結果の配信方法などを具体的な課題への取り組みを通して身に付けます。

6) 情報技能検定試験等の結果による単位認定について

履修開始前または履修中に本人からの申請があった場合、審査のうえ単位を認定します。評価は「S」になります。教務課備え付けの申請用紙に記入し、提出してください。詳細は教務課までお問い合わせください。

● 「情報処理」の単位認定条件

以下のいずれかの資格・検定を取得

* IC3 (GS5 と GS4 どちらのバージョンでも可) の「キー アプリケーションズ」科目

* 情報検定 (J 検) 情報活用試験 3 級 + 2 級

* 日商 PC 検定 文書作成 3 級 + データ活用 3 級 + プレゼン資料作成 3 級

* 以下の A 群・B 群・C 群それぞれから 1 以上、合わせて 3 以上の資格・検定

A 群

- ・全商情報処理検定 2 級ビジネス情報部門
- ・全商情報処理検定 1 級ビジネス情報部門
- ・MOS Excel エキスパート
- ・日商 PC 検定 データ活用 2 級
- ・日商 PC 検定 データ活用 1 級

B 群

- ・MOS Word スペシャリスト
- ・MOS Word エキスパート
- ・日商 PC 検定 文書作成 3 級
- ・日商 PC 検定 文書作成 2 級
- ・日商 PC 検定 文書作成 1 級

C 群

- ・MOS PowerPoint
- ・日商 PC 検定 プレゼン資料作成 3 級
- ・日商 PC 検定 プレゼン資料作成 2 級
- ・日商 PC 検定 プレゼン資料作成 1 級

備考: MOS の「バージョン」はいずれでも可。

②英語

1) 「英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」「TOEICⅠ～Ⅲ」は、Basic、Intermediate、High-Intermediate、Advancedの4つのレベルに分かれて受講します。

- ・受講するレベルは、入学時に実施されるプレイスメントテストにより決定されます。
- ・全学生が必ず履修する科目は、「英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ」のみです。
- ・「英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」は、Listening&Speakingを段階的に学習し、「TOEICⅠ～Ⅲ」はレベルに応じた目標スコアを定め、TOEICのスコアアップを狙いとした学習を行います。
- ・「英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」は外国人教員が担当し、「TOEICⅠ～Ⅲ」は日本人教員が担当します。
- ・「英語コミュニケーションⅢ～Ⅳ」と「TOEICⅠ～Ⅲ」の科目は、「英語教育プログラム（KEIT）」に申し込みをした方のみ受講できます。
- ・原則Ⅰ、Ⅲの奇数クラスは前期に開講し、Ⅱ、Ⅳの偶数クラスは後期に開講されます。
- ・「TOEICⅢ」については、High-IntermediateとAdvancedのレベルのみ開講されます。
- ・履修に関する情報は教務課からの案内を必ず確認してください。
- ・効果的な学修のために、以下のような前提条件があります。

※ KEIT プログラムの詳細は 131 ページを確認してください。

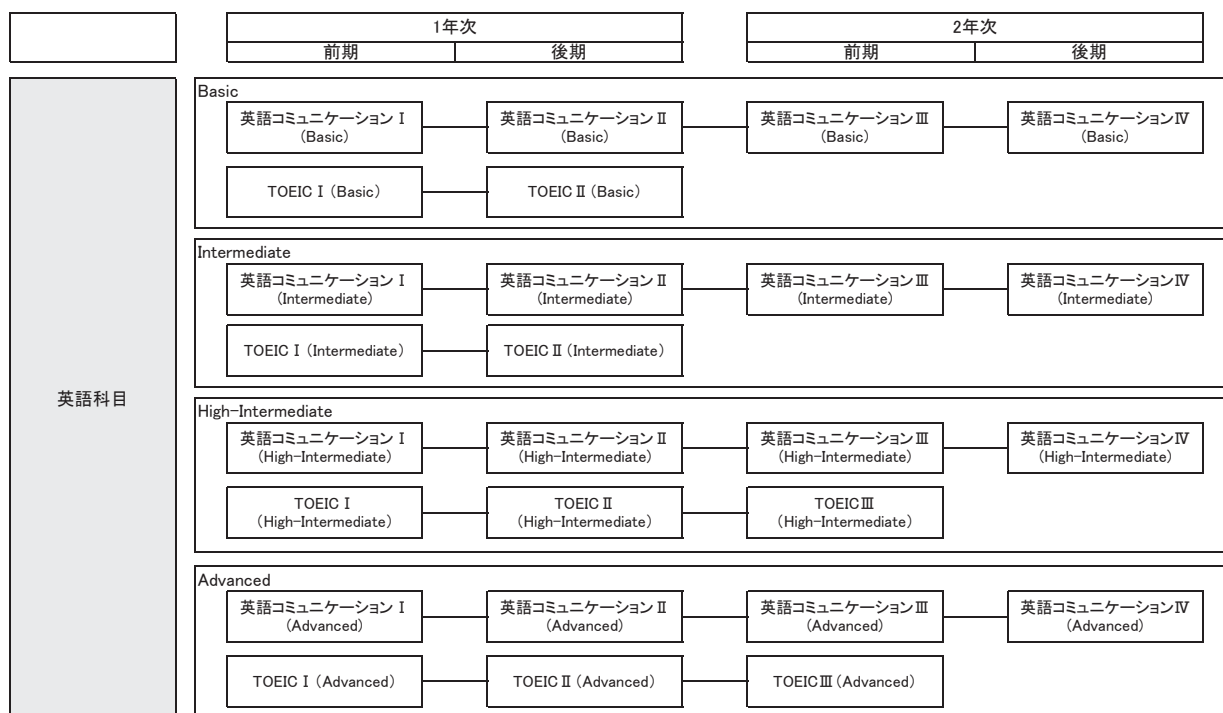
●英語コミュニケーション ※Ⅲ～Ⅳは英語教育プログラム（KEIT）申込者のみ受講可能

| 科目名 | 履修条件 | 備考 |
|------------------------------------|-----------------------|----|
| 英語コミュニケーションⅡ (Basic)～(Advanced) | 英語コミュニケーションⅠを修得済であること | |
| 英語コミュニケーションⅢ (Basic)～(Advanced) | 英語コミュニケーションⅡを修得済であること | |
| 英語コミュニケーションⅣ (Basic)～(Advanced) | 英語コミュニケーションⅢを修得済であること | |

●TOEIC ※英語教育プログラム（KEIT）申込者のみ受講可能

| 科目名 | 履修条件 | 備考 |
|--|-----------------|-------------------------------------|
| TOEICⅡ (Basic)～(Advanced) | TOEICⅠを修得済であること | |
| TOEICⅢ (High-Intermediate)～ (Advanced) | TOEICⅡを修得済であること | High-Intermediate、Advancedのレベル帯のみ開講 |

●英語科目の履修系統図



2) 英語技能検定試験等の結果による単位認定について

- ・履修開始前または履修中に本人からの申請があった場合、審査のうえ単位を認定します。評価は「S」になります。教務課備え付けの申請用紙に記入し、提出してください。詳細は教務課までお問い合わせください。

【条件】

●英語コミュニケーション

- ・英語技能検定試験等の結果が次の①～③のいずれかに該当した場合、「英語コミュニケーション I～IV」の単位を認定します（履修中も認定）。

- ① TOEIC（スピーキング）：180 点以上を取得
- ② STEP 英検テスト：1 級を取得
- ③ IELTS（スピーキングセクション）：7.0 以上を取得

●TOEIC

- ・TOEIC スコアが次の①～②のいずれかに該当した場合、「TOEIC I～II（High-Intermediate 以上はⅢまで）」の単位を認定します（履修中も認定）。

- ① TOEIC L&R 公開テスト：800 点以上を取得
 - ② TOEIC L&R IP テスト：800 点以上を取得
- ※ TOEIC L&R IP テスト（オンライン版）を除く。

③初習外国語

1) 「フランス語」「中国語」「ドイツ語」

- ・それぞれ、履修の段階に応じてⅠ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳと進みます。
- ・「Ⅰ」と「Ⅱ」は1年次から履修することができ、週2回の授業を受け、半期で完結します。
- ・「Ⅲ・Ⅳ」は2年次から履修することができ、週1回の授業を受け、それぞれ半期で完結します。履修条件は以下の通りです。

| 科目名 | 履修条件 |
|-------------------------|-------------|
| フランス語Ⅱ 中国語Ⅱ ドイツ語Ⅱ | Ⅰを修得済であること。 |
| フランス語Ⅲ 中国語Ⅲ ドイツ語Ⅲ | Ⅱを修得済であること。 |
| フランス語Ⅳ 中国語Ⅳ ドイツ語Ⅳ | Ⅲを修得済であること。 |

〔Ⅲ・Ⅳ〕については、以下のパターンが履修条件になります。
履修条件パターン以外で履修した場合は、削除されますので注意してください。

| 1年次 | | 2年次 | |
|-----|----|-----|----|
| 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ |
| Ⅰ | Ⅰ※ | Ⅱ | |

※前期不合格（D評価またはX評価）で再履修する場合

- ・中国語Ⅰには「特別クラス」が設けられています。
- ・2年次に初習外国語を履修する人は、前期Ⅰ→後期Ⅱの順で履修してください。クラスは履修できる場所を選択してください。
- ・フランス語Ⅰ、中国語Ⅰ、ドイツ語Ⅰは、Ⅰのみを履修する人のために、後期にもⅠクラスが開講されます。Ⅰのみを履修する人は、後期開講のⅠをお勧めします。

2) 外国語技能検定試験等の結果による単位認定について

- ・ 下記のいずれかに該当し、履修開始前または履修中に本人からの申請があった場合、審査のうえ単位を認定します。評価は「S」になります。教務課備え付けの申請用紙に記入し、提出してください。詳細は教務課までお問い合わせください。

| 外国語技能検定試験等 | | 単位認定を行う科目 |
|---------------|------------|--------------|
| 実用フランス語技能検定試験 | 3級 | フランス語Ⅰ・Ⅱ |
| | 準2級 | フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ |
| DELF | A1 | フランス語Ⅰ・Ⅱ |
| | A2 | フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ |
| 中国語検定 | 3級 | 中国語Ⅰ・Ⅱ |
| | 2級 | 中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ |
| HSK | 4級 | 中国語Ⅰ・Ⅱ |
| | ※5級：180点以上 | 中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ |
| | ※6級：180点以上 | |
| ドイツ語検定 | 3級 | ドイツ語Ⅰ・Ⅱ |
| | 2級 | ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ |
| ハングル検定 | 5級 | コリア語Ⅰ・Ⅱ |
| | 4級 | コリア語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ |
| TOPIK | 1級 | コリア語Ⅰ・Ⅱ |
| | 2級 | コリア語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ |

※ HSK については、2012 年以前（旧制度）において、5 級もしくは 6 級を合格した者については、審査対象者とみなす。

3) 「コリア語」「スペイン語」「イタリア語」「アラビア語」「基礎日本語」「応用日本語」

履修条件は次のとおりです。

| 科目名 | 履修条件 |
|--------|------------------|
| コリア語Ⅱ | コリア語Ⅰを修得済みであること |
| コリア語Ⅲ | コリア語Ⅱを修得済みであること |
| コリア語Ⅳ | コリア語Ⅲを修得済みであること |
| スペイン語Ⅱ | スペイン語Ⅰを修得済みであること |
| スペイン語Ⅲ | スペイン語Ⅱを修得済みであること |
| スペイン語Ⅳ | スペイン語Ⅲを修得済みであること |
| イタリア語Ⅱ | イタリア語Ⅰを修得済みであること |
| アラビア語Ⅱ | アラビア語Ⅰを修得済みであること |
| 基礎日本語Ⅱ | 基礎日本語Ⅰを修得済みであること |
| 応用日本語Ⅱ | 応用日本語Ⅰを修得済みであること |

④人間を理解するための教養・社会を理解するための教養・自然を理解するための教養

- ・人文、社会、自然の幅広い領域に関する多様な科目が開設されています。全ての科目は半期で完結します。科目の内容（同一科目で複数クラス開講される場合はクラスごと）を共立シラバスで十分確認してから履修する科目を決めてください。
- ・「自己開発 A」「自己開発 B」は、学生が自らの意志において、自己開発、自己啓発のために積極的に起こした活動を評価し、単位を認定するものです。「自己開発 A」は、外国語の修得と異文化体験を目的とした海外研修への参加等について認定し、「自己開発 B」は、大学と提携している職場体験・インターンシップ、PBL 社会連携プログラム、ボランティア活動への参加等について認定されます。実際の単位認定に関しては、単位認定の対象となる活動が終了してから、所定の時期に、「活動報告書」「単位認定願」等を教務課に提出してください。授業担当者及び共通教育センター運営会議が内容を審査し、承認されれば単位認定されます。評価は「P」になります。詳しくは、共立シラバスをご覧ください。

⑤身体と健康を管理するための教養

1) 「健康スポーツ実習 A」

- ・基礎的な運動技術や知識の習得を図り、日常生活に必要な体力と健康に関する運動の必要性及び役割を学びます。活動を通してコミュニケーション能力の向上を図り、人間関係力を高めます。生涯にわたって運動に親しむ態度を身につけます。

2) 「健康スポーツ実習 B」

- ・自分に適した運動やスポーツの文化的・社会的背景をより深く理解し、多様な運動技術や体力の向上を目指した活動を行います。

(3) 協働とリーダーシップコア

①リーダーシップ開発実践

1) 現代社会の諸課題

「自律と努力コア」で身に付けた学修技法と「創造とキャリアコア」で身に付けた知識を活用して、現代社会における諸課題に関する課題解決を学ぶ授業です。

2) リーダーシップ開発演習 I、II

- ・課題を設定し、それに対する課題解決を学生自身が考えることによって、実践的な課題解決力を身に付けるアクティブラーニング型の科目です。
- ・リーダーシップ開発演習 II を履修するためには、I を修得している必要があります。

3) サービス・ラーニング実践演習

「課題解決型授業」と「社会活動」を組み合わせ、これまで学修してきた知識・技能を活用し、地域社会と協働してその地域の諸課題に関する課題解決を学ぶ授業です。

②リーダーシップ開発応用

1) ファシリテーション入門

- ・ 課題解決型授業のラーニング・アシスタント（LA）として授業運営に関わる予定の学生が履修する科目です。
- ・ ファシリテーションを中心に、LAとして活動するうえで必要となるチームビルディングやコーチングなどの基本的なスキルについて入門的に学ぶ授業です。
- ・ この科目を履修するためには、リーダーシップ開発演習Ⅱを修得済みである必要があります。

2) ファシリテーションA、B

- ・ リーダーシップ開発演習Ⅰ・ⅡのLAとして授業運営に関わる学生が履修する科目です。
- ・ 各科目を履修するためには以下の条件があります。

| 科目名 | 履修条件 |
|------------|-----------------------------|
| ファシリテーションA | ファシリテーション入門を履修中または修得済みであること |
| ファシリテーションB | |

■ 生活科学科

1. 生活科学科の人材養成目的

生活科学科の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子短期大学の人材養成目的に基づき、「学生自身の積極的な学修意欲を引き出し、社会において自立した人間として活躍するために、生活に関する実践的な知識・技能を身につけ、家庭および社会において、生活者としてそれらを活用する能力を養い、豊かな教養に基づき、思いやりのある誠実で協調性に富んだ女性を育成する」ことである。

2. 生活科学科の教育目標

1. 生活科学に関する専門知識や実践的スキルを身につけ、企業や地域社会で活躍できる女性を育成する。
2. 幅広い教養とコミュニケーション力や問題を発見し解決策を提案する力を身につけ、現代社会をよりよく生きていくことのできる女性を育成する。
3. 生涯にわたり自ら学び・探究し続けることのできる主体的な学びを育み、自律した女性を育成する。
4. きめ細やかな教育を通して学生一人一人の個性を伸ばし、豊かな人間性や社会性を育み、社会に貢献できる女性を育成する。
5. 思いやりのある誠実で協調性に富んだ人間性を身につけ、リーダーシップを発揮できる女性を育成する。

3. 生活科学科の3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー

共立女子短期大学生活科学科は、建学の精神「女性の自立と自活」を踏まえて展開される所定の課程を修め、62単位以上の単位修得と必修等の卒業要件を充たし、幅広い教養と生活科学に関する専門分野の学修を通して、以下に示すグローバル化する社会で求められる多様な知識と実践的なスキルを修得し、客観性・自律性、課題発見・解決力、リーダーシップを資質・能力として備えた人物に学位を授与する。

| 観点 | 内容 |
|------------------------|---|
| DP1 幅広い教養 | 生活科学科に関する専門分野の学修を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 |
| DP2 専門的知識・実践的スキルの活用 | グローバル化する実社会で求められる多様な知識やスキルの活用に必要な、生活科学に関するメディア、デザイン、食、健康、情報、環境、コミュニケーション等の専門的知識・実践的スキルを体系的に理解・修得し、活用することができる。 |
| DP3 課題発見・解決力 | 実社会における諸課題について、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を身につけ、自ら問題を発見して解決する能力を身につけることができる。 |
| DP4 探究・継続力 | 多角的な視点から実社会における諸課題を客観的にとらえ、問題を解決するために自ら探究し、生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけることができる。 |
| DP5 発想力・提案力 | 課題を発展させる発想力・表現力を培い、他者に的確に伝え、他者の提案を柔軟に理解し、高め合い、解決策を見出すことのできる能力を身につけることができる。 |
| DP6 リーダーシップ | 思いやりのある誠実で協調性に富んだ人間性を身につけ、他者を尊重しながら自らの考えを冷静に主張し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。 |

カリキュラム・ポリシー

共立女子短期大学生活科学科では、ディプロマ・ポリシーに定める知識・技能を修得し、資質・能力を育成するために必要・適切な授業科目を精選し、順次性ある体系的な教育課程を編成する。その際、科目履修の順次性を通し、カリキュラムの体系的学修を可能にするために、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、ナンバリング、履修系統図を用いる。

その上で、教育課程編成及び授業実施にあたっての教育内容、教育方法、学修成果の評価の在り方についての方針を次の通り定める。

教育内容

CP1. 教養教育科目

学生を、ひとりの女性・ひとりの人間として日々の生活を豊かに充実して生き、主体的に社会に参加・貢献して責任ある役割を果たす人材として育成するために、以下の「自律と努力コア」「創造とキャリアコア」「協働とリーダーシップコア」に区分する。

CP1-1. 自律と努力コア

・初年次教育科目・キャリア教育科目として、客観的に物事を理解し、自己を確立し生涯学び続けるための基礎的な力を養う科目群を編成する。

・学生生活への適応、論理的な考え方や文章作成技術の定着、ライフプランやキャリアプランの形成、課題発見、課題分析、情報収集、グループワーク、プレゼンテーションなどの課題解決に必要な技術の定着をはかるとともに、社会人として果たすべき責務を学ぶために、少人数で行う「基礎ゼミナール」「課題解決のためのリーダーシップ入門」を必修とする。

CP1-2. 創造とキャリアコア

・新たな価値を創造し社会と積極的に関わっていくための基礎的な力を身につけるとともに、社会人として必要な教養を養う科目群を編成する。

・英語においては、プレイスメントテストの結果を踏まえた習熟度に基づくクラスを編成し、学生の習熟度や希望に応じて体系的に科目群を編成する。現代の社会生活で必要となる英語コミュニケーション力を身につけるために「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を必修とする。また、今後、進展するグローバル環境におけるキャリア形成に必要な語学能力を養成するために TOEIC のスコアアップを目指す。

・情報リテラシーにおいては、情報化が加速する現代の社会生活で必要となる数理・データサイエンス・AI に関する基礎的なリテラシーを身に付けるために、「データサイエンスと ICT の基礎」を必修とする。

・幅広い教養を身に付け、多様な視点で社会を幅広く俯瞰し必要な教養を身につけるために「人間を理解するための教養」「社会を理解するための教養」「自然を理解するための教養」「身体と健康を管理するための教養」より 2 単位を選択必修とする。

CP1-3. 協働とリーダーシップコア

・他者と協働しながら課題解決に導くための協働性やリーダーシップを養う科目群を編成する。

・他者と協働し様々な課題解決を行う中で、自らの価値観と多様な価値観を調整するために必要なコミュニケーション力やリーダーシップを身に付けることを目指して、PBL (Project Based Learning) の手法を用いて授業を行う。

CP2. 専門教育科目

豊かな人間性や社会性を育み、企業や地域社会で活躍できる自律した女性として育成するために、以下の「コース共通専門教育科目」「コース専門教育科目（基礎）」「コース専門科目・特別演習科目（発展）」に区分する。

CP2-1. コース共通専門教育科目

- ・生活科学の基盤となる専門教育科目をITメディアコース、生活デザインコースのコース共通専門科目として、体系性、順次性を踏まえて配置する。
- ・生活科学の学問分野の基礎的な知識・技能を修得する『生活科学基礎系科目』、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けたキャリア発達を促す『キャリア支援系科目』、自ら問題を発見し解決する能力を養うPBL型授業や、社会活動と組み合わせることでリーダーシップを育む科目など、学生が主体的に卒業後の進路選択や学修に取り組む『特別演習系科目』をコース共通専門教育科目として配置する。

CP2-2. コース専門教育科目（基礎）

- ・生活科学の専門教育科目を学修するにあたって、ITメディアコース、生活デザインコースの2つのコースに沿って、体系性、順次性を踏まえて1年次に主としてコースの基礎的科目を配置する。
- ・ITメディアコースでは、メディアについての社会状況を理解する「①メディア社会」、健康をマネジメントする知識とスキルを学び、健康ビジネスに生かすことができる実践的なスキルを身に付ける「②健康メディア」、デジタルメディアによるクリエイティブなCGや動画作成のスキル、企画・プレゼンテーション能力を養う「③メディア表現」、ITパスポート試験の合格に必要な知識や情報活用能力を身に付ける「④ITメディア」の4分野の主として基礎的科目を配置する。
- ・生活デザインコースでは、食を対象に、調理の基礎からレシピ開発に必要な知識や技術を学び、食を総合的にデザインし広く発信するスキルを身に付ける「①フードデザイン」、生活に必要な道具や製品を対象に、形、大きさ、色彩などの要素について学び、デザインする能力を身に付ける「②プロダクトデザイン」、衣服やその装い方を対象に、アパレルの制作からマーケティング、企画などの実践的な応用力を養う「③ファッションデザイン」、住居や住空間を対象に、知識やその原理に加えて、設計、製図、インテリアCADなど初歩から応用までを学び、提案する能力の修得を養う「④インテリアデザイン」の4分野の主として基礎的科目を配置する。

CP2-3. コース専門科目・特別演習科目（発展）

- ・生活科学の専門教育科目を学修するにあたって、ITメディアコース、生活デザインコースの2つのコースに沿って、体系性、順次性を踏まえて、2年次に主としてコースの学びを深めていく科目を配置する。
- ・2年間の集大成として、課題に基づいて学生が主体的に研究・制作に取り組む「卒業研究」をコース共通の専門教育科目として配置する。
- ・2つのコースの専門教育科目を一定の範囲内で横断的に履修し、幅広い知識と教養を育成する。
- ・生活科学科と文科のカリキュラムの枠を超えた「短期大学開放科目」を配置し、学生の主体的な学びを促し、関心のある領域の問題意識を深め、考察力を育成する。

教育方法

- ・教育内容の実施にあたっては、対面教育を原則とし、その内容に相応しい適切な授業形態（講義、演習、実験・実習・実技）を用いる。また、その効果について十分に検討した上で、必要に応じ遠隔教育を活用することとする。
- ・授業開始後の学修の指針として機能するシラバスを作成し、授業計画に基づいて適切に指導を行う。
- ・すべての科目で形成的評価を適切に取り入れ、授業期間中に学生の理解度を把握し、確実にフィードバックする。
- ・教員と学生、学生間のインタラクションを取り入れた教育方法をすべての授業で行う。
- ・PBL（Problem Based Learning）を積極的に導入し、課題設定・調査・分析を行い、問題を解決する活動を通して幅広い教養や専門的な知識・技術を高める。
- ・PBL（Project Based Learning）を積極的に導入し、幅広い教養や専門的な知識・技術を、実際に想定した場面で活用し、他者との協働の中でリーダーシップを発揮する力を伸長させる。

学修成果の評価

- ・各科目で到達目標を具体的に定め、その到達状況を適切に評価する。
- ・各科目で単位修得目標を具体的に定め、単位修得の可否を適切に評価する。
- ・各科目の学修成果の最終的な評価は試験により行う。また、授業科目の内容に応じて、課題、小テスト、レポート、意欲・態度等を適切に評価する。
- ・各科目の評価方法と評価割合を明確に定める。
- ・1年次から2年次に進級するためには、卒業に必要な62単位のうち22単位以上を修得し、かつ、通算GPAが0.6以上であることを条件とする。
- ・2年間の学修成果・卒業時到達目標の到達度については、「卒業研究」での論文発表等により総括的に評価する。

アドミッション・ポリシー

共立女子短期大学生活科学科は、建学の精神である「女性の自立と自活」に基づき、生活科学科が教育の基軸にすえる「実学」教育と「リーダーシップ」教育を積極的に受容する資質・能力を有し、以下に掲げる学力の三要素を備えた人物を受け入れる。このような学生を適正に選抜するために、各学科において多様な選抜方法を適切に実施する。

| 学力の三要素 | APNo. | 内容 |
|-----------------------|-------|---|
| 知識・技能 | AP1-1 | 高等学校の教育課程を幅広く修得している。 |
| | AP1-2 | 生活科学の専門分野を学ぶために必要な基本的な知識・技能を有している。高等学校までの履修内容のうち、「国語」「外国語」を通じて聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基礎技能や、「数学」「理科」を通じて科学的思考の基礎を身に付けている。 |
| 思考力・判断力・表現力 | AP2 | 他者の意見や考え方を尊重し、自らの考えを整理・表現するための基礎となる思考力・判断力・表現力を有している。 |
| 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 | AP3-1 | 生活科学の領域に強い関心を持ち、入学前教育を含む専門分野に関する課題に対し、主体性を持って最後まで取り組む態度を有している。 |
| | AP3-2 | リーダーシップを発揮し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲を有している。 |

4. 学科の概要

生活科学とは

生活科学は、安全で安心な豊かな生活を科学的に追究する新しい学問です。「生活」とは、人間にとってもっとも基本的な「生き方」ということです。「人はどう生きるか」、「どんな人生を送るか」ということです。これを科学的に研究するのが生活科学です。

生活科学の研究は、従来の衣・食・住からのアプローチはもとより、家族・社会・健康・情報・環境といった「生活」と関わるすべてのテーマが研究対象になる幅広い学問です。

生活科学科の構成

生活科学科は、「IT メディアコース」「生活デザインコース」の2つの専門コースで構成されています。「IT メディアコース」では、ソーシャルメディアをはじめとする多様なメディアを活用する能力を養います。「生活デザインコース」では、デザインを通じてより豊かな生活を創造し、生活や社会で役立てる方法を学びます。

これら2コースは、いずれも生活科学という共通基盤の上に成立しているという特徴を持っています。そこで、生活科学科に関するさまざまな分野を広く学ぶために、コースを超えて授業を受けることができる制度を整え、また、深く学ぶために卒業研究や各種の資格取得を支援する科目を備えています。

生活科学科の教育課程

生活科学科では、人材養成目的にかかげてあるように、「積極的な学習意識に基づき、豊かな教養と生活に関する実践的な知識・技能を身につけ、それらを活用できる能力を持った女性の育成」を実現するため、次のようにカリキュラムを組み立てています。

1. 専門分野の枠を超えて幅広い教養を身につけ、大学で学ぶことの意味を理解するため、全学共通で行われる教養教育科目が設置されています。中でも「大学での学び」を支援する初年次教育（基礎ゼミナール、課題解決のためのリーダーシップ入門）、国際化に対応するための英語教育（英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ）、情報社会に対応するための情報教育（データサイエンスとICTの基礎）は重要な科目となっています。
2. 専門教育科目では、生活科学の基礎知識を学ぶとともに、所属コースの学問的方法を体系的に学ぶことを通して、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を養い、有用な問題解決法を学び、社会に出て活躍できる基礎力を身につけることを目指します。
3. 各コースとも、学生の主体性を養うため参加型授業を重視し、特に演習、実習では少人数クラスで実施し、担当助手を配置し、授業外においても個別指導を行います。
4. ガイダンスやクラス担任・担任助手の助言をもとに、学生が関心ある科目を幅広く履修し、学科やコースを超えた領域への関心も広げ、多角的な視点を養えるように、コース横断型の学びを奨励しています。さらに「短期大学開放科目」（110、111 ページ）を設けています。
5. 学修意欲を高めるため、それぞれのコースに対応した資格取得のための授業を設け、専門的な仕事を目指す上で基礎的なスキルを身につけることに力点を置いています。
6. 2年間の勉学の集大成が卒業研究であり、大学で身に付けた知識、研究方法、論理的思考力や表現力等を十分活用して、その研究・作品が結実するために丁寧な個別指導を行います。

5. カリキュラムの全体像

生活科学科のカリキュラムは下記の表のとおり、「教養教育科目」と「専門教育科目」から構成されています。

| | | |
|------------------|--|---|
| 教養教育科目 (全学共通) | ①自律と努力コア ②創造とキャリアコア ③協働とリーダーシップコア [13～21 ページに解説] | |
| 専門教育科目 | 2 コース共通 ①生活科学基礎系 ②キャリア支援系 ③特別演習系 [27 ページに解説] | |
| | IT メディアコース 専門科目 ①メディア社会系 ②健康メディア系 ③メディア表現系 ④IT メディア系 [28 ページに解説] | 生活デザインコース 専門科目 ①フードデザイン系 ②プロダクトデザイン系 ③ファッションデザイン系 ④インテリアデザイン系 [28 ページに解説] |

6. 専門教育科目

■コース共通専門科目

生活科学基礎系科目の構成（2 コース共通）

2 コース共通の「生活科学基礎系科目」は、生活科学を構成するもっとも基本的な学問分野について学ぶ科目です。衣食住に関する環境への配慮を学ぶ「衣生活とSDGs」、「食生活とSDGs」、「住生活とSDGs」は、生活科学基礎系の核となる重要科目です。また、「PC 活用演習」、「CG 基礎演習」は、デジタルメディアのリテラシーと基本的なスキルを身につける社会人に必須の実践的な演習です。「生活科学基礎系科目」全体で、一定の単位数を取得しなければならない選択必修科目群となっています。

1 年次設置の「PC 活用演習」では、マイクロソフト・オフィススペシャリスト（MOS）の資格取得を支援しています。さらに、全ての学生が履修する2 年次設置の「サイエンスリサーチ演習」では、グループワークを通して、科学的な思考を広めるためのPR 動画の作成から、これからの生活に必要なコンピテンシーを養います。

キャリア支援系科目の構成（2 コース共通）

1 年次設置の「キャリアデザイン演習（就職・編入サポート）」（必修科目）では、将来の自分の「キャリア」について考え、「働く」とはどういうことかを演習を通して学修します。また、実際に仕事をしているエキスパートを招いて、体験に基づいた実態を学んだり、内定や編入学に合格した先輩とのフリートークを行い、卒業後の進路をしっかりと考えます。同じく1 年次設置の「キャリア実務基礎（公務員・SPI 対応）」では、公務員試験の対策と就職活動に必要なSPI3 を中心に学びます。さらに「医療事務入門」「リテールマーケティング演習（販売士）」では、医療事務検定や販売士の資格取得を支援します。

特別演習系科目（2コース共通）

1年次設置の「チャレンジ・ゼミナール（就職・編入サポート）」（必修科目）は、就職や編入学に挑戦するための準備を行います。講義や演習科目と異なり、教員から直接指導を受けながら進めます。

2年次設置の「卒業研究」（必修科目）は、2年間の学びの集大成として履修する通年の科目です。担当教員と少人数の学生がディスカッションをしながら、研究室の一員として課題に取り組み、その成果を提出します。

「卒業研究」は4単位であり、生活科学科全体で行われる発表会にて発表を行います。

■コース専門科目

ITメディアコースにおける専門科目の構成

ITメディアコースでは、多様なメディアの活用能力、企画・プレゼンテーション能力を養います。また、女性の健康・美容への理解を多角的に学びながらウェルネスの向上を実現させます。さまざまなクリエイティブなCGや動画制作、DTPのスキルを養い、ITパスポート試験の合格に必要な知識や情報処理能力を身に付けることで、企業や地域で即戦力となる女性を育成することを目標とし、つぎの4分野で構成されています。

- ①メディア社会系
- ②健康メディア系
- ③メディア表現系
- ④ITメディア系

①メディア社会系では、メディア社会論、ソーシャルメディア演習、ポップカルチャー論、情報メディア演習などを学ぶことにより、ソーシャルメディアを中心に生活に密着したメディアについて最新の動向や持続可能な発展を支える社会的役割について理解します。②健康メディア系では、健康メディア論、女性の健康と心理、ビューティー&ウェルネス演習などを学ぶことにより、健康・栄養・美容に関する実践的な知識を理解し、心身の健康を維持・促進するための知識やスキルを修得します。③メディア表現系では、メディアデザイン論、CG演習、動画制作演習、Webデザイン演習などを学ぶことにより、情報処理や情報活用能力、企画・プレゼンテーション能力を養い、ビジネス実務とさまざまなクリエイティブ制作の実践力を身につけます。さらに、「マルチメディア検定」の資格取得を支援しています。④ITメディア系では、ITパスポート論、ITパスポート演習、データ解析演習、マーケティングリサーチ演習などを学ぶことにより、情報システム、ネットワーク、データベースなどITに関する基礎知識と技術を身につけ、ビジネスや地域社会においてITを正しく活用できる能力を養います。さらに、「ITパスポート検定」の資格取得を支援します。

生活デザインコースにおける専門科目の構成

生活デザインコースでは、衣・食・住に関する身の回りのことから生活空間といった比較的広い領域までを対象として、演習や実習を通じて知識とスキルを身につけます。レシピ開発、企画、模型や作品提案など、デザインを通じてより豊かな生活を創造し、さらに形にして広く公報していくことから生活や社会において実際に役立つ方法を学びます。そのために必要とする知識やスキル、応用力を養うことを目標とし、つぎの4分野で構成されています。

- ①フードデザイン系
- ②プロダクトデザイン系
- ③ファッションデザイン系
- ④インテリアデザイン系

①フードデザイン系では、フードデザイン論、フードデザイン実習、レシピ開発演習、フードパッケージ演習などを学ぶことにより、調理やレシピ作成に関する専門的・実践的な知識を理解し、創造的に食をデザインする能力を養います。②プロダクトデザイン系では、プロダクトデザイン論、生活プロダクトデザイン演習、カラーコーディネート演習、3D造形デザイン演習などを学ぶことにより、生活に必要な道具や製品を対象に、形、大きさ、色彩などの要素について学び、演習や実習を通じてデザインするスキルを身につけます。③ファッションデザイン系では、ファッションビジネス論、ファッションメディア演習、アパレル企画演習などを学ぶことにより、衣服の基本的な制作方法、素材の知識、ファッションデザインや企画、メディアコンテンツへの応用などについて、演習を通じて実践力を養います。④インテリアデザイン系では、インテリアコーディネート論、インテリア製図演習、インテリアCAD実習などを学ぶことにより、住居や住空間を対象に、知識や原理に加えて、設計、製図、CADを用いて、提案する技術を修得します。

4分野ともに深い繋がりを持って構成されています。このコースでの学修を通じて、デザインの持つ大きな可能性に気付くことを期待します。

生活デザインコースでは、プロダクトデザイン系の授業を通して「PD検定」「色彩検定」、ファッションデザイン系の授業を通して「ファッションビジネス能力検定」、インテリアデザイン系の授業を通して「CAD利用技術者基礎」「インテリアコーディネーター」など関連する資格取得を支援しています。

他コース、他学科の授業科目の履修

各コースに設置されている専門科目のほか、に所定の範囲内で、他コースおよび他学科（短期大学開放科目（110、111ページ））の科目を履修し、修得単位を卒業単位に含めることができます。

自分が所属しているコース以外のコースの授業科目および他学科科目を修得する場合、8単位を限度として専門教育科目の選択科目の卒業単位に含めることができます。ただし、履修者数が限られている実習や演習科目は、他コースからの履修が制限されることがあります。

共立女子大学の科目については、大学および短期大学間の単位互換制度により学部の開放科目を履修することができます。さらに、千代田区キャンパスコンソーシアムの構成大学間の単位互換制度を利用して、共立女子大学を含む他大学の所定の科目を無料で受講することができます。修得した単位は8単位を限度として卒業単位に含めることができます。また、8単位を超えた場合も、将来編入すると、既に履修した単位として認定される場合があります。（「編入学」について、詳しくは133ページを参照してください）。

他コース、他学科、共立女子大学、他大学の開講科目を履修することによって、有意義な学生生活を送ることができます。

7. 卒業の要件

1. 生活科学科の修業年限は2年です。2年間で所定の単位を修得できない場合は、在学期間を延長することができますが、通算して4年を超えることはできません。
2. 生活科学科に2年以上在学し、所定の単位数を修得した者は、学位記が授与され、短期大学士（生活科学）の学位が与えられます。
3. 卒業に必要な最低の単位数は、次の通りです。

(数字は単位数)

| 区分 | | コース | | | |
|--------|--------|-----------|-----------|----|----|
| | | ITメディアコース | 生活デザインコース | | |
| 教養教育科目 | 必修科目 | 4 | 14 | 4 | 14 |
| | 選択必修科目 | 6 | | 6 | |
| | 選択科目 | 4 | | 4 | |
| 専門教育科目 | 必修科目 | 7 | 48 | 7 | 48 |
| | 選択必修科目 | 14 | | 14 | |
| | 選択科目 | 27 | | 27 | |
| 合計 | | 62 | | 62 | |

卒業要件単位を超えて修得した教養教育科目の単位は、専門教育科目の単位には加算されません。
卒業要件単位を超えて修得した専門教育科目の単位は、教養教育科目の単位には加算されません。

卒業要件単位数の見かた

授業科目区分は学科の定める名称によるほか、履修の自由度に応じて次のように分けられます。

| | |
|--------|-------------------------------------|
| 必修科目 | 必ず修得しなければならない科目 |
| 選択必修科目 | 指定された複数科目の中から決められた単位数を修得しなければならない科目 |
| 選択科目 | 各自の自由意志に基づいて選択履修する科目 |

8. 教育課程（カリキュラム）および履修方法

教育課程（カリキュラム）表の見かた

1. 卒業要件の欄の単位数は、卒業に必要な最低の単位数を示しています。

必修科目……………1科目ごとに横線で区切られ、単位数が記入されています。

選択必修科目…2科目以上にわたる欄の中央に単位数が記入されています。

選択科目……………空欄になっています。

2. 開講期間の表示

| 記号 | 記号の意味 |
|----|------------------|
| 無印 | 半期（前期または後期）開講 |
| ★ | 通年開講 |
| ● | クォーター（前期または後期）開講 |
| ※ | 事前貼り付け科目 |

3. 科目ナンバリング

科目ナンバリングは、授業科目に番号を付し、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明らかにしているものです。学生は自身の履修する科目の参考にしてください。

【教養教育科目ナンバリング指針】

| 学部等 | 分野英語名 | 分野コード | 科目分類 | 科目分類コード | 学修段階 | 学修段階コード | 科目分類ごとの識別コード |
|--------------|--------------|-------|-----------------|---------|---------|---------|--------------|
| 全学共通教育（教養教育） | Liberal Arts | LA | 自立・自活のための基礎科目 | a | 入門レベル | 1 | 1 |
| | | | リーダーシップ開発基礎 | b | 中級レベル | 2 | 2 |
| | | | 情報リテラシー | c | 上級レベル | 3 | 3 |
| | | | 英語 | d | 学士卒業レベル | 4 | 4 |
| | | | 初習外国語 | e | - | | 5 |
| | | | 人間を理解するための教養 | f | | | 6 |
| | | | 社会を理解するための教養 | g | | | 7 |
| | | | 自然を理解するための教養 | h | | | . |
| | | | 身体と健康を管理するための教養 | i | | | . |
| | | | リーダーシップ開発実践 | j | | | . |
| | | | リーダーシップ開発応用 | k | | | . |

例：基礎ゼミナール：LAa1-1

【専門教育科目ナンバリング指針】

| 学科等 | 分野英語名 | 分野コード | 科目分類 | 科目分類コード | 学修段階 | 学修段階コード | 科目分類ごとの識別コード |
|----------------|---|-------|-----------|---------|---------|---------|--------------|
| 短期大学士 生活科学科 | Associate degree Science of Living | ASL | コース共通専門科目 | a | 入門、基礎科目 | 1 | 一連の数字を表す通し番号 |
| | | | ITメディアコース | b | 中級、基幹科目 | 2 | |
| | | | 生活デザインコース | c | 上級、発展科目 | 3 | |
| | | | | | 学士卒業レベル | 4 | |

4. 科目名末尾の記号について

- ・科目名末尾のローマ数字 I、II（例えば、〇〇演習 I、〇〇演習 II）は、授業内容のレベルを示し、I を履修済みでなければ II を履修することはできません。
- ・科目名称末尾のアルファベット A、B（例えば、〇〇演習 A、〇〇演習 B）は、授業内容の種類を示し、段階的な履修制限は設けられていません。

教養教育科目（各コース共通）

| 区分 | | 科目 ナンバリング | 授業科目 | 主要 授業 科目 | 年次 | 単位 | 卒業 要件 | 備考 | |
|-------------------|-------------------|---|-------------------------------------|--|-----|----|----------|----|--|
| 努力 コア 自律と | 自立・自活のための 基礎科目 | LAa1-1 | 基礎ゼミナール | ○ | 1 | 1 | 1 | | |
| | | LAa1-2 | 論理的思考・文章表現 | | 1 | 1 | | | |
| | | LAa1-3 | キャリアプランと自己実現 | | 1 | 2 | | | |
| | リーダーシップ 開発基礎 | LAB1-1 | 課題解決のためのリーダーシップ入門 | ○ | 1 | 1 | 1 | | |
| 創造と キャリア コア | 情報リテラシー | LAc1-1 | データサイエンスとICTの基礎 | ○ | 1 | 2 | 2 | | |
| | | LAc1-2 | 情報処理 | | 1 | 2 | 2 | | |
| | | LAc2-3 | 情報の分析と活用 | | 1・2 | 2 | | | |
| | | LAc2-4 | データエンジニアリングとプログラミング基礎 | | 2 | 2 | | | |
| | | LAc2-5 | AIの基礎と応用 | | 2 | 2 | | | |
| | | LAc2-6 | 課題解決のためのデータエンジニアリング | | 2 | 2 | | | |
| | 英語 | 1 | LAd1-1 | 英語コミュニケーションⅠ (Basic) | | 1 | 1 | | |
| | | | LAd1-2 | 英語コミュニケーションⅠ (Intermediate) | | 1 | 1 | | |
| | | | LAd1-3 | 英語コミュニケーションⅠ (High-Intermediate) | | 1 | 1 | | |
| | | | LAd1-4 | 英語コミュニケーションⅠ (Advanced) | | 1 | 1 | | |
| | | 1 | LAd1-5 | 英語コミュニケーションⅡ (Basic) | | 1 | 1 | | |
| | | | LAd1-6 | 英語コミュニケーションⅡ (Intermediate) | | 1 | 1 | | |
| | | | LAd1-7 | 英語コミュニケーションⅡ (High-Intermediate) | | 1 | 1 | | |
| | | | LAd1-8 | 英語コミュニケーションⅡ (Advanced) | | 1 | 1 | | |
| | | ※1 英語コミュニ ケーションⅢ ～Ⅳおよび TOEICⅠ～Ⅲ は英語教育プ ログラム (KEIT)受講者 のみ履修可能 です。 | LAd2-17 | 英語コミュニケーションⅢ (Basic) ^{*1} | | 2 | 1 | | |
| | | | LAd2-18 | 英語コミュニケーションⅢ (Intermediate) ^{*1} | | 2 | 1 | | |
| | | | LAd2-19 | 英語コミュニケーションⅢ (High-Intermediate) ^{*1} | | 2 | 1 | | |
| | | | LAd2-20 | 英語コミュニケーションⅢ (Advanced) ^{*1} | | 2 | 1 | | |
| | | | LAd2-21 | 英語コミュニケーションⅣ (Basic) ^{*1} | | 2 | 1 | | |
| | | | LAd2-22 | 英語コミュニケーションⅣ (Intermediate) ^{*1} | | 2 | 1 | | |
| | | | LAd2-23 | 英語コミュニケーションⅣ (High-Intermediate) ^{*1} | | 2 | 1 | | |
| | | | LAd2-24 | 英語コミュニケーションⅣ (Advanced) ^{*1} | | 2 | 1 | | |
| | | | LAd1-9 | TOEICⅠ (Basic) ^{*1} | | 1 | 2 | | |
| | | | LAd1-10 | TOEICⅠ (Intermediate) ^{*1} | | 1 | 2 | | |
| | | | LAd1-11 | TOEICⅠ (High-Intermediate) ^{*1} | | 1 | 2 | | |
| | | | LAd1-12 | TOEICⅠ (Advanced) ^{*1} | | 1 | 2 | | |
| | LAd1-13 | | TOEICⅡ (Basic) ^{*1} | | 1 | 2 | | | |
| | LAd1-14 | | TOEICⅡ (Intermediate) ^{*1} | | 1 | 2 | | | |
| | LAd1-15 | TOEICⅡ (High-Intermediate) ^{*1} | | 1 | 2 | | | | |
| | LAd1-16 | TOEICⅡ (Advanced) ^{*1} | | 1 | 2 | | | | |
| | LAd2-25 | TOEICⅢ (High-Intermediate) ^{*1} | | 2 | 2 | | | | |
| | LAd2-26 | TOEICⅢ (Advanced) ^{*1} | | 2 | 2 | | | | |
| 初習外国語 | L Ae1-1 | フランス語Ⅰ | | 1 | 2 | | | | |
| | L Ae1-2 | フランス語Ⅱ | | 1 | 2 | | | | |
| | L Ae2-19 | フランス語Ⅲ | | 2 | 1 | | | | |
| | L Ae2-20 | フランス語Ⅳ | | 2 | 1 | | | | |
| | L Ae1-3 | 中国語Ⅰ | | 1 | 2 | | | | |
| | L Ae1-4 | 中国語Ⅱ | | 1 | 2 | | | | |
| | L Ae2-21 | 中国語Ⅲ | | 2 | 1 | | | | |
| | L Ae2-22 | 中国語Ⅳ | | 2 | 1 | | | | |
| | L Ae1-5 | ドイツ語Ⅰ | | 1 | 2 | | | | |
| | L Ae1-6 | ドイツ語Ⅱ | | 1 | 2 | | | | |
| | L Ae2-23 | ドイツ語Ⅲ | | 2 | 1 | | | | |
| | L Ae2-24 | ドイツ語Ⅳ | | 2 | 1 | | | | |
| | L Ae1-7 | コリア語Ⅰ | | 1 | 1 | | | | |
| | L Ae1-8 | コリア語Ⅱ | | 1 | 1 | | | | |
| | L Ae2-25 | コリア語Ⅲ | | 2 | 1 | | | | |
| | L Ae2-26 | コリア語Ⅳ | | 2 | 1 | | | | |

| 区分 | 科目 ナンバリング | 授業科目 | 主要 授業 科目 | 年次 | 単位 | 卒業 要件 | 備考 | |
|---|-------------------------------|----------------|----------------|-----|-----|----------|----|--|
| 初習外国語 | LAe1-9 | スペイン語Ⅰ | | 1 | 1 | | | |
| | LAe1-10 | スペイン語Ⅱ | | 1 | 1 | | | |
| | LAe1-27 | スペイン語Ⅲ | | 2 | 1 | | | |
| | LAe1-28 | スペイン語Ⅳ | | 2 | 1 | | | |
| | LAe1-11 | イタリア語Ⅰ | | 1 | 1 | | | |
| | LAe1-12 | イタリア語Ⅱ | | 1 | 1 | | | |
| | LAe1-13 | アラビア語Ⅰ | | 1 | 1 | | | |
| | LAe1-14 | アラビア語Ⅱ | | 1 | 1 | | | |
| | LAe1-15 | 基礎日本語Ⅰ（留学生対象） | | 1・2 | 1 | | | |
| | LAe1-16 | 基礎日本語Ⅱ（留学生対象） | | 1・2 | 1 | | | |
| | LAe2-17 | 応用日本語Ⅰ（留学生対象） | | 1・2 | 1 | | | |
| | LAe2-18 | 応用日本語Ⅱ（留学生対象） | | 1・2 | 1 | | | |
| | 創造とキャリアコア 人間を理解する ための教養 | LAf1-1 | 日本の歴史を学ぶ | | 1・2 | 2 | 2 | |
| | | LAf1-2 | 世界の歴史を学ぶ | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAf1-3 | 人間と地理を学ぶ | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAf1-4 | 文学をひらく | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAf1-5 | 芸術をひらく | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAf1-6 | 哲学とは何か | | 1・2 | 2 | | |
| LAf1-7 | | 心理を学ぶ | | 1・2 | 2 | | | |
| LAf1-8 | | 自己開発 A | | 1・2 | 2 | | | |
| LAf1-9 | | 自己開発 B | | 1・2 | 2 | | | |
| 社会を理解する ための教養 | LAg1-1 | 法律を学ぶ（日本国憲法） | | 1・2 | 2 | | | |
| | LAg1-2 | 法律を学ぶ（概論） | | 1・2 | 2 | | | |
| | LAg1-3 | 政治を学ぶ | | 1・2 | 2 | | | |
| | LAg1-4 | 倫理学とは何か | | 1・2 | 2 | | | |
| | LAg1-5 | 国際関係を学ぶ | | 1・2 | 2 | | | |
| | LAg1-6 | 地域社会と家族を学ぶ | | 1・2 | 2 | | | |
| | LAg1-7 | 経済を学ぶ | | 1・2 | 2 | | | |
| | LAg1-8 | 社会を学ぶ | | 1・2 | 2 | | | |
| | LAg1-9 | 企業と社会の仕組み | | 1・2 | 2 | | | |
| | LAg1-10 | マーケティング | | 1・2 | 2 | | | |
| | LAg1-11 | 女性の生き方と社会 | | 1・2 | 2 | | | |
| 自然を理解する ための教養 | LAh1-1 | 自然と地理を学ぶ | | 1・2 | 2 | | | |
| | LAh1-2 | 数学への招待 | | 1・2 | 2 | | | |
| | LAh1-3 | 生物学への招待 | | 1・2 | 2 | | | |
| | LAh1-4 | 物理学への招待 | | 1・2 | 2 | | | |
| | LAh1-5 | 化学への招待 | | 1・2 | 2 | | | |
| 身体と健康を管理 するための教養 | LAi1-1 | 健康スポーツ実習 A | | 1・2 | 1 | | | |
| | LAi1-2 | 健康スポーツ実習 B | | 1・2 | 1 | | | |
| リーダーシップと 協働と キャリア 開発実践 開発応用 | LAj2-1 | 現代社会の諸課題 | | 2 | 2 | | | |
| | LAj2-2 | リーダーシップ開発演習Ⅰ | | 1・2 | 2 | | | |
| | LAj2-3 | リーダーシップ開発演習Ⅱ | | 1・2 | 2 | | | |
| | LAj2-4 | サービス・ラーニング実践演習 | | 2 | 2 | | | |
| | LAk2-1 | ファシリテーション入門 | | 2 | 2 | | | |
| | LAk2-2 | ファシリテーション A | | 2 | 2 | | | |
| | LAk2-3 | ファシリテーション B | | 2 | 2 | | | |
| 必修 | | | | | | 4 | | |
| 選択必修 | | | | | | 6 | | |
| 選択（上記全科目より） | | | | | | 4 | | |
| 計 | | | | | | 14 | | |

〈IT メディアコース〉

コース共通専門教育科目（2コース共通）

| | 科目 ナンバリング | 授業科目 | 主要授業 科目 | 年次 | 単位 | 卒業 要件 | 備考 |
|-------------|--------------|-------------------------|------------|-----|----|----------|----|
| 基礎系 生活科学 | ASLa1-1 | 衣生活とSDGs | ○ | 1・2 | 2 | 6 | |
| | ASLa2-2 | 食生活とSDGs | ○ | 1・2 | 2 | | |
| | ASLa1-3 | 住生活とSDGs | ○ | 1・2 | 2 | | |
| | ASLa1-4 | PC活用演習 ※ | ○ | 1 | 1 | | |
| | ASLa1-5 | CG基礎演習 ※ | ○ | 1 | 1 | | |
| | ASLa3-6 | サイエンスリサーチ演習※ | ○ | 2 | 2 | | |
| 支援系 キャリア | ASLa1-7 | キャリア実務基礎(公務員・SPI対応) | | 1 | 2 | 2 | |
| | ASLa2-8 | キャリアデザイン演習(就職・編入サポート) | ○ | 1 | 2 | | |
| | ASLa2-9 | リテールマーケティング演習(販売士) | | 1 | 2 | | |
| | ASLa2-10 | 医療事務入門 | | 1 | 2 | | |
| 演習系 特別 | ASLa2-11 | チャレンジ・ゼミナール(就職・編入チャレンジ) | ○ | 1 | 1 | 1 | |
| | ASLa4-12 | ★卒業研究 | ○ | 2 | 4 | 4 | |

専門教育科目（ITメディアコース）

| | 科目 ナンバリング | 授業科目 | 主要 授業科目 | 年次 | 単位 | 卒業 要件 | 備考 |
|--------------------------------------|--------------|----------------------|------------|----|----|----------|----|
| メディア 社会系 | ASLb1-1 | メディア社会論 | ○ | 1 | 2 | 2 | |
| | ASLb1-2 | ポップカルチャー論 | | 1 | 2 | | |
| | ASLb2-3 | ソーシャルメディア演習 | ○ | 1 | 2 | | |
| | ASLb2-4 | メディアカルチャー演習 | | 1 | 2 | | |
| | ASLb3-5 | 情報メディア演習 | | 2 | 2 | | |
| | ASLb4-6 | サステイナブル社会論 | | 2 | 2 | | |
| 健康 メディア系 | ASLb1-7 | 健康メディア論 | ○ | 1 | 2 | 2 | |
| | ASLb2-8 | 健康メディア演習 | ○ | 1 | 2 | | |
| | ASLb1-9 | 女性の健康と心理 | | 1 | 2 | | |
| | ASLb3-10 | ライフステージと栄養(演習) | | 2 | 2 | | |
| | ASLb3-11 | フィットネス&ウェルネス演習 | | 2 | 2 | | |
| | ASLb4-12 | ビューティー&ウェルネス演習 | | 2 | 2 | | |
| メディア 表現系 | ASLb1-13 | メディアデザイン論 | ○ | 1 | 2 | 2 | |
| | ASLb2-14 | ●CG演習A(イラストレーター) | ○ | 1 | 2 | | |
| | ASLb2-15 | ●CG演習B(フォトショップ) | ○ | 1 | 2 | | |
| | ASLb2-16 | 動画制作演習I | ○ | 1 | 2 | | |
| | ASLb3-17 | 動画制作演習II | | 2 | 2 | | |
| | ASLb3-18 | DTP演習 | | 2 | 2 | | |
| | ASLb4-19 | アニメーション制作演習 | | 2 | 2 | | |
| | ASLb3-20 | Webデザイン演習I | | 2 | 2 | | |
| ASLb4-21 | Webデザイン演習II | | 2 | 2 | | | |
| IT メディア系 | ASLb1-22 | ITパスポート論 | ○ | 1 | 2 | 2 | |
| | ASLb2-23 | ITパスポート演習 | | 1 | 2 | | |
| | ASLb3-24 | ITパスポート活用演習(ワークショップ) | | 2 | 2 | | |
| | ASLb2-25 | データ解析演習 | ○ | 1 | 2 | | |
| | ASLb3-26 | マーケティングリサーチ演習 | | 2 | 2 | | |
| | ASLb4-27 | フードマーケティング演習 | | 2 | 2 | | |
| 必修科目 | | | | | | 7 | |
| 選択必修科目 | | | | | | 14 | |
| 上記全科目より (他コース・他学科科目8単位まで含むことができる) | | | | | | 27 | |
| 計 | | | | | | 48 | |

★は通年科目 ●はクォーター科目
※は事前貼り付け

〈生活デザインコース〉

コース共通専門教育科目（2コース共通）

| | 科目 ナンバリング | 授業科目 | 主要授業 科目 | 年次 | 単位 | 卒業 要件 | 備考 |
|-------------|--------------|------------------------|------------|-----|----|----------|----|
| 基礎系 生活科学 | ASLa1-1 | 衣生活とSDGs | ○ | 1・2 | 2 | 6 | |
| | ASLa2-2 | 食生活とSDGs | ○ | 1・2 | 2 | | |
| | ASLa1-3 | 住生活とSDGs | ○ | 1・2 | 2 | | |
| | ASLa1-4 | PC活用演習 ※ | ○ | 1 | 1 | | |
| | ASLa1-5 | CG基礎演習 ※ | ○ | 1 | 1 | | |
| | ASLa3-6 | サイエンスリサーチ演習※ | ○ | 2 | 2 | | |
| 支援系 キャリア | ASLa1-7 | キャリア実務基礎(公務員・SPI対応) | | 1 | 2 | 2 | |
| | ASLa2-8 | キャリアデザイン演習(就職・編入サポート) | ○ | 1 | 2 | | |
| | ASLa2-9 | リテールマーケティング演習(販売士) | | 1 | 2 | | |
| | ASLa2-10 | 医療事務入門 | | 1 | 2 | | |
| 演習系 特別 | ASLa2-11 | チャレンジ・セミナー(就職・編入チャレンジ) | ○ | 1 | 1 | 1 | |
| | ASLa4-12 | ★卒業研究 | ○ | 2 | 4 | 4 | |

専門教育科目（生活デザインコース）

| | 科目 ナンバリング | 授業科目 | 主要 授業科目 | 年次 | 単位 | 卒業 要件 | 備考 |
|--------------------------------------|----------------|------------------|------------|----|----|----------|---|
| フード デザイン 系 | ASLc1-1 | フードデザイン論 | ○ | 1 | 2 | 2 | 「フードデザイン実習Ⅰ」を修得済であること |
| | ASLc1-2 | フードデザイン実習Ⅰ(調理) | ○ | 1 | 1 | | |
| | ASLc2-3 | フードデザイン実習Ⅱ(調理) | | 1 | 1 | | |
| | ASLc2-4 | フードメディア演習 | | 1 | 2 | | |
| | ASLc3-5 | フードコーディネート論 | | 2 | 2 | | |
| | ASLc3-6 | レシピ開発演習 | | 2 | 2 | | |
| | ASLc4-7 | フードパッケージ演習 | | 2 | 2 | | |
| プロダクト デザイン 系 | ASLc2-8 | プロダクトデザイン論 | ○ | 1 | 2 | 2 | |
| | ASLc1-9 | ドローイング演習 | | 1 | 2 | | |
| | ASLc1-10 | 生活プロダクトデザイン演習 | ○ | 1 | 2 | | |
| | ASLc2-11 | 生活プロダクトメディア演習 | | 1 | 2 | | |
| | ASLc2-12 | カラーコーディネート演習 | | 1 | 2 | | |
| | ASLc3-13 | デジタル・イラストレーション演習 | | 2 | 2 | | |
| | ASLc4-14 | ユニバーサルデザイン論 | | 2 | 2 | | |
| ASLc4-15 | 3D造形デザイン演習 | | 2 | 2 | | | |
| デザイン 系 | ASLc2-16 | ファッションデザイン論 | ○ | 1 | 2 | 2 | |
| | ASLc1-17 | テキスタイルデザイン演習 | | 1 | 2 | | |
| | ASLc1-18 | ファッションデザイン演習 | ○ | 1 | 2 | | |
| | ASLc2-19 | ファッションメディア演習 | | 1 | 2 | | |
| | ASLc2-20 | アパレル制作実習 | | 1 | 1 | | |
| | ASLc3-21 | ファッションビジネス論 | | 2 | 2 | | |
| | ASLc3-22 | ファッションコーディネート演習 | | 2 | 2 | | |
| ASLc4-23 | アパレル企画演習 | | 2 | 2 | | | |
| インテリア デザイン 系 | ASLc2-24 | 住環境デザイン論 | ○ | 1 | 2 | 2 | 「インテリア製図演習Ⅰ」を修得済であること 「インテリアCAD実習Ⅰ」を修得済であること 「インテリア製図演習Ⅱ」を履修済であることが望ましい |
| | ASLc1-25 | インテリア製図演習Ⅰ | ○ | 1 | 2 | | |
| | ASLc2-26 | インテリア製図演習Ⅱ | | 1 | 2 | | |
| | ASLc1-27 | インテリアCAD実習Ⅰ | | 1 | 1 | | |
| | ASLc2-28 | インテリアCAD実習Ⅱ | | 1 | 1 | | |
| | ASLc3-29 | インテリア設計演習 | | 2 | 2 | | |
| | ASLc3-30 | インテリアコーディネート論 | | 2 | 2 | | |
| ASLc4-31 | インテリアコーディネート演習 | | 2 | 2 | | | |
| 必修科目 | | | | | | 7 | |
| 選択必修科目 | | | | | | 14 | |
| 上記全科目より (他コース・他学科科目8単位まで含むことができる) | | | | | | 27 | |
| 計 | | | | | | 48 | |

★は通年科目

※は事前貼り付け

主要授業科目について

本学における主要授業科目とは、学生の学位取得に当たり、当該学位のレベルと分野に応じて達成すべき能力を育成するために必要な科目群のことをいう。なお「必修科目」および「卒業論文、卒業制作、卒業演習、卒業研究等」は必ず主要授業科目とする。

チャレンジ・ゼミナール（就職・編入チャレンジ）（必修科目）

1. 就職チャレンジ、編入学チャレンジの2種類があり、どちらか1つを選んで履修します。
2. 就職、編入学のどちらかを選び、指導教員が決定した後、履修登録します。
3. 履修登録は、1年次の6月に行います。
4. 1単位とし、指導教員が単位（成績を含む）を認定します。詳細は、基礎ゼミナールの授業で説明します。

卒業研究（必修科目）

1. 卒業研究の履修は、所定の方法に従い、担当教員に申込書を提出してください。
2. 卒業研究は、通年4単位とし、卒業研究発表会で報告し、かつ指定された日時までに論文・作品および卒業研究要旨集原稿を提出することを前提に、指導教員が単位（成績を含む）を認定します。
研究論文、卒業作品、要旨集原稿等は、各指導教員に提出してください。

インターンシップ制度について

この制度は学生が夏期、春期休業中等に2週間程度、企業や団体で研修を行うもので、学校内での学修の上に、広く実社会での研修を積み重ね、自分の関心の高い分野でより高度な経験をすることができます。こうした研修およびその前後の学修を行い、関連科目の単位を取得した場合、「自己開発B」の単位を取得することができます。ただし、同じインターンシップという名称の実質的には就職活動の一部であるものは、この制度の対象外です。

生活科学科に関するインターンシップ制度には大きく以下の方法があります。

1. 共立女子大学、短期大学へ企業や団体から研修応募依頼があるもの
学生支援課キャリアセンターが担当し、**kyonet** で案内が配信されます。
2. 上記以外の、教員の紹介による研修で上記に相当する内容を持つもの

9. カリキュラム・マップ

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価A） | 学びのステージ I：1年生前期 II：1年生後期 IV：2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | |
|----------|-------------------|---|--|--|--|---|---|--|---|--|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提 案力 | リーダー シップ | |
| | | | | 生活科学科に関する専門分野の学修を多角的に学ぶための幅広い教養を身に付けている。 | グローバル化する実社会で求められる多様な知識や技能の活用に必要な生活科学に関するメディア、デザイン、食、健康、情報、環境、コミュニケーション等の専門的知識、実践的に理解・活用することができる。 | 実社会における諸課題について、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を身に付け、自ら問題を発見して解決する能力を身につけることができる。 | 多角的な視点から実社会における諸課題を客観的にとらえ、問題を解決するた自ら探究し、生徒にわたって学ぶ姿勢を身につけることができる。 | 課題を発展させる発想力・表現力を養い、他者に柔軟に提案を提出し、高い解決力を見出すことができる。 | 思いやりのある誠実に富んだ人間性を身につけ、他者を尊重し、自らを冷静に主張し、他者を支援することリーダーシップを発揮することができる。 | |
| LAa1-1 | 基礎ゼミナール | ①大学における「学修」の意味を理解し、大学生として、そして共立生として知っておくべきこと、自覚しておくべきことなど、学生生活に関する心構えやルールについて学び、ルールに基づいて行動できるようになる。 ②自らのキャリアを見据え、有意義で創造的な大学生活を送るための学修計画を自ら立てられるようになる。 ③図書館や学内システムの利用方法、演習、実験を行うための基礎的知識など、大学で学ぶための基本的な学修技法を身に付け、活用できるようになる。 ④共立ならではのリーダーシップとは何かを理解し、その重要性、有効性を把握する。また大学生活を通して、共立リーダーシップがどのように高められるのかを意識でき具体的な計画を立てられる。 | I | ◎ | | | | | ◎ | |
| LAa1-2 | 論理的思考・文章表現 | ①文章を書くための基本的知識や技能を習得し、実践できるようになる。 ②論理的思考法の意義や方法を理解し、それを資料分析や着想、論理構成に応用できるようになる。 ③資料を正しく読解・分析し、自分の意見を論理的な文章で表現できるようになる。 | I | ◎ | | | | | | |
| LAa1-3 | キャリアプランと自己実現 | ・短期大学でのキャリア教育や生涯学び続けることの重要性を理解し、それをふまえて自分の価値観や人生の目標を文章として明確に表現することができる。 ・「共立リーダーシップ」の考え方を理解し、自分自身の経験や社会の一員として目指すべき姿と関連づけて、自分の言葉で説明することができる。 ・自分を取り巻く社会の現状や解決すべき課題について、意識調査や実態データなどを参照して自ら調べ、多面的に理解することができる。 ・将来に向けての中長期的な目標や行動計画を立案することができる。 | I | ◎ | | | | | | |
| LAb1-1 | 課題解決のためのリーダーシップ入門 | ・共立リーダーシップを踏まえ、自分らしいリーダーシップを発揮し、協働活動の質を高めることができる。 ・課題の内容を把握し、具体的かつ適切な問題設定や分析、解決する提案を行えるようになる。 ・グループワークを円滑に進めるためにタスクの設定、分担、スケジュールを立案すると共に、グループ内で十分なコミュニケーションをとることができるようになる。 ・グループメンバーの様々な意見・考え方を理解し、建設的な相互フィードバックとフィードバックに基づく振り返りができるようになり、リーダーシップ開発の基本サイクルが身についている。 ・プレゼンテーション手法を学び、聞き手に主旨が伝わわり、説得力のあるプレゼンテーションができるようになる。 | II | ◎ | | | | | ◎ | |
| LAc1-1 | データサイエンスとICTの基礎 | 以下に挙げる概念等を深く理解するとともに、基礎的なデータ分析の結果を活用できる能力を身に付けている。 ①社会におけるデータ・AI利活用 ②大学・短期大学におけるデータ・AI利活用 ③データリテラシー …… 統計の各種技法 ④データリテラシー …… データの集計と分析 ⑤コンピュータシステムとコンピュータネットワーク | I | ◎ | | | | | | |
| LAc1-2 | 情報処理 | ・スプレッドシートソフトウェアの基本的な使用方法を理解し、応用的な計算や整った表作成ができる。 ・ワードプロセッサを使用してさまざまなレポートや論文の作成ができる。 ・プレゼンテーションソフトウェアを使用して、プレゼンテーションの内容に合った効果的なプレゼンテーション資料を作成できる。 ・スプレッドシートソフトウェアを使用して、基本的のみならず応用的なデータの集計や分析、表現ができる。 | I・II | ◎ | | | | | | |
| LAc2-3 | 情報の分析と活用 | ・スプレッドシートを用いた実践的な情報分析を行うことができる。 ・分析したデータの解釈ができる。 ・統計学の基礎的な知識と技能を身につけ、活用することができる。 | I・II | ◎ | | | | | | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ Ⅰ：1年生前期 Ⅱ：1年生後期 Ⅲ：2年生前期 Ⅳ：2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|----------------------------------|--|---|--|---|---|---|--|--|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提案 力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科 に関する専 門分野の学 修を多角的 にとらえる ための幅広い 教養を身に 付けている。 | グローバル 化する実社 会を求めら れる多様な 知識や技能 の活用によ り必要な 生活科学に 関するメ ディア、デ ザイン、食 健康、情報 環境、コミュ ニケーション 等の専門的 知識・実践 的スキルを 体系的に理 解・修得し 、活用する ことができる。 | 実社会にお ける諸課題 について、 問題の本質 を見抜く洞 察力と判断 力を身につ け、自ら問 題を発見し て解決する ことができる。 | 多角的な視 点から実社 会における 諸課題を客 観的にとら え、問題を 解決するた めに自ら探 究し、生涯 にわたって 学ぶ姿勢を 身につける ことができる。 | 課題を發展 させる発想 力・表現力 を養い、他 者に的確に 提案するた めに、高い 柔軟性、理 論的解決力 を身につけ ることができる。 | 思いやり ある誠実 に富んだ 人間性 を身につ け、他者 を尊重し ながら自 ら冷静に 主事を支 援するこ とでリー ダーシッ プを發揮 することが できる。 |
| LAc2-4 | データエンジニアリングとプログラミング基礎 | <ul style="list-style-type: none"> データ駆動型社会においてデータサイエンスを学ぶことの意義を理解できる。 分析目的に応じ、適切なデータ分析手法、データ可視化手法を選択できる。 データを可視化し、意味合いを導出することができる。 データを活用した一連のプロセスを体験し、データ利活用の流れ（進め方）を理解できる。 データを収集・処理・蓄積するための技術の概要を理解できる。 コンピュータでデータを扱うためのデータ表現の基礎を理解できる。 データベースから必要なデータを抽出し、データ分析のためのデータセットを作成できる。 データ処理に必要な数理的知識およびプログラミングの基本を理解できる。 | Ⅱ・Ⅳ | ◎ | | | | | |
| LAc2-5 | AIの基礎と応用 | <ul style="list-style-type: none"> AIのこれまでの変遷、各段階における代表的な成果物や技術背景を理解できる。 今後、AIが社会に受け入れられるために考慮すべき論点を理解できる。 自らの専門分野にAIを応用する際に求められるモラルや倫理について理解できる。 機械学習（教師あり学習、教師なし学習）、深層学習、強化学習の基本的な概念を理解できる。 AI技術（学習、認識、予測・判断、知識・言語）を活用し、課題解決につなげることができる。 | Ⅱ・Ⅳ | ◎ | | | | | |
| LAc2-6 | 課題解決のためのデータエンジニアリング | <ul style="list-style-type: none"> データサイエンス・データエンジニアリングの基礎的な知識とスキルを用いて分析することができる。 分析した内容を効果的に発信することができる。 プレゼンテーションソフトウェアを用いた実践的でわかりやすい資料を作成できる。 産業界の実情を深く理解し、それにふさわしい分析および資料作成ができる。 | Ⅱ・Ⅳ | ◎ | | | | | |
| LAd1-1 | 英語コミュニケーションⅠ (Basic) | <ul style="list-style-type: none"> 基礎的なレベルの英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 基礎的なレベルのコミュニケーションで英語で正確に表現することができる。 基礎的なレベルのコミュニケーションに必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | I | ◎ | | | | | |
| LAd1-2 | 英語コミュニケーションⅠ (Intermediate) | <ul style="list-style-type: none"> 平易な日常英会話レベルの英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 平易な日常英会話レベルのコミュニケーションで英語で正確に表現することができる。 平易な日常英会話レベルのコミュニケーションに必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | I | ◎ | | | | | |
| LAd1-3 | 英語コミュニケーションⅠ (High-Intermediate) | <ul style="list-style-type: none"> 高度な日常英会話レベルの英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 高度な日常英会話レベルのコミュニケーションで英語で正確に表現することができる。 高度な日常英会話レベルのコミュニケーションに必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | I | ◎ | | | | | |
| LAd1-4 | 英語コミュニケーションⅠ (Advanced) | <ul style="list-style-type: none"> 特定のトピックに関する英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 特定のトピックに関して、英語で正確に、持続的に表現することができる。 特定のトピックに関する会話に必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | I | ◎ | | | | | |
| LAd1-5 | 英語コミュニケーションⅡ (Basic) | <ul style="list-style-type: none"> 基礎的なレベルの英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 基礎的なレベルのコミュニケーションで英語で正確に表現することができる。 基礎的なレベルのコミュニケーションに必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | Ⅱ | ◎ | | | | | |
| LAd1-6 | 英語コミュニケーションⅡ (Intermediate) | <ul style="list-style-type: none"> 平易な日常英会話レベルの英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 平易な日常英会話レベルのコミュニケーションで英語で正確に表現することができる。 平易な日常英会話レベルのコミュニケーションに必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | Ⅱ | ◎ | | | | | |
| LAd1-7 | 英語コミュニケーションⅡ (High-Intermediate) | <ul style="list-style-type: none"> 高度な日常英会話レベルの英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 高度な日常英会話レベルのコミュニケーションで英語で正確に表現することができる。 高度な日常英会話レベルのコミュニケーションに必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | Ⅱ | ◎ | | | | | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ I:1年生前期 II:1年生後期 III:2年生前期 IV:2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|-------------------------------------|---|---|--|--|---|---|--|---|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提 案力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科に関する専門分野の学習を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | グローバル化する実社会で求められる多様な知識や技能の活用に必要な生活科学に関するメディア、デザイン、食、健康、情報、環境、コミュニケーション等の専門的知識を体系的に理解・活用することができる。 | 実社会における諸課題について、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を身に付け、自ら問題を発見し、解決することができる。 | 多角的な視点から実社会における諸課題を客観的にとらえ、問題を解決するために自ら探究し、生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけることができる。 | 課題を発展させる発想力・表現力を養い、他者に的確に提案を伝える力、高い理解力・解決力を持つことができる。 | 思いやりのある誠実に富んだ人間性を持ち、他者を尊重し、自らを冷静に主観を支持し、リーダーシップを発揮することができる。 |
| LAd1-8 | 英語コミュニケーションⅡ (Advanced) | ・特定のトピックに関する英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 ・特定のトピックに関して、英語で正確に、持続的に表現することができる。 ・特定のトピックに関する会話に必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | Ⅱ | ○ | | | | | |
| LAd2-17 | 英語コミュニケーションⅢ(Basic) | ・日常英会話レベルの英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 ・日常英会話レベルのコミュニケーションで英語で正確に表現することができる。 ・日常英会話レベルのコミュニケーションに必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | Ⅱ | ○ | | | | | |
| LAd2-18 | 英語コミュニケーションⅢ (Intermediate) | ・特定のトピックに関する平易な英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 ・特定のトピックに関して、英語で正確に、持続的に表現することができる。 ・特定のトピックに関する平易な会話に必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | Ⅱ | ○ | | | | | |
| LAd2-19 | 英語コミュニケーションⅢ (High-Intermediate) | ・特定のトピックに関する高度な英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 ・特定のトピックに関して、英語で正確に、持続的に表現することができる。 ・特定のトピックに関する高度な会話に必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | Ⅱ | ○ | | | | | |
| LAd2-20 | 英語コミュニケーションⅢ (Advanced) | ・専門的な内容の英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 ・専門的な内容の議論で、英語で正確に、持続的に表現することができる。 ・専門的な内容の議論に必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | Ⅱ | ○ | | | | | |
| LAd2-21 | 英語コミュニケーションⅣ(Basic) | ・日常英会話レベルの英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 ・日常英会話レベルのコミュニケーションで英語で正確に表現することができる。 ・日常英会話レベルのコミュニケーションに必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | Ⅳ | ○ | | | | | |
| LAd2-22 | 英語コミュニケーションⅣ (Intermediate) | ・特定のトピックに関する平易な英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 ・特定のトピックに関して、英語で正確に、持続的に表現することができる。 ・特定のトピックに関する平易な会話に必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | Ⅳ | ○ | | | | | |
| LAd2-23 | 英語コミュニケーションⅣ (High-Intermediate) | ・特定のトピックに関する高度な英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 ・特定のトピックに関して、英語で正確に、持続的に表現することができる。 ・特定のトピックに関する高度な会話に必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | Ⅳ | ○ | | | | | |
| LAd2-24 | 英語コミュニケーションⅣ (Advanced) | ・専門的な内容の英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 ・専門的な内容の議論で、英語で正確に、持続的に表現することができる。 ・専門的な内容の議論に必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | Ⅳ | ○ | | | | | |
| LAd1-9 | TOEIC I (Basic) | TOEIC 400点レベルの ・会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 ・英文を正確に理解できる。 ・文法や語彙の知識が十分に身につけており、使用できる。 | I | ○ | | | | | |
| LAd1-10 | TOEIC I (Intermediate) | TOEIC 500点レベル（企業が新入社員に期待するレベルの英語力）の ・会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 ・英文を正確に理解できる。 ・文法や語彙の知識が十分に身につけており、使用できる。 | I | ○ | | | | | |
| LAd1-11 | TOEIC I (High-Intermediate) | TOEIC 500点レベル（企業が新入社員に期待するレベルの英語力）以上の ・会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 ・英文を正確に理解できる。 ・文法や語彙の知識が十分に身につけており、使用できる。 | I | ○ | | | | | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価A） | 学びのステージ I:1年生前期 II:1年生後期 III:2年生前期 IV:2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|---------------------------------|---|---|--|---|---|---|--|--|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提 案力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科 に関する専 門分野の学 修を多角的 にとらえる ための幅広 い教養を身 に付けてい る。 | グローバル 化する実社 会では求め られる多様 な知識や技 能の活用必 要な生活科 学に関する メディア、デ ザイン、食 健康、情報 環境、コミュ ニケーション 等の専門的 知識・実践 的スキルを 体系的に理 解・修得し 、活用する ことができる。 | 実社会にお ける諸課題 について、 問題の本質 を見抜く洞 察力と判断 力を身につ け、自ら問 題を発見し て解決する ことができる。 | 多角的な視 点から実社 会における 諸課題を客 観的にとら え、問題を 解決するた めに自ら探 究し、生涯 にわたって 学ぶ姿勢を 身につける ことができる。 | 課題を発展 させる発想 力・表現力 を養い、他 者に的確に 提案を伝え 、他者を理 解・高め、 高い解決力 を見出すこ とができる。 | 思いやりあ る誠実に富 んだ人間性 を身につけ 、他者が考 えを冷静に 主張し、他 者を支援す ることでも リーダーシ ップを発揮 することができる。 |
| LAd1-12 | TOEIC I (Advanced) | TOEIC 600点レベル（上場企業の一般社員に求められるレベルの英語力）の ・会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 ・英文を正確に理解できる。 ・文法や語彙の知識が十分に身につけており、使用できる。 | I | ◎ | | | | | |
| LAd1-13 | TOEIC II(Basic) | TOEIC 500点レベル（企業が新入社員に期待するレベルの英語力）の ・会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 ・英文を正確に理解できる。 ・文法や語彙の知識が十分に身につけており、使用できる。 | II | ◎ | | | | | |
| LAd1-14 | TOEIC II (Intermediate) | TOEIC 600点レベル（上場企業の一般社員に求められるレベルの英語力）の ・会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 ・英文を正確に理解できる。 ・文法や語彙の知識が十分に身につけており、使用できる。 | II | ◎ | | | | | |
| LAd1-15 | TOEIC II (High-Intermediate) | TOEIC 600点レベル（上場企業の一般社員に求められるレベルの英語力）以上の ・会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 ・英文を正確に理解できる。 ・文法や語彙の知識が十分に身につけており、使用できる。 | II | ◎ | | | | | |
| LAd1-16 | TOEIC II (Advanced) | TOEIC 700点レベル（海外部門で働くことができるレベルの英語力）の ・会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 ・英文を正確に理解できる。 ・文法や語彙の知識が十分に身につけており、使用できる。 | II | ◎ | | | | | |
| LAd2-25 | TOEIC III (High-Intermediate) | TOEIC 700点レベル（海外部門で働くことができるレベルの英語力）の ・会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 ・英文を正確に理解できる。 ・文法や語彙の知識が十分に身につけており、使用できる。 | III | ◎ | | | | | |
| LAd2-26 | TOEIC III (Advanced) | TOEIC 800点レベル（海外赴任や英語での会議ができるレベル）の ・会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 ・英文を正確に理解できる。 ・文法や語彙の知識が十分に身につけており、使用できる。 | III | ◎ | | | | | |
| LAe1-1 | フランス語 I | 1. フランス語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. フランス語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. フランス語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. フランス語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. フランス語圏の文化に関する初歩的な事象についての確に説明することができる。 | I | ◎ | | | | | |
| LAe1-2 | フランス語 II | 1. フランス語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 2. フランス語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その運用に習熟することができる。 3. フランス語圏の文化に関する基本的な事象について正確に説明することができる。 | II | ◎ | | | | | |
| LAe2-19 | フランス語 II | 1. フランス語の初級から中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. フランス語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. フランス語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 4. グループワークでは他者とよく協力することができる。 | II | ◎ | | | | | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ I:1年生前期 II:1年生後期 III:2年生前期 IV:2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|--------|--|---|--|---|---|---|---|---|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提 案力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科に関する専門分野の学修を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | グローバル化する実社会で求められる多様な知識や技能の活用に必要な生活科学に関するメディア、デザイン、食、健康、情報、環境、コミュニケーション等の専門的知識・実践的スキルを体系的に理解・修得し、活用することができる。 | 実社会における諸課題について、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を身に付け、自ら問題を発見して解決する能力を身につけることができる。 | 多角的な視点から実社会における諸課題を客観的にとらえ、問題を解決するために自ら探究し、生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけることができる。 | 課題を発展させる発想力・表現力を養い、他者に的確に提案を伝える力、高い柔軟性、高い解決力、高いリーダーシップを身につけることができる。 | 思いやりのある誠実に富んだ人間性を身につけ、他者を尊重し、自らを冷静に主張し、他者を支援することによってリーダーシップを発揮することができる。 |
| LAe2-20 | フランス語Ⅳ | 1. フランス語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. フランス語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. フランス語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 4. グループワークでは他者とよく協力することができる。 | Ⅳ | ◎ | | | | | |
| LAe1-3 | 中国語Ⅰ | 1. 中国語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. 中国語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. 中国語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. 中国語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. 中国語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | Ⅰ | ◎ | | | | | |
| LAe1-4 | 中国語Ⅱ | 1. 中国語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 2. 中国語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その運用に習熟することができる。 3. 中国語圏の文化に関する基本的な事象について正確に説明することができる。 | Ⅱ | ◎ | | | | | |
| LAe2-21 | 中国語Ⅲ | 1. 中国語の初級から中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. 中国語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. 中国語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 4. グループワークでは他者とよく協力することができる。 | Ⅲ | ◎ | | | | | |
| LAe2-22 | 中国語Ⅳ | 1. 中国語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. 中国語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. 中国語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 4. グループワークでは他者とよく協力することができる。 | Ⅳ | ◎ | | | | | |
| LAe1-5 | ドイツ語Ⅰ | 1. ドイツ語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. ドイツ語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. ドイツ語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. ドイツ語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. ドイツ語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | Ⅰ | ◎ | | | | | |
| LAe1-6 | ドイツ語Ⅱ | 1. ドイツ語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 2. ドイツ語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その運用に習熟することができる。 3. ドイツ語圏の文化に関する基本的な事象について正確に説明することができる。 | Ⅱ | ◎ | | | | | |
| LAe2-23 | ドイツ語Ⅲ | 1. ドイツ語の初級から中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. ドイツ語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. ドイツ語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 4. グループワークでは他者とよく協力することができる。 | Ⅲ | ◎ | | | | | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ I:1年生前期 II:1年生後期 III:2年生前期 IV:2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|--------|---|---|--|---|---|---|---|---|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提 案力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科 に関する専 門分野の学 修を多角的 にとらえる ための幅広 い教養を身 に付けてい る。 | グローバル 化する実社 会を求めら れる多様な 知識や技能 の活用にあ る生活科学 に関する専 門的知識・ 実践的 技能を 体系的に理 解・修得し 、活用する ことができる。 | 実社会にお ける諸課題 について、 問題の本質 を見抜く洞 察力と判断 力を身につ け、自ら問 題を発見し て解決する ことができる。 | 多角的な視 点から実社 会における 諸課題を客 観的にとら え、問題を 解決するた めに自ら探 究し、生涯 にわたって 学ぶ姿勢を 身につける ことができる。 | 課題を發展 させる発想 力・表現力 を養い、他 者に的確に 提案を 行うこと ができる。 | 思いやりの ある誠実で 協調性に富 んだ人間性 を身につけ 、他者を 尊重しなが ら自らの考 えを冷静に 主張し、他 者を支援す ること でリーダー シップを発 揮すること ができる。 |
| LAe2-24 | ドイツ語Ⅳ | 1. ドイツ語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. ドイツ語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. ドイツ語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 4. グループワークでは他者とよく協力することができる。 | Ⅳ | ◎ | | | | | |
| LAe1-7 | コリア語Ⅰ | 1. コリア語の発音の仕組みや特徴を理解することができる。 2. コリア語の文字表記の仕組みや特徴を理解することができる。 3. コリア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解することができる。 4. コリア語の基礎的な文法や構文を理解することができる。 | Ⅰ | ◎ | | | | | |
| LAe1-8 | コリア語Ⅱ | 1. コリア語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. コリア語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. コリア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. コリア語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. コリア語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | Ⅱ | ◎ | | | | | |
| LAe2-25 | コリア語Ⅲ | 1. コリア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用を行うことができる。 2. コリア語の基礎的な文法や構文を理解し、その実践的な運用を行うことができる。 3. コリア語圏の文化に関する一般的な事象について、概略を説明することができる。 | Ⅲ | ◎ | | | | | |
| LAe2-26 | コリア語Ⅳ | 1. コリア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. コリア語の基礎的な文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. コリア語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 | Ⅳ | ◎ | | | | | |
| LAe1-9 | スペイン語Ⅰ | 1. スペイン語の発音の仕組みや特徴を理解することができる。 2. スペイン語の文字表記の仕組みや特徴を理解することができる。 3. スペイン語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解することができる。 4. スペイン語の基礎的な文法や構文を理解することができる。 | Ⅰ・Ⅱ | ◎ | | | | | |
| LAe1-10 | スペイン語Ⅱ | 1. スペイン語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. スペイン語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. スペイン語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. スペイン語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. スペイン語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | Ⅰ・Ⅱ | ◎ | | | | | |
| LAe2-27 | スペイン語Ⅲ | 1. スペイン語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用を行うことができる。 2. スペイン語の基礎的な文法や構文を理解し、その実践的な運用を行うことができる。 3. スペイン語圏の文化に関する一般的な事象について、概略を説明することができる。 | Ⅰ・Ⅱ | ◎ | | | | | |
| LAe2-28 | スペイン語Ⅳ | 1. スペイン語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. スペイン語の基礎的な文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. スペイン語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 | Ⅰ・Ⅱ | ◎ | | | | | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ I:1年生前期 II:1年生後期 III:2年生前期 IV:2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|---------------------|---|---|--|---|---|---|---|---|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提 案力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科に関する専門分野の学習を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | グローバル化する実社会で求められる多様な知識や技能の活用に必要な生活科学に関するメディア、デザイン、食、健康、情報、環境、コミュニケーション等の専門的知識・実践的スキルを体系的に理解・活用することができる。 | 実社会における諸課題について、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を身に付け、自ら問題を発見して解決する能力を身につけることができる。 | 多角的な視点から実社会における諸課題を客観的にとらえ、問題を解決するために自ら探究し、生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけることができる。 | 課題を発展させる発想力・表現力を養い、他者に的確に提案を求め、高い理解力・解決力を見出すことができる。 | 思いやりのある誠実に富んだ人間性を持ち、他者を尊重し、自らを冷静に主事を支援するリーダーシップを発揮することができる。 |
| LAe1-11 | イタリア語 I | 1. イタリア語の発音の仕組みや特徴を理解することができる。 2. イタリア語の文字表記の仕組みや特徴を理解することができる。 3. イタリア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解することができる。 4. イタリア語の基礎的な文法や構文を理解することができる。 | I・II | ◎ | | | | | |
| LAe1-12 | イタリア語 II | 1. イタリア語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. イタリア語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. イタリア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. イタリア語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. イタリア語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | I・II | ◎ | | | | | |
| LAe1-13 | アラビア語 I | 1. アラビア語の発音の仕組みや特徴を理解することができる。 2. アラビア語の文字表記の仕組みや特徴を理解することができる。 3. アラビア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解することができる。 4. アラビア語の基礎的な文法や構文を理解することができる。 | I・II | ◎ | | | | | |
| LAe1-14 | アラビア語 II | 1. アラビア語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. アラビア語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. アラビア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. アラビア語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. アラビア語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | I・II | ◎ | | | | | |
| LAe1-15 | 基礎日本語 I (留学生対象) | 上級レベルの語彙や文法、表現などを理解するとともに、それらを用いながら、専門書を読む準備段階としての読解が十分にできる。 | I・II | ◎ | | | | | |
| LAe1-16 | 基礎日本語 II (留学生対象) | 話しことばと書きことばの違いを理解し、論理的な文章に特有な表現を用いたり、段落構成を考えたりしながら、レポートや論文作成に必要な文章表現が十分にできる。 | I・II | ◎ | | | | | |
| LAe2-17 | 応用日本語 I (留学生対象) | 講義の聴き方やノートのとり方、情報収集の方法など、講義や演習などの学習場面において必要となるスキルの運用が十分にできる。 | I・II | ◎ | | | | | |
| LAe2-18 | 応用日本語 II (留学生対象) | 1. 口頭発表やレポート作成のためのスキルを十分に運用することができる。 2. キャンパス内外での円滑なコミュニケーション(挨拶や質問の仕方、メールの書き方など)に必要なスキルを十分に運用することができる。 | I・II | ◎ | | | | | |
| LAf1-1 | 日本の歴史を学ぶ | 講義の内容を十分に理解し、取り上げられた日本史の歴史的事象のうち、基本的な事柄について十分に説明することができる。 | I~IV | ◎ | | | | | |
| LAf1-2 | 世界の歴史を学ぶ | ・世界の歴史が、各地域で独立して存在しているのではなく、相互の結びつきの中で形成されていることを十分に理解し、解釈できるようになる。 ・それぞれの時代における世界の各地域の結びつき方(結びつける要因)について、具体的に説明することができる。 ・それぞれの時代の各地域の状況について、その概要を正確に説明することができる。 ・現在のグローバル化を歴史的な背景から具体的に解釈することができる。 | I~IV | ◎ | | | | | |
| LAf1-3 | 人間と地理を学ぶ | ・人間活動の地理的分布についての様々なテーマを的確に設定し、その特徴を人文地理学的に理解できる。 ・地形図などの地図に表現された内容から、授業で扱うテーマに関する情報を抽出し具体的に説明できる。 ・地図やグラフなどから抽出した情報を、地理学の専門用語を用いて具体的に説明できる。 | I~IV | ◎ | | | | | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ Ⅰ：1年生前期 Ⅱ：1年生後期 Ⅲ：2年生前期 Ⅳ：2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|------------------|--|---|--|--|---|---|---|--|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提 案力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科 に関する専 門分野の学 修を多角的 にとらえる ための幅広 い教養を身 に付けてい る。 | グローバル 化する実社 会では求め られる多様 な知識や技 能の活用を 必要とする 生活科学に 関するメ ディア、デ ザイン、食 健康、情報 環境、コミュ ニケーション 等の専門的 知識・実践 的スキルを 体系的に理 解・修得し 、活用する ことができる。 | 実社会にお ける諸課題 について、 問題の本質 を見抜く洞 察力と判断 力を身につ け、自ら問 題を発見し て解決する ことができる。 | 多角的な視 点から実社 会における 諸課題を客 観的にとら え、問題を 解決するた めに自ら探 究し、生涯 にわたって 学ぶ姿勢を 身につける ことができる。 | 課題を發展 させる発想 力・表現力 を養い、他 者に的確に 提案を柔軟 に理解する こと、高い 解決力をも つことができる。 | 思いやり のある誠実 に富んだ人 間性につ き、他者を 尊重しなが ら自らを冷 静に主張し 、他者を支 援すること でリーダー シップを発 揮すること ができる。 |
| LAF1-4 | 文学をひらく | 1) 授業で取り上げられた文学作品を、表現に即して理解し、創造的・発展的に解釈することができる。また、その内容を、自分自身の言葉で明確に表現できるようにする。 2) 授業で取り上げられた文学作品の鑑賞を通じて、文学表現の特質や多様性について知り、またそれらを、文学作品の背景にある歴史的・社会的なコンテキストと結びつけて考えることができるようになる。 3) 文学作品に表現された深い人間理解を通じて、日々の生活における自己や他者、さらには社会のありようを見つめ直す視点が持てるようになる。 | I～Ⅳ | ◎ | | | | | |
| LAF1-5 | 芸術をひらく | ・美術・音楽・演劇などを芸術として成り立たせている社会的な枠組みや、創造の過程、受容のされ方といった芸術をめぐる問題のあり方について正確に説明できるようにする。 ・価値観の多様性への視点を身につけた上で、みずから問いを立て、芸術についての考え方をういて深く考察することができるようになる。 ・授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる。 | I～Ⅳ | ◎ | | | | | |
| LAF1-6 | 哲学とは何か | 1. 人間に関する関係主義的理解と実存主義的理解について論理的・分析的に説明できるようにする。 2. 人間（社会）の在り方の歴史的変遷について具体例を示しながら説明できるようにする。 3. 人間の本質に関する現代の代表的哲学説を専門概念を用いて説明できるようにする。 4. 現代の人間疎外の本質に関する哲学説を論理的に説明し、自分の言葉で敷衍出来るようになる。 | I～Ⅳ | ◎ | | | | | |
| LAF1-7 | 心理学を学ぶ | (1) 心理学の基礎的な概念を理論と関連づけて説明できる。 (2) 心理学研究の技法を、実践例をふまえて説明できる。 (3) 心理学の理論に基づいて日常生活の出来事を分析し考察できる。 (4) 心理学の知識を対人関係や日常的なメンタルヘルスの改善に活かそうとする意欲を、具体的な目標と共に表現できる。 | I～Ⅳ | ◎ | | | | | |
| LAF1-8 | 自己開発 A | ・自らの意思による異文化との交流等の活動を通して、積極性が身につく、自分の人生観や世界観を広げることができるようになる。 ・活動を通して、創造的に人生を送るための問題意識や知識をしっかりと身につけることができるようになる。 | I～Ⅳ | ◎ | | | | | |
| LAF1-9 | 自己開発 B | ・自らの意思による社会活動を通して、積極性が身につく、自分の人生観や世界観を広げることができるようになる。 ・活動を通して、創造的に人生を送るための問題意識や知識をしっかりと身につけることができるようになる。 | I～Ⅳ | ◎ | | | | | |
| LAG1-1 | 法律を学ぶ （日本国憲法） | ・法の役割・性質について、講義で学習した様々な角度から説明することができる。 ・憲法の考え方の基本について、講義で学習した内容を踏まえて説明することができる。 ・日本国憲法について、その制定過程・基本原則・憲法の保障する権利と憲法に定める統治機構の仕組みを説明することができる。 ・法と私たちの生活との関わりを理解し、法が形作る社会制度のあり方について、自身の考えを示すことができる。 | I～Ⅳ | ◎ | | | | | |
| LAG1-2 | 法律を学ぶ(概論) | ・この授業で扱う「法」の概念や裁判制度に関する知識を修得している。 ・この授業で学んだ法解釈の技能に基づいて、身の回りの社会問題・生活問題の解決方法を考察することができる。 ・社会生活のルールに関心があり、公平な制度・解釈を求めることについて意欲を有している。 | I～Ⅳ | ◎ | | | | | |
| LAG1-3 | 政治を学ぶ | 1. 政治学の基礎概念について、社会科学の用語を用いて正確に説明できる。 2. 日本社会における利害や価値をめぐる紛争や対立の事例を見出し、政治学の基礎概念を用いて分析することができる。 | I～Ⅳ | ◎ | | | | | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ I:1年生前期 II:1年生後期 III:2年生前期 IV:2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|------------|---|---|--|---|---|---|--|--|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提 案力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科 に関する専 門分野の学 修を多角的 にとらえる ための幅広い 教養を身に 付けている。 | グローバル 化する実社 会に求めら れる多様な 知識や技能 の活用に関 する生活科 学に関する メディア、デ ザイン、食 健康、情報 環境、コミュ ニケーション 等の専門的 知識・実践 的スキルを 体系的に理 解・修得し、 活用するこ とができる。 | 実社会にお ける諸課題 について、 問題の本質 を見抜く洞 察力と判断 力を身につ け、自ら問 題を発見し て解決する ことができる。 | 多角的な視 点から実社 会における 諸課題にと らえ、問題 を解決する ために自ら 探究し、生 涯にわたっ て学ぶ姿勢 を身につけ ることができる。 | 課題を發展 させる発想 力・表現力 を養い、他 者に的確に 提案を求め る力、高い 理解力・提 案力・解決 力を持つこ とができる。 | 思いやりの ある誠実に 富んだ人間 性を持つこ と、他者を 尊重しなが ら自らを冷 静に主張し、 他者を支 援するリー ダーシップ を発揮する ことできる。 |
| LAg1-4 | 倫理学とは何か | ・人間関係のあり方、ものの考え方や倫理のさまざまな問題、また、近代以降の科学信仰によってもたらされた人間概念の変容について、明確に説明することができるようになる。 ・自己や他者をめぐる倫理学の考え方を身につけた上で、みずから問いを立て、倫理学の発想を用いて深く考察することができるようになる。 ・授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる。 | I～M | ◎ | | | | | |
| LAg1-5 | 国際関係を学ぶ | 現在の国際秩序に関する概念的な理解を深めるとともに、国際社会におけるさまざまな主体や集団、国際的な原則や諸制度の特質、そして国際関係における暴力と平和や協力の問題について理解できる。国際関係で起こるさまざまな問題について自分なりに考察できる。 | I～M | ◎ | | | | | |
| LAg1-6 | 地域社会と家族を学ぶ | ・現代の家族を取り巻く課題について、独自の考えを持って説明できる。 ・家族および個人・社会との関係やその影響について、客観的な視点で理解できる。 | I～M | ◎ | | | | | |
| LAg1-7 | 経済を学ぶ | 現実に関心や世界経済で発生している現象に興味を持ち、学習した理論を応用して、自らそれらを説明する能力を身につけている。 | I～M | ◎ | | | | | |
| LAg1-8 | 社会を学ぶ | ・授業を通して得た教養を通して自分の人生観や世界観を広げることができるようになる。 ・社会的な問題意識と社会学的方法論を用いて、現代社会の諸問題がどのように論じられているかを説明できる。 | I～M | ◎ | | | | | |
| LAg1-9 | 企業と社会の仕組み | 企業・組織のしくみについて、自分自身の問題として落とし込み、独自の考えを加えながら説明できる。 | I～M | ◎ | | | | | |
| LAg1-10 | マーケティング | ・この授業で紹介されるマーケティングの基礎的な概念や理論を理解している。 ・上記の概念や理論を使って問題を自分の頭で整理し、自分のことばで他者に明確にその問題の本質を論理的な文章などで表現し伝えることができる。 | I～M | ◎ | | | | | |
| LAg1-11 | 女性の生き方と社会 | ①女性の社会的地位の歴史とその権利獲得のためのたたかひの歴史を理解できるようになる。 ②女性が直面する社会的課題とその背景について理解できるようになる。 ③②を解決するための方法を理解できるようになる。 ④①～③を「自分ごと」として認識し、その思考の成果を口頭で発表したり文章にしたりできるようになる。 | I～M | ◎ | | | | | |
| LAh1-1 | 自然と地理を学ぶ | ・世界各地の地形、気候、水文、植生など様々な自然環境の特徴を、自然地理学の専門用語を用いて具体的に説明できる。 ・自然環境と人間生活の関係を十分に理解し、自然災害など自然環境の急変に対応するための方法を主体的に提言できる。 ・地形図に記載された情報を十分に理解したうえで、そこに記載された地形、植生などの自然環境の特徴を具体的に説明できる。 | I～M | ◎ | | | | | |
| LAh1-2 | 数学への招待 | 1. 様々な社会の出来事で得られたデータの分析・解析・考察ができる。 2. データから予測ができる。 3. 身の回りのものから数学を感じるとることができる。 4. 数学の理論から応用化を感じるとることができる。 5. 数学の便利さに気づくことができる。 | I～M | ◎ | | | | | |
| LAh1-3 | 生物学への招待 | 1) 人体の構造と機能について、具体的な器官や分子を例に説明できる。 2) 生物の進化について、人類にいたる一連の流れを説明できる。 3) 遺伝子と疾病・老化との関係について、関連遺伝子を例に説明できる。 4) 人間の営みと地球環境との関係について、具体的な事例をもとに説明できる。 | I～M | ◎ | | | | | |
| LAh1-4 | 物理学への招待 | 1) 力学・熱学・波動論・電磁気学といった古典物理学の基礎体系を理解し、日常生活や学業生活に活用できる。 2) 物理学に関する必要な情報を自分で探索・調査し、正しい情報を選んで利用できるリテラシーを獲得している。 | I～M | ◎ | | | | | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ I:1年生前期 II:1年生後期 III:2年生前期 IV:2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|----------------|---|---|--|---|---|---|--|--|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提 案力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科 に関する専 門分野の学 修を多角的 にとらえる ための幅広い 教養を身に 付けている。 | グローバル 化する実社 会を求めら れる多様な 知識や技能 の活用によ り必要な 生活科学に 関する専門 的知識・実 践的スキル を体系的に 理解・修得 し、活用す ることができる。 | 実社会にお ける諸課題 について、 問題の本質 を見抜く洞 察力と判断 力を身につ け、自ら問 題を発見し て解決する ことができる。 | 多角的な視 点から実社 会における 諸課題にと りあわり、 課題を解決 するために 自ら探究し 、生涯にわ たって学ぶ 姿勢を身に つけること ができる。 | 課題を發展 させる発想 力・表現力 を養い、他 者に的確に 提案をでき るよう、理 解し、解決 するにつれ 、高めてい くことができる。 | 思いやりあ る誠実で富 んだ人間性 を身につけ 、他者を重 んじ、自ら 主張し、他 者を支援す るリーダー シップを発 揮すること ができる。 |
| LAh1-5 | 化学への招待 | 1. 授業にほぼ出席し、スライドに書かれたことをノートにとり、スライドに書かれていなくても話の中で重要な点をメモできる。 2. 授業内容に関する試験問題に関して、解答例を記憶して正答が書ける。 3. 自然科学的な見方（自然現象における因果関係の探求）に関して、資料やノートを見ながら、説明ができる。 | I～IV | ◎ | | | | | |
| LAi1-1 | 健康スポーツ実習 A | ・運動に親しむ姿勢を持ち、自ら積極的に活動する態度を身につけることができる。 ・自分自身の体力や心身の健康問題に気づき、それらを改善・向上させるための改善策を考え、実践することができる。 ・学生同士のコミュニケーションを図ることができ、積極的に人間関係を構築するための主体的な活動及び協働して学習することができる。 ・日常生活を営むために必要な体力および健康の維持・増進に関する運動の必要性とその役割を理解できる。 ・生涯を通して楽しむことのできる運動やスポーツの技術や知識を理解し、身につけることができる。 | I・II | ◎ | | | | | |
| LAi1-2 | 健康スポーツ実習 B | ・自分に合った運動活動において、その運動やスポーツの文化的・社会的背景が理解できる。 ・運動技術や自身の体力について、より向上を目指した活動ができる。 ・学生同士のコミュニケーションを図ることができ、積極的に人間関係を構築するための主体的な活動及び協働して学習することができる。 ・日常生活を営むために必要な体力および心身の健康の維持・増進に関する運動の必要性とその役割を理解できる。 ・生涯を通して楽しむことのできる運動やスポーツの技術や知識を理解し、身につけることができる。 | II・IV | ◎ | | | | | |
| LAj2-1 | 現代社会の諸課題 | ・授業によって得た教養を通して自分の人生観や世界観を広げることができるようになる。 ・創造的に人生を送るための問題意識や関心を持つことができるようになる。 ・他者と協働しながら、分析・企画・提案ができるようになる。 ・目標達成のために、他者と協力的にコミュニケーションを取り、計画的に行動することができるようになる。 | III・IV | ○ | | | | | ◎ |
| LAj2-2 | リーダーシップ開発演習 I | ・リーダーシップの発揮において、論理的思考や多様性を理解したコミュニケーションが必要であることを理解する。 ・リーダーシップの発揮において、論理的思考と多様性を理解したコミュニケーションスキルを使えるようになる。 ・これまでに自らが経験したグループ活動プロセスを振り返り、それぞれがどのようなリーダーシップを発揮しグループの成果にインパクトを与えたのか、そして、その学びを今後の行動にどのような活かすのかを考え、共有することができる。 ・自分らしいリーダーシップの探究を通じて、グループ内や授業内における主体的な学びと他者との協働によって成長することへの関心、意欲、態度が醸成される。 | I | ○ | | | | | ◎ |
| LAj2-3 | リーダーシップ開発演習 II | ・グループワークを通じた課題解決において、個々のリーダーシップの発揮が重要であることと、リーダーシップの実践に最小三要素(1. 目標共有 2. 率先垂範 3. 相互支援)が必要であることを理解する。 ・グループワークと課題解決において、自ら主体的に行動するための基本的なコミュニケーションスキルを使えるようになる。 ・グループワークと課題解決においてどのようなリーダーシップを発揮するかを考え、メンバーに共有することができる。 ・グループワークと課題解決において、グループとしての成果を高めるために自分ができることを他者に示すと同時に、他者の協力を仰ぐことができるようになる。 | II | ○ | | | | | ◎ |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ I：1年生前期 II：1年生後期 III：2年生前期 IV：2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|----------------|---|---|--|---|---|---|---|---|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提 案力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科に関する専門分野の学修を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | グローバル化する実社会で求められる多様な知識や技能の活用に必要な生活科学に関するメディア、デザイン、食、健康、情報、環境、コミュニケーション等の専門的知識・実践的スキルを体系的に理解・修得し、活用することができる。 | 実社会における諸課題について、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を身に付け、自ら課題を発見して解決することができる。 | 多角的な視点から実社会における諸課題を客観的にとらえ、問題を解決するために自ら探究し、生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけることができる。 | 課題を発展させる発想力・表現力を養い、他者に的確に提案を伝え、他者に柔軟に理解合策をとることができる。 | 思いやりのある誠実で協調性に富んだ人間性を持ち、他者を尊重しながら自らを冷静に主張し、他者を支援することリーダーシップを発揮することができる。 |
| LAJ2-4 | サービス・ラーニング実践演習 | <ul style="list-style-type: none"> 地域社会の諸課題の解決に取り組む学修を通じて、幅広い視野・柔軟な思考力・物事への理解力を身に付けるとともに、あらゆる物事への問題意識・関心を持つことができるようになる。 地域社会の諸課題への取り組みを通じて、その後の学修や自身の社会的役割について新たな視座を得ることができる。 社会活動や協働活動を通じて、自ら課題を発見・理解し、発見した課題を適切に整理・分析、解決に導くことができるようになる。 目標を明確に掲げチームで共有したうえで、率先して行動し、目標達成のために他者と協働することができるようになる。 多様なメンバーや地域の方との協働により、他者との相互理解・相互支援を実践しながら、自身の周囲の人々や物事との関係性を理解し、新たな価値を創造やよりよい社会を実現しようとする意識を持つことができる。 | III・IV | ○ | | | | | ◎ |
| LAK2-1 | ファシリテーション入門 | <ul style="list-style-type: none"> 授業運営支援としてのファシリテーションを十分に観察、または自信をもって実践できる。 チームビルディングの複数の手法を体験し、その効果の生み出し方と大切さを理解している。 実践的なコミュニケーションスキルを知り、自ら伸ばす点を整理できる。コーチング手法の初歩を学び、他者の成長支援における活用イメージを持つことができる。 ロジカルライティングの実践を通じて、わかりやすく他者に伝えるポイントを理解している。 一般的な教材における基本的な構造を知り、学びを生み出す教材について理解が十分に深まっている。 | II | ○ | | | | | ◎ |
| LAK2-2 | ファシリテーションA | <ul style="list-style-type: none"> リーダーシップ開発演習IおよびIIのLA（ラーニングアシスタント）として主体的、積極的に活動して、履修生の課題解決に十分に貢献している。 ファシリテーションとは何か、ファシリテーターの役割とは何かなどファシリテーションの基礎を十分に理解している。 基礎的なファシリテーションスキルを十分に修得している。 | II | ○ | | | | | ◎ |
| LAK2-3 | ファシリテーションB | <ul style="list-style-type: none"> リーダーシップ開発演習IおよびIIのLA（ラーニングアシスタント）として主体的、積極的に活動して、履修生の課題解決に十分に貢献している。 ファシリテーションが必要とされる理由を理解し、合意形成、相互理解のサポート及び組織や参加者の活性化を促進するための知識を十分に身に付けている。 合意形成、相互理解のサポート及び組織や参加者の活性化を促進するファシリテーションスキルを十分に修得している。 | IV | ○ | | | | | ◎ |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ I:1年生前期 II:1年生後期 III:2年生前期 IV:2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|--------------------------|---|---|--|---|---|---|--|---|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提 案力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科 に関する専 門分野の学 修を多角的 にとらえる ための幅広い 教養を身に 付けている。 | グローバル 化する実社 会を求めら れる多様な 知識や技能 の活用によ り必要な 生活科学に 関するメ ディア、デ ザイン、食 健康、情報 環境、コミュ ニケーション 等の専門的 知識・実践 的スキルを 体系的に理 解・修得し 、活用する ことができる。 | 実社会にお ける諸課題 について、 問題の本質 を見抜く洞 察力と判断 力を身につ け、自ら問 題を発見し て解決する ことができる。 | 多角的な視 点から実社 会における 諸課題を客 観的にとら え、問題を 解決するた めに自ら探 究し、生涯 にわたって 学ぶ姿勢を 身につける ことができる。 | 課題を發展 させる発想 力・表現力 を養い、他 者に的確に 提案するた めに、高い 理解力・提 案力を持つ ことができる。 | 思いやり ある誠実で 協調性に富 んだ人間性 を身につけ 、他者を 尊重しなが ら自らの考 えを冷静に 主張し、他 者を支援す ることので きるリーダー シップを発 揮すること ができる。 |
| ASLa1-1 | 衣生活と SDGs | <ul style="list-style-type: none"> 衣服の素材や製造、管理と環境との関わり、技術革新に関する基礎的な知識を理解し、総合的に説明できる。(DP-2 知識・技能) 衣服の社会的な役割について理解を深め、TPO やライフステージに応じた衣服を適切に選び、衣服の計画的な購入や廃棄方法を示すことから SDGs の視点から持続可能な衣生活を提案できる。(DP-3 課題発見・解決力) 衣生活の変化に関心を持ち、これからの衣生活のありかたを SDGs の目標やターゲットを踏まえて具体的に示すことができる。(DP-4 探究・継続力) | I | ◎ | ○ | ○ | | | |
| ASLa2-2 | 食生活と SDGs | <ul style="list-style-type: none"> 過去から現在に至る食生活の変化を理解し、現状を分析して課題を見出し、未来に向けてその解決をはかりながら自己の食生活に活用していくことができる。(DP-2 知識・技能) ライフステージの特性を知り、ステージに合った食生活を適切に計画できる。(DP-3 課題発見・解決力) 個人の食生活が SDGs を事例として地球レベルの社会・環境問題に繋がっていることを理解し説明できる。(DP-4 探究・継続力) | II | ◎ | ○ | ○ | | | |
| ASLa1-3 | 住生活と SDGs | <ul style="list-style-type: none"> 身近にある住まいについて、住宅建築と住生活に関する知識を理解し、具体的に説明できるようになる。(DP-2 知識・技能) 今後の自分と住まいとのつきあいをより良いものにしていくために必要な実践的な洞察力、判断力を身につけ、具体的な提案として説明することができる。(DP-3 課題発見・解決力) 住生活の変化に関心を持ち、持続可能な社会を実現するための具体的な住生活のあり方を示すことができる。(DP-4 探究・継続力) | I | ◎ | ○ | ○ | | | |
| ASLa1-4 | PC 活用演習 | <ul style="list-style-type: none"> Word、Excel、PowerPoint、Acrobat 等ソフトウェアの高度な機能や使用法、連携方法を理解し、実践的に活用できる。(DP-2 知識・技能) Word、Excel、PowerPoint、Acrobat 等のソフトウェアの機能の中から適切な機能を選択し、専門教育科目の課題解決に活用できる。(DP-3 課題発見・解決力) PC で作成したデータの保存および管理方法について理解を深め、適切なデータ管理や情報のアップデートを行ない、継続的に活用できる。(DP-4 探究・継続力) | I | ◎ | ○ | ○ | | | |
| ASLa1-5 | CG 基礎演習 | <ul style="list-style-type: none"> Illustrator と Photoshop を連携して使用し、実社会における諸課題の解決に活用できる。(DP-3 課題発見・解決力) Adobe Illustrator の用途・機能を知り、基礎的な図形作成、変形、合成、レイヤー操作、その他の機能が操作できる。また、Adobe Photoshop の用途・機能を知り、基礎的な画像修正、加工、色調補正などの操作ができる。(DP-2 知識・技能) デジタルデザインの基礎的な制作手法を学び、様々なデジタルグラフィックスの制作法や課題解決の方法を探求し活用できる。(DP-4 探究・継続力) | I | ◎ | ○ | ○ | | | |
| ASLa3-6 | サイエンスリサーチ演習 | <ul style="list-style-type: none"> 単位の種類や互換性、身の回りのものの性質や特徴について関心を持って、的確に説明できる。(DP-2 知識・技能) 科学的な思考を基に得られた結果を分析し、グループワークを通して課題を解決する方法を的確に議論することができる。(DP-3 課題発見・解決力) グループで広報用の動画を作成し、効果的なプレゼンテーションを探究することで、聴講者を納得させる提案を行うことができる。(DP-4 探究・継続力) (DP-5 発想力・提案力) グループワークに積極的に参加し、また自分の役割を適切に行い他者を支援することで、リーダーシップを発揮することができる。(DP-6 リーダーシップ) | III | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | |
| ASLa1-7 | キャリア実務基礎 (公務員・SPI 対応) | <ul style="list-style-type: none"> 公務員試験や SPI に関する基本的な内容や学習方法を理解して、具体的に説明することができる。(DP-2 知識・技能) 公務員試験や SPI に関する演習問題を通して卒業後の進路選択に必要な知識やスキルを身につけ、課題を解決することができる。(DP-3 課題発見・解決力) 公務員試験や SPI に必要とする知識やスキルを自ら計画を立て継続的に修得し、試験問題の傾向と対策を探求することができる。(DP-4 探究・継続力) | I | ○ | ○ | ◎ | | | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ I:1年生前期 II:1年生後期 III:2年生前期 IV:2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|-------------------------|---|---|--|---|---|---|--|--|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提 案力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科に関する専門分野の学習を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | グローバル化する実社会で求められる多様な知識や技能の活用に必要な生活科学に関するメディア、デザイン、食、健康、情報、環境、コミュニケーション等の専門的知識、実践的スキルを体系的に理解・修得し、活用することができる。 | 実社会における諸課題について、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を身に付け、自ら問題を発見し、解決することができる。 | 多角的な視点から実社会における諸課題を客観的にとらえ、問題を解決するために自ら探究し、生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけることができる。 | 課題を発展させる発想力・表現力・養い、他者に的確に提案を伝える力、高い理解力・解決力・提案力・実行力 | 思いやりのある誠実に富んだ人間性をつくり、他者を尊重し、自らを冷静に主張し、他者を支援することによってリーダーシップを発揮することができる。 |
| ASLa2-8 | キャリアデザイン演習（就職・編入サポート） | <ul style="list-style-type: none"> 将来像の実現に向けて、就職活動や編入学試験に必要な知識やスキルを身につけ、行動に示すことができる。（DP-2 知識・技能） 卒業後の進路について考え、具体的な将来像を思い描き、自分の言葉で示すことができる。（DP-3 課題発見・解決力） 関心を持つ業界について探究し、概要や仕事内容を詳しく説明できる。（DP-4 探究・継続力） 自己分析やワークを通して自己理解を深め、他者と協力し合いながら物事を進めていく共立のリーダーシップ4タイプを理解し、自分自身のタイプを把握し高めることができる。（DP-6 リーダーシップ） | II | | ○ | ○ | ○ | | ◎ |
| ASLa2-9 | リテールマーケティング演習（販売士） | <ul style="list-style-type: none"> 小売業の種類・マーチャライジング・ストアオペレーション・マーケティング・販売・経営管理についての知識・技能を理解し、具体的に説明することができる。（DP-2 知識・技能） リテールマーケティングに関する知識・技能を活用して、接客や売場づくりなどで求められる課題を発見し、自らの判断で創造的に解決することができる。（DP-3 課題発見・解決力） 専門知識の修得を継続して行うことで、将来のキャリアを探究し、実践的な場面で能力を活用することができる。（DP-4 探究・継続力） | II | | ○ | ○ | ◎ | | |
| ASLa2-10 | 医療事務入門 | <ul style="list-style-type: none"> 医療事務全体の資格や仕事内容を理解し、医療事務検定の合格および、医療事務の仕事に従事する上で必要とされる専門的知識・技能を理解し、具体的に説明することができる。（DP-2 知識・技能） 出題範囲である、患者接遇、基本診療料、医療事務知識（医療保険制度や各種法令等、診療報酬算定等）に関して、修得した知識・技能を活用して、問題を解決することができる。（DP-3 課題発見・解決力） 医療保険制度の基礎知識、患者接遇マナーや職場でのコミュニケーションスキル、医療費の算定方法等に関する知識を多角的に捉え、自ら問題に取り組み、修得した能力を継続して向上させることができる。（DP-4 探究・継続力） 医療事務検定に必要なとされる知識・技能を生かして、日常生活に役立てることができる。（DP-5 発想力・提案力） | II | | ◎ | ○ | ○ | ○ | |
| ASLa2-11 | チャレンジ・ゼミナール（就職・編入チャレンジ） | <ul style="list-style-type: none"> 就職活動・編入学等の進路選択に必要な知識・技能を十分に理解・修得できる。（DP-2 知識・技能） 高い洞察力、判断力を身につけ、必要な学習を実践的に取捨選択できる。（DP-3 課題発見・解決力） 進路に関連する在学中の学習に関心を持ち、積極的に取り組み探求する能力を身につけ、自身の活動として主体的に実践することができる。（DP-4 探究・継続力） 就職や編入学への取り組みについて、ゼミナールのメンバー間の意見を汲み取り、自分の意見を積極的に発言し、他者を支援しながら、将来の目標を明確に描き、行動することができる。（DP-6 リーダーシップ） | II | | ○ | ○ | ◎ | | ○ |
| ASLa4-12 | 卒業研究 | <ul style="list-style-type: none"> 生活科学科で培った2年間の知識・技能を応用し、自らのテーマを設定し、研究や制作において活用することができる。（DP-2 知識・技能） 研究テーマに即して、自分の考えを言葉や形で表現し、成果を論文や作品にまとめることができる。（DP-3 課題発見・解決力） 長期間一つの課題に積極的に取り組んで理解を深めることにより、基礎的な持続力や集中力を身につけることができる。（DP-4 探究・継続力） 研究成果や作品について論理的にプレゼンテーションすることができる。（DP-5 発想力・提案力） 研究室の一員として、メンバーとの意見の交換を積極的に行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。（DP-6 リーダーシップ） | III・IV | | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| ASLb1-1 | メディア社会論 | <ul style="list-style-type: none"> アナログメディア、デジタルメディア全般を理解し、情報メディアの種類と特徴、それらがどのように発展してきたか、それらが持つ役割やリスクについて説明できる。（DP-2 知識・技能） 実社会の課題解決のために適切なメディアを選択して、情報発信の手段として有効かつ安全に利用できる。（DP-3 課題発見・解決力） グループワークにおいて積極的に課題に取り組み、他者と協働しながら課題を完成しプレゼンテーションができる。（DP-6 リーダーシップ） | I | | ◎ | ○ | | | ○ |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ I:1年生前期 II:1年生後期 III:2年生前期 IV:2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|-------------|--|---|--|---|---|---|---|---|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提 案力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科に関する専門分野の学修を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | グローバル化する実社会で求められる多様な知識や技能の活用に必要な生活科学に関するメディア、デザイン、食、健康、情報、環境、コミュニケーション等の専門的知識・実践的スキルを体系的に理解・修得し、活用することができる。 | 実社会における諸課題について、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を身に付け、自ら問題を発見し、解決することができる。 | 多角的な視点から実社会における諸課題を客観的にとらえ、問題を解決するために自ら探究し、生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけることができる。 | 課題を發展させる発想力・表現力、他者に的確に伝える提案を、高い理解力・提案力で見出すことができる。 | 思いやりのある誠実で協調性に富んだ人間性をつき、他者を尊重しながら自らを冷静に主張し、他者を支援することによってリーダーシップを発揮することができる。 |
| ASLb1-2 | ポップカルチャー論 | <ul style="list-style-type: none"> ・ポップカルチャー、サブカルチャー、ハイカルチャーの違い、文化のグローバル化、ローカル化のメカニズムを理解し、日本の政治的、外交的資源としてのポップカルチャーの役割を説明できる。(DP-2 知識・技能) ・海外で人気がある日本文化製品と日本が抱える諸課題との関連について分析し、日本文化製品によってそれらの課題を解決する方法を発見することができる。(DP-3 課題発見・解決力) ・グループワークにおいて積極的に課題に取り組み、他者と協働しながら課題を完成しプレゼンテーションができる。(DP-6 リーダーシップ) | I | | ◎ | ○ | | | ○ |
| ASLb2-3 | ソーシャルメディア演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルメディアを簡単に定義し、ソーシャルメディアに分類される代表的なオンラインサービスを挙げて、それらのサービス内容を説明でき、サービス利用の際の個人情報漏洩、機密情報漏洩、犯罪、倫理等の諸問題について説明できる。(DP-2 知識・技能) ・異なるソーシャルメディアの特徴、目的、使用方法を理解し、ソーシャルメディアを活用して適切に情報収集および情報発信することができる。(DP-5 発想力・提案力) ・デジタル社会におけるリテラシーについて十分な知識を持ち、ソーシャルメディアを適切かつ安全に利用するための諸課題を発見・解決し、情報発信に活用することができる。(DP-3 課題発見・解決力) | II | | ○ | ◎ | | ○ | |
| ASLb2-4 | メディアカルチャー演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・メディアに関する様々な用語の定義および社会調査法の基本を理解し、様々なデジタルメディア機器を活用して、フィールドワーク調査を実施できる。(DP-2 知識・技能) ・フィールドワークで集めたデータ（写真、動画、フィールドノート等）を社会的および文化的視点から考察・分析して、課題を発見し、解決する能力を身に付ける。(DP-3 課題発見・解決力) ・グループワークにおいて積極的に課題に取り組み、他者と協働しながらフィールドワーク課題を完成しプレゼンテーションができる。(DP-6 リーダーシップ) | II | | ○ | ◎ | | | ○ |
| ASLb3-5 | 情報メディア演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本となる色彩システムを深く理解し、色彩理論、色彩調和を理解した上で、実践的な色彩感覚を適用することができる。(DP-2 知識・技能) ・色彩生成、配色のさまざまな課題に対応した高い能力を示す制作ができる。(DP-3 課題発見・解決力) ・造形表現における配色について具体的に評価し、高い能力を示す新たな提案ができるようになる。(DP-5 発想力・提案力) ・ユニバーサルカラーの重要性を十分に理解し、他者を支援する配色理論の実践について具体的に提案できるようになる。(DP-6 リーダーシップ) | II | | ○ | ◎ | | ○ | ○ |
| ASLb4-6 | サステイナブル社会論 | <ul style="list-style-type: none"> ・サステナビリティの概念を理解し、日本が抱える環境問題・課題を知り、それらを解決するための方策について説明できる。(DP-2 知識・技能) ・日本が目指すべき持続可能な社会の在り方を考察し、サステイナブルな社会の実現に向けて、身近な問題を見つけることができる。(DP-3 課題発見・解決力) ・日々の暮らしの中で、気候変動、生物多様性、SDGsなどの地球環境問題に関心を持ち、自分事として深く考究する態度を身につけることができる。(DP-4 探究・継続力) ・グループワークを積極的に行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。(DP-6 リーダーシップ) | IV | | ○ | ◎ | ○ | | ○ |
| ASLb1-7 | 健康メディア論 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康に関連する知識について、健康の概念やライフステージに応じた健康増進の方法について十分に理解し、説明することができる。(DP-2 知識・技能) ・マスメディアや SNS で紹介される健康情報を調査・分析し、専門的な立場から、内容を精査し、活用することができる。(DP-4 探究・継続力) ・健康な生活を送ったり、健康寿命を延ばすために、望ましいメディアを表現したり、提案することができる。(DP-5 発想力・提案力) | I | | ◎ | | ○ | ○ | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ I:1年生前期 II:1年生後期 III:2年生前期 IV:2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|--------------------|--|---|--|---|---|--|--|--|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提 案力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科 に関する専 門分野の学 修を多角的 にとらえる ための幅広 い教養を身 に付けてい る。 | グローバル 化する実社 会に求めら れる多様な 知識や技能 の活用に関 する生活科 学に関する メディア、デ ザイン、食 健康、情報 環境、コミュ ニケーション 等の専門的 知識、実践 的スキルを 体系的に理 解・修得し、 活用するこ とができる。 | 実社会にお ける諸課題 について、 問題の本質 を見抜く洞 察力と判断 力を身につ け、自ら問 題を発見し て解決する ことができる。 | 多角的な視 点から実社 会における 課題を客観 的にとらえ 解決するた めに自ら探 究し、生涯 にわたって 学ぶ姿勢を 身につける ことができる。 | 課題を發展 させる発想 力・表現力 を養い、他 者に的確に 提案を提出 し、合理的 に理解でき ることを身 につけるこ とができる。 | 思いやりあ る誠実に富 んだ人間性 を身につけ 、他者を尊 重しなが ら自ら冷静 に主張し、 他者を支 援すること でリーダー シップを発 揮すること ができる。 |
| ASLb2-8 | 健康メディア演習 | ・健康に関連する情報について、多様なメディアの事例をもとに、優れているコンテンツや問題点を発見し、自身の演習に生かすことができる。(DP-3 課題発見・解決力) ・既存のアプリや SNS を使用者の立場から分析した上で、ライフステージの異なる対象者に応じて、有益なメディア表現を具現化させることができる。(DP-5 発想力・提案力) ・演習内容をよく理解し、グループでコミュニケーションをはかりながらメンバーを支援し、リーダーシップを発揮することができる。(DP-6 リーダーシップ) | II | | | ◎ | | ○ | ○ |
| ASLb1-9 | 女性の健康と心理 | ・女性のライフサイクルやライフサイクルにおける心と身体の健康問題について理解し、その特徴を、複数の事例を挙げて説明できる。さらに、それらの問題を解決するための様々な手法を理解し、事例を挙げて説明できる。(DP-2 知識・技能) ・グループワークを通して、グループ内での役割を全うし、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。(DP-6 リーダーシップ) ・日頃から心と身体の健康維持・増進に対する詳細な取り組みが実践できる。(DP-4 探究・継続力) | I | | ◎ | | ○ | | ○ |
| ASLb3-10 | ライフステージと栄養（演習） | ・乳幼児期から高齢期までの各ライフステージの特徴を理解し、それぞれのライフステージにおいて求められる生活習慣、健康問題について、具体的に継続して示すことができる。(DP-4 探究・継続力) ・栄養素の化学的性質や代謝、消化酵素について理解を深めることができ、複数の事例を挙げて詳細に説明できる。(DP-2 知識・技能) ・栄養計算ソフトが使用できるようになり、得られた結果を用いた説明ができる。(DP-2 知識・技能) ・各ライフステージの健康問題を理解するためにグループワークを行い、自分自身の意見を他者に的確に伝え、他者を支援することにより、リーダーシップを発揮することができる。(DP-3 課題発見・解決力)(DP-6 リーダーシップ) | II | | ○ | ◎ | ○ | | ○ |
| ASLb3-11 | フィットネス & ウェルネス演習 | ・フィットネスおよびウェルネスに必要な基本的な知識や技能を身につけることができる (DP-2 知識・技能) ・毎日をよりよく健康に過ごすには、どのような健康づくりのための運動が必要か、具体的に示し的確に行うことができる (DP-3 課題発見・解決力) ・学んだ知識を生かして、健康づくりのための運動プログラムを的確に示し、他者への提案や助言を具体的に示すことができる。(DP-5 発想力・提案力) ・グループでコミュニケーションをはかりながら行動し、実習を円滑に進めることができる (DP-6 リーダーシップ) | II | | ○ | ○ | | ◎ | ○ |
| ASLb4-12 | ビューティー & ウェルネス演習 | ・美しく健康な身体や生活の維持に必要なケアに関する基本的な知識や技能を身につけることができる (DP-2 知識・技能) ・毎日をより美しく健康に過ごすには、どのようなビューティーケアが必要か、具体的に示し的確に行うことができる (DP-3 課題発見・解決力) ・グループワークを積極的に行い、自らの考えを示し、他者を支援することで成果を高めることができる。(DP-6 リーダーシップ) | IV | | ○ | ◎ | | | ○ |
| ASLb1-13 | メディアデザイン論 | ・造形学的な観点からメディアの歴史について解釈し、メディア文化を客観的に説明することができる。(DP-2 知識・技能) ・造形原理を理解しながら、「造形」「デザイン」「空間」「環境」をキーワードとしてメディアデザインについて詳しく述べるができる。(DP-4 探究・継続力) ・メディアのリテラシーを身につけ、造形、デザインの今後のあるべき姿について説明することができる。(DP-5 発想力・提案力) | I | | ○ | | ○ | ◎ | |
| ASLb2-14 | CG 演習 A (イラストレーター) | ・ Adobe Illustrator による基礎技能を習得し、ビジュアル表現に適用できる。(DP-2 知識・技能) ・デザインワークフローを踏まえた実践的なデジタルデザイン手法を理解し、作品制作ができる。(DP-4 探究・継続力) ・手順を組み立てて工夫しながら、イメージ通りのビジュアルを自由に作成できる。(DP-3 課題発見・解決力) | II (前半) | | ○ | ○ | ◎ | | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ Ⅰ：1年生前期 Ⅱ：1年生後期 Ⅲ：2年生前期 Ⅳ：2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|----------------|--|---|--|---|---|---|---|---|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提案 力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科 に関する専 門分野の学 修を多角的 にとらえる ための幅広 い教養を身 に付けてい る。 | グローバル 化する実社 会での求め られる多様 な知識や技 能を必要と する生活科 学に関する メディア、デ ザイン、食 健康、情報 環境、コミュ ニケーション 等の専門的 知識・実践 的スキルを 体系的に理 解・修得し 、活用する ことができる。 | 実社会にお ける諸課題 について、 問題の本質 を見抜く洞 察力と判断 力を身につ け、自ら問 題を発見し て解決する 能力を身に つけること ができる。 | 多角的な視 点から実社 会における 諸課題を客 観的にとら え、問題を 解決するた めに自ら探 究し、生涯 にわたって 学ぶ姿勢を 身につける ことができる。 | 課題を發展 させる発想 力・表現力 を養い、他 者に的確に 伝え、他者 の提案を軟 かに理解し 、高い解決 力を見出す ことができる。 | 思いやりの ある誠実で 協調性に富 んだ人間性 を身につけ 、他者を重 んじながら 自ら冷静に 主張し、他 者を支援す ることによ りリーダー シップを発 揮すること ができる。 |
| ASLb2-15 | CG演習B（フォトショップ） | ・ Adobe Photoshop による基礎技能を習得し、ビジュアル表現が自由に適用できる。(DP-2 知識・技能) ・ 画像データを元に、画像レタッチ等のコマンド機能を自由に操作し、画像設計をイメージ通りに補正できる。(DP-4 探究・継続力) ・ デザインワークフローを踏まえた実践的なデジタルデザイン手法を工夫し、作品制作ができる。(DP-3 課題発見・解決力) | Ⅱ（後半） | | ○ | ○ | ◎ | | |
| ASLb2-16 | 動画制作演習Ⅰ | ・ 動画撮影のスキルやカメラの操作、編集作業のプロセスについて詳しく説明できるようになる。(DP-2 知識・技能) ・ 映像編集アプリケーションを習得し、さまざまな動画の制作手法を実践できるようになる。(DP-4 探究・継続力) ・ 映像の概念、企画、撮影方法などを理解し、実践的な作品制作ができるようになる。(DP-5 発想力・提案力) | Ⅱ | | ○ | | ○ | ◎ | |
| ASLb3-17 | 動画制作演習Ⅱ | ・ iMovie や Adobe Premiere Pro の操作を解釈し、ワークフローを踏まえた高度なノンリニア映像編集ができる。(DP-2 知識・技能) ・ ストーリー構築・撮影・編集を組みを工夫しながら、イメージ通りの映像を自由に制作できる。(DP-4 探究・継続力) ・ コンテンツの魅力が伝わる訴求効果の高い映像作品が制作できる。(DP-3 課題発見・解決力) | Ⅲ | | ○ | | ○ | ◎ | |
| ASLb3-18 | DTP演習 | ・ Adobe Photoshop、Illustrator の操作を解釈し、デザインワークフローを踏まえた高度なデジタルデザイン制作ができる。(DP-2 知識・技能) ・ 手順を組み立てて工夫しながら、イメージ通りのビジュアルを自由に作成できる。(DP-4 探究・継続力) ・ 実践的な DTP 作品制作ができる。(DP-3 課題発見・解決力) | Ⅲ | | ○ | ○ | ◎ | | |
| ASLb4-19 | アニメーション制作演習 | ・ デジタルイメージ、デジタルカラーについて詳しく説明できるようになる。(DP-2 知識・技能) ・ Adobe Animate によるモーショングラフィックス（動画）を習得し、さまざまな動画の制作手法を実践できるようになる。(DP-4 探究・継続力) ・ 人の知覚の仕組みを解釈し、より効果的な動画表現ができるようになる。(DP-5 発想力・提案力) | Ⅳ | | ○ | | ○ | ◎ | |
| ASLb3-20 | Webデザイン演習Ⅰ | ・ テキストエディタによる Web サイトコンテンツ構築への展開について詳しく説明できる。(DP-2 知識・技能) ・ CG 演習 A・B を踏まえた、Adobe Photoshop・Illustrator による素材制作の操作ができる。(DP-4 探究・継続力) ・ デザイン性の高い Web サイトを制作できる。(DP-3 課題発見・解決力) | Ⅲ | | ○ | ○ | ◎ | | |
| ASLb4-21 | Webデザイン演習Ⅱ | ・ ターゲットに合わせた適切な Web サイトコンテンツを制作できる。(DP-2 知識・技能) ・ サイトの目的と内容について理解した上で、ユニバーサルデザイン（ユーザビリティ、アクセシビリティ）に配慮したレイアウトを考え、高度なサイトデザインを制作できる。(DP-4 探究・継続力) ・ 情報デザインの観点から、よりわかりやすく、使いやすいウェブサイト制作する高度な技術を実践できる。(DP-3 課題発見・解決力) | Ⅳ | | ○ | ○ | ◎ | | |
| ASLb1-22 | ITパスポート論 | ・ IT パスポート試験および IT 社会で働くうえで必要とされる「IT に関する基礎知識」の概要について総括的に説明することができる。(DP-2 知識・技能) ・ 出題分野であるストラテジ系（一般業務に関する分野）、マネジメント系（システム管理に関する分野）、テクノロジー系（情報技術に関する分野）の知識や用語を論理的に理解し、問題を解決することができる。(DP-3 課題発見・解決力) ・ コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、情報セキュリティ、情報デザイン、情報メディアに関する知識を継続的に修得し、オフィスツールを適切に活用することができる。(DP-4 探究・継続力) | Ⅰ | | ◎ | ○ | ○ | | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ I：1年生前期 II：1年生後期 III：2年生前期 IV：2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|----------------------|--|---|--|---|---|---|--|---|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提案 力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科に関する専門分野の学習を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | グローバル化する実社会で求められる多様な知識や技能の活用に必要な生活科学に関するメディア、デザイン、食、健康、情報、環境、コミュニケーション等の専門的知識・実践的スキルを体系的に理解・活用することができる。 | 実社会における諸課題について、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を身に付け、自ら課題を発見して解決することができる。 | 多角的な視点から実社会における諸課題を客観的にとらえ、問題を解決するために自ら探究し、生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけることができる。 | 課題を発展させる発想力・表現力を養い、他者に的確に伝える提案を、高い理解力・解決力で見出すことができる。 | 思いやりのある誠実に富んだ人間性をつくり、他者を尊重し、自らを冷静に主として支えること、リーダーシップを発揮することができる。 |
| ASLb2-23 | ITパスポート演習 | <ul style="list-style-type: none"> ITパスポート試験およびIT社会で働くうえで必要とされる「ITに関する基礎知識」の基本的な内容について具体的に説明することができる。(DP-2 知識・技能) 出題分野であるストラテジ系（経営全般）、マネジメント系（IT管理）、テクノロジ系（IT技術）の演習問題を通してITに関する総合的な学力を身に付け、課題を解決することができる。(DP-3 課題発見・解決力) ITパスポート試験合格に必要な学習について、自ら計画を立て継続的にを行い、試験に合格することができる。(DP-4 探究・継続力) コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、情報セキュリティ、情報デザイン、情報メディアに関する知識を総合的に応用し、オフィスツールを活用し解決策を積極的に提案することができる。(DP-5 発想力・提案力) | II | | ○ | ○ | ◎ | ○ | |
| ASLb3-24 | ITパスポート活用演習（ワークショップ） | <ul style="list-style-type: none"> ITパスポート試験およびIT社会で働くうえで必要とされる「ITに関する基礎知識」の詳細について具体的に説明することができる。(DP-2 知識・技能) 業務課題に関するデータを簡単な解析手法と情報技術を利用して的確に分析し、問題点の把握を行うことができる。(DP-3 課題発見・解決力) ITパスポート試験合格に必要な学習について、自ら計画を立て継続的にを行い、試験に合格することができる。(DP-4 探究・継続力) ワークショップ課題に対して自分なりの解決案を提示したり他者に意見を聞いて検討することで、問題分析や問題解決を積極的に図ることができる (DP-5 発想力・提案力) (DP-6 リーダーシップ) | III | | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ |
| ASLb2-25 | データ解析演習 | <ul style="list-style-type: none"> 統計ソフトウェア（SPSS）を用いたデータの入力および目的に沿った適切な分析を行うことができる。(DP-2 知識・技能) 研究調査を行う際の倫理的な配慮の必要性について知り、調査目的に沿った適切な調査を実施し、得られた結果から課題を発見し、解決する能力を身に付ける。(DP-3 課題発見・解決力) 実証的な研究の進め方について理解し、定量的な調査法で得られたデータ分析をとおして、実社会の諸課題をとらえることができる。(DP-4 探究・継続力) | II | | ○ | ○ | ◎ | | |
| ASLb3-26 | マーケティングリサーチ演習 | <ul style="list-style-type: none"> マーケティングリサーチを実施することにより、実社会の諸課題を探求し、継続的に課題解決をする姿勢を身に付ける。(DP-4 探究・継続力) マーケティングリサーチの役割、プロセス、マーケティングとは何かを理解し、調査を通してデータの収集・整理や解析方法、報告書作成に関するスキルやノウハウを身につける。(DP-2 知識・技能) グループワークにおいて積極的に課題に取り組み、他者と協働しながらマーケティングリサーチ課題を完成し、報告書を作成できる。(DP-6 リーダーシップ) | II | | ○ | | ◎ | | ○ |
| ASLb4-27 | フードマーケティング演習 | <ul style="list-style-type: none"> 食品流通が食品の安全性や環境に与える影響について説明することができる。(DP-2 知識・技能) 食品流通を分析するために必要なミクロ経済学および商学の基礎概念について説明できる (DP-3 課題発見・解決力) グループワークを積極的にを行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。(DP-6 リーダーシップ) 現在問題となっている食品流通に関する問題について主体的に取り組み、課題を解決する手法を提案できる。(DP-5 発想力・提案力) | IV | | ○ | ○ | ◎ | | ○ |
| ASLc1-1 | フードデザイン論 | <ul style="list-style-type: none"> 調理することの意義および心身が健康で豊かになるためのフードデザインについて総合的に説明できる。(DP-2 知識・技能) 食品が調理過程を経て、食事になるまでの工程や、商品が流通過程で起こる現象について、フードデザインの観点から、問題点や改善点を発見して、十分な考察ができる。(DP-3 課題発見・解決力) 調理の科学的な・食品との関連性を主体的に調べ、仮説を出して授業に臨み、自分なりの捉え方ができる。(DP-4 探究・継続力) | I | | ◎ | ○ | ○ | | |
| ASLc1-2 | フードデザイン実習 I（調理） | <ul style="list-style-type: none"> 調理特性を正しく理解し、実習で十分に実践できる。(DP-2 知識・技能) 日本料理、西洋料理、中国料理の調理操作をふまえて、探求的なレポートを作成することができる。(DP-4 探究・継続力) 実習内容をよく理解し、正しい結果が得られるように、グループでコミュニケーションをはかりながら行動し、実習を円滑に進めることができる (DP-6 リーダーシップ) | I | | ○ | | ◎ | | ○ |

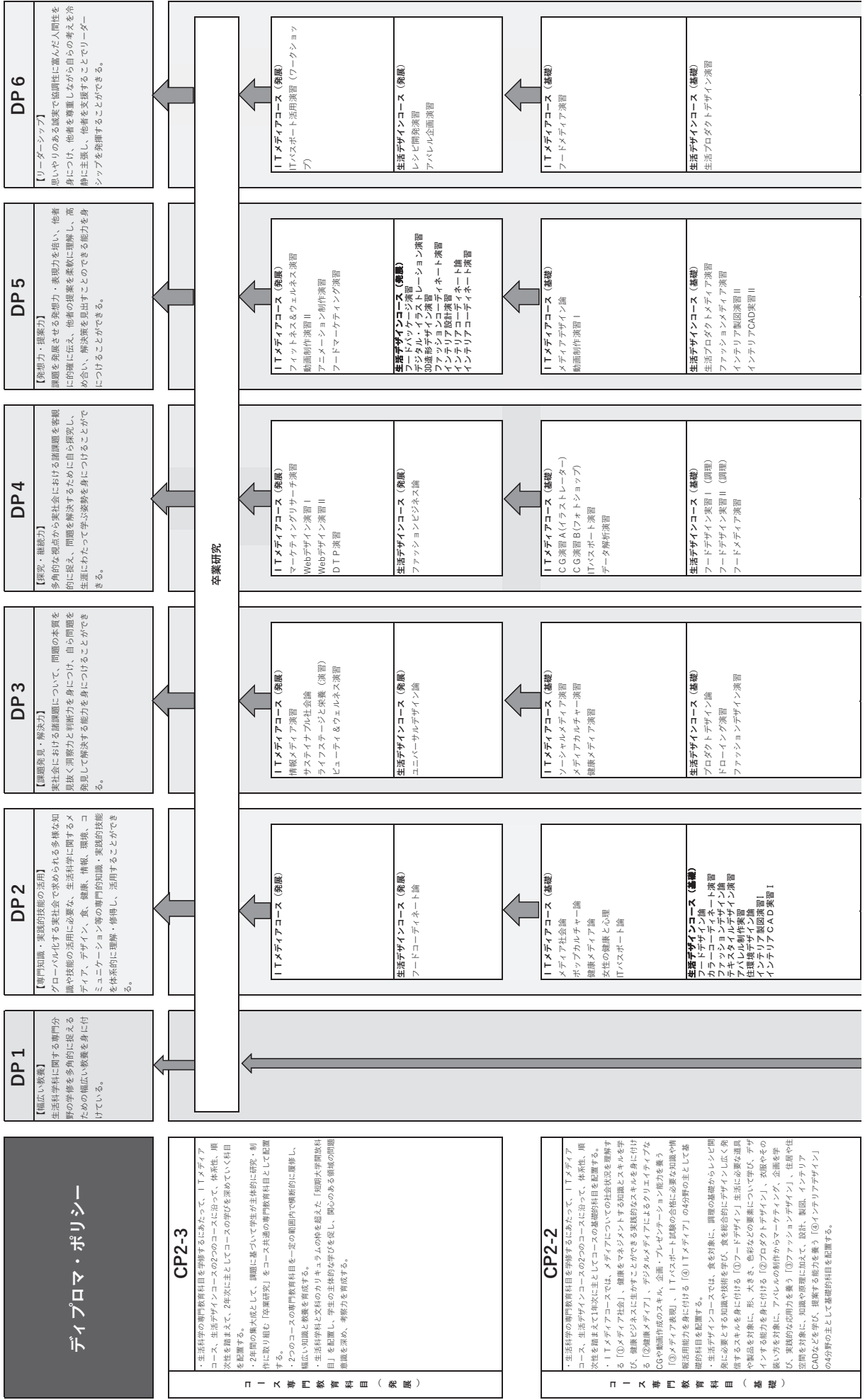
| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ I:1年生前期 II:1年生後期 III:2年生前期 IV:2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|--------------------|--|---|--|--|---|---|---|---|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提案 力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科 に関する専 門分野の学 修を多角的 にとらえる ための幅広 い教養を身 に付けてい る。 | グローバ ル化する実 社会で求め られる多様 な知識や技 能の活用を 必要生活科 学に関する メディア、デ ザイン、食 健康、情報 環境、コミュ ニケーション 等の専門的 知識・実践 的スキルを 体系的に理 解・修得し 、活用する ことができる。 | 実社会にお ける諸課題 について、 問題の本質 を見抜く洞 察力と判断 力を身につ け、自ら問 題を発見し て解決する ことができる。 | 多角的な視 点から実社 会における 諸課題を客 観的にとら え、問題を 解決するた めに自ら探 究し、生涯 にわたって 学ぶ姿勢を 身につける ことができる。 | 課題を發展 させる発想 力・表現力 を養い、他 者に的確に 提案をでき るよう、理 解・修得し 、高い解決 力・提案力 を身につけ ることができる。 | 思いやりの ある誠実に 富んだ人間 性を持つこ と、他者を 尊重しなが ら自らの考 えを冷静に 主張し、他 者を支援す ること、レ ーダーシッ プを発揮す ることができる。 |
| ASLc2-3 | フードデザイン実 習Ⅱ（調理） | <ul style="list-style-type: none"> 調理に必要な詳細な調理理論について十分に理解、説明ができる。(DP-2 知識・技能) 日本料理、西洋料理、中国料理の調理操作をふまえて、フードデザインの視点から、探求的なレポートを作成することができる。(DP-4 探究・継続力) 調理特性が説明でき、グループワークを通じて、発想力・表現力を発揮し、コミュニケーションを円滑に行いながら実習に取り組むことができる。(DP-5 発想力・提案力) 実習内容をよく理解し、正しい結果が得られるように、グループでコミュニケーションをはかりながら行動し、実習を円滑に進めることができる。(DP-6 リーダーシップ) | Ⅱ | | ○ | | ◎ | ○ | ○ |
| ASLc2-4 | フードメディア演 習 | <ul style="list-style-type: none"> 写真、映像撮影に使用する機材の種類、用途、特性、撮影方法等を理解し十分に説明できる。(DP-2 知識・技能) 被写体や撮影環境に合わせて最適な撮影機材、撮影方法を選択して撮影し、撮影した写真や映像を必要に応じて適切に加工、修正、編集することができる。さらに、写真や映像を使って、ポスター、ブログ記事、動画等のコンテンツ作成ができる。(DP-4 探究・継続力) 作成したコンテンツを適切なソーシャルメディアでの情報共有に活用する。(DP-5 発想力・提案力) グループワークを積極的にを行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。(DP-6 リーダーシップ) | Ⅱ | | ○ | | ◎ | ○ | ◎ |
| ASLc3-5 | フードコーデ ィネート論 | <ul style="list-style-type: none"> 食品のコーディネートに関する総合的な知識を身につけ、十分に説明することができる。(DP-2 知識・技能) 心豊かな食空間を創造する上で、どのようなフードコーディネートが必要か、具体的な提案を的確に行うことができる。(DP-3 課題発見・解決力) 学んだ知識を生かして、フードコーディネートを実践し、食生活をマネジメントするための探究ができる。(DP-4 探究・継続力) | Ⅱ | | ◎ | ○ | ○ | | |
| ASLc3-6 | レシピ開発演 習 | <ul style="list-style-type: none"> 社会状況や自然環境、健康問題などを十分に考慮しながら、テーマに沿ったレシピを開発することができる。(DP-4 探究・継続力) 授業で学んだ知識や豊かな発想に基づき、アイデアを共有しながらレシピを開発することができる。(DP-5 発想力・提案力) レシピに則った調理操作を十分行うことができる。(DP-2 知識・技能) 開発したレシピを魅力的に伝えることができる。(DP-2 知識・技能) 演習内容をよく理解し、グループでコミュニケーションをはかりながら行動し、演習を円滑に進めることができる。(DP-6 リーダーシップ) | Ⅱ | | ○ | | ○ | ○ | ◎ |
| ASLc4-7 | フードパッケー ジ演習 | <ul style="list-style-type: none"> 食品表示のルールについて、複数の事例を挙げて説明できる。(DP-2 知識・技能) 市販されている様々な食品について特徴を理解し、消費者が求めるパッケージなどについて事例を挙げて説明できる。(DP-2 知識・技能) 新たな食品を開発し、それに適したパッケージなどを制作した上で、食品の魅力プレゼンテーションできる。(DP-5 発想力・提案力) 消費者が求める食品について理解し、複数の事例を挙げて説明できる。(DP-3 課題発見・解決力) | Ⅳ | | ○ | ○ | | ◎ | |
| ASLc2-8 | プロダクトデザ ィン論 | <ul style="list-style-type: none"> 生活者の立場からデザインを捉え、デザインが生活に与える影響や責任、文化的・社会的意義が的確に説明できる。(DP-2 知識・技能) ソリューション・デザイン、ソーシャル・デザイン、サステナブル、ダイバーシティ等、プロダクトデザインの分野で使用される用語を正しく理解し、デザイン思考の方法論について客観的に捉え、問題を解決するために自ら充分に探究することができる。(DP-4 探究・継続力) 感性工学的・人間工学的なデザインの基本に基づき、プロダクトの機能や役割を様々な視点から検討・判断することができる。(DP-3 課題発見・解決力) | Ⅱ | | ○ | ◎ | ○ | | |
| ASLc1-9 | ドローイング演 習 | <ul style="list-style-type: none"> ドローイングの基本を学び、造形に対する深い知識を習得し、的確に説明できる。(DP-2 知識・技能) 制作を通じて表現の楽しさや感性を磨き、日頃から継続的に造形作品に親しみ、鑑賞できる態度を養うことができる。(DP-4 探究・継続力) 基礎演習を積み重ね、テクニクを学ぶことで、もの創りに必要なドローイングテクニクを充分に習得し、それらを効果的に編集することで、自らの表現活動に活かせる課題発見力・描写力・洞察力を身につけることができる。(DP-3 課題発見・解決力) | Ⅰ | | ○ | ◎ | ○ | | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ I:1年生前期 II:1年生後期 III:2年生前期 IV:2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|------------------|---|---|--|---|---|---|---|--|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提案 力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科に関する専門分野の学習を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | グローバル化する実社会で求められる多様な知識や技能の活用に必要な生活科学に関するメディア、デザイン、食、健康、情報、環境、コミュニケーション等の専門的知識、実践的スキルを体系的に理解・活用することができる。 | 実社会における諸課題について、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を身につけ、自ら問題を発見し、解決することができる。 | 多角的な視点から実社会における諸課題を客観的にとらえ、問題を解決するために自ら探究し、生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけることができる。 | 課題を発展させる発想力・表現力を養い、他者に的確に提案を求め、高い理解力・解決力を見出すことができる。 | 思いやりのある誠実に富んだ人間性をつくり、他者を尊重し、自らを冷静に主観を支持してリーダーシップを発揮することができる。 |
| ASLc1-10 | 生活プロダクトデザイン演習 | <ul style="list-style-type: none"> 生活デザインやプロダクトデザインの価値・役割について十分に理解し、具体的に説明できる。(DP-2 知識・理解) フィールドワークやインタビュー等の調査において、課題を発見し、的確に分析し、結果を記述・発表することができる。(DP-3 課題発見・解決力) グループワークを通じて、意見を自分の言葉で的確に伝え、メンバーの意見を汲み取り、協働して成果を十分に発揮することができる。(DP-6 リーダーシップ) | I | | ○ | ○ | | | ◎ |
| ASLc2-11 | 生活プロダクトメディア演習 | <ul style="list-style-type: none"> プロダクトデザインに関連する知識について、メディアの関わりをふまえて理解し、説明することができる。(DP-2 知識・技能) 演習課題に取り組み、優れた想像力、造形力、表現力を磨き、独創的な創造的スキルと具現化能力を修得した上で、作品を完成させて、的確に発表することができる。(DP-5 発想力・提案力) グループワークを通じて、意見を自分の言葉で的確に伝え、メンバーの意見を汲み取り、協働して成果を十分に発揮することができる。(DP-6 リーダーシップ) | II | | ○ | | | ◎ | ○ |
| ASLc2-12 | カラーコーディネート演習 | <ul style="list-style-type: none"> 色彩学の知識（色彩工学・色彩心理・応用色彩学）、および、美しく調和のとれた配色デザインとは何か、ユニバーサルデザインについて十分に理解した上で、得られた知識を学修課題に活用・応用できる。(DP-2 知識・技能) 演習課題を通じて課題を発見し、優れた色彩の選択ができることに加え、色彩の理論をふまえた表現ができる。(DP-3 課題発見・解決力) 優れた作品例を鑑賞し、豊かな色彩表現につなげたり、身の回りの色彩環境を創造的に構築することができる。(DP-5 発想力・提案力) | II | | ◎ | ○ | | ○ | |
| ASLc3-13 | デジタル・イラストレーション演習 | <ul style="list-style-type: none"> イラストレーションの基本を学び、造形に対する知識を習得した上で、様々なテクニックを学び、イラストレーションに必要な的確な描写力と豊かな表現力を習得できる。(DP-2 知識・技能) デジタルツールの技法を修得し、情報時代に即したイラストレーションの表現を行うことができる。(DP-2 知識・技能) イラスト制作を通して表現に対する感性を養い、イラストレーションの目的である「テーマを伝えること」を理解することができる。(DP-3 課題発見・解決力) 描く過程での試行錯誤を通じて、イラストレーションで明確なメッセージを伝えることができる。(DP-5 発想力・提案力) | III | | ○ | ○ | | ◎ | |
| ASLc4-14 | ユニバーサルデザイン論 | <ul style="list-style-type: none"> 生活科学におけるユニバーサルデザインの必要性と意義について詳しく説明できる。(DP-2 知識・技能) ユニバーサルデザイン7原則にもとづき、造形美と機能美の観点から多様性にもとづいた造形について観察し、課題を発見し解決案を提示することができる。(DP-3 課題発見・解決力) ユニバーサルデザインにおける「認知性」、「操作性」、「ユーザビリティ」、「可読性」(レゾビリティ)の優れた活用能力を示すことができる。(DP-5 発想力・提案力) | IV | | ○ | ◎ | | ○ | |
| ASLc4-15 | 3D造形デザイン演習 | <ul style="list-style-type: none"> 3DCADソフトや3Dプリンタの基本的な操作方法を理解し、正確に3Dモデルを構築したり出力したりすることができる。(DP-2 知識・技能) 自分1人の力でプロダクト製品等を立体的にデザインし、3DCADソフトで正しく作図し3Dプリンタで出力することができる。(DP-5 発想力・提案力) 社会や生活内に潜む問題を発見し、解決するためのプロダクト提案を3Dプリンタを有効に用い行うことができる。(DP-3 課題発見・解決力) (DP-5 発想力・提案力) | IV | | ○ | ○ | | ◎ | |
| ASLc2-16 | ファッションデザイン論 | <ul style="list-style-type: none"> 近現代のファッション史、ファッションデザインの流れ、ディテール、色彩、トレンド、現代のファッションの問題点について、具体的かつ、詳しく説明できる。(DP-2 知識・技能) ファッションデザインの変遷に基づき、現在のファッションデザインの問題点を指摘し、消費・生産・流通等の諸課題について具体的に提言することができる。(DP-3 課題発見・解決力) 設定されたテーマに加え、自らで考案したアイデアをもとに、ファッションデザインの企画やプレゼンテーションを通じて、授業で理解した内容を的確に表現できる。(DP-5 発想力・提案力) | II | | ◎ | ○ | | ○ | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ I:1年生前期 II:1年生後期 III:2年生前期 IV:2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|-----------------|--|---|--|---|---|---|---|--|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提 案力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科 に関する専 門分野の学 修を多角的 にとらえる ための幅広い 教養を身に 付けている。 | グローバル 化する実社 会を求めら れる多様な 知識や技能 の活用によ り必要な 生活科学に 関するメ ディア、デ ザイン、食 健康、情報 環境、コミュ ニケーション 等の専門的 知識・実践 的スキルを 体系的に理 解・修得し、 活用するこ とができる。 | 実社会にお ける諸課題 について、 問題の本質 を見抜く洞 察力と判断 力を身につ け、自ら問 題を発見し て解決する 能力を身に つけること ができる。 | 多角的な視 点から実社 会における 諸課題を客 観的にとら え、問題を 解決するた めに自ら探 究し、生涯 にわたって 学ぶ姿勢を 身につける ことができる。 | 課題を發展 させる発想 力・表現力 を養い、他 者に的確に 提案を求め るに、高い 理解力、高 い解決力、 高い提案力 を身につけ ることができる。 | 思いやり ある誠実 に富んだ 人間性 を身につ け、他者 を尊重し ながら自 ら冷静に 主張し、 他者を支 援すること でリーダー シップを 発揮する こと ができる。 |
| ASLc1-17 | テキスタイルデザイン演習 | ・繊維や布の特徴に応じた染色方法を理解し、優れた作品を完成することができる。(DP-2 知識・技能) ・伝統的な文様をはじめとするテキスタイルデザインについて探究し、具体的に説明できる。(DP-4 探究・継続力) ・文様や染色技法を効果的にデザインに取り入れて、表現することができる。(DP-5 発想力・提案力) | I | | ◎ | | ○ | ○ | |
| ASLc1-18 | ファッションデザイン演習 | ・ファッションデザインに必要な基本的な知識や技能を身につけることができる。(DP-2 知識・技能) ・衣服の審美性や機能性、社会や環境に配慮した衣服の着装を理解し、他者への提案や適切な助言を具体的に示すことができる。(DP-3 課題発見・解決力) ・グループワークを積極的に行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。(DP-6 リーダーシップ) | I | | ○ | ◎ | | | ○ |
| ASLc2-19 | ファッションメディア演習 | ・ファッション系メディアの特徴や役割を理解し、その活用方法を具体的に説明することができる。(DP-2 知識・技能) ・作成したファッションデザイン画を必要に応じて適切に加工、修正、編集することができる。さらに、作成した作品を使用してカタログや Web マガジン、メタバース等のコンテンツ作成ができる。(DP-5 発想力・提案力) ・グループワークを積極的に行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。(DP-6 リーダーシップ) | II | | ○ | | | ◎ | ○ |
| ASLc2-20 | アパレル制作実習 | ・衣服や帽子の制作方法を理解し、優れた作品を完成することができる。(DP-2 知識・技能) ・衣服や帽子の製作技術やデザインを探究し、優れたデザイン力を身につけることができる。(DP-4 探究・継続力) ・TPO やライフステージに応じたファッションを適切に選び、コーディネート提案することができるようになる。(DP-5 発想力・提案力) | II | | ◎ | | ○ | ○ | |
| ASLc3-21 | ファッションビジネス論 | ・アパレル・ファッション業界の構造や基本的な知識を修得し、アパレル業界の現状を具体的に説明できる。(DP-2 知識・技能) ・アパレル・ファッション分野特有の構造や機能について探究し、資格取得に向けて、継続的に学ぶことができる。(DP-4 探究・継続力) ・アパレル・ファッション業界に関心を持って業界特有の生産・流通・消費構造が持つ諸課題を的確に理解し、解決方法を具体的に示すことができる。(DP-3 課題発見・解決力) | II | | ○ | ○ | ◎ | | |
| ASLc3-22 | ファッションコーディネート演習 | ・ファッションコーディネートに必要な基礎的な知識や技能を身につけることができる。(DP-2 知識・技能) ・実生活の中でファッションに興味を持って観察し、コーディネートを継続的に学び、活かすことができる。(DP-4 探究・継続力) ・ファッションの変化や消費者ニーズを的確に理解し、必要に応じたコーディネートを具体的に提案することができる。(DP-5 発想力・提案力) ・グループワークを積極的に行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。(DP-6 リーダーシップ) | II | | ○ | | ○ | ◎ | ○ |
| ASLc4-23 | アパレル企画演習 | ・アパレルにおける企画の役割を理解し、具体的に提案できる。(DP-3 課題発見・解決力) ・アパレル業界の動向や消費者動向を的確に理解し、消費者ニーズの変化や課題を具体的に説明できる。(DP-3 課題発見・解決力) ・アパレル・ファッション業界に関心を持ってプロモーションに関する具体的な企画を提案し、積極的に取り組むことができる。(DP-5 発想力・提案力) ・グループワークを積極的に行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。(DP-6 リーダーシップ) | IV | | | ○ | | ○ | ◎ |
| ASLc2-24 | 住環境デザイン論 | ・熱、光、空気、音及び水等の物理的環境要因やバリアフリー等の福祉的環境要因を理解し、実践的に説明できる。(DP-2 知識・技能) ・快適な住環境を実現するために、室内環境の視点からどのようなことに配慮しなければならないかを理解・探究し、客観的な視点から説明できる。(DP-4 探究・継続力) ・快適で健康的な住生活ができる環境及び福祉配慮型住宅を実現する技能を実践的な学習によって身につけ、説得力のある提案ができる。(DP-5 発想力・提案力) | II | | ◎ | | ○ | ○ | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | 学びのステージ I:1年生前期 II:1年生後期 III:2年生前期 IV:2年生後期 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|----------|----------------|--|---|--|--|--|---|---|--|
| | | | | 幅広い教養 | 専門的知識・実践的 技能の活用 | 課題発見・ 解決力 | 探究・継続 力 | 発想力・提 案力 | リーダー シップ |
| | | | | 生活科学科に関する専門分野の学習を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | グローバル化する実社会で求められる多様な知識や技能の活用に必要な生活科学に関するメディア、デザイン、食、健康、情報、環境、コミュニケーション等の専門的知識を体系的に理解・活用することができる。 | 実社会における諸課題について、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を身に付け、自ら問題を発見し、自ら問題を解決することができる。 | 多角的な視点から実社会における諸課題を客観的にとらえ、問題を解決するために自ら探究し、生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけることができる。 | 課題を発展させる発想力・表現力を養い、他者に的確に提案を高め、高い理解力・解決力を見出すことができる。 | 思いやりのある誠実で協調性に富んだ人間性を持ち、他者を尊重し、自らを冷静に主観を支持し、他者を支援することによってリーダーシップを発揮することができる。 |
| ASLc1-25 | インテリア製図演習 I | <ul style="list-style-type: none"> 将来、製図の仕事の分野で信頼される人になるために必要な製図上の基本的な知識を理解し、説明できる。(DP-2 知識・技能) 本格的な製図板、製図用具の正しい使い方、正しい製図法を、実践的な学習によって身につけ、製図を行うことができる。(DP-2 知識・技能) 情報を伝える手段としての設計図の表現方法を提案し、正確に美しく作図することができる。(DP-5 発想力・提案力) 正しい製図方法を仲間へアドバイスし、積極的に手助けすることができる (DP-6 リーダーシップ) | I | | ◎ | | | ○ | ○ |
| ASLc2-26 | インテリア製図演習 II | <ul style="list-style-type: none"> 図面表現の基礎を的確に理解し、具体的に説明できる。(DP-2 知識・技能) 3次元で空間や実体をイメージする能力を、実践的な学習によって身につけ、製図として適切に表現することができる。(DP-5 発想力・提案力) 仲間と積極的に討論し、知識や技能を協力的に高めあうことができる (DP-6 リーダーシップ) | II | | ○ | | | ◎ | ○ |
| ASLc1-27 | インテリアCAD実習 I | <ul style="list-style-type: none"> 立体や空間を2次元として表現する図面のルールを正確に理解し、具体的に説明できる。(DP-2 知識・技能) CADソフトの基本的な操作方法を十分に理解し、各種設定も自ら行うことができる。モノの寸法やスケール感を身につけ、正確な図形・図面を自由に描くことができる。(DP-3 課題発見・解決力) 2次元空間を正確に構築し、図面としての体裁やレイアウト方法を提案し、印刷・表現することができる。(DP-5 発想力・提案力) | I | | ◎ | ○ | | ○ | |
| ASLc2-28 | インテリアCAD実習 II | <ul style="list-style-type: none"> CAD 図面と3次元の空間や実体との関係を理解し、具体的に説明できる。(DP-2 知識・技能) CADソフトの応用的な操作方法を十分に理解し、不明な作図方法について自己解決することで、正確な図形・図面を自ら描くことができる。(DP-3 課題発見・解決力) 3次元空間を正確に構築し、図面としての体裁やレイアウト方法を提案し、印刷・表現することができる。(DP-5 発想力・提案力) | II | | ○ | ○ | | ◎ | |
| ASLc3-29 | インテリア設計演習 | <ul style="list-style-type: none"> インテリア設計の意義を理解し、表現に値する内容を具体的に提案し、発表することができる。(DP-2 知識・技能) 空間を立体的に把握する能力を養い、様々な観点からインテリア空間を構成し快適な環境を設計することができる。(DP-3 課題発見・解決力) インテリア設計の表現方法を、実践的な学習によって身につけ、説得力のある作品として表現することができる。(DP-5 発想力・提案力) アイデアや表現方法について仲間と積極的に話し合い、意見交換を行うことができる (DP-6 リーダーシップ) | III | | ○ | ○ | | ◎ | ○ |
| ASLc3-30 | インテリアコーディネート論 | <ul style="list-style-type: none"> インテリアを構成する諸要素について理解し、具体的に説明できる。(DP-2 知識・技能) 実生活の中でインテリアデザインを注意深く観察し、より快適な提案を具体的にを行うことができる。(DP-4 探究・継続力) 諸要素を組み合わせて成立するインテリアコーディネートの基本を、実践的な学習によって身につけ、説得力のある提案ができる。(DP-5 発想力・提案力) | III | | ○ | | ○ | ◎ | |
| ASLc4-31 | インテリアコーディネート演習 | <ul style="list-style-type: none"> インテリアコーディネーションの表現手段を正しく理解し、美しく表現することができる。(DP-2 知識・技能) (DP-5 発想力・提案力) 空間エレメントのスケールを正しく適切に描画することができる。(DP-2 知識・技能) 現代社会のインテリア空間に必要な家具をデザインし、適切にプレゼンテーションすることができる。(DP-3 課題発見・解決力) (DP-5 発想力・提案力) インテリアコーディネーター資格取得に必要な知識と技術を自ら探求し学習できている。(DP-4 探究・継続力) | IV | | ○ | ○ | ○ | ◎ | |

10. カリキュラム・ツリー



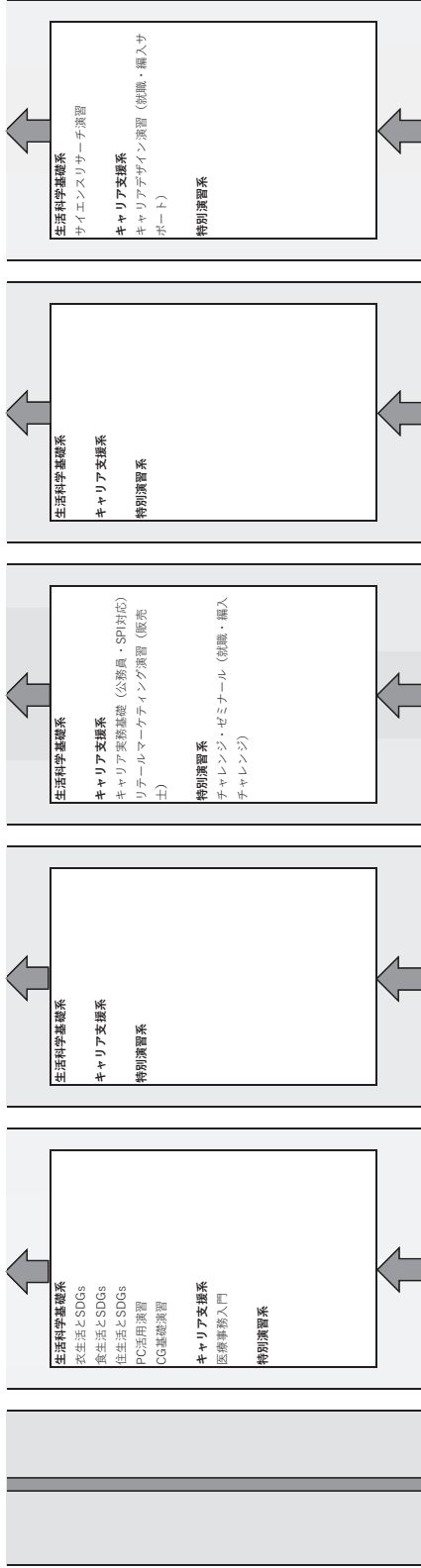
| |
|--|
| CP2-1 |
| <p>生活科学の基礎となる専門教育科目を「1メデアコアコース、生活デザインコアコースのコース共通専門教育科目として、体系性、順次性を確保して配課する。</p> <p>・生活科学の学習分野の基礎的な知識・技術を修得する『生活科学基礎系科目』、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けたキャリア発達を促す『キャリア支援系科目』、自ら問題を発見し解決する能力を養うPBL(問題解決)授業や、社会活動と組み合わせたリーダーシップを養う特別演習科目に卒業後の進路選択や学修に取り組む『特別演習科目』をコース共通科目として配課する。</p> |

| |
|---|
| CPI |
| <p>学生を、ひとりの女性・ひとりの人間として日々の生活を豊かに充実して生き、主体的に社会に参加・貢献して責任ある役割を果たす人材として育成するために、以下の「自律と努力コア」「創造とキャリアコア」「協働とリーダーシップコア」に区分する。</p> |

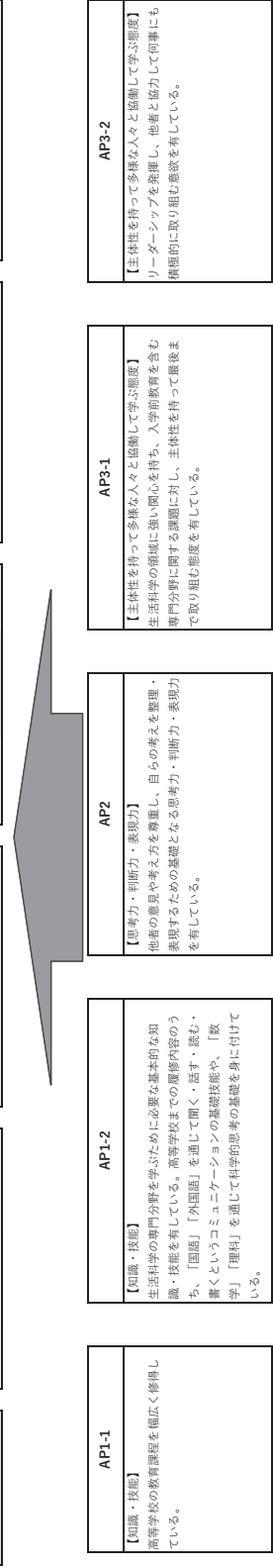
カリキュラム・ポリシー

アドミッション・ポリシー

※各科目は「カリキュラムマップ」でアイコン・ポリシーとの対応関係が「◎」の専門科目を記述している。

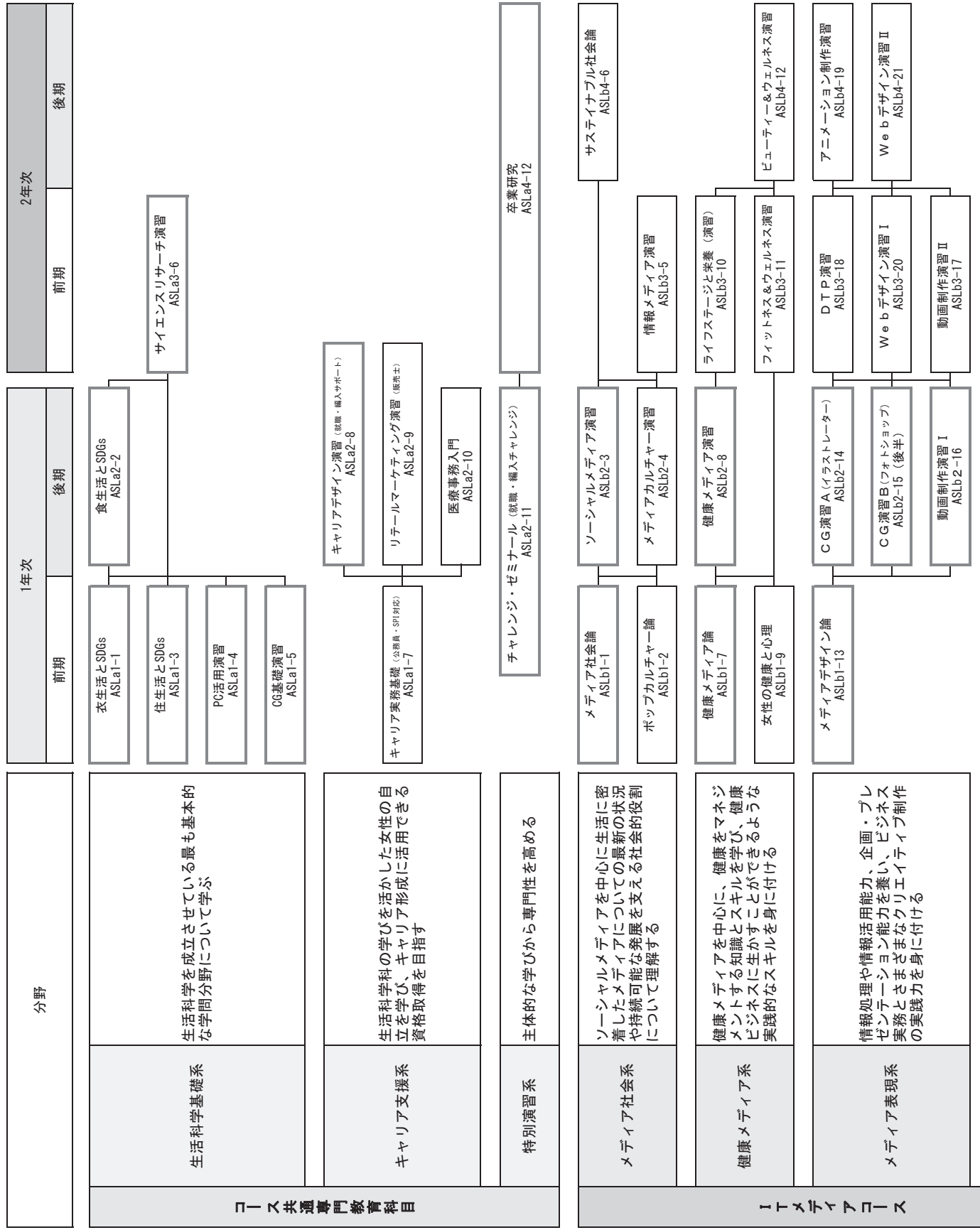


| | | | | | | |
|----------------------------|---|--|--|--|--|--|
| CP1-3. 協働とリーダーシップコア | <ul style="list-style-type: none"> 他者と協働しながら課題解決に導くための協働性やリーダーシップを身につけることを目指して、PBL (Project Based Learning) の手法を用いて授業を行う。 他者と協働し様々な課題解決を行なう中で、自らの価値観と多様な価値観を調整するために必要なコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけることを目指して、PBL (Project Based Learning) の手法を用いて授業を行う。 | <p>生活科学基礎系</p> <p>キャリア支援系</p> <p>特別演習系</p> | <p>生活科学基礎系</p> <p>キャリア支援系</p> <p>特別演習系</p> | <p>生活科学基礎系</p> <p>キャリア支援系</p> <p>特別演習系</p> | <p>生活科学基礎系</p> <p>キャリア支援系</p> <p>特別演習系</p> | <p>生活科学基礎系</p> <p>キャリア支援系</p> <p>特別演習系</p> |
| CP1-2. 創造とキャリアコア | <ul style="list-style-type: none"> 新たな価値を創造し社会と積極的に関わっていくための基礎的な力を身につけるとともに、社会人として必要な教養を養う科目群を編成する。 英語においては、プレイスメントテストの結果に基づいたクラスを編成し、学生の習熟度や希望に応じて体系的に科目群を編成する。 他者との協働による課題解決を促進するためのコミュニケーション能力を身につけるために「英語コミュニケーション」「英語コミュニケーション」を必修とする。また、今後、進路するグローバル環境におけるキャリア形成に必要な語学能力を養成するためにTOEICのスコアアップを目指す。 情報リテラシーにおいては、情報化が加速する現代の社会生活で必要となる数値・データサイエンス・AIに関する基礎的なリテラシーを身につけるために、「データサイエンスとITの基礎」を必修とする。 幅広い教養を身につけ、多様な視点で社会を幅広く俯瞰し必要な教養を身につけるために「人間を理解するための教養」「社会を理解するための教養」「自然を理解するための教養」「身体と健康を管理するための教養」より2単位を選択必修とする。 | <p>生活科学基礎系</p> <p>キャリア支援系</p> <p>特別演習系</p> | <p>生活科学基礎系</p> <p>キャリア支援系</p> <p>特別演習系</p> | <p>生活科学基礎系</p> <p>キャリア支援系</p> <p>特別演習系</p> | <p>生活科学基礎系</p> <p>キャリア支援系</p> <p>特別演習系</p> | <p>生活科学基礎系</p> <p>キャリア支援系</p> <p>特別演習系</p> |
| CP1-1. 自律と努力コア | <ul style="list-style-type: none"> 初年次教育科目・キャリア教育科目として、密着的に物事を理解し、自己を確立し生進守り続けるための基礎的な力を養う科目群を編成する。 学生生活への適応、論理的な考え方や文章作成技術の定着、ライフプランやキャリアプランの形成、課題分析、情報収集、グループワーク、プレゼンテーションなどの課題解決に必要な技術の定着をはかるとともに、社会人として果たすべき責務を学ぶために、少人数で行う「基礎ゼミナール」「課題解決のためのリーダーシップ入門」を必修とする。 | <p>生活科学基礎系</p> <p>キャリア支援系</p> <p>特別演習系</p> | <p>生活科学基礎系</p> <p>キャリア支援系</p> <p>特別演習系</p> | <p>生活科学基礎系</p> <p>キャリア支援系</p> <p>特別演習系</p> | <p>生活科学基礎系</p> <p>キャリア支援系</p> <p>特別演習系</p> | <p>生活科学基礎系</p> <p>キャリア支援系</p> <p>特別演習系</p> |



11. 履修系統図

…主要授業科目



| | | | | | | |
|-------------|---|---------------------------|-----------------------------|--------------------------------------|------------------------------|----------------------------|
| ITメディア系 | ITのスキルと情報リテラシー、マーケティング等の知識を修得し、分析力・表現力・構成力を身に付ける | ITパスポート論 ASLb1-22 | ITパスポート演習 ASLb2-23 | ITパスポート活用演習 (ワークショップ) ASLb3-24 | マーケティングリサーチ演習 ASLb3-26 | フードマーケティング演習 ASLb4-27 |
| フードデザイン系 | 食を対象に、調理の基礎からレシピ開発に必要な知識や技術を学び、食を総合的にデザインし広く発信するスキルを身に付ける | フードデザイン論 ASLc1-1 | フードデザイン実習 I (調理) ASLc1-2 | フードデザイン実習 II (調理) ASLc2-3 | レシポ開発演習 ASLc3-6 | フードパッケージ演習 ASLc4-7 |
| プロダクトデザイン系 | 生活に必要な道具や製品を対象に、形、大きさ、色彩などの要素について学び、演習や実習を通じてデザインするスキルを身に付ける | 生活プロダクトデザイン演習 ASLc1-10 | プロダクトデザイン論 ASLc2-8 | 生活プロダクトメディア演習 ASLc2-11 | デジタル・イラストレーション演習 ASLc3-13 | ユニバーサルデザイン論 ASLc4-14 |
| ファッションデザイン系 | 衣服やその装いを対象に、素材、配色、シルエット、機能などについて学び、アパレル制作や企画演習を通じて実践に活用する力を養う | ドローイング演習 ASLc1-9 | ファッションデザイン演習 ASLc1-18 | ファッションデザイン論 ASLc2-16 | ファッションビジネス論 ASLc3-21 | アパレル企画演習 ASLc4-23 |
| インテリアデザイン系 | 住居や住空間を対象に、知識や原理に加えて、設計、製図、インテリアCADなどを初歩から高度な応用まで学び、提案する技術を習得する | インテリアCAD実習 I ASLc1-27 | インテリア製図演習 I ASLc1-25 | 住環境デザイン論 ASLc2-24 | インテリアコーディネート論 ASLc3-30 | インテリアコーディネート演習 ASLc4-31 |

生活デザインコース

ナンバリングの読み方 (例) 衣生活とSDGs : ASLc1-1

| | | | | | | | | | |
|-------------|-----------|----------------------------|-------------|---|--------------|--|----------------|------------|------------------|
| A 学位 | A : 短期大学士 | SL 学科 SL : 生活科学科 | a 分野 | a : コース共通専門科目 b : ITメディアコース c : 生活デザインコース | 1 順次性 | 1 : 入門、基礎科目 2 : 中級、基幹科目 3 : 上級、発展科目 4 : 学士卒業レベル | -1 通し番号 | -1 通し番号 | 一般の数字を 表す通し番号 |
|-------------|-----------|----------------------------|-------------|---|--------------|--|----------------|------------|------------------|

12. 履修モデル

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位数 | 担当 教員 | 履修モデルA IT/メディアコース IT/サポート技術取得とデザインスキルを専攻し、演習科目を中心に履修するモデル | 履修モデルB 生活デザインコース 生活デザインコースの4つの系を総合的に専攻し、生活デザインを多角的に履修するモデル | 履修モデルC 生活科学基礎系、および、IT/メディアコースと生活デザインコースを併修的に履修するモデル(生活デザインコースで次の科目を中心に履修する例) | 履修モデルD 専門分野の学びを幅広く深め、学部編入に必要な教養教育科目・大学互換科目を履修するモデル(IT/メディアコースの例) | ◎必修科目 | ○選択科目 | ※履修条件 |
|------------------------|-----------------------|-------|----------|---|--|---|---|-------|-------|-------|
| | | | | | | | | | | |
| 自立・自活のための基礎科目 | 基礎セミナー | 1 | 1期 | ◎ | ◎ | ◎ | | | | 1 |
| | 論理的思考・文章表現 | 1 | 1期 | ○ | ○ | | | | | |
| | キャリアプランと自己実現 | 2 | 1期 | ○ | ○ | ○ | | | | 1 |
| | 課題解決のためのリーダーシップ入門 | 1 | 1後 | ◎ | ◎ | ◎ | | | | 2 |
| | チームサイエンスとITの基礎 | 2 | 1期・後 | ◎ | ◎ | ◎ | | | | 2 |
| | 情報処理 | 2 | 1期・後 | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | 情報の分析と活用 | 2 | 1・2 | ○ | ○ | | | | | |
| | 子・タエン지니어リングとプログラミング基礎 | 2 | 2期・後 | ○ | | | | | | |
| | AIの基礎と応用 | 2 | 2期・後 | ○ | | | | | | |
| | 課題解決のためのチームエンジニアリング | 2 | 2期・後 | ○ | | | | | | |
| | 英語コミュニケーション I | 1 | 1期 | ◎ | ◎ | ◎ | | | | 1 |
| | 英語コミュニケーション II | 1 | 1後 | ◎ | ◎ | ◎ | | | | 1 |
| | 英語コミュニケーション III | 1 | 2期 | ◎ | ◎ | ◎ | | | | 1 |
| | 英語コミュニケーション IV | 1 | 2後 | ◎ | ◎ | ◎ | | | | 1 |
| 英語 | 2 | 1期 | | | | | | | | |
| 1CE1G1 | 2 | 1期 | | | | | | | | |
| 1CE1G2 | 2 | 1後 | | | | | | | | |
| 1CE1G3 | 2 | 2期 | | | | | | | | |
| 1CE1G4 | 2 | 2後 | | | | | | | | |
| 中国語 I | 2 | 1期 | | | | | | | | |
| 中国語 II | 2 | 1後 | | | | | | | | |
| 初級外国語 | 1 | 1期 | | | | | | | | |
| コリア語 I | 1 | 1期 | | | | | | | | |
| コリア語 II | 1 | 1後 | | | | | | | | |
| 英語をひらく | 2 | 1期・後 | | ○ | | | | | | 14 |
| 心理を学ぶ | 2 | 1期・後 | | | | | | | | |
| 自己開発A | 2 | 1期・後 | | | | | | | | |
| 自己開発B | 2 | 1期・後 | | | | | | | | |
| 地域社会とאתを学ぶ | 2 | 1期・後 | | | | | | | | |
| אתを学ぶ | 2 | 1期・後 | | | | | | | | |
| 社会を学ぶ | 2 | 1期・後 | | | | | | | | |
| 企業と社会の仕組み | 2 | 2期・後 | | | | | | | | |
| マーケティング | 2 | 2期・後 | | | ○ | | | | | |
| 女性の生き方と社会 | 2 | 2期・後 | | | | | | | | |
| 数字への招待 | 2 | 1期・後 | | | | | | | | |
| 生物学への招待 | 2 | 1期・後 | | | | | | | | |
| 化学への招待 | 2 | 1期・後 | | | | | | | | |
| 健康とスポーツ実習A | 1 | 1期・後 | | | | | | | | |
| 健康とスポーツ実習B | 1 | 1期・後 | | | | | | | | |
| 現代社会の諸問題 | 2 | 2期・後 | | ○ | | | | | | |
| リーダーシップ開発実習 I | 2 | 1・2期 | | | | | | | | |
| リーダーシップ開発実習 II | 2 | 1・2後 | | | | | | | | |
| サーベイス・ラーニング実践演習 | 2 | 2後 | | | | | | | | |
| リーダーシップ開発実習 | 2 | 2期 | | | | | | | | |
| フュチャー・リーダーシップ入門 | 2 | 2期 | | | | | | | | |
| フュチャー・リーダーシップ入門 | 2 | 2期 | | | | | | | | |
| フュチャー・リーダーシップ入門 | 2 | 2期 | | | | | | | | |
| フュチャー・リーダーシップ入門 | 2 | 2期 | | | | | | | | |
| 衣食住とSDGs | 2 | 1期・2期 | | ○ | | | | | | |
| 食生活とSDGs | 2 | 1後・2後 | | ○ | | | | | | |
| 住生活とSDGs | 2 | 1期・2期 | | ○ | | | | | | |
| PO活用演習※ | 2 | 1期 | | ○ | | | | | | 6 |
| CG活用演習※ | 2 | 2期 | | ○ | | | | | | |
| CG活用演習※ | 2 | 2期 | | ○ | | | | | | |
| サイエンスリサーチ実習※ | 2 | 2期 | | ○ | | | | | | |
| キャリアデザイン演習(就職・編入サポート) | 2 | 1後 | | ◎ | | | | | | 2 |
| キャリア実務基礎(公務員・SPI対応) | 2 | 1後 | | ○ | | | | | | |
| リサーチマーケティング演習(販売士) | 2 | 1後 | | ○ | | | | | | |
| 医療事務入門 | 2 | 1後 | | ○ | | | | | | |
| チャレンジ・セミナー(就職・編入チャレンジ) | 1 | 1後 | | ◎ | | | | | | 1 |
| 卒業研究 | 4 | 2後 | | ◎ | | | | | | 4 |

■ 文科

1. 文科の人材養成目的

文科の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子短期大学の人材養成目的に基づき、「学生自身が自らの将来を切り開いていくために自ら積極的に学ぼうとする意欲を引き出し、ひとりの自立した人間として成長していくための、表現する能力、コミュニケーションの能力、理解する力、豊かな文化的教養、社会に出て役立つ実践的な知識等を涵養し、そして、他者を思いやり人のために尽くす生き方ができるような誠実で友愛に溢れた人間性を持つ女性を育成する」ことである。

2. 文科の教育目標

自分らしく社会を生き抜くための幅広い教養と、言語・文学・人間心理・文化に係る専門的知識を教授し、社会に対する理解力や問題意識、自己表現のための言語力・コミュニケーション力を育むとともに、周りの人々に対する思いやりの心、他者と協働し、主体的に行動する力を持った、自立した人間として広く社会に貢献できる女性を育成することを教育目標とする。

3. 文科の3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー

共立女子短期大学文科は、建学の精神「女性の自立と自活」を基本理念として展開される本科の所定の課程を修め、62単位以上の単位修得と必修等の卒業要件を充たし、幅広い教養と専門分野における知識・技術の学修を通して、以下に示す資質・能力を備えた人物に学位を授与する。

| 観点 | 内容 |
|-------------------|--|
| DP1 幅広い教養 | 言語・文学・人間心理・文化を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 |
| DP2 社会への主体的な参画 | 広く社会に貢献するための知識と理解力を持ち、ことばを通して主体的に世界と関わることができる。 |
| DP3 専門的なスキル | 自分らしく社会を生き抜くためのコミュニケーション・スキルを身に付けている。 |
| DP4 課題の探究・表現 | 自らテーマを見つけ出し追求する問題意識を持ち、それを表現することができる。 |
| DP5 友愛 | 想像力を持ち、周りの人々を思いやり、細やかに配慮することができる。 |
| DP 6 リーダーシップ | 他者との相互関係や協同関係を作り上げ、集団のなかの自分の役割を見出し、率先して行動することができる。 |

カリキュラム・ポリシー

共立女子短期大学文科は、ディプロマ・ポリシーに定める資質・能力を育成するために必要・適切な授業科目を精選し、順次性ある体系的な教育課程を編成する。その際、科目履修の順次性に基づくカリキュラムの体系的学修を可能にするために、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、ナンバリング、履修系統図を用いる。その上で、教育課程編成及び授業実施にあたっての教育内容、教育方法、学修成果の評価の在り方についての方針を次の通り定める。

教育内容

CP1. 教養教育科目

学生を、ひとりの女性・ひとりの人間として日々の生活を豊かに充実して生き、主体的に社会に参加・貢献して責任ある役割を果たす人材として育成するために、以下の「自律と努力コア」「創造とキャリアコア」「協働とリーダーシップコア」に区分する。

CP1-1. 自律と努力コア

- ・初年次教育科目・キャリア教育科目として、客観的に物事を理解し、自己を確立し生涯学び続けるための基礎的な力を養う科目群を編成する。
- ・学生生活への適応、論理的な考え方や文章作成技術の定着、ライフプランやキャリアプランの形成、課題発見、課題分析、情報収集、グループワーク、プレゼンテーションなどの課題解決に必要な技術の定着をはかるとともに、社会人として果たすべき責務を学ぶために、少人数で行う「基礎ゼミナール」「論理的思考・文章表現」「課題解決のためのリーダーシップ入門」を必修とする。

CP1-2. 創造とキャリアコア

- ・新たな価値を創造し社会と積極的に関わっていくための基礎的な力を身につけるとともに、社会人として必要な教養を養う科目群を編成する。
- ・英語においては、プレイスメントテストの結果を踏まえた習熟度に基づくクラスを編成し、学生の習熟度や希望に応じて体系的に科目群を編成する。現代の社会生活で必要となる英語コミュニケーション力を身につけるために「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を必修とする。また、今後、進展するグローバル環境におけるキャリア形成に必要な語学能力を養成するために TOEIC のスコアアップを目指す。
- ・情報リテラシーにおいては、情報化が加速する現代の社会生活で必要となる数理・データサイエンス・AI に関する基礎的なリテラシーを身に付けるために、「データサイエンスと ICT の基礎」を必修とする。
- ・幅広い教養を身に付け、多様な視点で社会を幅広く俯瞰し必要な教養を身につけるために「人間を理解するための教養」「社会を理解するための教養」「自然を理解するための教養」「身体と健康を管理するための教養」より2単位を選択必修とする。

CP1-3. 協働とリーダーシップコア

- ・他者と協働しながら課題解決に導くための協働性やリーダーシップを養う科目群を編成する。
- ・他者と協働し様々な課題解決を行なう中で、自らの価値観と多様な価値観を調整するために必要なコミュニケーション力やリーダーシップを身に付けることを目指して、PBL (Project Based Learning) の手法を用いて授業を行う。

CP2. 専門基礎科目

CP2-1. 共通科目

文科の専門教育科目を学修するにあたって、日本文化・表現コース、グローバル・コミュニケーションコース、心理学コースの3つのコースの教育目標に沿って、体系的、順次性を踏まえて科目を配置する。文科共通科目として、文章表現力、コミュニケーション能力の養成を目的とした「リテラシー基礎」、豊かな文化的教養の養成を目的とした「カルチャー」、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けてキャリア発達を促す「キャリアサポート」の科目群を配置する。

CP2-2. コース専門科目

日本文化・表現コースでは、文章表現を重視し、言葉の仕組みなどを理解し、現代社会の情報を的確に選択・活用する力を養う「リテラシー」、古典から近現代までの日本文学・文化の理解を深める、「リテラチャー」、創作の手法を身につける「クリエイト」の3つの科目群における基礎科目を配置する。グローバル・コミュニケーションコースでは、英語運用能力（読む・書く・聞く・話すの4技能）を幅広く身につけるための「コミュニケーションスキル」を配置する。心理学コースでは、心理学の基礎知識や心理学分野の調査法を学ぶ「心理学」分野の専門基礎科目群を必修科目として配置する。

CP3. 専門基幹科目

文科の専門教育科目を学修するにあたって、日本文化・表現コース、グローバル・コミュニケーションコース、心理学コースの3つのコースの教育目標に沿って、体系的、順次性を踏まえて科目を配置する。「専門基礎科目」で得た知識・技能との繋がりをもとに、豊かな文化的教養、社会に出て役立つ実践的な知識を涵養するための科目を設ける。また、各分野の全体像を理解するための科目を配し、専門性を発展させる基盤を作り上げる。

日本文化・表現コースでは、文章表現を重視し、言葉の仕組みなどを理解し、現代社会の情報を的確に選択・活用する力を養う「リテラシー」、古典から近現代までの日本文学・文化の理解を深める、「リテラチャー」、創作の手法を身につける「クリエイト」の3つの科目群における基幹科目を配置する。グローバル・コミュニケーションコースでは、英語圏の言語・社会・文化に関する知識や異文化間コミュニケーションのスキルを身につける「国際文化」、観光・接客・教育に役立つ英語の知識・技能を身につけるための「ホスピタリティ」、オフィスワークに役立つ英語の知識・技能を身につけるための「オフィス英語」、異文化との交流を通して、言語・文化の知識を深め、広い視野や豊かな人間性を育む「短期留学」を配置する。心理学コースでは、発達過程、教授・学習、思考・推論・言語等の知識を学ぶ「発達・教育心理学系」、心理的障害、心理療法、健康開発等の知識を学ぶ「臨床心理学系」、自己過程、社会的相互作用、消費者行動等の知識を学ぶ「社会心理学系」の3分野における専門基幹科目群を配置する。さらに、研究を進めるための技術や思考法を修得することを目的とした「ゼミナール」を必修科目として配置する。

CP4. 専門発展科目

文科の専門教育科目を学修するにあたって、日本文化・表現コース、グローバル・コミュニケーションコース、心理学コースの3つのコースの教育目標に沿って、体系的、順次性を踏まえて科目を配置する。専門発展科目では、学生の関心・意欲や目指している将来像にしたがって、各分野の科目を履修すると同時に、一つの分野にとどまらない幅広い知識・教養の獲得を目指す。また、それぞれの学修をもとに設定したテーマを追求し、専門的知識・技術修得の成果を生かす演習科目を配置し、思考能力・表現能力の更なる向上をサポートする。

日本文化・表現コースでは、古典から近現代までの日本文学・文化の理解を深める、「リテラチャー」の科目群における発展科目を配置する。グローバル・コミュニケーションコースでは、オフィスワークに役立つ英語の知識・技能を修得する「オフィス英語」、英語圏の言語・社会・文化に関する知識や異文化間コミュニケーションのスキルを身につける「国際文化」を配置する。心理学コースでは、発達過程、教授・学習、思考・推論・言語等の知識を学ぶ「発達・教育心理学系」、心理的障害、心理療法、健康開発等の知識を学ぶ「臨床心理学系」、自己過程、社会的相互作用、消費者行動等の知識を学ぶ「社会心理学系」の3分野における専門発展科目群を配置する。

いずれのコースも2年間の集大成として、課題に基づき学生が主体的に研究・制作に取り組む「卒業研究」を必修科目として配置する。

教育方法

- ・教育内容の実施にあたっては、対面教育を原則とし、その内容に相応しい適切な授業形態（講義、演習、実験・実習・実技）を用いる。また、その効果について十分に検討した上で、必要に応じ遠隔教育を活用することとする。
- ・授業開始後の学修の指針として機能するシラバスを作成し、授業計画に基づいて適切に指導を行う。
- ・すべての科目で形成的評価を適切に取り入れ、授業期間中に学生の理解度を把握し、確実にフィードバックする。
- ・教員と学生、学生間のインタラクションを取り入れた教育方法をすべての授業で行う。
- ・PBL（Problem Based Learning）を積極的に導入し、課題設定・調査・分析を行い、問題を解決する活動を通して幅広い教養や専門的な知識・技術を高め、幅広い教養や専門的な知識・技術を、実際に想定した場面で活用し、他者との協働の中でリーダーシップを発揮する力を伸長させる。

学修成果の評価

- ・各科目で到達目標を具体的に定め、その到達状況を適切に評価する。
- ・各科目で単位修得目標を具体的に定め、単位修得の可否を適切に評価する。
- ・各科目の学修成果の最終的な評価は試験により行う。また、授業科目の内容に応じて、課題、小テスト、レポート、意欲・態度等を適切に評価する。
- ・各科目の評価方法と評価割合を明確に定める。
- ・1年次から2年次に進級するためには、卒業に必要な62単位のうち22単位以上を修得し、かつ、通算GPAが0.6以上であることを条件とする。
- ・2年間の学修成果・卒業時到達目標の到達度については、「卒業研究」での論文発表等により総括的に評価する。

アドミッション・ポリシー

共立女子短期大学文科は、建学の精神である「女性の自立と自活」に基づき、本学が教育の基軸にすえる人間教育・「リーダーシップ」教育・「実学」教育を積極的に受容する資質・能力を有し、以下に掲げる学力の三要素を備えた人物を受け入れる。

このような学生を適正に選抜するために、多様な選抜方法を適切に実施する。

AP1-1. 知識・技能

高等学校の教育課程を幅広く修得している。

AP1-2. 知識・技能

文科における学修の基盤として必要な科目の知識・技能、特に「国語」と「外国語」を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基礎技能を身に付けている。

AP2. 思考力・判断力・表現力

物事を多角的にとらえ、自らの考えを整理・表現し、他者に伝えようとする意欲・態度を有している。

AP3-1. 主体性を持って多様な人々と協働する態度

他者の意見や考え方を理解・尊重し、積極的に他者と協力し社会に貢献しようという態度を有している。

AP3-2. 主体性を持って多様な人々と協働する態度

他者に寄り添い、リーダーシップを発揮して、他者とともに課題に取り組もうとする意欲を有している。

4. 学科の概要

文科では次のような学生を受け入れています

- 1 将来を自分の力で切り開いていこうとする意欲を持った人
- 2 表現する能力や、コミュニケーションの能力を高めようと思っている人
- 3 読書が好きで、文章を書く力や読解力を身に付けたいと思っている人
- 4 知的探求心を持ち、豊かな文化的教養を身に付けたいと思っている人
- 5 世界の文化に関心を持ち、異文化に触れてみたいと思っている人
- 6 人の心を理解し、他者を思いやり、人のために尽くす価値観を大事にしている人

文科の科目についての説明

文科は、日本文化・表現コース、グローバル・コミュニケーションコース、心理学コースの3つのコースからなる学科です。各コースとも特色あるカリキュラムを用意し、それぞれのコースに関する専門的な知識と豊かな人間性とを兼ね備えた、新しい時代にふさわしい人材の養成を目指しています。文科全体としてはリテラシー教育に力を入れており、共通科目として「文章表現法」「コミュニケーション論」及びプレゼンテーションの力を伸ばす「伝える技術」の科目を設け、一人の自立した人間として成長していくための、文章表現能力やコミュニケーション能力の養成を目指しています。また、豊かな文化的教養、社会に出て役立つ実践的な知識等を涵養するための共通科目として、「カルチャー」「キャリアサポート」を設けています。以上のように、文科のカリキュラムは、各コースの専門科目と共通科目、さらには、全学共通の教養教育科目を通して、一人の自立した人間として未来を切り開く積極性や、豊かな表現能力、コミュニケーションの能力、他者を思いやる豊かな人間性を持った女性を育成することを目指しています。

5. カリキュラムの全体像

文科のカリキュラムは下記の表のとおり、「教養教育科目」と「専門教育科目」から構成されています。

| | | | |
|------------------|---|--|--|
| 教養教育科目 (全学共通) | ①自律と努力コア ②創造とキャリアコア ③協働とリーダーシップコア [13～21 ページに解説] | | |
| 専門教育科目 | リテラシー基礎 (文科共通科目) カルチャー (文科共通科目) キャリアサポート (文科共通科目) | | |
| | 日本文化・表現コース 専門科目 ①リテラシー ②リテラチャー ③クリエイト ④ゼミナール・卒業研究 [69 ページに解説] | グローバル・コミュニケーションコース 専門科目 ①コミュニケーションスキル ②オフィス英語 ③国際文化 ④ホスピタリティ ⑤短期留学 ⑥卒業研究 [70 ページに解説] | 心理学コース 専門科目 ①心理学 ②発達・教育心理学系 ③臨床心理学系 ④社会心理学系 ⑤ゼミナール・卒業研究 [70 ページに解説] |

6. 専門教育科目

専門教育科目は、それぞれのコースの教育課程に従って設けられています。なお、文科共通科目として「リテラシー基礎」「カルチャー」「キャリアサポート」があります。

〔日本文化・表現コース〕

日本文化・表現コースは、**リテラシー**（ことば）・**リテラチャー**（文学）・**クリエイト**（創造）を軸に、現代の社会が要求する知性と教養とを身につけ、広い分野で活躍できる人材の育成を目指しています。履修上の最大の特徴は、専門科目の**選択の自由さ**にあります。特定の分野を集中的に学ぶことも、まんべんなく幅広く学ぶことも、みなさんの希望次第です。

リテラシー部門では、特に文章表現を重視し、ことばの技術を全員で学びます。現代社会で情報を的確に選択し活用するために、「現代のことば」「コミュニケーション論」などの科目を設けています。**リテラチャー**部門では、日本文化・文学についての基本的知識や鑑賞方法などを学びます。1年次の基礎的な講義では読解力を養い、2年次の古典文学や近代現代文学の研究では、各時代の作品や資料を、より深く掘り下げます。また、少人数制の「日本文化・表現ゼミナール」では研究やものの考え方を身につけられるよう、きめ細かく指導しています。

クリエイト部門では「児童文学論」「映画・演劇論」などから、小説の創作方法を作家から実地に指導を受けられる「文学創作演習」やアニメについて学ぶ「アニメの物語学」など、視野を広げることのできる多彩な科目を履修できます。

ゼミナール・卒業研究部門では、研究を行うために必要な基礎知識を修得する「日本文化・表現ゼミナール」と、特定のテーマについて学生が主体的に研究・論文作成に取り組む「卒業研究」を設置しています。

〔グローバル・コミュニケーションコース〕

グローバル・コミュニケーションコースでは「**コミュニケーションスキル**」、「**オフィス英語**」、「**国際文化**」、「**ホスピタリティ**」、「**短期留学**」、「**卒業研究**」の6つを柱に、英語運用能力、国際社会の教養、就職に役立つ知識・技能を身に付け、多文化共生社会で活躍できる人材を養成することを目的としています。

「**コミュニケーションスキル**」の分野では、1年次は習熟度別の Writing、Speaking のクラスで英語で発信する際に役立つ知識・技能を修得します。Pronunciation では英語の発音方法を効率的に学びます。

「**オフィス英語**」の分野では、グローバル企業でのビジネス実務に役立つ授業を設置しています。TOEIC Listening & Reading I・II では中級～準上級レベルを目指します。

「**国際文化**」の分野では、英語の歌・映画・文学作品を題材にして英語や英語圏の文化・社会について深く学ぶと共に異文化理解の基礎知識を学びます。日英語比較研究では日本語との比較を通して英語表現の特徴を学びます。

「**ホスピタリティ**」の分野では、航空業界や観光業界、幼児教育での業務に役立つ授業を設置しています。

「**短期留学**」の分野では、ハワイ・ニュージーランド・フランス・中国・韓国での短期留学（認定科目）で多様な言語や文化を学び、グローバル・コミュニケーションを実践します。

「**卒業研究**」の分野では、特定のテーマについて学生が主体的に研究・論文作成に取り組みます。

〔心理学コース〕

心理学コースは、心理学の学びを通して心を理解することで、①より良い社会を実現していくための仕組みや制度を考え、それを実現していく力、②誰もが互いに個性を尊重し、自分らしさを発揮できる社会を築く力、③人々が支え合い、協働して社会の課題を解決する社会を維持していく力、④人々が心地よく過ごせる安全・安心なコミュニティを支える力を養います。そのために、心理学コースでは、「心理学」「発達・教育心理学系」「臨床心理学系」「社会心理学系」「ゼミナール・卒業研究」の科目群を設置しています。

「**心理学**」の分野には、心理学の基礎知識や心理学分野の調査法を学ぶ必修科目を設けています。「**発達・教育心理学系**」の分野には、発達過程、教授法・学習、思考・推論・言語等の知識を学ぶ選択必修科目、「**臨床心理学系**」の分野には、心理的障害、心理療法、健康開発等の知識を学ぶ選択必修科目、「**社会心理学系**」の分野には、自己過程、社会的相互作用、消費者行動等の知識を学ぶ選択必修科目を配置しています。そして、「**ゼミナール・卒業研究**」の分野には、研究を進めるための技術や思考法を修得する「心理学ゼミナール」と課題に基づき学生が主体的に研究・制作に取り組む「卒業研究」を設置しています。

7. 卒業の要件

1. 文科の修業年限は2年です。2年間で所定の単位を修得できない場合は、在学期間を延長することができますが、通算して4年を超えることはできません。
2. 文科に2年以上在学し、所定の単位数を修得した者は、学位記が授与され、短期大学士（文科）の学位が与えられます。
3. 卒業に必要な最低の単位数は、次の通りです。

(数字は単位数)

| 区分 | | コース | | グローバル・コミュニケーションコース | | 心理学コース | |
|--------|--------|------------|----|--------------------|----|--------|----|
| | | 日本文化・表現コース | | | | | |
| 教養教育科目 | 必修科目 | 5 | 16 | 5 | 16 | 5 | 16 |
| | 選択必修科目 | 4 | | 4 | | 4 | |
| | 選択科目 | 7 | | 7 | | 7 | |
| 専門教育科目 | 必修科目 | 18 | 46 | 6 | 46 | 12 | 46 |
| | 選択必修科目 | 14 | | 22 | | 20 | |
| | 選択科目 | 14 | | 18 | | 14 | |
| 合計 | | 62 | | 62 | | 62 | |

卒業要件単位を超えて修得した教養教育科目の単位は、専門教育科目の単位には加算されません。

卒業要件単位を超えて修得した専門教育科目の単位は、教養教育科目の単位には加算されません。

卒業要件単位数の見かた

授業科目区分は学科の定める名称によるほか、履修の自由度に応じて次のように分けられます。

| | |
|--------|-------------------------------------|
| 必修科目 | 必ず修得しなければならない科目 |
| 選択必修科目 | 指定された複数科目の中から決められた単位数を修得しなければならない科目 |
| 選択科目 | 各自の自由意志に基づいて選択履修する科目 |

8. 教育課程（カリキュラム）および履修方法

教育課程（カリキュラム）表の見かた

- 卒業要件の欄の単位数は、卒業に必要な最低の単位数を示しています。
 必修科目……… 1科目ごとに横線で区切られ、単位数が記入されています。
 選択必修科目… 2科目以上にわたる欄の中央に単位数が記入されています。
 選択科目……… 空欄になっています。
- 開講期間の表示

| 記号 | 記号の意味 |
|----|---------------|
| 無印 | 半期（前期または後期）開講 |
| ★ | 通年開講 |
| ※ | 事前貼り付け科目 |

3. 科目ナンバリング

科目ナンバリングは、授業科目に番号を付し、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明らかにしているものです。学生は自身の履修する科目の参考にしてください。

【教養教育科目ナンバリング指針】

| 学部等 | 分野英語名 | 分野コード | 科目分類 | 科目分類コード | 学修段階 | 学修段階コード | 科目分類ごとの識別コード |
|--------------|--------------|-------|-----------------|---------|---------|---------|--------------|
| 全学共通教育（教養教育） | Liberal Arts | LA | 自立・自活のための基礎科目 | a | 入門レベル | 1 | 1 |
| | | | リーダーシップ開発基礎 | b | 中級レベル | 2 | 2 |
| | | | 情報リテラシー | c | 上級レベル | 3 | 3 |
| | | | 英語 | d | 学士卒業レベル | 4 | 4 |
| | | | 初習外国語 | e | - | | 5 |
| | | | 人間を理解するための教養 | f | | 6 | |
| | | | 社会を理解するための教養 | g | | 7 | |
| | | | 自然を理解するための教養 | h | | . | |
| | | | 身体と健康を管理するための教養 | i | | . | |
| | | | リーダーシップ開発実践 | j | | . | |
| | | | リーダーシップ開発応用 | k | | . | |

例：基礎ゼミナール：LAa1-1

【専門教育科目ナンバリング指針】

| 学科等 | 分野英語名 | 分野コード | 中分類 (コース分類) | 中分類 コード | 小分類 (科目分類) | 科目分類コード | 学修段階 | 学修段階コード | 科目分類ごとの 識別コード |
|-------|-------------------------------|-------|------------------------|------------|---------------|---------|-----------------|---------|------------------|
| 文科 | Language and Literature | LL | 日本文化・表現コース | I | リテラシー | a | 入門、基礎科目 | 1 | 一連の数字を 表す通し番号 |
| | | | | | リテラチャー | b | 中級、基幹科目 | 2 | |
| | | | | | クリエイト | c | 上級、発展科目 | 3 | |
| | | | | | ゼミナール・卒業研究 | d | 短期大学学士 卒業レベル | 4 | |
| | | | コミュニケーションスキル | a | | | | | |
| | | | グローバル・コミュニ ケーションコース | II | オフィス英語 | b | - | | |
| | | | | | 国際文化 | c | | | |
| | | | | | ホスピタリティ | d | | | |
| | | | | | 短期留学 | e | | | |
| | | | 心理学コース | III | 卒業研究 | f | | | |
| | | | | | 心理学 | a | | | |
| | | | | | 発達・教育心理学系 | b | | | |
| | | | | | 臨床心理学系 | c | | | |
| | | | 文科共通専門科目 | IV | 社会心理学系 | d | | | |
| | | | | | ゼミナール・卒業研究 | e | | | |
| | | | | | リテラシー基礎 | a | | | |
| カルチャー | b | | | | | | | | |
| | | | キャリアサポート | c | | | | | |

4. 主要授業科目について

本学における主要授業科目とは、学生の学位取得に当たり、当該学位のレベルと分野に応じて達成すべき能力を育成するために必要な科目群のことをいう。なお「必修科目」および「卒業論文、卒業制作、卒業演習、卒業研究等」は必ず主要授業科目とする。

教養教育科目（各コース共通）

| 区分 | | 科目 ナンバリング | 授業科目 | 主要 授業 科目 | 年次 | 単 位 | 卒 業 要 件 | 備考 | |
|-------------------|-----------------------|--|-----------------------|--|----|--------|------------------|----|---|
| 努力 自律と コア | 自立・自活 のための 基礎科目 | LAa1-1 | 基礎ゼミナール | ○ | 1 | 1 | 1 | | |
| | | LAa1-2 | 論理的思考・文章表現 | ○ | 1 | 1 | 1 | | |
| | | LAa1-3 | キャリアプランと自己実現 | | | 1 | 2 | | |
| | | リーダシップ開発基礎 LAb1-1 | 課題解決のためのリーダーシップ入門 | ○ | 1 | 1 | 1 | | |
| 創造と キャリア コア | 情報 リテラシー | LAc1-1 | データサイエンスとICTの基礎 | ○ | 1 | 2 | 2 | | |
| | | LAc1-2 | 情報処理 | | | 1 | 2 | | |
| | | LAc2-3 | 情報の分析と活用 | | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAc2-4 | データエンジニアリングとプログラミング基礎 | | | 2 | 2 | | |
| | | LAc2-5 | AIの基礎と応用 | | | 2 | 2 | | |
| | | LAc2-6 | 課題解決のためのデータエンジニアリング | | | 2 | 2 | | |
| | 英語 | LAd1-1 | LAd1-1 | 英語コミュニケーションⅠ (Basic) | | | 1 | 1 | 1 |
| | | | LAd1-2 | 英語コミュニケーションⅠ (Intermediate) | | | 1 | 1 | |
| | | | LAd1-3 | 英語コミュニケーションⅠ (High-Intermediate) | | | 1 | 1 | |
| | | | LAd1-4 | 英語コミュニケーションⅠ (Advanced) | | | 1 | 1 | |
| | | | LAd1-5 | 英語コミュニケーションⅡ (Basic) | | | 1 | 1 | |
| | | | LAd1-6 | 英語コミュニケーションⅡ (Intermediate) | | | 1 | 1 | |
| | | | LAd1-7 | 英語コミュニケーションⅡ (High-Intermediate) | | | 1 | 1 | |
| | | | LAd1-8 | 英語コミュニケーションⅡ (Advanced) | | | 1 | 1 | |
| | | LAd2-17 | LAd2-17 | 英語コミュニケーションⅢ (Basic) ^{*1} | | | 2 | 1 | 1 |
| | | | LAd2-18 | 英語コミュニケーションⅢ (Intermediate) ^{*1} | | | 2 | 1 | |
| | | | LAd2-19 | 英語コミュニケーションⅢ (High-Intermediate) ^{*1} | | | 2 | 1 | |
| | | | LAd2-20 | 英語コミュニケーションⅢ (Advanced) ^{*1} | | | 2 | 1 | |
| | | | LAd2-21 | 英語コミュニケーションⅣ (Basic) ^{*1} | | | 2 | 1 | |
| | | | LAd2-22 | 英語コミュニケーションⅣ (Intermediate) ^{*1} | | | 2 | 1 | |
| | | | LAd2-23 | 英語コミュニケーションⅣ (High-Intermediate) ^{*1} | | | 2 | 1 | |
| | | | LAd2-24 | 英語コミュニケーションⅣ (Advanced) ^{*1} | | | 2 | 1 | |
| | | | LAd1-9 | TOEICⅠ (Basic) ^{*1} | | | 1 | 2 | |
| | | | LAd1-10 | TOEICⅠ (Intermediate) ^{*1} | | | 1 | 2 | |
| | | | LAd1-11 | TOEICⅠ (High-Intermediate) ^{*1} | | | 1 | 2 | |
| | | | LAd1-12 | TOEICⅠ (Advanced) ^{*1} | | | 1 | 2 | |
| | LAd1-13 | TOEICⅡ (Basic) ^{*1} | | | 1 | 2 | | | |
| | LAd1-14 | TOEICⅡ (Intermediate) ^{*1} | | | 1 | 2 | | | |
| | LAd1-15 | TOEICⅡ (High-Intermediate) ^{*1} | | | 1 | 2 | | | |
| | LAd1-16 | TOEICⅡ (Advanced) ^{*1} | | | 1 | 2 | | | |
| | LAd2-25 | TOEICⅢ (High-Intermediate) ^{*1} | | | 2 | 2 | | | |
| | LAd2-26 | TOEICⅢ (Advanced) ^{*1} | | | 2 | 2 | | | |
| | 初習外国語 | L Ae1-1 | L Ae1-1 | フランス語Ⅰ | | | 1 | 2 | |
| | | | L Ae1-2 | フランス語Ⅱ | | | 1 | 2 | |
| | | | L Ae2-19 | フランス語Ⅲ | | | 2 | 1 | |
| | | | L Ae2-20 | フランス語Ⅳ | | | 2 | 1 | |
| L Ae1-3 | | L Ae1-3 | 中国語Ⅰ | | | 1 | 2 | | |
| | | L Ae1-4 | 中国語Ⅱ | | | 1 | 2 | | |
| | | L Ae2-21 | 中国語Ⅲ | | | 2 | 1 | | |
| | | L Ae2-22 | 中国語Ⅳ | | | 2 | 1 | | |
| L Ae1-5 | | L Ae1-5 | ドイツ語Ⅰ | | | 1 | 2 | | |
| | | L Ae1-6 | ドイツ語Ⅱ | | | 1 | 2 | | |
| | | L Ae2-23 | ドイツ語Ⅲ | | | 2 | 1 | | |
| | | L Ae2-24 | ドイツ語Ⅳ | | | 2 | 1 | | |
| L Ae1-7 | | L Ae1-7 | コリア語Ⅰ | | | 1 | 1 | | |
| | | L Ae1-8 | コリア語Ⅱ | | | 1 | 1 | | |
| | | L Ae2-25 | コリア語Ⅲ | | | 2 | 1 | | |
| | | L Ae2-26 | コリア語Ⅳ | | | 2 | 1 | | |
| L Ae1-9 | | L Ae1-9 | スペイン語Ⅰ | | | 1 | 1 | | |
| | | L Ae1-10 | スペイン語Ⅱ | | | 1 | 1 | | |

※1 英語コミュニケーションⅢ～ⅣおよびTOEICⅠ～Ⅲは英語教育プログラム（KEIT）受講者のみ履修可能です。

| 区分 | 科目 ナンバリング | 授業科目 | 主要 授業 科目 | 年次 | 単 位 | 卒 業 要 件 | 備考 | |
|---------------------|----------------------|------------|----------------|-----|--------|------------------|----|--|
| 創造とキャリアコア | 初習外国語 | LAe1-27 | スペイン語Ⅲ | | 2 | 1 | | |
| | | LAe1-28 | スペイン語Ⅳ | | 2 | 1 | | |
| | | LAe1-11 | イタリア語Ⅰ | | 1 | 1 | | |
| | | LAe1-12 | イタリア語Ⅱ | | 1 | 1 | | |
| | | LAe1-13 | アラビア語Ⅰ | | 1 | 1 | | |
| | | LAe1-14 | アラビア語Ⅱ | | 1 | 1 | | |
| | | LAe1-15 | 基礎日本語Ⅰ（留学生対象） | | 1・2 | 1 | | |
| | | LAe1-16 | 基礎日本語Ⅱ（留学生対象） | | 1・2 | 1 | | |
| | | LAe2-17 | 応用日本語Ⅰ（留学生対象） | | 1・2 | 1 | | |
| | | LAe2-18 | 応用日本語Ⅱ（留学生対象） | | 1・2 | 1 | | |
| | 人間を理解 するための 教養 | LAf1-1 | 日本の歴史を学ぶ | | 1・2 | 2 | 2 | |
| | | LAf1-2 | 世界の歴史を学ぶ | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAf1-3 | 人間と地理を学ぶ | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAf1-4 | 文学をひらく | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAf1-5 | 芸術をひらく | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAf1-6 | 哲学とは何か | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAf1-7 | 心理を学ぶ | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAf1-8 | 自己開発 A | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAf1-9 | 自己開発 B | | 1・2 | 2 | | |
| | 社会を理解 するための 教養 | LAg1-1 | 法律を学ぶ（日本国憲法） | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAg1-2 | 法律を学ぶ（概論） | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAg1-3 | 政治を学ぶ | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAg1-4 | 倫理学とは何か | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAg1-5 | 国際関係を学ぶ | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAg1-6 | 地域社会と家族を学ぶ | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAg1-7 | 経済を学ぶ | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAg1-8 | 社会を学ぶ | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAg1-9 | 企業と社会の仕組み | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAg1-10 | マーケティング | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAg1-11 | 女性の生き方と社会 | | 1・2 | 2 | | |
| | 自然を理解 するための 教養 | LAh1-1 | 自然と地理を学ぶ | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAh1-2 | 数学への招待 | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAh1-3 | 生物学への招待 | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAh1-4 | 物理学への招待 | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAh1-5 | 化学への招待 | | 1・2 | 2 | | |
| 身体と健康を管理 するための教養 | LAi1-1 | 健康スポーツ実習 A | | 1・2 | 1 | | | |
| | LAi1-2 | 健康スポーツ実習 B | | 1・2 | 1 | | | |
| リーダー 協働と シップ | リーダー シップ開発 実践 | LAj2-1 | 現代社会の諸課題 | | 2 | 2 | | |
| | | LAj2-2 | リーダーシップ開発演習Ⅰ | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAj2-3 | リーダーシップ開発演習Ⅱ | | 1・2 | 2 | | |
| | | LAj2-4 | サービス・ラーニング実践演習 | | 2 | 2 | | |
| | リーダー シップ開発 応用 | LAk2-1 | ファシリテーション入門 | | 2 | 2 | | |
| | | LAk2-2 | ファシリテーションA | | 2 | 2 | | |
| | | LAk2-3 | ファシリテーションB | | 2 | 2 | | |
| 必修 | | | | | | 5 | | |
| 選択必修 | | | | | | 4 | | |
| 選択（上記全科目より） | | | | | | 7 | | |
| 計 | | | | | | 16 | | |

専門教育科目（日本文化・表現コース）

| 分野 | 科目ナンバリング | 授業科目 | 主要授業科目 | 年次 | 単位 | 卒業要件 | 備考 |
|--|--------------|-----------------------|--------|----|----|------|--------|
| リテラシー | ALL I a1-1 | ことばの仕組み I | ○ | 1 | 2 | 2 | |
| | ALL I a2-2 | ことばの仕組み II | | 1 | 2 | | |
| | ALL I a1-3 | 現代のことば I | ○ | 1 | 2 | 2 | |
| | ALL I a2-4 | 現代のことば II | | 1 | 2 | | |
| リテラチャー | ALL I b1-5 | 日本文学・文化の歴史（古典） | ○ | 1 | 2 | 6 | |
| | ALL I b1-6 | 日本文学・文化の歴史（近現代） | ○ | 1 | 2 | | |
| | ALL I b2-7 | 物語を読む | ○ | 1 | 2 | | |
| | ALL I b2-8 | 近代小説を読む | ○ | 1 | 2 | | |
| | ALL I b3-9 | 物語の研究 I | | 2 | 2 | | |
| | ALL I b3-10 | 物語の研究 II | | 2 | 2 | | |
| | ALL I b3-11 | 近代小説の研究 I | | 2 | 2 | | |
| | ALL I b3-12 | 近代小説の研究 II | | 2 | 2 | | |
| クリエイト | ALL I c1-13 | 児童文学論 | | 1 | 2 | | |
| | ALL I c1-14 | アニメの物語学 | | 1 | 2 | | |
| | ALL I c1-15 | 映画・演劇論 | | 1 | 2 | | |
| | ALL I c2-16 | 文学創作演習 | | 1 | 2 | | |
| | ALL I c2-17 | 映像メディア論 | | 1 | 2 | | |
| ゼミナール・卒業研究 | ALL I d2-18 | ★ 日本文化・表現ゼミナール | ○ | 1 | 2 | 2 | |
| | ALL I d4-19 | ★ 卒業研究 | ○ | 2 | 4 | 4 | |
| リテラシー基礎 | ALL IV a1-1 | 文章表現法 | ○ | 1 | 2 | 2 | |
| | ALL IV a1-2 | コミュニケーション論 | | 1 | 2 | | |
| | ALL IV a1-3 | 伝える技術 | | 1 | 2 | | |
| カルチャー | ALL IV b2-4 | 伝統文化論 | | 1 | 2 | | |
| | ALL IV b2-5 | 地域文化論 | | 1 | 2 | | |
| | ALL IV b2-6 | サブカルチャー論 | | 1 | 2 | | |
| | ALL IV b2-7 | ジェンダー論 | | 1 | 2 | | |
| | ALL IV b2-8 | 環境文化論 | | 1 | 2 | | |
| キャリアサポート | ALL IV c2-11 | キャリアデザイン演習（就職・編入サポート） | ○ | 1 | 2 | 2 | |
| | ALL IV c2-9 | 出版メディア論 | | 1 | 2 | | |
| | ALL IV c1-10 | ワークライフバランスと健康 | | 1 | 2 | | |
| | ALL IV c1-12 | ホスピタリティを学ぶ | | 1 | 2 | | |
| | ALL IV c1-13 | 秘書実務を学ぶ | | 1 | 2 | | |
| | ALL IV c1-14 | ビジネス実務を学ぶ A | | 1 | 2 | | |
| | ALL IV c2-15 | ビジネス実務を学ぶ B | | 1 | 2 | | |
| | ALL IV c1-16 | 日本語教育を学ぶ | | 1 | 2 | | |
| 上記専門科目より 14 単位 (他コース・他学科開放科目 8 単位を含む・注) | | | | | | 14 | 文科共通科目 |

★通年科目

〔図書館司書〕

文科に在籍する学生は、共立女子大学文芸学部設置している図書館司書課程の開講科目を科目等履修生として履修し、所定の単位を修得することによって、司書となる資格を取得することができます。

図書館司書課程開講科目を科目等履修生として履修することに関する詳細は **kyonet** を確認してください。

専門教育科目（グローバル・コミュニケーションコース）

| 区分 | 科目 ナンバリング | 授業科目 | 主要 授業科目 | 年次 | 単位 | 卒業要件 | 備考 |
|--|--------------|---|------------|----|----|--------|----|
| コミュニケーションスキル | ALLⅡa1-1 | Speaking (Intermediate) | ○ | 1 | 2 | 2 | |
| | ALLⅡa1-2 | Speaking (Basic) | ○ | 1 | 2 | | |
| | ALLⅡa1-3 | Pronunciation | | 1 | 2 | | |
| | ALLⅡa1-4 | Writing (Intermediate) | ○ | 1 | 2 | 2 | |
| | ALLⅡa1-5 | Writing (Basic) | ○ | 1 | 2 | | |
| オフィス英語 | ALLⅡb1-6 | TOEIC Listening & Reading I (Intermediate) | ○ | 1 | 2 | 2 | |
| | ALLⅡb1-7 | TOEIC Listening & Reading I (Basic) | ○ | 1 | 2 | | |
| | ALLⅡb2-8 | TOEIC Listening & Reading II (Intermediate) | ○ | 1 | 2 | 2 | |
| | ALLⅡb2-9 | TOEIC Listening & Reading II (Basic) | ○ | 1 | 2 | | |
| | ALLⅡb3-10 | ビジネス英語 | | 2 | 2 | | |
| 国際文化 | ALLⅡb3-11 | プレゼンテーションスキル | | 2 | 2 | 6 | |
| | ALLⅡc3-12 | 異文化間コミュニケーション | ○ | 2 | 2 | | |
| | ALLⅡc3-13 | 映画で楽しむアメリカ文学 | ○ | 2 | 2 | | |
| | ALLⅡc3-14 | 日英語比較研究 | ○ | 2 | 2 | | |
| ホスピタリティ | ALLⅡc2-15 | 映画で学ぶ英語 | | 1 | 2 | 6 | |
| | ALLⅡc2-16 | ポップソングで学ぶ英語 | | 1 | 2 | | |
| | ALLⅡd2-17 | エアポート・エアライン研究 | | 1 | 2 | | |
| 短期留学 | ALLⅡd2-18 | ホスピタリティ・ツーリズムの英語 | | 1 | 2 | | |
| | ALLⅡd2-19 | 幼児教育・保育英語 | | 1 | 2 | | |
| | ALLⅡe2-20 | ハワイ短期留学 | | 1 | 2 | | |
| | ALLⅡe2-21 | ニュージーランド短期留学 | | 1 | 2 | | |
| | ALLⅡe2-22 | フランス短期留学 | | 1 | 2 | | |
| 卒業研究 | ALLⅡe2-23 | 中国短期留学 | | 1 | 2 | 4 | |
| | ALLⅡe2-24 | 韓国短期留学 | | 1 | 2 | | |
| | ALLⅡf4-25 | ★卒業研究 | ○ | 2 | 4 | | |
| リテラシー基礎 | ALLⅢa1-1 | 文章表現法 | ○ | 1 | 2 | 文科共通科目 | |
| | ALLⅢa1-2 | コミュニケーション論 | | 1 | 2 | | |
| | ALLⅢa1-3 | 伝える技術 | | 1 | 2 | | |
| カルチャー | ALLⅢb2-4 | 伝統文化論 | | 1 | 2 | | |
| | ALLⅢb2-5 | 地域文化論 | | 1 | 2 | | |
| | ALLⅢb2-6 | サブカルチャー論 | | 1 | 2 | | |
| | ALLⅢb2-7 | ジェンダー論 | | 1 | 2 | | |
| キャリアサポート | ALLⅢb2-8 | 環境文化論 | | 1 | 2 | | 2 |
| | ALLⅢc2-9 | キャリアデザイン演習（就職・編入サポート） | ○ | 1 | 2 | | |
| | ALLⅢc2-10 | 出版メディア論 | | 1 | 2 | | 2 |
| | ALLⅢc1-11 | ワークライフバランスと健康 | | 1 | 2 | | |
| | ALLⅢc1-12 | ホスピタリティを学ぶ | | 1 | 2 | | |
| | ALLⅢc1-13 | 秘書実務を学ぶ | | 1 | 2 | | |
| | ALLⅢc1-14 | ビジネス実務を学ぶA | | 1 | 2 | | |
| | ALLⅢc2-15 | ビジネス実務を学ぶB | | 1 | 2 | | |
| ALLⅢc1-16 | 日本語教育を学ぶ | | 1 | 2 | | | |
| 上記専門科目より 18 単位 (他コース・他学科開放科目 8 単位を含む) | | | | | | 18 | |

★通年科目

〔図書館司書〕

文科に在籍する学生は、共立女子大学文芸学部を設置している図書館司書課程の開講科目を科目等履修生として履修し、所定の単位を修得することによって、司書となる資格を取得することができます。

図書館司書課程開講科目を科目等履修生として履修することに関する詳細は **kyonet** を確認してください。

専門教育科目（心理学コース）

| 区分 | 科目 ナンバリング | 授業科目 | 主要 授業 科目 | 年次 | 単位 | 卒業 要件 | 社会福祉 主事 (任用資格) | 備考 |
|--|--------------|-----------------------|----------------|----|----|----------|----------------------|----|
| 心理学 | ALLⅢa1-1 | 心理学概論 | ○ | 1 | 2 | 2 | ○ | |
| | ALLⅢa1-2 | 心理測定法（パーソナリティ検査） | ○ | 1 | 2 | 2 | | |
| 発達・教育 心理学系 | ALLⅢb2-3 | 発達心理学Ⅰ | ○ | 1 | 2 | 6 | | |
| | ALLⅢb2-4 | 発達心理学Ⅱ | ○ | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅢb2-5 | 認知心理学 | ○ | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅢb2-6 | 教育心理学 | ○ | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅢb3-7 | 児童福祉論 | | 1 | 2 | | ○ | |
| | ALLⅢb3-8 | 音楽とこころ | | 1 | 2 | | | |
| 臨床心理学系 | ALLⅢc2-9 | 臨床心理学Ⅰ | ○ | 1 | 2 | 6 | | |
| | ALLⅢc2-10 | 臨床心理学Ⅱ | ○ | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅢc2-11 | 健康心理学 | ○ | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅢc2-12 | カウンセリング論 | ○ | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅢc3-13 | 精神障害者保健福祉論 | | 1 | 2 | | ○ | |
| | ALLⅢc3-14 | アートセラピーと化粧の心理学 | | 1 | 2 | | | |
| 社会心理学系 | ALLⅢd2-15 | 社会心理学 | ○ | 1 | 2 | 6 | | |
| | ALLⅢd2-16 | 消費者の心理 | ○ | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅢd2-17 | パーソナリティ心理学 | ○ | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅢd2-18 | 心理データ解析演習（SPSS） | ○ | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅢd3-19 | コミュニケーション心理 | | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅢd3-20 | 文学に見る行動心理 | | 1 | 2 | | | |
| ゼミナール・ 卒業研究 | ALLⅢe2-21 | 心理学ゼミナール | ○ | 1 | 2 | 2 | | |
| | ALLⅢe4-22 | ★卒業研究 | ○ | 2 | 4 | 4 | | |
| リテラシー 基礎 | ALLⅣa1-1 | 文章表現法 | ○ | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅣa1-2 | コミュニケーション論 | | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅣa1-3 | 伝える技術 | | 1 | 2 | | | |
| カルチャー | ALLⅣb2-4 | 伝統文化論 | | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅣb2-5 | 地域文化論 | | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅣb2-6 | サブカルチャー論 | | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅣb2-7 | ジェンダー論 | | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅣb2-8 | 環境文化論 | | 1 | 2 | | | |
| キャリア サポート | ALLⅣc2-11 | キャリアデザイン演習(就職・編入サポート) | ○ | 1 | 2 | 2 | | |
| | ALLⅣc2-9 | 出版メディア論 | | 1 | 2 | 2 | | |
| | ALLⅣc1-10 | ワークライフバランスと健康 | | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅣc1-12 | ホスピタリティを学ぶ | | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅣc1-13 | 秘書実務を学ぶ | | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅣc1-14 | ビジネス実務を学ぶA | | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅣc2-15 | ビジネス実務を学ぶB | | 1 | 2 | | | |
| | ALLⅣc1-16 | 日本語教育を学ぶ | | 1 | 2 | | | |
| 上記専門科目より 14 単位 (他コース・他学科開放科目 8 単位を含む・注) | | | | | | | 14 | |

★通年科目

〔社会福祉主事（任用資格）〕

地方公務員として福祉関係の仕事（福祉事務所や児童相談所）に任用された時に必要となる基礎資格です。所定の単位を修得することによって、卒業と同時に取得することができます。

社会福祉主事（任用資格）の取得を希望する学生は、担任または教務課へ履修に関する確認等をしてください。

〔図書館司書〕

文科に在籍する学生は、共立女子大学文芸学部設置している図書館司書課程の開講科目を科目等履修生として履修し、所定の単位を修得することによって、司書となる資格を取得することができます。

図書館司書課程開講科目を科目等履修生として履修することに関する詳細は **kyonet** を確認してください。

他コース開放科目

| 専攻 | 科目ナンバリング | 授業科目 | 年次 | 単位 | 備考 |
|--------------------|---------------|---|----|----|---|
| 日本文化・表現コース | ALL I a1-1 | ことばの仕組み I | 1 | 2 | |
| | ALL I a2-2 | ことばの仕組み II | 1 | 2 | |
| | ALL I a1-3 | 現代のことば I | 1 | 2 | |
| | ALL I a2-4 | 現代のことば II | 1 | 2 | |
| | ALL I b1-5 | 日本文学・文化の歴史 (古典) | 1 | 2 | |
| | ALL I b1-6 | 日本文学・文化の歴史 (近現代) | 1 | 2 | |
| | ALL I b2-7 | 物語を読む | 1 | 2 | |
| | ALL I b2-8 | 近代小説を読む | 1 | 2 | |
| | ALL I b3-9 | 物語の研究 I | 2 | 2 | |
| | ALL I b3-10 | 物語の研究 II | 2 | 2 | |
| | ALL I b3-11 | 近代小説の研究 I | 2 | 2 | |
| | ALL I b3-12 | 近代小説の研究 II | 2 | 2 | |
| | ALL I c1-13 | 児童文学論 | 1 | 2 | |
| | ALL I c1-14 | アニメの物語学 | 1 | 2 | |
| | ALL I c1-15 | 映画・演劇論 | 1 | 2 | |
| | ALL I c2-16 | 文学創作演習 | 1 | 2 | |
| | ALL I c2-17 | 映像メディア論 | 1 | 2 | |
| グローバル・コミュニケーションコース | ALL II a1-1 | Speaking (Intermediate) | 1 | 2 | プレACEMENTテストに基づいて (Intermedaite) または (Basic) のレベルを指定する。 |
| | ALL II a1-2 | Speaking (Basic) | 1 | 2 | |
| | ALL II a1-3 | Pronunciation | 1 | 2 | プレACEMENTテストに基づいて (Intermedaite) または (Basic) のレベルを指定する。 |
| | ALL II a1-4 | Writing (Intermediate) | 1 | 2 | |
| | ALL II a1-5 | Writing (Basic) | 1 | 2 | |
| | ALL II b1-6 | TOEIC Listening & Reading I (Intermediate) | 1 | 2 | |
| | ALL II b1-7 | TOEIC Listening & Reading I (Basic) | 1 | 2 | |
| | ALL II b2-8 | TOEIC Listening & Reading II (Intermediate) | 1 | 2 | |
| | ALL II b2-9 | TOEIC Listening & Reading II (Basic) | 1 | 2 | |
| | ALL II b3-10 | ビジネス英語 | 2 | 2 | |
| | ALL II b3-11 | プレゼンテーションスキル | 2 | 2 | |
| | ALL II c3-12 | 異文化間コミュニケーション | 2 | 2 | |
| | ALL II c3-13 | 映画で楽しむアメリカ文学 | 2 | 2 | |
| | ALL II c3-14 | 日英語比較研究 | 2 | 2 | |
| | ALL II c2-15 | 映画で学ぶ英語 | 1 | 2 | |
| | ALL II c2-16 | ポップソングで学ぶ英語 | 1 | 2 | |
| | ALL II d2-17 | エアポート・エアライン研究 | 1 | 2 | |
| | ALL II d2-18 | ホスピタリティ・ツーリズムの英語 | 1 | 2 | |
| | ALL II d2-19 | 幼児教育・保育英語 | 1 | 2 | |
| 心理学コース | ALL III a1-1 | 心理学概論 | 1 | 2 | |
| | ALL III b2-3 | 発達心理学 I | 1 | 2 | |
| | ALL III b2-4 | 発達心理学 II | 1 | 2 | |
| | ALL III b2-5 | 認知心理学 | 1 | 2 | |
| | ALL III b2-6 | 教育心理学 | 1 | 2 | |
| | ALL III b3-7 | 児童福祉論 | 1 | 2 | |
| | ALL III b3-8 | 音楽とこころ | 1 | 2 | |
| | ALL III c2-9 | 臨床心理学 I | 1 | 2 | |
| | ALL III c2-10 | 臨床心理学 II | 1 | 2 | |
| | ALL III c2-11 | 健康心理学 | 1 | 2 | |
| | ALL III c2-12 | カウンセリング論 | 1 | 2 | |
| | ALL III c3-13 | 精神障害者保健福祉論 | 1 | 2 | |
| | ALL III c3-14 | アートセラピーと化粧の心理学 | 1 | 2 | |
| | ALL III d2-15 | 社会心理学 | 1 | 2 | |
| | ALL III d2-16 | 消費者の心理 | 1 | 2 | |
| | ALL III d2-17 | パーソナリティ心理学 | 1 | 2 | |
| | ALL III d2-18 | 心理データ解析演習 (SPSS) | 1 | 2 | |
| | ALL III d3-19 | コミュニケーション心理 | 1 | 2 | |
| | ALL III d3-20 | 文学に見る行動心理 | 1 | 2 | |

9. カリキュラム・マップ

| 科目 ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | DP 1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | |
|--------------|-------------------|---|-------|------------|---------|----------|-----|---------|--|
| | | | 幅広い教養 | 社会への主体的な参画 | 専門的なスキル | 課題の探究・表現 | 友愛 | リーダーシップ | |
| LAA1-1 | 基礎ゼミナール | ①大学における「学修」の意味を理解し、大学生として、そして共立生として知っておくべきこと、自覚しておくべきことなど、学生生活に関する心構えやルールについて学び、ルールに基づいて行動できるようにする。 ②自らのキャリアを見据え、有意義で創造的な大学生活を送るための学修計画を自ら立てられるようになる。 ③図書館や学内システムの利用方法、演習、実験を行うための基礎的知識など、大学で学ぶための基本的な学修技法を身に付け、活用できるようにする。 ④共立ならではのリーダーシップとは何かを理解し、その重要性、有効性を把握する。また大学生活を通して、共立リーダーシップがどのように高められるのかを意識でき具体的な計画を立てられる。 | ◎ | | | | | ◎ | |
| LAA1-2 | 論理的思考・文章表現 | ①文章を書くための基本的知識や技能を習得し、実践できるようになる。 ②論理的思考法の意義や方法を理解し、それを資料分析や着想、論理構成に応用できるようになる。 ③資料を正しく読解・分析し、自分の意見を論理的な文章で表現できるようになる。 | ◎ | | | | | | |
| LAA1-3 | キャリアプランと自己実現 | ・短期大学でのキャリア教育や生涯学び続けることの重要性を理解し、それをふまえて自分の価値観や人生の目標を文章として明確に表現することができる。 ・「共立リーダーシップ」の考え方を理解し、自分自身の経験や社会の一員として目指すべき姿と関連づけて、自分の言葉で説明することができる。 ・自分を取り巻く社会の現状や解決すべき課題について、意識調査や実態データなどを参照して自ら調べ、多面的に理解することができる。 ・将来に向けての中長期的な目標や行動計画を立案することができる。 | ◎ | | | | | | |
| LAb1-1 | 課題解決のためのリーダーシップ入門 | ・共立リーダーシップを踏まえ、自分らしいリーダーシップを発揮し、協働活動の質を高めることができる。 ・課題の内容を把握し、具体的かつ適切な問題設定や分析、解決する提案を行えるようになる。 ・グループワークを円滑に進めるためにタスクの設定、分担、スケジュールを立案すると共に、グループ内で十分なコミュニケーションをとることができるようになる。 ・グループメンバーの様々な意見・考え方を理解し、建設的な相互フィードバックとフィードバックに基づく振り返りができるようになり、リーダーシップ開発の基本サイクルが身につく。 ・プレゼンテーション手法を学び、聞き手に主旨が伝わったり、説得力のあるプレゼンテーションができるようになる。 | ◎ | | | | | ◎ | |
| LAc1-1 | データサイエンスとICTの基礎 | 以下に挙げる概念等を深く理解するとともに、基礎的なデータ分析の結果を活用できる能力を身に付けている。 ①社会におけるデータ・AI 利活用 ②大学・短期大学におけるデータ・AI 利活用 ③データリテラシー … 統計の各種技法 ④データリテラシー … データの集計と分析 ⑤コンピュータシステムとコンピュータネットワーク | ◎ | | | | | | |

| 科目 ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | DP 1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|--------------|------------------------------|--|---|--|---|---|--|---|
| | | | 幅広い教養 | 社会への主体的な参画 | 専門的なスキル | 課題の探究・表現 | 友愛 | リーダーシップ |
| | | | 言語・文学・人間心理・文化を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、広く社会に貢献するための知識と理解力をもち、ことばを通して主体的に世界と関わるることができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、社会自生を生き抜くためのコミュニケーション・スキルを身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、自ら出たテーマを見つめる問題意識をもち、それを表現することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修で培った想像力や思いやり、細やかな配慮することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、他者との協同関係を築き、自分自身の役割先を行動することができる。 |
| LAc1-2 | 情報処理 | <ul style="list-style-type: none"> ・スプレッドシートソフトウェアの基本的な使用方法を理解し、応用的な計算や整った表作成ができる。 ・ワードプロセッサを使用してさまざまなレポートや論文の作成ができる。 ・プレゼンテーションソフトウェアを使用して、プレゼンテーションの内容に合った効果的なプレゼンテーション資料を作成できる。 ・スプレッドシートソフトウェアを使用して、基本的のみならず応用的なデータの集計や分析、表現ができる。 | ◎ | | | | | |
| LAc2-3 | 情報の分析と活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・スプレッドシートを用いた実践的な情報分析を行うことができる。 ・分析したデータの解釈ができる。 ・統計学の基礎的な知識と技能を身につけ、活用することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAc2-4 | データエンジニアリングとプログラミング基礎 | <ul style="list-style-type: none"> ・データ駆動型社会においてデータサイエンスを学ぶことの意義を理解できる。 ・分析目的に応じ、適切なデータ分析手法、データ可視化手法を選択できる。 ・データを可視化し、意味合いを導出することができる。 ・データを活用した一連のプロセスを体験し、データ利活用の流れ（進め方）を理解できる。 ・データを収集・処理・蓄積するための技術の概要を理解できる。 ・コンピュータでデータを扱うためのデータ表現の基礎を理解できる。 ・データベースから必要なデータを抽出し、データ分析のためのデータセットを作成できる。 ・データ処理に必要な数理的知識およびプログラミングの基本を理解できる。 | ◎ | | | | | |
| LAc2-5 | AIの基礎と応用 | <ul style="list-style-type: none"> ・AIのこれまでの変遷、各段階における代表的な成果物や技術背景を理解できる。 ・今後、AIが社会に受け入れられるために考慮すべき論点を理解できる。 ・自らの専門分野にAIを応用する際に求められるモラルや倫理について理解できる。 ・機械学習（教師あり学習、教師なし学習）、深層学習、強化学習の基本的な概念を理解できる。 ・AI技術（学習、認識、予測、判断、知識・言語）を活用し、課題解決につなげることができる。 | ◎ | | | | | |
| LAc2-6 | 課題解決のためのデータエンジニアリング | <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンス・データエンジニアリングの基礎的な知識とスキルを用いて分析することができる。 ・分析した内容を効果的に発信することができる。 ・プレゼンテーションソフトウェアを用いた実践的でわかりやすい資料を作成できる。 ・産業界の実情を深く理解し、それにふさわしい分析および資料作成ができる。 | ◎ | | | | | |
| LAd1-1 | 英語コミュニケーション I (Basic) | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的なレベルの英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 ・基礎的なレベルのコミュニケーションで英語で正確に表現することができる。 ・基礎的なレベルのコミュニケーションに必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAd1-2 | 英語コミュニケーション I (Intermediate) | <ul style="list-style-type: none"> ・平易な日常英会話レベルの英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 ・平易な日常英会話レベルのコミュニケーションで英語で正確に表現することができる。 ・平易な日常英会話レベルのコミュニケーションに必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | ◎ | | | | | |

| 科目 ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | DP 1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|--------------|-------------------------------------|--|-------|------------|---------|----------|-----|---------|
| | | | 幅広い教養 | 社会への主体的な参画 | 専門的なスキル | 課題の探究・表現 | 友愛 | リーダーシップ |
| LAd1-3 | 英語コミュニケーション I (High-Intermediate) | <ul style="list-style-type: none"> 高度な日常英会話レベルの英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 高度な日常英会話レベルのコミュニケーションで英語で正確に表現することができる。 高度な日常英会話レベルのコミュニケーションに必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAd1-4 | 英語コミュニケーション I (Advanced) | <ul style="list-style-type: none"> 特定のトピックに関する英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 特定のトピックに関して、英語で正確に、持続的に表現することができる。 特定のトピックに関する会話に必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAd1-5 | 英語コミュニケーション II (Basic) | <ul style="list-style-type: none"> 基礎的なレベルの英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 基礎的なレベルのコミュニケーションで英語で正確に表現することができる。 基礎的なレベルのコミュニケーションに必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAd1-6 | 英語コミュニケーション II (Intermediate) | <ul style="list-style-type: none"> 平易な日常英会話レベルの英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 平易な日常英会話レベルのコミュニケーションで英語で正確に表現することができる。 平易な日常英会話レベルのコミュニケーションに必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAd1-7 | 英語コミュニケーション II (High-Intermediate) | <ul style="list-style-type: none"> 高度な日常英会話レベルの英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 高度な日常英会話レベルのコミュニケーションで英語で正確に表現することができる。 高度な日常英会話レベルのコミュニケーションに必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAd1-8 | 英語コミュニケーション II (Advanced) | <ul style="list-style-type: none"> 特定のトピックに関する英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 特定のトピックに関して、英語で正確に、持続的に表現することができる。 特定のトピックに関する会話に必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAd2-17 | 英語コミュニケーション III (Basic) | <ul style="list-style-type: none"> 日常英会話レベルの英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 日常英会話レベルのコミュニケーションで英語で正確に表現することができる。 日常英会話レベルのコミュニケーションに必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAd2-18 | 英語コミュニケーション III (Intermediate) | <ul style="list-style-type: none"> 特定のトピックに関する平易な英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 特定のトピックに関して、英語で正確に、持続的に表現することができる。 特定のトピックに関する平易な会話に必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAd2-19 | 英語コミュニケーション III (High-Intermediate) | <ul style="list-style-type: none"> 特定のトピックに関する高度な英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 特定のトピックに関して、英語で正確に、持続的に表現することができる。 特定のトピックに関する高度な会話に必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | ◎ | | | | | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | DP1 幅広い教養 | DP2 社会への主体的な参画 | DP3 専門的なスキル | DP4 課題の探究・表現 | DP5 友愛 | DP6 リーダーシップ |
|----------|----------------------------------|--|---|--|---|--|--|--|
| | | | 言語・文学・人間心理・文化を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、広く社会に貢献するための知識と理解力をもち、ことばを通して主体的に世界と関わるることができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、社会を生き抜くためのコミュニケーション・スキルを身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、見つけ出し追求する問題意識をもち、それを表現することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修で培った想像力や、細やかなり、細やかな配慮することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の他者との相互関係や、自分の役割先を行動することができる。 |
| LAd2-20 | 英語コミュニケーションⅡ (Advanced) | <ul style="list-style-type: none"> 専門的な内容の英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 専門的な内容の議論で、英語で正確に、持続的に表現することができる。 専門的な内容の議論に必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAd2-21 | 英語コミュニケーションⅣ (Basic) | <ul style="list-style-type: none"> 日常英会話レベルの英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 日常英会話レベルのコミュニケーションで英語で正確に表現することができる。 日常英会話レベルのコミュニケーションに必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAd2-22 | 英語コミュニケーションⅣ (Intermediate) | <ul style="list-style-type: none"> 特定のトピックに関する平易な英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 特定のトピックに関して、英語で正確に、持続的に表現することができる。 特定のトピックに関する平易な会話に必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAd2-23 | 英語コミュニケーションⅣ (High-Intermediate) | <ul style="list-style-type: none"> 特定のトピックに関する高度な英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 特定のトピックに関して、英語で正確に、持続的に表現することができる。 特定のトピックに関する高度な会話に必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAd2-24 | 英語コミュニケーションⅣ (Advanced) | <ul style="list-style-type: none"> 専門的な内容の英語を正確に聞き取り、解釈することができる。 専門的な内容の議論で、英語で正確に、持続的に表現することができる。 専門的な内容の議論に必要な語彙を十分に習得し、正確に使用することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAd1-9 | TOEIC I (Basic) | <ul style="list-style-type: none"> TOEIC 400点レベルの会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 英文を正確に理解できる。 文法や語彙の知識が十分に身に付いており、使用できる。 | ◎ | | | | | |
| LAd1-10 | TOEIC I (Intermediate) | <ul style="list-style-type: none"> TOEIC 500点レベル（企業が新入社員に期待するレベルの英語力）の会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 英文を正確に理解できる。 文法や語彙の知識が十分に身に付いており、使用できる。 | ◎ | | | | | |
| LAd1-11 | TOEIC I (High-Intermediate) | <ul style="list-style-type: none"> TOEIC 500点レベル（企業が新入社員に期待するレベルの英語力）以上の会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 英文を正確に理解できる。 文法や語彙の知識が十分に身に付いており、使用できる。 | ◎ | | | | | |
| LAd1-12 | TOEIC I (Advanced) | <ul style="list-style-type: none"> TOEIC 600点レベル（上場企業の一般社員に求められるレベルの英語力）の会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 英文を正確に理解できる。 文法や語彙の知識が十分に身に付いており、使用できる。 | ◎ | | | | | |
| LAd1-13 | TOEIC II (Basic) | <ul style="list-style-type: none"> TOEIC 500点レベル（企業が新入社員に期待するレベルの英語力）の会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 英文を正確に理解できる。 文法や語彙の知識が十分に身に付いており、使用できる。 | ◎ | | | | | |
| LAd1-14 | TOEIC II (Intermediate) | <ul style="list-style-type: none"> TOEIC 600点レベル（上場企業の一般社員に求められるレベルの英語力）の会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 英文を正確に理解できる。 文法や語彙の知識が十分に身に付いており、使用できる。 | ◎ | | | | | |

| 科目 ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | DP 1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|--------------|-------------------------------|--|-------|------------|---------|----------|-----|---------|
| | | | 幅広い教養 | 社会への主体的な参画 | 専門的なスキル | 課題の探究・表現 | 友愛 | リーダーシップ |
| LAd1-15 | TOEIC II (High-Intermediate) | TOEIC 600 点レベル（上場企業の一般社員に求められるレベルの英語力）以上の ・会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 ・英文を正確に理解できる。 ・文法や語彙の知識が十分に身につけており、使用できる。 | ◎ | | | | | |
| LAd1-16 | TOEIC II (Advanced) | TOEIC 700 点レベル（海外部門で働くことができるレベルの英語力）の ・会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 ・英文を正確に理解できる。 ・文法や語彙の知識が十分に身につけており、使用できる。 | ◎ | | | | | |
| LAd2-25 | TOEIC III (High-Intermediate) | TOEIC 700 点レベル（海外部門で働くことができるレベルの英語力）の ・会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 ・英文を正確に理解できる。 ・文法や語彙の知識が十分に身につけており、使用できる。 | ◎ | | | | | |
| LAd2-26 | TOEIC III (Advanced) | TOEIC 800 点レベル（海外赴任や英語での会議ができるレベル）の ・会話やナレーションを正確に聞き取ることができる。 ・英文を正確に理解できる。 ・文法や語彙の知識が十分に身につけており、使用できる。 | ◎ | | | | | |
| L Ae1-1 | フランス語 I | 1. フランス語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. フランス語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. フランス語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. フランス語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. フランス語圏の文化に関する初歩的な事象についての的確に説明することができる。 | ◎ | | | | | |
| L Ae1-2 | フランス語 II | 1. フランス語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 2. フランス語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その運用に習熟することができる。 3. フランス語圏の文化に関する基本的な事象について正確に説明することができる。 | ◎ | | | | | |
| L Ae2-19 | フランス語 III | 1. フランス語の初級から中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. フランス語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. フランス語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 4. グループワークでは他者とよく協力することができる。 | ◎ | | | | | |
| L Ae2-20 | フランス語 IV | 1. フランス語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. フランス語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. フランス語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 4. グループワークでは他者とよく協力することができる。 | ◎ | | | | | |

| 科目 ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | DP1 幅広い教養 | DP2 社会への主体的な参画 | DP3 専門的なスキル | DP4 課題の探究・表現 | DP5 友愛 | DP6 リーダーシップ |
|--------------|-------|--|---|---|---|--|---|--|
| | | | 言語・文学・人間心理・文化を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、広く社会に貢献するための知識と理解力をもち、ことばを通して主体的に世界と関わることができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、社会を生き抜くためのコミュニケーション・スキルを身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、見つけ出し追求する問題意識をもち、それを表現することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修で培った想像力を持ち、周りの人々を思いやり、細やかに配慮することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、他者との相互関係を築き上げ、集団の役割先して行動することができる。 |
| LAe1-3 | 中国語Ⅰ | 1. 中国語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. 中国語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. 中国語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. 中国語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. 中国語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAe1-4 | 中国語Ⅱ | 1. 中国語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 2. 中国語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その運用に習熟することができる。 3. 中国語圏の文化に関する基本的な事象について正確に説明することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAe2-21 | 中国語Ⅲ | 1. 中国語の初級から中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. 中国語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. 中国語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 4. グループワークでは他者とよく協力することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAe2-22 | 中国語Ⅳ | 1. 中国語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. 中国語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. 中国語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 4. グループワークでは他者とよく協力することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAe1-5 | ドイツ語Ⅰ | 1. ドイツ語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. ドイツ語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. ドイツ語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. ドイツ語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. ドイツ語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAe1-6 | ドイツ語Ⅱ | 1. ドイツ語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 2. ドイツ語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その運用に習熟することができる。 3. ドイツ語圏の文化に関する基本的な事象について正確に説明することができる。 | ◎ | | | | | |

| 科目 ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | DP 1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|--------------|--------|--|---|--|--|--|---|---|
| | | | 幅広い教養 | 社会への主体的な参画 | 専門的なスキル | 課題の探究・表現 | 友愛 | リーダーシップ |
| | | | 言語・文学・人間心理・文化を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、広く社会に貢献するための知識と理解力を持ち、ことばを通して主体的に世界と関わるることができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、社会を生き抜くためのコミュニケーションスキルを身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、見つけ出し追求する問題意識を表現することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修で培った想像力を持ち、思いやり、細やかな配慮することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、関係者や仲間との関係性や役割の自分率先して行動することができる。 |
| LAe2-23 | ドイツ語Ⅱ | 1. ドイツ語の初級から中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. ドイツ語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. ドイツ語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 4. グループワークでは他者とよく協力することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAe2-24 | ドイツ語Ⅳ | 1. ドイツ語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. ドイツ語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. ドイツ語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 4. グループワークでは他者とよく協力することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAe1-7 | コリア語Ⅰ | 1. コリア語の発音の仕組みや特徴を理解することができる。 2. コリア語の文字表記の仕組みや特徴を理解することができる。 3. コリア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解することができる。 4. コリア語の基礎的な文法や構文を理解することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAe1-8 | コリア語Ⅱ | 1. コリア語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. コリア語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. コリア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. コリア語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. コリア語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAe2-25 | コリア語Ⅲ | 1. コリア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用を行うことができる。 2. コリア語の基礎的な文法や構文を理解し、その実践的な運用を行うことができる。 3. コリア語圏の文化に関する一般的な事象について、概略を説明することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAe2-26 | コリア語Ⅳ | 1. コリア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. コリア語の基礎的な文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. コリア語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAe1-9 | スペイン語Ⅰ | 1. スペイン語の発音の仕組みや特徴を理解することができる。 2. スペイン語の文字表記の仕組みや特徴を理解することができる。 3. スペイン語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解することができる。 4. スペイン語の基礎的な文法や構文を理解することができる。 | ◎ | | | | | |

| 科目 ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価A） | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|--------------|--------|---|---|--|--|---|---|---|
| | | | 幅広い教養 | 社会への主体的な参画 | 専門的なスキル | 課題の探究・表現 | 友愛 | リーダーシップ |
| | | | 言語・文学・人間心理・文化を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、広く社会に貢献するための知識と理解力を持ち、ことばを通して主体的に世界と関わるることができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、自ら分けとるべき社会をコミュニケーション・スキルを身に付けている。 | 言語・文学・文化の学修を通して、自らテーマを見出し追求する問題意識を持ち、それを表現することができる。 | 言語・文学・文化の学修で培った想像力を持ち、周りの人々や、思いや配慮することができる。 | 言語・文学・文化の学修を通して、他者との相互関係を築き上げ、集団の役割先して行動することができる。 |
| LAe1-10 | スペイン語Ⅱ | 1. スペイン語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. スペイン語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. スペイン語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. スペイン語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. スペイン語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | ○ | | | | | |
| LAe2-27 | スペイン語Ⅲ | 1. スペイン語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用を行うことができる。 2. スペイン語の基礎的な文法や構文を理解し、その実践的な運用を行うことができる。 3. スペイン語圏の文化に関する一般的な事象について、概略を説明することができる。 | ○ | | | | | |
| LAe2-28 | スペイン語Ⅳ | 1. スペイン語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. スペイン語の基礎的な文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. スペイン語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 | ○ | | | | | |
| LAe1-11 | イタリア語Ⅰ | 1. イタリア語の発音の仕組みや特徴を理解することができる。 2. イタリア語の文字表記の仕組みや特徴を理解することができる。 3. イタリア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解することができる。 4. イタリア語の基礎的な文法や構文を理解することができる。 | ○ | | | | | |
| LAe1-12 | イタリア語Ⅱ | 1. イタリア語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. イタリア語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. イタリア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. イタリア語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. イタリア語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | ○ | | | | | |
| LAe1-13 | アラビア語Ⅰ | 1. アラビア語の発音の仕組みや特徴を理解することができる。 2. アラビア語の文字表記の仕組みや特徴を理解することができる。 3. アラビア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解することができる。 4. アラビア語の基礎的な文法や構文を理解することができる。 | ○ | | | | | |
| LAe1-14 | アラビア語Ⅱ | 1. アラビア語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. アラビア語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. アラビア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. アラビア語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. アラビア語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | ○ | | | | | |

| 科目 ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|--------------|-------------------|--|---|--|---|--|---|---|
| | | | 幅広い教養 | 社会への主体的な参画 | 専門的なスキル | 課題の探究・表現 | 友愛 | リーダーシップ |
| LAe1-15 | 基礎日本語Ⅰ （留学生対象） | 上級レベルの語彙や文法、表現などを理解するとともに、それらを活用しながら、専門書を読む準備段階としての読解が十分にできる。 | 言語・文学・人間心理・文化を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、広く社会に貢献するための知識と理解力をもち、ことばを通して主体的に世界と関わることをすることができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、社会を生き抜くためのコミュニケーション・スキルを身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、見つけ出し追求する問題意識を持ち、それを表現することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修で培った想像力をもち、思いやりの人々を、思い配慮することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、関係者や仲間との協同関係を築き、集団の役割を自分なりに見出し、率先して行動することができる。 |
| LAe1-16 | 基礎日本語Ⅱ （留学生対象） | 話しことばと書きことばの違いを理解し、論理的な文章に特有な表現を用いたり、段落構成を考えたりしながら、レポートや論文作成に必要な文章表現が十分にできる。 | ○ | | | | | |
| LAe2-17 | 応用日本語Ⅰ （留学生対象） | 講義の聴き方やノートのとおり方、情報収集の方法など、講義や演習などの学習場面において必要となるスキルの運用が十分にできる。 | ○ | | | | | |
| LAe2-18 | 応用日本語Ⅱ （留学生対象） | 1. 口頭発表やレポート作成のためのスキルを十分に運用することができる。 2. キャンパス内外での円滑なコミュニケーション（挨拶や質問の仕方、メールの書き方など）に必要なスキルを十分に運用することができる。 | ○ | | | | | |
| LAf1-1 | 日本の歴史を学ぶ | 講義の内容を十分に理解し、取り上げられた日本史の歴史的事象のうち、基本的な事柄について十分に説明することができる。 | ○ | | | | | |
| LAf1-2 | 世界の歴史を学ぶ | ・世界の歴史が、各地域で独立して存在しているのではなく、相互の結びつきの中で形成されていることを十分に理解し、解釈できるようになる。 ・それぞれの時代における世界の各地域の結びつき方（結びつける要因）について、具体的に説明することができる。 ・それぞれの時代の各地域の状況について、その概要を正確に説明することができる。 ・現在のグローバル化を歴史的な背景から具体的に解釈することができる。 | ○ | | | | | |
| LAf1-3 | 人間と地理を学ぶ | ・人間活動の地理的分布についての様々なテーマを的確に設定し、その特徴を人文地理学的に理解できる。 ・地形図などの地図に表現された内容から、授業で扱うテーマに関する情報を抽出し具体的に説明できる。 ・地図やグラフなどから抽出した情報を、地理学の専門用語を用いて具体的に説明できる。 | ○ | | | | | |
| LAf1-4 | 文学をひらく | 1) 授業で取り上げられた文学作品を、表現に即して理解し、創造的・発展的に解釈することができる。また、その内容を、自分自身の言葉で明確に表現できるようになる。 2) 授業で取り上げられた文学作品の鑑賞を通して、文学表現の特質や多様性について知り、またそれらを、文学作品の背景にある歴史的・社会的なコンテキストと結びつけて考えることができるようになる。 3) 文学作品に表現された深い人間理解を通じて、日々の生活における自己や他者、さらには社会のありようを見つめ直す視点が持てるようになる。 | ○ | | | | | |
| LAf1-5 | 芸術をひらく | ・美術・音楽・演劇などを芸術として成り立たせている社会的な枠組みや、創造の過程、受容のされ方といった芸術をめぐる問題のあり方について正確に説明できるようになる。 ・価値観の多様性への視点を身につけた上で、みずから問いを立て、芸術についての考え方をを用いて深く考察することができるようになる。 ・授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる。 | ○ | | | | | |

| 科目 ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | DP 1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|--------------|------------------|--|---|--|---|---|---|--|
| | | | 幅広い教養 | 社会への主体的な参画 | 専門的なスキル | 課題の探究・表現 | 友愛 | リーダーシップ |
| | | | 言語・文学・人間心理・文化を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、広く社会に貢献するための知識と理解力をもち、ことばを通して主体的に世界と関わる事ができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、社会を生き抜くためのコミュニケーション・スキルを身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、自らテーマを見つけて追求する問題意識を持ち、それを表現することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修で培った想像力を持ち、周りの人々を思いやり、細やかに配慮することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、他者との相互関係や仲間意識を見出し、率先して行動することができる。 |
| LAf1-6 | 哲学とは何か | 1. 人間に関する関係主義的理解と実存主義的理解について論理的分析的に説明できるようになる。 2. 人間（社会）の在り方の歴史の変遷について具体例を示しながら説明できるようになる。 3. 人間の本質に関する現代の代表的哲学説を専門概念を用いて説明できるようになる。 4. 現代の人間疎外の本質に関する哲学説を論理的に説明し、自分の言葉で敷衍出来るようになる。 | ◎ | | | | | |
| LAf1-7 | 心理学を学ぶ | (1) 心理学の基礎的な概念を理論と関連づけて説明できる。 (2) 心理学研究の技法を、実践例をふまえて説明できる。 (3) 心理学の理論に基づいて日常生活の出来事を分析し考察できる。 (4) 心理学の知識を対人関係や日常的なメンタルヘルスの改善に活かそうとする意欲を、具体的な目標と共に表現できる。 | ◎ | | | | | |
| LAf1-8 | 自己開発 A | ・自らの意思による異文化との交流等の活動を通して、積極性が身につく、自分の人生観や世界観を広げることができるようになる。 ・活動を通じて、創造的に人生を送るための問題意識や知識をしっかりと身につけることができるようになる。 | ◎ | | | | | |
| LAf1-9 | 自己開発 B | ・自らの意思による社会活動を通して、積極性が身につく、自分の人生観や世界観を広げることができるようになる。 ・活動を通じて、創造的に人生を送るための問題意識や知識をしっかりと身につけることができるようになる。 | ◎ | | | | | |
| LAG1-1 | 法律を学ぶ （日本国憲法） | ・法の役割・性質について、講義で学習した様々な角度から説明することができる。 ・憲法の考え方の基本について、講義で学習した内容を踏まえて説明することができる。 ・日本国憲法について、その制定過程・基本原則・憲法の保障する権利と憲法に定める統治機構の仕組みを説明することができる。 ・法と私たちの生活との関わりを理解し、法が形作る社会制度のあり方について、自身の考えを示すことができる。 | ◎ | | | | | |
| LAG1-2 | 法律を学ぶ（概論） | ・この授業で扱う「法」の概念や裁判制度に関する知識を修得している。 ・この授業で学んだ法解釈の技能に基づいて、身の回りの社会問題・生活問題の解決方法を考察することができる。 ・社会生活のルールに関心があり、公平な制度・解釈を求めることについて意欲を有している。 | ◎ | | | | | |
| LAG1-3 | 政治を学ぶ | 1. 政治学の基礎概念について、社会科学の用語を用いて正確に説明できる。 2. 日本社会における利害や価値をめぐる紛争や対立の事例を見出し、政治学の基礎概念を用いて分析することができる。 | ◎ | | | | | |
| LAG1-4 | 倫理学とは何か | ・人間関係のあり方、ものの考え方など倫理のさまざまな問題、また、近代以降の科学信仰によってもたらされた人間概念の変容について、明確に説明することができるようになる。 ・自己や他者をめぐる倫理学の考え方を身につけた上で、みずから問いを立て、倫理学の発想を用いて深く考察することができるようになる。 ・授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる。 | ◎ | | | | | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | DP 1 幅広い教養 言語・文学・人間心理・文化を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | DP2 社会への主体的な参画 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、広く社会に貢献するための知識と理解力をもち、ことばを通して主体的に世界と関わる事ができる。 | DP3 専門的なスキル 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、社会自生をたくためをコミュニケーション・スキルを身に付けている。 | DP4 課題の探究・表現 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、見つけ出し追求する問題意識をもち、それを表現することができる。 | DP5 友愛 言語・文学・人間心理・文化の学修で培った想像力や思いやり、細やかな配慮することができる。 | DP6 リーダーシップ 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、他者や仲間との関係性や役割先を自分自身で見出し、行動することができる。 |
|----------|------------|--|--|---|---|---|---|--|
| LAg1-5 | 国際関係を学ぶ | 現在の国際秩序に関する概念的な理解を深めるとともに、国際社会におけるさまざまな主体や集団、国際的な原則や諸制度の特徴、そして国際関係における暴力と平和や協力の問題について理解できる。国際関係で起こるさまざまな問題について自分なりに考察できる。 | ◎ | | | | | |
| LAg1-6 | 地域社会と家族を学ぶ | ・現代の家族を取り巻く課題について、独自の考えを持って説明できる。 ・家族および個人・社会との関係やその影響について、客観的な視点で理解できる。 | ◎ | | | | | |
| LAg1-7 | 経済を学ぶ | 現実日本や世界経済で発生している現象に興味を持ち、学習した理論を応用して、自らそれらを説明する能力を身に付けている。 | ◎ | | | | | |
| LAg1-8 | 社会を学ぶ | ・授業を通して得た教養を通して自分の人生観や世界観を広げることができるようになる。 ・社会学的な問題意識と社会学的方法論を用いて、現代社会の諸問題がどのように論じられているかを説明できる。 | ◎ | | | | | |
| LAg1-9 | 企業と社会の仕組み | 企業・組織のしくみについて、自分自身の問題として落とし込み、独自の考えを加えながら説明できる。 | ◎ | | | | | |
| LAg1-10 | マーケティング | ・この授業で紹介されるマーケティングの基礎的な概念や理論を理解している。 ・上記の概念や理論を使って問題を自分の頭で整理し、自分のことばで他者に明確にその問題の本質を論理的な文章などで表現し伝えることができる。 | ◎ | | | | | |
| LAg1-11 | 女性の生き方と社会 | ①女性の社会的地位の歴史とその権利獲得のためのたたかひの歴史を理解できるようになる。 ②女性が直面する社会的課題とその背景について理解できるようになる。 ③②を解決するための方法を理解できるようになる。 ④①～③を「自分ごと」として認識し、その思考の成果を口頭で発表したり文章にしたりできるようになる。 | ◎ | | | | | |
| LAh1-1 | 自然と地理を学ぶ | ・世界各地の地形、気候、水文、植生など様々な自然環境の特徴を、自然地理学の専門用語を用いて具体的に説明できる。 ・自然環境と人間生活の関係を十分に理解し、自然災害など自然環境の急変に対応するための方法を主体的に提言できる。 ・地形図に記載された情報を十分に理解したうえで、そこに記載された地形、植生などの自然環境の特徴を具体的に説明できる。 | ◎ | | | | | |
| LAh1-2 | 数学への招待 | 1. 様々な社会の出来事で得られたデータの分析・解析・考察ができる 2. データから予測ができる 3. 身の回りのものから数学を感じとることができる 4. 数学の理論から応用化を感じとることができる 5. 数学の便利さに気づくことができる | ◎ | | | | | |
| LAh1-3 | 生物学への招待 | 1) 人体の構造と機能について、具体的な器官や分子を例に説明できる。 2) 生物の進化について、人類にいたる一連の流れを説明できる。 3) 遺伝子と疾病・老化との関係について、関連遺伝子を例に説明できる。 4) 人間の営みと地球環境との関係について、具体的な事例をもとに説明できる。 | ◎ | | | | | |

| 科目 ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | DP 1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|--------------|------------|--|---|--|---|---|---|---|
| | | | 幅広い教養 | 社会への主体的な参画 | 専門的なスキル | 課題の探究・表現 | 友愛 | リーダーシップ |
| | | | 言語・文学・人間心理・文化を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、広く社会に貢献するための知識と理解力をもち、ことばを通して主体的に世界と関わるることができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、社会自生を生き抜くためのコミュニケーション・スキルを身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、自らテーマを見つけて追求する問題意識をもち、それを表現することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修で培った想像力をもち、思いやり、細やかな配慮することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、他者との相互関係やり上げ、集団の役割先して行動することができる。 |
| LAh1-4 | 物理学への招待 | 1) 力学・熱学・波動論・電磁気学といった古典物理学の基礎体系を理解し、日常生活や学業生活に活用できる。 2) 物理学に関する必要な情報を自分で探索・調査し、正しい情報を選んで利用できるリテラシーを獲得している。 | ◎ | | | | | |
| LAh1-5 | 化学への招待 | 1. 授業にほぼ出席し、スライドに書かれたことをノートにとり、スライドに書かれていなくても話の中で重要な点をメモできる。 2. 授業内容に関する試験問題に関して、解答例を記憶して正答が書ける。 3. 自然科学的な見方（自然現象における因果関係の探求）に関して、資料やノートを見ながら、説明ができる。 | ◎ | | | | | |
| LAI1-1 | 健康スポーツ実習 A | ・運動に親しむ姿勢を持ち、自ら積極的に活動する態度を身につけることができる。 ・自分自身の体力や心身の健康問題に気づき、それらを改善・向上させるための改善策を考え、実践することができる。 ・学生同士のコミュニケーションを図ることができ、積極的に人間関係を構築するための主体的な活動及び協働して学習することができる。 ・日常生活を営むために必要な体力および健康の維持・増進に関する運動の必要性とその役割を理解できる。 ・生涯を通して楽しむことのできる運動やスポーツの技術や知識を理解し、身につけることができる。 | ◎ | | | | | |
| LAI1-2 | 健康スポーツ実習 B | ・自分に合った運動活動において、その運動やスポーツの文化的・社会的背景が理解できる。 ・運動技術や自身の体力について、より向上を目指した活動ができる。 ・学生同士のコミュニケーションを図ることができ、積極的に人間関係を構築するための主体的な活動及び協働して学習することができる。 ・日常生活を営むために必要な体力および心身の健康の維持・増進に関する運動の必要性とその役割を理解できる。 ・生涯を通して楽しむことのできる運動やスポーツの技術や知識を理解し、身につけることができる。 | ◎ | | | | | |
| LAI2-1 | 現代社会の諸課題 | ・授業によって得た教養を通して自分の人生観や世界観を広げることができるようになる。 ・創造的に人生を送るための問題意識や関心を持つことができるようになる。 ・他者と協働しながら、分析・企画・提案ができるようになる。 ・目標達成のために、他者と協力的にコミュニケーションを取り、計画的に行動することができるようになる。 | ○ | | | | | ◎ |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | DP 1 幅広い教養 言語・文学・人間心理・文化を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | DP2 社会への主体的な参画 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、広く社会に貢献するための知識と理解力をもとに、ことばを通して主体的に世界と関わる事ができる。 | DP3 専門的なスキル 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、社会を生き抜くためのコミュニケーションスキルを身に付けている。 | DP4 課題の探究・表現 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、見つけ出し追求する問題意識を表現することができる。 | DP5 友愛 言語・文学・人間心理・文化の学修で培った思いやり、細やかな配慮をもち、思いやることができる。 | DP6 リーダーシップ 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、他者や仲間との関係性を見出し、率先して行動することができる。 |
|----------|----------------|---|--|--|--|---|---|---|
| LAj2-2 | リーダーシップ開発演習 I | <ul style="list-style-type: none"> リーダーシップの発揮において、論理的思考や多様性を理解したコミュニケーションが必要であることを理解する。 リーダーシップの発揮において、論理的思考と多様性を理解したコミュニケーションスキルを使えるようになる。 これまでに自らが経験したグループ活動プロセスを振り返り、それぞれがどのようなリーダーシップを発揮しグループの成果にインパクトを与えたのか、そして、その学びを今後の行動にどのような活かすのかを考え、共有することができる。 自分らしいリーダーシップの探究を通じて、グループ内や授業内における主体的な学びと他者との協働によって成長することへの関心、意欲、態度が醸成される。 | ○ | | | | | ◎ |
| LAj2-3 | リーダーシップ開発演習 II | <ul style="list-style-type: none"> グループワークを通じた課題解決において、個々のリーダーシップの発揮が重要であることと、リーダーシップの実践に最小三要素（1. 目標共有 2. 率先垂範 3. 相互支援）が必要であることを理解する。 グループワークと課題解決において、自ら主体的に行動するための基本的なコミュニケーションスキルを使えるようになる。 グループワークと課題解決においてどのようなリーダーシップを発揮するかを考え、メンバーに共有することができる。 グループワークと課題解決において、グループとしての成果を高めるために自分ができることを他者に示すと同時に、他者の協力を仰ぐことができるようになる。 | ○ | | | | | ◎ |
| LAj2-4 | サービス・ラーニング実践演習 | <ul style="list-style-type: none"> 地域社会の諸課題の解決に取り組む学修を通して、幅広い視野・柔軟な思考力・物事への理解力を身に付けるとともに、あらゆる物事への問題意識・関心を持つことができるようになる。 地域社会の諸課題への取り組みを通じて、その後の学修や自身の社会的役割について新たな視座を得ることができる。 社会活動や協働活動を通じて、自ら課題を発見・理解し、発見した課題を適切に整理・分析、解決に導くことができるようになる。 目標を明確に掲げチームで共有したうえで、率先して行動し、目標達成のために他者と協働することができるようになる。 多様なメンバーや地域の方との協働により、他者との相互理解・相互支援を実践しながら、自身の周囲の人々や物事との関係性を理解し、新たな価値を創造やよりよい社会を実現しようとする意識を持つことができる。 | ○ | | | | | ◎ |
| LAK2-1 | ファシリテーション入門 | <ul style="list-style-type: none"> 授業運営支援としてのファシリテーションを十分に観察、または自信をもって実践できる。 チームビルディングの複数の手法を体験し、その効果の生み出し方と大切さを理解している。 実践的なコミュニケーションスキルを知り、自ら伸ばす点を整理できる。コーチング手法の初歩を学び、他者の成長支援における活用イメージを持つことができる。 ロジカルライティングの実践を通じて、わかりやすく他者に伝えるポイントを理解している。 一般的な教材における基本的な構造を知り、学びを生み出す教材について理解が十分に深まっている。 | ○ | | | | | ◎ |

| 科目 ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価A） | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|--------------|------------|--|---|---|---|---|--|--|
| | | | 幅広い教養 | 社会への主体的な参画 | 専門的なスキル | 課題の探究・表現 | 友愛 | リーダーシップ |
| | | | 言語・文学・人間心理・文化を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、広く社会に貢献するための知識と理解力をもつことばを世界と関わることができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、社会を生き抜くためのコミュニケーション・スキルを身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、自ら課題を見出し追求する問題意識を表現することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修で培った想像力を持ち、思いやりの人々を思い配慮することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、他者との相互関係や協同関係を見出し、自分の役割を率先して行動することができる。 |
| LAK2-2 | ファシリテーションA | ・リーダーシップ開発演習IおよびIIのLA（ラーニングアシスタント）として主体的、積極的に活動して、履修生の課題解決に十分に貢献している。 ・ファシリテーションとは何か、ファシリテーターの役割とは何かなどファシリテーションの基礎を十分に理解している。 ・基礎的なファシリテーションスキルを十分に修得している。 | ○ | | | | | ◎ |
| LAK2-3 | ファシリテーションB | ・リーダーシップ開発演習IおよびIIのLA（ラーニングアシスタント）として主体的、積極的に活動して、履修生の課題解決に十分に貢献している。 ・ファシリテーションが必要とされる理由を理解し、合意形成、相互理解のサポート及び組織や参加者の活性化を促進するための知識を十分に身に付けている。 ・合意形成、相互理解のサポート及び組織や参加者の活性化を促進するファシリテーションスキルを十分に修得している。 | ○ | | | | | ◎ |
| ALL I a1-1 | ことばの仕組み I | ・授業を通して、ことばが伝達されるためのことばの仕組みについて基本的な仕組みや規則についてしっかりと理解できるようになる。（幅広い教養） ・ことばの仕組みについての積極的な関心を持つことができるようになる。（社会への主体的な参画） | ◎ | ◎ | | ○ | | |
| ALL I a2-2 | ことばの仕組み II | ・ある出来事を伝達する手段としてのことばについての役割やその組み立て方についてしっかりと知識を有している。（幅広い教養） ・また、その基本的なことばの役割や仕組みについて、現代日本語の具体例を通して理解出来るようになる。（幅広い教養） ・言葉の仕組みや現代日本語について積極的な関心を持つことができるようになる。（社会への主体的な参画） | ◎ | ◎ | | ○ | | |
| ALL I a1-3 | 現代のことば I | ・言語学に必要な観点を習得し、様々な視点で自分が使っている日本語と他人が使っている日本語を比較する能動的な態度を身につけている。（社会への主体的な参画） ・ことばをことばで説明することの難しさや楽しさを積極的に味わうことができるようになる。（幅広い教養） | ◎ | | | ◎ | ○ | |
| ALL I a2-4 | 現代のことば II | ・現代の日本語の文法を学ぶための基本的な考え方をしっかりと理解できるようになる。（幅広い教養） ・基本的な文法の知識を十分身につける。（幅広い教養） ・言語にとっての文法の持つ意味についてしっかりと理解できるようになる。（課題の探究・表現） | ◎ | ○ | | ◎ | | |
| ALL I b2-7 | 物語を読む | ・古典の原文に触れて、そのことばと内容を深く理解し、現代の小説を読むように楽しんで読めるようになる。（幅広い教養） ・話の筋や展開だけではなく、歴史的な時代の習俗や風俗を学ぶことで、普通に思える現代の価値観や生活観が、時代と共に変化するものだとして深く理解できるようになる。（幅広い教養） ・古典作品が時代を超えた人間の普遍的な姿を描いていることをしっかりと理解できるようになる。（幅広い教養） ・さまざまなテーマでグループディスカッションし、自分なりの答えを見だし、他者にわかりやすく言葉で表現し、説明することができる。（課題の探究・表現） | ◎ | ○ | | ◎ | ○ | |
| ALL I b2-8 | 近代小説を読む | ・日本の近代小説を味読するためのしっかりとした基礎力を身につける。（幅広い教養） ・日本の近代文学についての基礎的教養を養うことができるようになる。（幅広い教養） ・文学を楽しむことをとおして、自分を見つめ直す力を育み、さらに日本文化の歴史・日本人の感性についての理解を深める。（幅広い教養） ・文学・文化について、さまざまなテーマでグループディスカッションし、自分なりの答えを見だし、他者にわかりやすく言葉で表現し、説明することができる。（課題の探究・表現） | ◎ | ○ | | ◎ | ○ | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標(成績評価A) | DP1 幅広い教養 | DP2 社会への主体的な参画 | DP3 専門的なスキル | DP4 課題の探究・表現 | DP5 友愛 | DP6 リーダーシップ |
|-------------|-----------------|---|--------------|-------------------|----------------|-----------------|-----------|----------------|
| ALL I b3-9 | 物語の研究 I | ・古典の原文に触れて、ことばと内容を深く理解できる。(幅広い教養) ・古典文学が成立しあるいは享受された時代に、それがどのような意義を持ったのか、自分の言葉で説明できる。(課題の探究・表現) ・さまざまなテーマで古典文学についてグループで話し合い、自分なりの答えを導き、自分の言葉で他者にわかりやすく表現することができる。(課題の探究・表現) | ◎ | ○ | | ◎ | ○ | |
| ALL I b3-10 | 物語の研究 II | ・古典の原文に触れて、そのことばと内容を深く理解できるようになる。(幅広い教養) ・古典特有の文脈展開がわかり、多様なジャンル・文体を持つ文学との差異を理解できるようになる。(幅広い教養) ・当時の地図や絵画、また日記や文書といった史料が、文学の理解の上で不可欠であることを具体的に知るようになる。(幅広い教養) ・さまざまなテーマで古典文学についてグループで話し合い、自分なりの答えを導き、自分の言葉で他者にわかりやすく表現することができる。(課題の探究・表現) | ◎ | ○ | | ◎ | ○ | |
| ALL I b3-11 | 近代小説の研究 I | ・日本の近代小説を味読するためのしっかりとした応用力を身につける。(幅広い教養) ・日本の近代文学・文化についての教養を深めることができるようになる。(幅広い教養) ・文学作品を読むことをとおして自分を見つめ直し、感性を磨くと同時に言語能力を高めることができるようになる。(幅広い教養) ・自らすすんで文学に関わろうとする積極的な問題意識を養うことができるようになる。(幅広い教養) ・文学・文化について、さまざまなテーマでグループディスカッションし、自分なりの答えを見だし、他者にわかりやすく言葉で表現し、説明することができる。(課題の探究・表現) | ◎ | ○ | | ◎ | ○ | |
| ALL I b3-12 | 近代小説の研究 II | ・日本の近代小説を味読するための応用力を身につける。(幅広い教養) ・また、日本の近代文学・文化についての教養を深めることができるようになる。(幅広い教養) ・文学作品を読むことをとおして自分を見つめ直し、感性を磨くと同時に言語能力を高めることができるようになる。(幅広い教養) ・自らすすんで文学に関わろうとする能動的な問題意識を養うことができるようになる。(課題の探究・表現) ・文学・文化について、さまざまなテーマでグループディスカッションし、自分なりの答えを見だし、他者にわかりやすく言葉で表現し、説明することができる。(課題の探究・表現) | ◎ | ○ | | ◎ | ○ | |
| ALL I b1-5 | 日本文学・文化の歴史(古典) | ・文学・文化に強い興味・関心を持ち、日本の古典文学や文化の歴史について詳しい知識を身につけ、それらについて自分のことばで他者にわかりやすく表現することができる。(幅広い教養) ・文学・文化の生まれる歴史的社会的背景について深く分析することができる。(幅広い教養) ・歴史的社会的背景を踏まえて文学・文化を多角的に捉え、新たなものの見方に繋げることができる。(課題の探究・表現) ・文学・文化について、さまざまなテーマでグループディスカッションし、自分なりの答えを見だし、他者にわかりやすく伝えることができる。(課題の探究・表現) | ◎ | ○ | | ◎ | | |
| ALL I b1-6 | 日本文学・文化の歴史(近現代) | ・日本の近代文学・文化の歴史について詳しく知り、それを説明出来る知識を獲得する。(幅広い教養) ・文学作品の生まれる歴史的な背景について深く分析する能力を身につけ、それをおして日本の文化についての興味・関心をもつ。(幅広い教養) ・歴史的な背景を踏まえて文学作品や文化的事象を多角的に分析する力を身につけ、新たなものの見方につなげることができる。(課題の探究・表現) ・文学・文化について、さまざまなテーマでグループディスカッションし、自分なりの答えを見だし、他者にわかりやすくことばで表現し、説明することができる。(課題の探究・表現) | ◎ | ○ | | ◎ | | |
| ALL I d2-18 | 日本文化・表現ゼミナール | ・日本の文化やことばについて、研究すべき自分のテーマを明確に見つけ出すことができるようになる。(課題の探究・表現) ・日本の文化やことばについてより深い知識を身につけている。(幅広い教養) ・自分のテーマについて説得力ある意見を述べ、また他人の発表について積極的に意見を述べる事ができるようになる。(課題の探究・表現) ・レポートの書き方がしっかりと身につける。(専門的なスキル) ・文学・文化について、さまざまなテーマでグループディスカッションし、自分なりの答えを見だし、他者にわかりやすくことばで表現し、説明することができる。(課題の探究・表現) | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |

| 科目 ナンバリング | 科目名称 | 到達目標 (成績評価 A) | DP 1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|--------------|-------------------------|---|---|--|---|---|--|---|
| | | | 幅広い教養 | 社会への主体的な参画 | 専門的なスキル | 課題の探究・表現 | 友愛 | リーダーシップ |
| | | | 言語・文学・人間心理・文化を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、広く社会に貢献するための知識と理解力をもち、ことばを通して主体的に世界と関わる事ができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、社会を生き抜くためのコミュニケーション・スキルを身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、自らテーマを見つけて問題意識をもち、それを表現することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修で培った想像力や、細やかな配慮することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、他者との相互関係や、集団の役割先を自分率先して行動することができる。 |
| ALL I d4-19 | 卒業研究 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の研究テーマを社会の問題とも関係することとしてとらえ、考え、論じることができる。(社会への主体的な参画) 自分の研究テーマや、創作の課題について明確なビジョンを持つことができるようになる。(課題の探究・表現) 長文のレポートや創作のためのしっかりとした文章力を身に付ける。(専門的なスキル) 優れたレポートあるいは個性的な創作を完成させる力を修得する。(専門的なスキル) クラスメイトの研究テーマにも積極的に耳を傾け、有益なアドバイスをするための努力ができる(友愛) さまざまなテーマでグループディスカッションし、自分なりの答えを見だし、他者にわかりやすくことばで表現し、説明することができる。(リーダーシップ) | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| ALL I c1-13 | 児童文学論 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもの文化について考えるための手がかりを知る。(社会への主体的な参画) 明治の古典的作品から現代の作品までを対象にしながら、子ども文化の一側としての児童文学の成り立ちについて具体的に説明ができる。(幅広い教養) 児童文学をとらえて、子どもがどのような状況におかれていたのか、家族のあり方はどのようなだったのかを自分のことばをもちいて具体的に説明することができる。(幅広い教養) 児童文学に反映された子どもをめぐる状況や問題意識を見出し、批判・評価することができる。(課題の探究・表現) | ◎ | ◎ | | ◎ | | |
| ALL I c1-15 | 映画・演劇論 | <ul style="list-style-type: none"> 映画と演劇に関する基本的な知識をしっかりと修得する。(幅広い教養) 映画と演劇の社会的文化的背景にも目を向けながら作品を批評的に読む力をきちんと身につけている。(幅広い教養) 自らの意見を説得的に表現できる力をしっかりと修得する。(課題の探究・表現) | ◎ | | | ◎ | | |
| ALL I c2-17 | 映像メディア論 | <ul style="list-style-type: none"> ドキュメンタリーやコメディ、CM、アニメなどの様々な映像メディアを、メディアの見方・利用のスキルを用いて分析し、説明することができる。(幅広い教養) 映像メディアの情報に対する問題点やそれについての考え方を、自分のことばをもちいて具体的に説明することができる。(課題の探究・表現) | ◎ | | | ◎ | | |
| ALL I c1-14 | アニメの物語学 | <ul style="list-style-type: none"> 抽象的な「物語」について多様な角度から考察し定義することができる。(課題の探究・表現) グリム童話からディズニーアニメまでの流れを時代背景などを踏まえて的確に説明できる。(幅広い教養) 戦後の日本のアニメを時代のかかわりや物語性の観点から的確に説明できる。(幅広い教養) 宮崎駿の作品について、物語性や時代性、文化や思想という観点から要点を的確に説明できる。(幅広い教養) 物語という観点からアニメ作品について深く論じることができる。(課題の探究・表現) | ◎ | | | ◎ | | |
| ALL I c2-16 | 文学創作演習 | <ul style="list-style-type: none"> 創作の準備としていくつかの小説(短編)や文章を読み込む力がしっかりと身につける。(幅広い教養) 作品を実際に書く力をしっかりと修得する。(専門的なスキル) 作品を創作する創造性や文章力を身につけて実践できる。(課題の探究・表現) | ◎ | | ◎ | ◎ | | |
| ALL II a1-1 | Speaking (Intermediate) | <ul style="list-style-type: none"> スピーチなどのまとまった量の情報を英語で正確に表現できる。(幅広い教養)(専門的なスキル) 特定のテーマについて十分に考察し、英語で的確に自分の考えを発信することができる。(課題の探究・表現)(リーダーシップ) 実用英語技能検定(英検)2級～準1級レベルの英会話に必要な語彙を十分に身につけて、使用できる。(幅広い教養)(専門的なスキル) | ○ | | ◎ | ○ | | ○ |
| ALL II a1-2 | Speaking (Basic) | <ul style="list-style-type: none"> スピーチなどのまとまった量の情報を英語で正確に表現できる。(幅広い教養)(専門的なスキル) 特定のテーマについて十分に考察し、英語で的確に自分の考えを発信することができる。(課題の探究・表現)(リーダーシップ) 実用英語技能検定(英検)準2級～2級レベルの英会話に必要な語彙を十分に身につけて、使用できる。(幅広い教養)(専門的なスキル) | ○ | | ◎ | ○ | | ○ |
| ALL II a1-3 | Pronunciation | <ul style="list-style-type: none"> 英語の個々の音声の特徴を理解し、発音を正確に行うことができる。(幅広い教養)(専門的なスキル) 英語の音の強弱・連続・脱落やイントネーションやリズムを理解し、句や文の発音を正確に行うことができる。(幅広い教養)(専門的なスキル) | ○ | | ◎ | | | |

| 科目 ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|--------------|---|---|-------|------------|---------|----------|-----|---------|
| | | | 幅広い教養 | 社会への主体的な参画 | 専門的なスキル | 課題の探究・表現 | 友愛 | リーダーシップ |
| ALL II a1-4 | Writing (Intermediate) | ・英文法の知識を十分に身につけ、パラグラフの英作文を正確に行うことができる。 （幅広い教養）（専門的なスキル） ・特定のテーマについて十分に考察し、的確に英語で表現することができる。（課題の探究・表現） ・実用英語技能検定（英検）2級～準1級レベルの英作文に必要な語彙を十分に身につけ、使用できる。（幅広い教養）（専門的なスキル） | ○ | | ◎ | ○ | | |
| ALL II a1-5 | Writing (Basic) | ・英文法の知識を十分に身につけ、パラグラフの英作文を正確に行うことができる。 （幅広い教養）（専門的なスキル） ・特定のテーマについて十分に考察し、的確に英語で表現することができる。（課題の探究・表現） ・実用英語技能検定（英検）準2級～2級レベルの英作文に必要な語彙を十分に身につけ、使用できる。（幅広い教養）（専門的なスキル） | ○ | | ◎ | ○ | | |
| ALL II b1-6 | TOEIC Listening & Reading I (Intermediate) | ・TOEIC600点程度の取得に必要な語彙、文法の知識、リーディング、リスニングの技術が十分に身につけている（DP1幅広い教養）（DP3専門的なスキル） ・社会生活の中で英語による基礎的なビジネス・コミュニケーションを十分に実践できる（DP2社会への主体的な参画）。 | ○ | ○ | ◎ | | | |
| ALL II b1-7 | TOEIC Listening & Reading I (Basic) | ・TOEIC400点程度の取得に必要な語彙、文法の知識、リーディング、リスニングの技術が十分に身につけている（DP1幅広い教養）（DP3専門的なスキル） ・社会生活の中で英語による基礎的なビジネス・コミュニケーションを十分に実践できる（DP2社会への主体的な参画）。 | ○ | ○ | ◎ | | | |
| ALL II b2-8 | TOEIC Listening & Reading II (Intermediate) | ・TOEIC700点程度の取得に必要な語彙、文法の知識、リーディング、リスニングの技術が十分に身につけている（DP1幅広い教養）（DP3専門的なスキル） ・社会生活の中で英語による基礎的なビジネス・コミュニケーションを十分に実践できる（DP2社会への主体的な参画）。 | ○ | ○ | ◎ | | | |
| ALL II b2-9 | TOEIC Listening & Reading II (Basic) | ・TOEIC500点程度の取得に必要な語彙、文法の知識、リーディング、リスニングの技術が十分に身につけている（DP1幅広い教養）（DP3専門的なスキル） ・社会生活の中で英語による基礎的なビジネス・コミュニケーションを十分に実践できる（DP2社会への主体的な参画）。 | ○ | ○ | ◎ | | | |
| ALL II b3-10 | ビジネス英語 | ・国際ビジネスの様々な場面（電話対応・会議・交渉・接遇等）において、グローバル社会の一員として、英語コミュニケーションを十分に実践できる。（専門的なスキル）（社会への主体的な参画） ・国際ビジネスの様々な場面（電話対応・会議・交渉・接遇等）において十分なリーダーシップとチームワークを発揮できる。（リーダーシップ）（友愛） | | ○ | ◎ | | ○ | ○ |
| ALL II b3-11 | プレゼンテーションスキル | ・主体的に課題を探究・考察し、プレゼンテーションやスピーチを英語で適切に行い、社会に対して自分の考えを的確に発信できる。（社会への主体的な参画）（専門的なスキル）（課題の探究・表現）（リーダーシップ） ・PowerPointの知識を十分に身につけ、適切に使用できる。（専門的なスキル） | | ○ | ◎ | ○ | | ○ |
| ALL II c3-12 | 異文化間コミュニケーション | ・異文化間コミュニケーションの基礎知識を十分に身につけ、様々な文化的背景を持つ人々と円滑に交流し、主体的に関わることができる。（幅広い教養・社会への主体的な参画） ・多文化共生社会の一員としてのコミュニケーション・スキルを十分に身に付け、異文化理解に関連したテーマについて、レポート等で自分の意見を的確に伝えることができる。（専門的なスキル・課題の探究・表現） ・自分と異なる価値観や考えを持つ他者の気持ちに配慮しながら、チームワークとリーダーシップを十分に発揮できる。（友愛・リーダーシップ） | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| ALL II c3-13 | 映画で楽しむアメリカ文学 | ・英語圏の文学作品についての的確な分析・考察ができる。（専門的なスキル） ・作品に描かれている人物像や、作品の背景である文化・社会・時代について深く考察できる。（幅広い教養） ・ディスカッション等で積極的に自分の考えを発信し、他の人の意見を十分に理解することができる。（友愛）（リーダーシップ） ・学んだ作品について引証に基づいた説得力のある意見を十分に論じることができる。（課題の探究・表現） | ◎ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ALL II c3-14 | 日英語比較研究 | ・英語の様々な時制表現、定冠詞と不定冠詞、冠詞の有無、可算名詞と不可算名詞、動名詞と不定詞、仮定法と直説法、などの違いについて正確に説明できる。（DP1幅広い教養）（DP3専門的なスキル） ・英語の様々な時制表現、冠詞、名詞、動名詞と不定詞、仮定法と直説法を的確に使用できる。（DP1幅広い教養）（DP3専門的なスキル） | ○ | | ◎ | | | |

| 科目 ナンバリング | 科目名称 | 到達目標 (成績評価 A) | DP1 幅広い教養 | DP2 社会への主体的な参画 | DP3 専門的なスキル | DP4 課題の探究・表現 | DP5 友愛 | DP6 リーダーシップ |
|--------------|------------------|--|---|--|---|--|---|--|
| | | | 言語・文学・人間心理・文化を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、広く社会に貢献するための知識と理解力をもち、ことばを通して主体的に世界と関わる事ができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、社会を生き抜くためのコミュニケーション・スキルを身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、見つけ出し追求する問題意識をもち、それを表現することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修で培った想像力や、思いやり、細やかな配慮することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、他者との相互関係や仲間関係の役割率先して行動することができる。 |
| ALL II c2-15 | 映画で学ぶ英語 | ・英語の日常表現を正確に解釈できる。(幅広い教養)(専門的なスキル) ・ナチュラルスピードの英語を正確に聞き取ることができる。(専門的なスキル) ・日常生活に関することを自然な英語で的確に表現できる。(専門的なスキル) ・映画の社会的・文化的背景を十分に理解している。(幅広い教養) | ○ | | ◎ | | | |
| ALL II c2-16 | ポップソングで学ぶ英語 | ・英語の歌詞の内容を正確に解釈できる。(専門的なスキル) ・英語圏の歌の社会的・文化的背景を十分に理解できる。(幅広い教養) ・授業で学んだ英語表現を会話の場面で的確に使用できる。(専門的なスキル)(友愛) | ○ | | ◎ | | ○ | |
| ALL II d2-17 | エアポート・エアライン研究 | ・航空業界の業務で必要とされる英語の語彙や口語表現を的確に使用できる。(DP3 専門的なスキル) ・インパウンドの接客に必要な異文化理解の知識を十分に応用し、様々な文化圏の人たちと円滑にコミュニケーションができる。(DP1 幅広い教養)(DP5 友愛) ・航空業界の考察を通して、航空業界の職業人として必要とされる知識や技術が理解できる。(DP2 社会への主体的な参画) | ○ | ○ | ◎ | | ○ | |
| ALL II d2-18 | ホスピタリティ・ツーリズムの英語 | ・観光関連のホスピタリティ産業に従事する際に必要とされる英語の語彙や口語表現・文語表現を的確に使用できる。(DP3 専門的なスキル) ・インパウンドの接客に必要な異文化理解の知識を十分に応用し、様々な文化圏の人たちと円滑にコミュニケーションができる。(DP1 幅広い教養)(DP5 友愛) ・観光関連のホスピタリティ産業への考察を通して、接客者として必要とされる知識や技術が理解できる。(DP2 社会への主体的な参画) | ○ | ○ | ◎ | | ○ | |
| ALL II d2-19 | 幼児教育・保育英語 | ・幼児教育・保育英語に関連する基礎的な英語の知識を十分に身につけている。(専門的なスキル) ・幼児への適切な接し方を理解し、各自の個性を尊重した指導を実践できる。(社会への主体的な参画)(専門的なスキル)(友愛)(リーダーシップ) | | ○ | ◎ | | ○ | ○ |
| ALL II e2-20 | ハワイ短期留学 | ・自己意志による海外研修への参加を通して、積極性が身につく、自分の人生観や世界観を広げることができるようになる。(社会への主体的な参画) ・創造的に人生を送るための問題意識や好奇心をしっかりと身につけることができるようになる。(幅広い教養) ・日常生活に必要な英語の実用会話を十分に身に付ける。(専門的なスキル) ・米国社会やハワイ文化について深く理解し、現地の人々と積極的に交流できる。(幅広い教養)(社会への主体的な参画)(友愛) | ○ | ○ | ◎ | | ○ | |
| ALL II e2-21 | ニュージーランド短期留学 | ・自己意志による海外研修への参加を通して、積極性が身につく、自分の人生観や世界観を広げることができるようになる。(社会への主体的な参画) ・創造的に人生を送るための問題意識や好奇心をしっかりと身につけることができるようになる。(幅広い教養) ・日常生活に必要な英語の実用会話を十分に身に付ける。(専門的なスキル) ・ニュージーランドの社会や文化について深く理解し、現地の人々と積極的に交流できる。(幅広い教養)(社会への主体的な参画)(友愛) | ○ | ○ | ◎ | | ○ | |
| ALL II e2-22 | フランス短期留学 | ・自己意志による海外研修への参加を通して、積極性が身につく、自分の人生観や世界観を広げることができるようになる。(社会への主体的な参画) ・創造的に人生を送るための問題意識や好奇心をしっかりと身につけることができるようになる。(幅広い教養) ・日常生活に必要なフランス語の実用会話を十分に身に付ける。(専門的なスキル) ・フランスの社会や文化について深く理解し、現地の人々と積極的に交流できる。(幅広い教養)(社会への主体的な参画)(友愛) | ○ | ○ | ◎ | | ○ | |
| ALL II e2-23 | 中国短期留学 | ・自己意志による海外研修への参加を通して、積極性が身につく、自分の人生観や世界観を広げることができるようになる。(社会への主体的な参画) ・創造的に人生を送るための問題意識や好奇心をしっかりと身につけることができるようになる。(幅広い教養) ・日常生活に必要な中国語の実用会話を十分に身に付ける。(専門的なスキル) ・中国の社会や文化について深く理解し、現地の人々と積極的に交流できる。(幅広い教養)(社会への主体的な参画)(友愛) | ○ | ○ | ◎ | | ○ | |

| 科目 ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | DP 1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 |
|--------------|------------------|---|-------|------------|---------|----------|-----|---------|
| | | | 幅広い教養 | 社会への主体的な参画 | 専門的なスキル | 課題の探究・表現 | 友愛 | リーダーシップ |
| ALL II e2-24 | 韓国短期留学 | ・自己意志による海外研修への参加を通して、積極性が身につく、自分の人生観や世界観を広げることができるようになる。(社会への主体的な参画) ・創造的に人生を送るための問題意識や好奇心をしっかりと身につけることができるようになる。(幅広い教養) ・日常生活に必要な韓国語の実用会話を十分に身につける。(専門的なスキル) ・韓国の社会や文化について深く理解し、現地の人々と積極的に交流できる。(幅広い教養)(社会への主体的な参画)(友愛) | ○ | ○ | ◎ | | ○ | |
| ALL II f4-25 | 卒業研究 | ・研究課題について主体的に調査・分析し、十分に考察できる。(課題の探究・表現)(幅広い教養)(専門的なスキル) ・研究課題について調べた結果を、的確に系統立てて説明・発表し、他者の意見を十分に尊重することができる。(友愛)(リーダーシップ) ・自身の研究やキャリアについて明確なビジョンを持つことができる。(社会への主体的な参画) | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| ALL III a1-1 | 心理学概論 | ・心理学の専門的知識をふまえて、様々な状況に応じた他者を尊重した関わりについて自分の考えを表現できる。(幅広い教養) ・複数の心理学的アプローチを用いて、現代社会の問題と心理学の関連性を説明できる。(社会への主体的な参画) ・複数の心理学的アプローチを用いて、現代社会の問題と心理学の関連性を説明できる。(専門的なスキル) ・人間の行動(自分の行動及び他者の行動)を心理学的観点から解釈できる。(課題の探究・表現) | ○ | ◎ | ○ | ◎ | | |
| ALL III a1-2 | 心理測定法(パーソナリティ検査) | ・複数の心理学領域の倫理規定に基づき、倫理的配慮について説明できる。(社会への主体的な参画) ・目的に応じた複数の心理検査を用いてパーソナリティを測定できる。(専門的なスキル) ・心理検査の目的・成り立ち・検査への批判をふまえて、検査結果を解釈できる。(専門的なスキル) ・特徴をふまえて、複数のパーソナリティの測定法について説明できる。(課題の探究・表現) | | ○ | ◎ | | | |
| ALL II b2-3 | 発達心理学 I | ・現代の社会的相互作用における課題を自ら同定し、複数の発達理論の観点から説明できる。(社会への主体的な参画) ・発達時期をふまえて、幼児期・児童期の発達に関する認知的、情動的、社会的要因等のすべてを説明できる。(課題の探究・表現) | | ○ | | ◎ | | |
| ALL II b2-4 | 発達心理学 II | ・現代の社会的相互作用における課題を自ら同定し、複数の発達理論の観点から説明できる。(社会への主体的な参画) ・発達時期をふまえて、青年期、成人期、老年期の発達に関する認知的、情動的、社会的要因等のすべてを説明できる。(課題の探究・表現) | | ○ | | ◎ | | |
| ALL III b2-5 | 認知心理学 | ・授業で学んだことを日常生活と結びつけて説明できるようになる。(社会への主体的な参画) ・日常生活の出来事について認知心理学的な関心をもてるようになる。(社会への主体的な参画) ・認知心理学的なトピックスについて、調べることができるようになる。(課題の探究・表現) ・認知心理学の基礎的な知見を幅広く身につけ、説明できるようになる。(課題の探究・表現) | | ○ | | ◎ | | |
| ALL III b2-6 | 教育心理学 | ・教育心理学の知見を利用して複数の教育の課題を自ら同定し、課題の詳細を説明できる。(社会への主体的な参画) ・教育心理学の知識や研究方法に関する発展的な事項を相互に関連づけて説明できる。(課題の探究・表現) | | ○ | | ◎ | | |
| ALL III b3-7 | 児童福祉論 | ・社会福祉分野における施策と実践における課題を自分で見出し、実践への提言を表現できる。(社会への主体的な参画) ・児童福祉の基本理念・変遷・法制度等の発展的な事項を関連づけて説明できる。(課題の探究・表現) | | ○ | | ◎ | | |
| ALL III b3-8 | 音楽とこころ | ・自分の音楽経験と聴く姿勢を見つめ直し、これまで知らなかった音や音楽の世界への目を開くことにより、聴く行為が「私」というものの形成にどのように関わっているかについて主体的に解釈することができる。(課題の探究・表現) | | ○ | | ◎ | | |
| ALL III c2-9 | 臨床心理学 I | ・精神疾患への対応にある程度の関心をもって関われる。(社会への主体的な参画) ・精神疾患への初歩的な対応ができるようになる。(専門的なスキル) ・実例や理論や自己観察により、臨床心理学の基礎について説明できるようになる。(課題の探究・表現) ・心理テストなどで自己について洞察し、表現できるようになる。(課題の探究・表現) | | ○ | | ◎ | | |

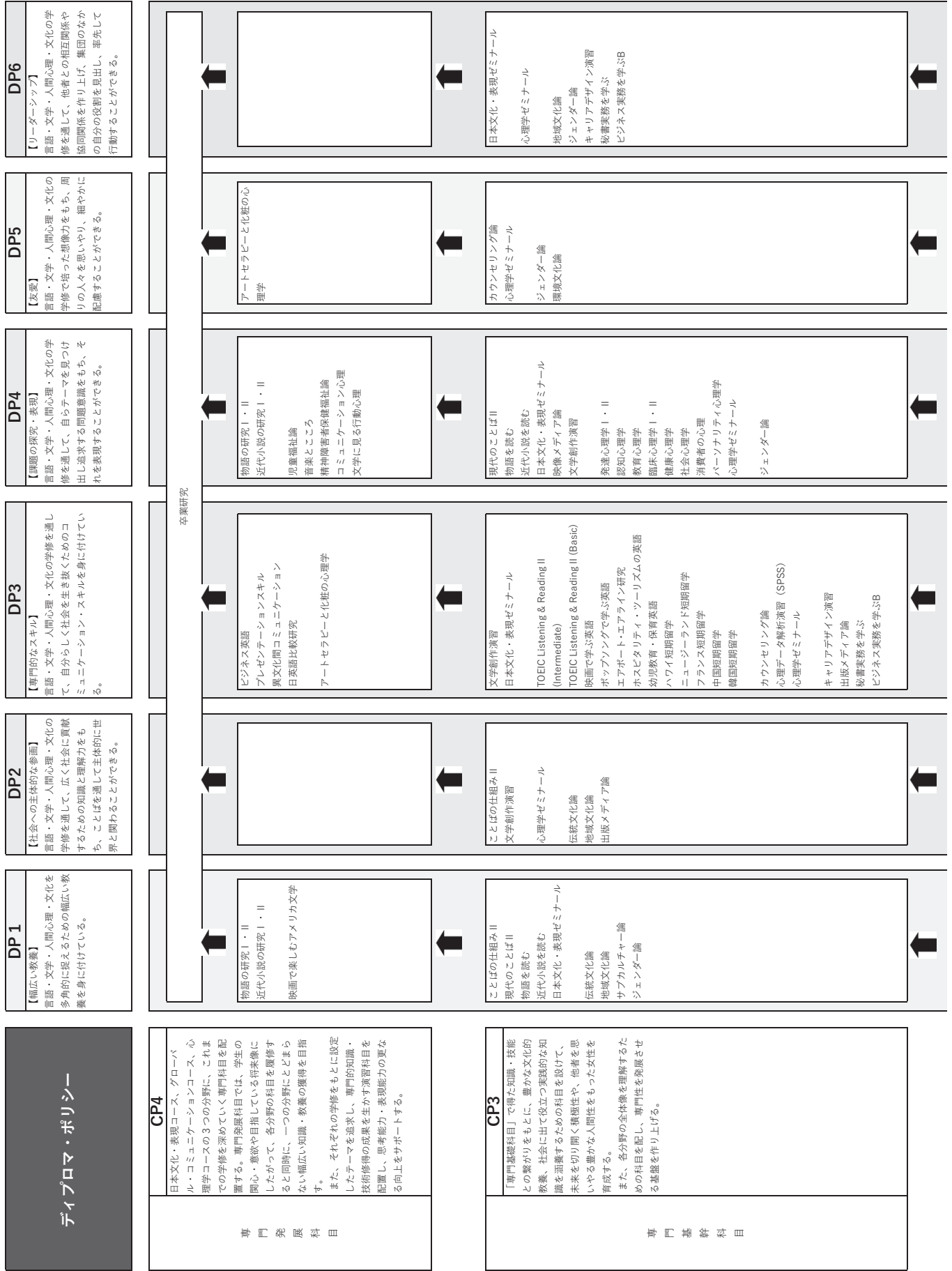
| 科目 ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | DP1 幅広い教養 | DP2 社会への主体的な参画 | DP3 専門的なスキル | DP4 課題の探究・表現 | DP5 友愛 | DP6 リーダーシップ |
|--------------|-----------------|--|---|---|---|--|---|---|
| | | | 言語・文学・人間心理・文化を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、広く社会に貢献するための知識と理解力をもとに、ことばを通して主体的に世界と関わることをすることができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、社会を生き抜くためのコミュニケーション・スキルを身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、自らテーマを見出し追求する問題意識を表現することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修で培った想像力をもとに、思いやり、細やかな配慮をすることができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、他者との相互関係や上司からの役割先としての自分率先して行動することができる。 |
| ALLⅡc2-10 | 臨床心理学Ⅱ | ・精神疾患への対応に大きな関心をもって関われる。(社会への主体的な参画) ・精神疾患への対応がなれるようになる。(専門的なスキル) ・実例や理論や自己洞察により、臨床心理学の応用について説明できるようになる。(課題の探求・表現) ・心理テストなどで自己についてより深く洞察し、詳しく表現できるようになる。(課題の探求・表現) | | ○ | | ◎ | ◎ | |
| ALLⅡc2-11 | 健康心理学 | ・人間の健康が身体・精神の両面から支えられていることを、健康心理学の概念を用いて考察できる。(社会への主体的な参画) ・健康の維持や病気の予防へのアプローチについて系統立てて説明できる。(課題の探求・表現) | | ○ | | ◎ | | |
| ALLⅡc2-12 | カウンセリング論 | ・他人の話を深く傾聴できるようになる。(専門的なスキル) ・ロールプレイによって、相手の気持ちを解釈できるようになる。(専門的なスキル) ・自分のストレスを適切に表現できるようになり、カウンセリングへの洞察ができるようになる。(専門的なスキル) ・他人の悩みに対してアドバイスができるようになる。(友愛) | | | ◎ | | ◎ | |
| ALLⅡc3-13 | 精神障害者保健福祉論 | ・社会福祉分野における施策と実践における課題を自分で見出し、実践への提言を表現できる。(社会への主体的な参画) ・精神障害者福祉の基本理念・変遷・法制度等の発展的事項を関連づけて説明できる。(課題の探求・表現) | | ○ | | ◎ | | |
| ALLⅡc3-14 | アートセラピーと化粧の心理学 | ・アートセラピーの考え方を利用して、自己洞察を深められるようになる。(専門的なスキル) ・アートを芸術療法の観点から解釈できるようになる。(専門的なスキル) ・アートセラピーの解釈の仕方を説明できるようになる。(課題の探求・表現) ・アートセラピーを通じて自分の感性を磨くことができるようになる。(友愛) | | | ◎ | | ◎ | |
| ALLⅡd2-15 | 社会心理学 | ・外部刺激(他人、環境)から様々な影響を受けたときに、人間がどう行動、態度を取るのかについて、実際の事例と関連づけて考察できる。(社会への主体的な参画) ・社会心理学における「社会」の概念を、複数の具体例を挙げて説明できる。(課題の探求・表現) | | ○ | | ◎ | | |
| ALLⅡd2-16 | 消費者の心理 | ・企業が消費者心理に基づいて提供しているサービスや商品を知り、社会動向の分析を行うことができる。(社会への主体的な参画) ・消費行動や企業活動についての知識をベースに、顧客視点に立った商品やサービスを提案、発表することができる。(社会への主体的な参画) ・企業活動(商品、サービスの提供)と消費者心理とが密接に関連していることを理解し、消費者の心理がよい企業を育て、よい社会をつくるということを説明できる。(課題の探求・表現) | | ○ | | ◎ | | |
| ALLⅡd2-17 | パーソナリティ心理学 | ・現代の社会的相互作用における課題を自ら同定し、複数のパーソナリティ理論の観点から説明できる。(社会への主体的な参画) ・複数のパーソナリティ理論を比較し、その違いをふまえて各理論の特徴を説明できる。(課題の探求・表現) ・遺伝的・社会的要因の影響をふまえて、パーソナリティの形成過程を説明できる。(課題の探求・表現) | | ○ | | ◎ | | |
| ALLⅡd2-18 | 心理データ解析演習(SPSS) | ・心理調査を行う際の倫理的な配慮の必要性について知り、心理調査の目的に沿った適切な調査を実施できる。(専門的なスキル) ・統計ソフトウェア(SPSS)を用いたデータの入力および目的に沿った適切な分析を行うことができる。(専門的なスキル) ・得られた結果をもとに論理的な考察を行い、適切な表やグラフを用いたレポートを作成できる。(専門的なスキル) ・実証的な研究の進め方について理解し、尺度水準や質的データと量的データ、独立変数と従属変数などの違いについて説明できる。(課題の探求・表現) | | ○ | ◎ | | | |
| ALLⅡd3-19 | コミュニケーション心理 | ・心理学の知見を、主体的に豊かなコミュニケーションの実践に役立てることができるようになる。(社会への主体的な参画) ・コミュニケーションに関する心理学の知見や研究方法を系統立てて説明できる。(課題の探求・表現) | | ○ | | ◎ | | |
| ALLⅡd3-20 | 文学に見る行動心理 | ・心理学が文学に与えた影響を具体例と関連づけて説明できる。(課題の探求・表現) ・心理学のキーワードを使って心理学の歴史的背景をふまえた作品分析ができる。(課題の探求・表現) | | ○ | | ◎ | | |

| 科目ナンバリング | 科目名称 | 到達目標 (成績評価 A) | DP 1 幅広い教養 | DP2 社会への主体的な参画 | DP3 専門的なスキル | DP4 課題の探究・表現 | DP5 友愛 | DP6 リーダーシップ |
|------------|------------|---|---------------|-------------------|----------------|-----------------|-----------|----------------|
| ALLⅡe2-21 | 心理学ゼミナール | <ul style="list-style-type: none"> ・関連する情報を収集し、自分で発表テーマを設定できる。(幅広い教養) ・先行研究との関連を示し、専門的知識をふまえて発表内容を説明できる。(社会への主体的な参画) ・心理学研究として適切な研究課題の選択方法やレジュメ作成に必要な知識を相互に関連づけて説明できる。(専門的なスキル) ・ゼミナール活動に必要な発表の技能を学修し、妥当な方法で活用できる。(専門的なスキル) ・文献講読の担当発表を行い、発表内容について社会における意義や心理学領域での重要性を関連情報に基づいて表現できる。(課題の探究・表現) ・文献講読の担当発表や質疑応答の過程において、他者に配慮して、適切な関係を構築できる。(友愛) ・文献講読の担当発表や質疑応答において、他者の意見を尊重しながら意見交換を行い、課題を解決しようとする意欲を示すことができる。(リーダーシップ) | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| ALLⅢe 4-22 | 卒業研究 | <ul style="list-style-type: none"> ・関連する情報を収集し、自分でテーマを設定できる。(幅広い教養) ・先行研究との関連を示し、専門的知識をふまえて結果を解釈できる。(社会への主体的な参画) ・先行研究をふまえて、心理学的な手法を用い、調査を実施できる。(専門的なスキル) ・先行研究をふまえて、心理学的な手法を用い、調査を実施できる。(専門的なスキル) ・ゼミ内発表会の担当発表を行い、発表内容について社会における意義や心理学領域での重要性を関連情報に基づいて表現できる。(課題の探究・表現) ・テーマの設定、質問紙の作成、論文の作成の過程において、他者に配慮して、適切な関係を構築できる。(友愛) ・ゼミ内発表会の担当発表や質疑応答において、他者の意見を尊重しながら意見交換を行い、課題を解決しようとする意欲を示すことができる。(リーダーシップ) | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| ALLⅣa1-1 | 文章表現法 | <ul style="list-style-type: none"> ・論文等の文章を読んで、その文章の主題や構成を整理し、自分のことばで説明することができる。(幅広い教養) ・他者に情報を正確に伝えるための基本的な技術を用いて、自分の意見や考えを表現することができる。(専門的なスキル) ・レポート等の文章に、自分の意見を述べていくための問題意識、構成員、表現力等を示すことができる。(課題の探究・表現) | ○ | ○ | ◎ | ○ | | |
| ALLⅣa1-2 | コミュニケーション論 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの理論に関する基礎的なことがらについて具体的に説明することができる。(幅広い教養) ・より豊かなコミュニケーションを図るために、習得した技術のなかから最適なものを自ら選択し、使用することができる。(専門的なスキル) ・他者と積極的な態度・姿勢でコミュニケーションすることができる。(社会への主体的な参画) | ○ | ○ | ◎ | | ○ | ○ |
| ALLⅣa1-3 | 伝える技術 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや意見を理解・整理し、簡潔に述べることができる。(幅広い教養) ・自分の考えや意見を他人に伝えるために、伝達方法の基礎的技術のなかから、より効果的で効率的な方法を判断し表現できる。(課題の探究・表現) ・プレゼンテーションの基礎的な技術を用いて、表現することができる。(専門的なスキル) | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | | |
| ALLⅣb 2-4 | 伝統文化論 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の多様なジャンルの伝統文化について、自分のことばで具体的に説明できる。(幅広い教養) ・日本の伝統文化についての話題で他文化圏の人と交流できる(社会への主体的な参画) | ◎ | ◎ | | ○ | | |
| ALLⅣb 2-5 | 地域文化論 | <ul style="list-style-type: none"> ・神保町文化について自分のことばで具体的に説明できる。(幅広い教養) ・主体的に地域やクラスメイトとかわかり、協働を通して「共立リーダーシップ」を身につける。(リーダーシップ) ・自分たちとは異なる地域文化もしくは異文化について理解し、積極的な姿勢で反応し、また配慮することができる。(社会への主体的な参画) | ○ | ◎ | | ○ | ◎ | |
| ALLⅣb 2-6 | サブカルチャー論 | <ul style="list-style-type: none"> ・中心と周縁が曖昧化している今日の、メイン・カルチャーから隔たったサブ・カルチャーの意義について深い理解をもつ。(幅広い教養) ・サブ・カルチャーの持つ文化的エネルギーについて深い理解を有している。(幅広い教養) ・カンクター・カルチャーの成果を通して日本文化を特質を批評的に捉え直し、グローバルな魅力を理解する優れた能力を身につける。(幅広い教養) | ◎ | ○ | | ○ | | |

| 科目 ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | DP1 幅広い教養 | DP2 社会への主体的な参画 | DP3 専門的なスキル | DP4 課題の探究・表現 | DP5 友愛 | DP6 リーダーシップ |
|--------------|-----------------------|---|---|--|---|--|---|--|
| | | | 言語・文学・人間心理・文化を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、広く社会に貢献するための知識と理解力をもち、ことばを通して主体的に世界と関わる事ができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、社会を生き抜くためのコミュニケーション・スキルを身に付けている。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、見つけ出し追求する問題意識をもち、それを表現することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修で培った想像力をもち、思いのりの人々を、思い配慮することができる。 | 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、他者との相互関係や協同関係を見出し、集団の役割先して行動することができる。 |
| ALLIV b 2-7 | ジェンダー論 | ・生物学的性差に対して社会的性差を指すジェンダーが、いかに文化的に作り上げられているかを、公平な視点から判断し、批判することができる。（社会への主体的な参画） ・ジェンダーに対する批評的視点をおとして、自分が一人の人間として、セクシャル・アイデンティティを保ちながらどう生きていけばよいかを考え、自分のことばで具体的に説明することができる。（課題の探究・表現） ・さまざまなジェンダー観を知り、理解しようとする努力ができる（友愛） ・グループワークやディスカッションを通して、チームで課題について考え、解決する力を身に付ける。（リーダーシップ） | ○ | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ |
| ALLIV b 2-8 | 環境文化論 | ・人間が、環境としての自然を文化としてどのようにとらえ、またどうつきあってきたのかを自分のことばをもちいて具体的に説明できる。（幅広い教養） ・神話、文学、祭祀等に環境としての自然がどのように描かれ、あるいは扱われているかについて、自分のことばをもちいて具体的に説明できる。（幅広い教養） | ◎ | | | ○ | ○ | |
| ALLIV c 2-9 | 出版メディア論 | ・本や出版の文化・歴史、および本の成り立ちについて、自分のことばで具体的に説明できる。（幅広い教養） ・本に関わる文化に対して積極的に関心を持ち、人間や社会に対して本がどのような役割を果たしているか、自分のことばで具体的に説明できる。（幅広い教養） ・本の編集のための校正技術や PC スキルが十分身に付いている。（専門的なスキル） | ◎ | ○ | ◎ | | | |
| ALLIV c 1-10 | ワークライフバランスと健康 | ・基本的なからだの機能を理解し、心身の健康を守り管理していくために何が必要か考え、具体的に説明することができる。（幅広い教養） ・変化していく各自のライフスタイルと各ライフステージにおける起こりうる健康課題について理解し、健康の維持・増進、疾病予防の改善策についても分析・考察し、具体的に説明することができる。（幅広い教養）（リーダーシップ） ・ヒトを取り巻く健康課題について多面的に関心を持ち、考察し、知識を他人と共有することができる。（リーダーシップ）（友愛） | ◎ | | | | ○ | ◎ |
| ALLIV c 2-11 | キャリアデザイン演習（就職・編入サポート） | ・専門的な知識や技能をふまえた進路選択について、他者と意見を交換することができる。（幅広い教養） ・卒業後の進路について考え、具体的な将来像を思い描き、自分のことばをもちいて示することができる。（社会への主体的な参画） ・将来像の実現に向けて、特に就職活動に必要な知識やスキルをじゅうぶんに身につけ、行動に示すことができる。（専門的なスキル） ・自己分析や他者との共同作業をおとして自己理解を深め、自らを積極的に評価できるようになる。（友愛） ・多様な他者とのコミュニケーションをおとして、多様な価値観を共有し積極的に反応できるようになる。（リーダーシップ） | ○ | ○ | ◎ | | ○ | ◎ |
| ALLIV c 1-12 | ホスピタリティを学ぶ | ・対人関係を円滑にする技能を学修し、社会生活において十分に表現できる。（社会への主体的な参画）（友愛）（リーダーシップ） ・ホスピタリティがビジネスに与える影響について、関連情報に基づき複数の観点からの確に考察し、意見を述べることができる。（専門的なスキル） ・接客サービスマナー検定 2 級レベルの知識・技能が十分に身に付いている。（専門的なスキル） ・サービス接客検定準 1 級レベルの知識・技能が十分に身に付いている。（専門的なスキル） | | ○ | ◎ | | ◎ | ◎ |
| ALLIV c 1-13 | 秘書実務を学ぶ | ・自ら進んで主体的に授業に参加する。課題解決のために、他の学生と協調・協働できる。 ・社会人としての、あるいは職業者としての基本的知識・ビジネスマナーを、ことばや態度をおして具体的に示すことができる。（DP1 幅広い教養） ・秘書検定 2 級レベルの知識や技能が十分に身に付いている。（DP1 幅広い教養） ・友愛と結びつくリーダーシップを発揮できる。（DP5 友愛）（DP6 リーダーシップ） ・言語・文学・文化の学修を通して、社会を生き抜くためのコミュニケーション・スキルを身に付けている。（DP3 専門的なスキル） | ○ | | ◎ | | ○ | ◎ |
| ALLIV c 1-14 | ビジネス実務を学ぶ A | ・ビジネス実務マナー検定 3 級レベルの知識・技能が十分に身に付いており、適切な判断力・マナー・話し方を踏まえて実務を遂行できる。（専門的なスキル）（友愛）（リーダーシップ） | | | ◎ | | ○ | ◎ |

| 科目 ナンバリング | 科目名称 | 到達目標（成績評価 A） | DP 1 幅広い教養 言語・文学・人間心理・文化を多角的にとらえるための幅広い教養を身に付けている。 | DP2 社会への主体的な参画 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、広く社会に貢献するための知識と理解力を持ち、ことばを通して主体的に世界と関わる事ができる。 | DP3 専門的なスキル 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、自分らしく社会で生きていくためのコミュニケーションスキルを身に付けている。 | DP4 課題の探究・表現 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、自らテーマを見出し追求する問題意識を持ち、それを表現することができる。 | DP5 友愛 言語・文学・人間心理・文化の学修で培った想像力を持ち、周りの人々を思いやり、細やかに配慮することができる。 | DP6 リーダーシップ 言語・文学・人間心理・文化の学修を通して、他者や協同関係を築き上げ、集団の役割先として行動することができる。 |
|--------------|------------|---|--|---|--|---|--|--|
| ALLIV c 2-15 | ビジネス実務を学ぶB | ・ビジネス実務マナー検定2級レベルの知識・技能が十分に身につけており、適切な判断力・マナー・話し方を踏まえて実務を遂行できる。（専門的なスキル）（友愛）（リーダーシップ） ・ビジネス文書作成の知識と技能の基本が十分に身につけており、ビジネス文書検定3級レベルのビジネス文書の作成ができる。（専門的なスキル） | | | ◎ | | ○ | ◎ |
| ALLIV c 1-16 | 日本語教育を学ぶ | ・日本語が世界中で学ばれていること、また日本国内でも学習者が急増していることを踏まえ、日本語をひとつの外国語として捉え直すことができる。多文化共生のための言葉の役割を知る。（幅広い教養） ・日本国内における日本語教育事情を多角的に学ぶ。とくに、日本語学習者について、属性・ニーズが多様化している現状について知る。（幅広い教養）（社会への主体的な参加） ・日本語教師に求められる専門的な知識・教養を身に付ける。（専門的なスキル） ・多様な日本語指導の場について理解を深める。他者と協働して言語面での支援を行うことの重要性を知る。（リーダーシップ） | ◎ | ○ | ◎ | | ○ | ◎ |

10. カリキュラム・ツリー



| | | | | | | |
|--|---|---|--|---|--------------------------------------|---|
| <p>専門基礎科目</p> <p>CP2</p> <p>日本文化・表現コース、グローバル・コミュニケーションコース、心理・コミュニケーションコース、心理学コースの各分野を学ぶ目的や方法を理解するための講義科目、及び「文章発現法」「コミュニケーション論」、プレゼンテーションの力を伸ばす「伝える技術」などの共通科目を設け、自律した人間として成長していくための文章表現能力やコミュニケーション能力の養成を目指す。</p> | <p>ことばの仕組み I</p> <p>現代のことば I</p> <p>コミュニケーション論</p> <p>心理学概論</p> <p>日本語教育を学ぶ</p> | <p>ことばの仕組み II</p> <p>現代のことば II</p> <p>コミュニケーション論</p> <p>心理学概論</p> <p>日本語教育を学ぶ</p> | <p>Speaking (Intermediate)</p> <p>Speaking (Basic)</p> <p>Pronunciation</p> <p>Writing (Intermediate)</p> <p>Writing (Basic)</p> <p>TOEIC Listening & Reading I (Intermediate)</p> <p>TOEIC Listening & Reading I (Basic)</p> <p>心理測定法 (ハ・カ・クイ検査)</p> <p>文章表現法</p> <p>コミュニケーション論</p> <p>伝える技術</p> <p>ホスピタリティを学ぶ</p> <p>秘書実務を学ぶ</p> <p>日本語教育を学ぶ</p> | <p>日本文学・文化の歴史(古典)</p> <p>日本文学・文化の歴史(近現代)</p> <p>児童文学論</p> <p>映画・映像論</p> <p>アニメの物語学</p> <p>心理学概論</p> <p>文章表現法</p> <p>伝える技術</p> <p>日本語教育を学ぶ</p> | <p>ホスピタリティを学ぶ</p> <p>日本語教育を学ぶ</p> | <p>ワークライフバランスと健康</p> <p>ホスピタリティを学ぶ</p> <p>秘書実務を学ぶ</p> <p>ビジネス実務を学ぶA</p> <p>日本語教育を学ぶ</p> |
| <p>教養教育科目</p> <p>CP1</p> <p>ひとりの女性・ひとりの人間として日々の生活を豊かに充実して生き、主体的に社会に参加して責任ある役割を果たすために、以下の「自律と努力コア」「創造とキャリアコア」「協働とリーダーシップコア」に区分する。</p> | <p>協働とリーダーシップコア</p> <p>創造とキャリアコア</p> | <p>自律と努力コア</p> | <p>協働とリーダーシップコア</p> <p>創造とキャリアコア</p> | <p>協働とリーダーシップコア</p> <p>創造とキャリアコア</p> | <p>協働とリーダーシップコア</p> <p>創造とキャリアコア</p> | <p>協働とリーダーシップコア</p> <p>創造とキャリアコア</p> |
| <p>カリキュラム・ポリシー</p> | <p>DP1との関連性がとても高い科目</p> | <p>DP2との関連性がとても高い科目</p> | <p>DP3との関連性がとても高い科目</p> | <p>DP4との関連性がとても高い科目</p> | <p>DP5との関連性がとても高い科目</p> | <p>DP6との関連性がとても高い科目</p> |

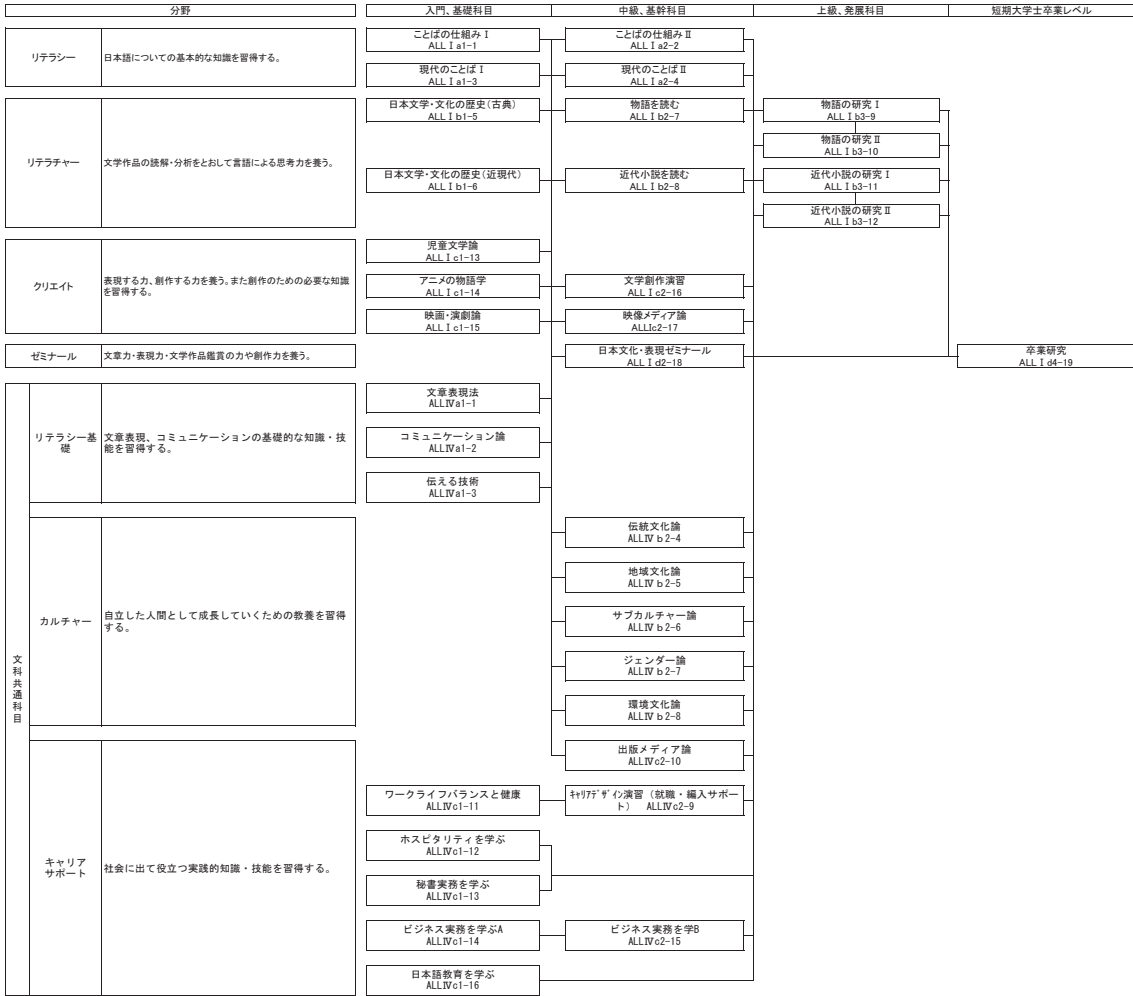


| | | | | | |
|----------------------------|---|---|---|--|---|
| <p>アドミッション・ポリシー</p> | <p>AP1-1</p> <p>【知識・技能】 高等学校の教育課程を幅広く修得している。</p> | <p>AP1-2</p> <p>【知識・技能】 文科における学修の基盤として必要な科目の知識・技能、特に「国語」と「外国語」を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基礎技能を身に付けている。</p> | <p>AP2</p> <p>【思考・判断力・表現力】 物事を多角的に捉え、自らの考えを整理・表現し、他者に伝えようとする意欲・態度を有している。</p> | <p>AP3-1</p> <p>【主体性を持って多様な人々と協働する態度】 他者の意見や考え方を理解・尊重し、積極的に他者と協力し社会に貢献しようという態度を有している。</p> | <p>AP3-2</p> <p>【主体性を持って多様な人々と協働する態度】 他者に寄り添い、リーダーシップを發揮して、他者とともに課題に取り組みようとする意欲を有している。</p> |
|----------------------------|---|---|---|--|---|

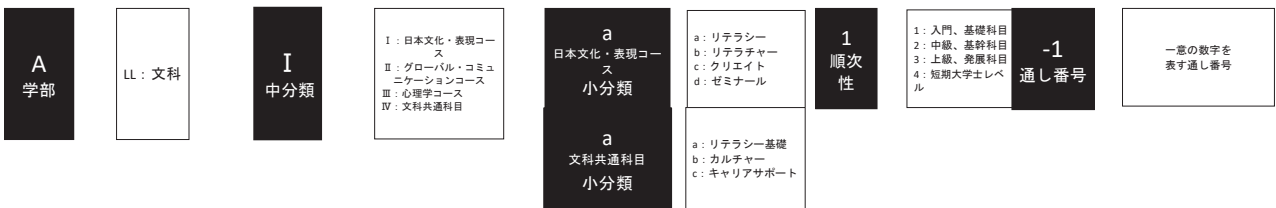
※各科目は「カリキュラム・マップ」でディプロマ・ポリシーとの対応関係が◎の科目を記述している。

11. 履修系統図

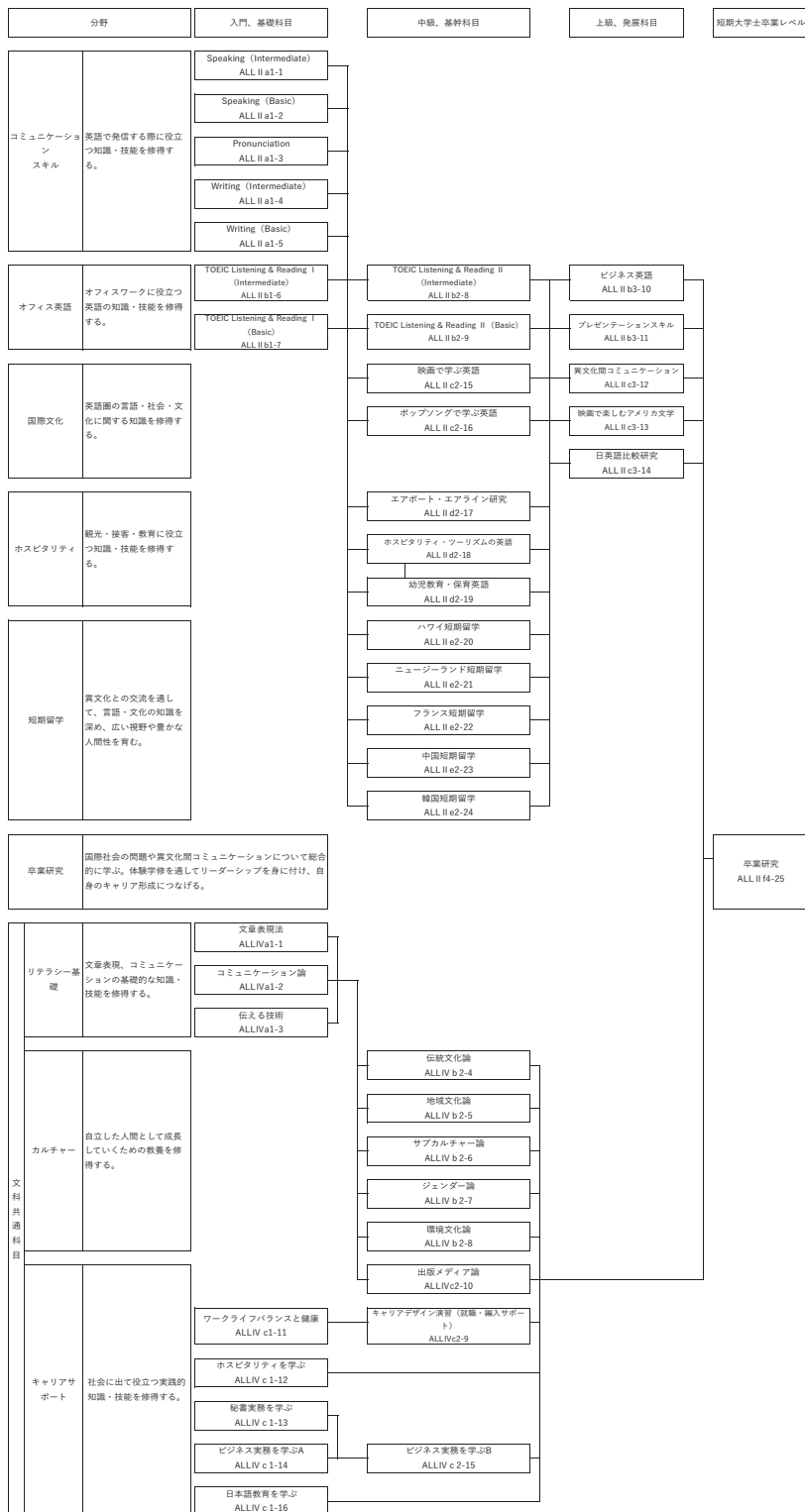
日本文化・表現コース



ナンバリングの読み方(例) LL I a1-1

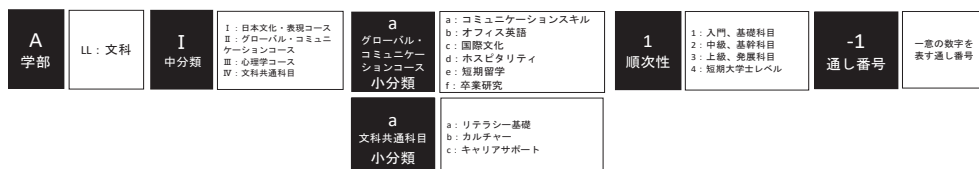


グローバル・コミュニケーションコース



*科目レベルは開講時期を表すものではありません。開講時期については時間割を確認してください。

ナンバリングの読み方 (例) LL II a1-1



心理学コース

| 分野 | | 入門、基礎科目 | 中級、基幹科目 | 上級、発展科目 | 短期大学士レベル |
|------------|--|---|---|---|-------------------|
| 心理学 | 心理学の基礎知識や心理学分野の調査法を理解し、実践するための能力を養成する。 | 心理学概論 ALLⅢa1-1 心理測定法（パーソナリティ検査） ALLⅢa1-2 | 発達心理学Ⅰ ALLⅢb2-3 発達心理学Ⅱ ALLⅢb2-4 認知心理学 ALLⅢb2-5 教育心理学 ALLⅢb2-6 臨床心理学Ⅰ ALLⅢc2-9 臨床心理学Ⅱ ALLⅢc2-10 健康心理学 ALLⅢc2-11 カウンセリング論 ALLⅢc2-12 社会心理学 ALLⅢd2-15 消費者の心理 ALLⅢd2-16 パーソナリティ心理学 ALLⅢd2-17 心理データ解析演習（SPSS） ALLⅢd2-18 心理学ゼミナール ALLⅢe2-21 | 児童福祉論 ALLⅢb3-7 音楽とこころ ALLⅢb3-8 精神障害者保健福祉論 ALLⅢc3-13 アートセラピーと化装の心理学 ALLⅢc3-14 コミュニケーション心理 ALLⅢd3-19 文学に見る行動心理 ALLⅢd3-20 | 卒業研究 ALLⅢe4-22 |
| 発達・教育心理学系 | 発達過程、教授法・学習、思考・推論・言語等の知識に基づき、実験的状況や社会の中で人間の行動を分析・考察するための能力を養成する。 | | | | |
| 臨床心理学系 | 心理的障害、心理療法、健康開発等の知識に基づき、人間の心理と行動を分析・考察するための諸能力を養成する。 | | | | |
| 社会心理学系 | 自己過程、社会的相互作用、消費者行動等の知識に基づき、人間の行動及び社会的現象を分析・考察するための諸能力を養成する。 | | | | |
| ゼミナール・卒業研究 | これまで学修した知識・技能等を活用し、主体的に卒業研究を進める上で必要となる諸能力を養成する。 | | | | |
| 文科共通科目 | リテラシー基礎 | 文章表現法 ALLⅣa1-1 コミュニケーション論 ALLⅣa1-2 伝える技術 ALLⅣa1-3 | | | |
| | カルチャー | | 伝統文化論 ALLⅣb2-4 地域文化論 ALLⅣb2-5 サブカルチャー論 ALLⅣb2-6 ジェンダー論 ALLⅣb2-7 環境文化論 ALLⅣb2-8 出版メディア論 ALLⅣc2-10 | | |
| | キャリアサポート | ワークライフバランスと健康 ALLⅣc1-11 ホスピタリティを学ぶ ALLⅣc1-12 秘書実務を学ぶ ALLⅣc1-13 ビジネス実務を学ぶA ALLⅣc1-14 日本語教育を学ぶ ALLⅣc1-16 | キャリアデザインの演習（就職・編入サポート） ALLⅣc2-9 ビジネス実務を学ぶB ALLⅣc2-15 | | |

ナンバリングの読み方（例）LLⅢa1-1

| | | | | | | | | | |
|----------------|--------|-----------------|--|---------------------------|--|-----------------|---|-------------------|--------------|
| A 学部 | ALL：文科 | I 中分類 | I：日本文化・表現コース II：グローバル・コミュニケーションコース III：心理学コース IV：文科共通科目 | a 心理学コース 小分類 | a：心理学 b：発達・教育心理学系 c：臨床心理学系 d：社会心理学系 e：ゼミナール・卒業研究 | 1 順次性 | 1：入門、基礎科目 2：中級、基幹科目 3：上級、発展科目 4：短期大学士レベル | -1 通し番号 | 一意の数字を表す通し番号 |
| | | | | a 文科共通科目 小分類 | a：リテラシー基礎 b：カルチャー c：キャリアサポート | | | | |

12. 履修モデル

日本文化・表現コース

◎必修科目 ○選択科目

| 科目区分 | 授業科目 | 単位 | 年次 | 【履修モデルA】 | 【履修モデルB】 | 【履修モデルC】 | 【履修モデルD】 | 卒業要件 | 修得単位数 |
|--------------|------------------------------------|----|----|--|--|--|--|------|-------|
| | | | | オフィスワークモデル | 対人業務モデル | クリエイターモデル | 編入学モデル | | |
| | | | | PC操作・ITスキル、情報リテラシー、確かな日本語運用能力を生かして、オフィスワーカーとして会社を支えることができるようになる人。 | 人と人との繋がりや他者に寄り添う心、確かな日本語運用能力を生かしてコミュニケーション能力を発揮し、顧客を支援することができるようになる人。 | 確かな日本語運用能力と想像力・創造力を身に付け、俯瞰的な視点や表現力、構成力を持って、編集執筆ができるようになる人。 | 日本の文学・文化・言語に関する深い知識と鑑賞能力を有し、自分の明確な研究課題を見つけ、それを追究し、解決できる人。 | | |
| | | | | ことばによって表現されたものを適切に理解する言語的社会的リテラシー、および情報リテラシーを発揮できる進路または分野で活躍することを旨とする。 | ことばによって表現されたものを適切に理解する言語的社会的リテラシー、および非言語コミュニケーション力を発揮できる進路または分野で活躍することを旨とする。 | 文科で培った日本の文学・文化・言語に関する専門性と幅広い教養を生かして、言語文化と関わるクリエイティブな分野で能力を発揮できることを目指す。 | ことばによって表現されたものを適切に理解する言語的社会的リテラシーを活かし、日本の文学・文化・言語に関する学問領域への編入学等を目指す。 | | |
| 自律と努力 | 基礎ゼミナール | 1 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 1 |
| | 論理的思考・文章表現 | 1 | 1 | | | | | | 1 |
| 教養教育科目(抜粋) | キャリアプランと自己実現 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | 課題解決のためのリーダーシップ入門 | 1 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | データサイエンスとICTの基礎 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 2 |
| | 情報処理 | 2 | 1 | | | ◎ | | | |
| | 英語コミュニケーションI (Basic) | 1 | 1 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションI (Intermediate) | 1 | 1 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションI (High-Intermediate) | 1 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 1 |
| | 英語コミュニケーションII (Advanced) | 1 | 1 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションII (Basic) | 1 | 1 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションII (Intermediate) | 1 | 1 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションII (High-Intermediate) | 1 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 1 |
| | 英語コミュニケーションII (Advanced) | 1 | 1 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションIII (Basic) | 1 | 2 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションIII (Intermediate) | 1 | 2 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションIII (High-Intermediate) | 1 | 2 | | | ◎ | ◎ | | |
| | 英語コミュニケーションIII (Advanced) | 1 | 2 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションIV (Basic) | 1 | 2 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションIV (Intermediate) | 1 | 2 | | | ◎ | ◎ | | |
| | 英語コミュニケーションIV (High-Intermediate) | 1 | 2 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションIV (Advanced) | 1 | 2 | | | | | | |
| 協働とリーダーシップ | TOEIC I (Basic) | 2 | 1 | | | | | | |
| | TOEIC I (Intermediate) | 2 | 1 | | | | | | |
| | TOEIC I (High-Intermediate) | 2 | 1 | ◎ | | | | | |
| | TOEIC I (Advanced) | 2 | 1 | | | | | | |
| | TOEIC II (Basic) | 2 | 1 | | | | | | |
| | TOEIC II (Intermediate) | 2 | 1 | | | | | | |
| | TOEIC II (High-Intermediate) | 2 | 1 | ◎ | | | | | |
| | TOEIC II (Advanced) | 2 | 1 | | | | | | |
| 協働とリーダーシップ | 日本の歴史を学ぶ | 2 | 1 | | | | ◎ | | |
| | 世界の歴史を学ぶ | 2 | 1 | ◎ | | | | | |
| | 芸術をひらく | 2 | 1 | | | | ◎ | | |
| | 哲学とは何か | 2 | 1 | | | | | | |
| 協働とリーダーシップ | マーケティング | 2 | 2 | | | | | | |
| | 現代社会の諸課題 | 2 | 2 | | | | ◎ | | |
| 協働とリーダーシップ | サービス・ラーニング実践演習 | 2 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | 文章表現法 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 2 |
| リテラシー基礎 | コミュニケーション論 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 2 |
| | 伝える技術 | 2 | 1 | | | | ◎ | | |
| リテラシー | ことばの仕組み I | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 2 |
| | ことばの仕組み II | 2 | 1 | | | | ◎ | | |
| リテラシー | 現代のことば I | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 2 |
| | 現代のことば II | 2 | 1 | | | | ◎ | | |
| リテラチャー | 物語を読む | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 2 |
| | 近代小説を読む | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 2 |
| | 物語の研究 I | 2 | 2 | | | | ◎ | | |
| | 物語の研究 II | 2 | 2 | | | | ◎ | | |
| | 近代小説の研究 I | 2 | 2 | ◎ | | | ◎ | | 4 |
| | 近代小説の研究 II | 2 | 2 | | | | ◎ | | |
| | 日本文学・文化の歴史(古典) | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 2 |
| | 日本文学・文化の歴史(近現代) | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 2 |
| 日本文化・表現ゼミナール | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 2 | |
| 卒業研究 | 卒業研究 | 4 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 4 |
| | 児童文学論 | 2 | 1 | | | | ◎ | | |
| クリエイティブ | 映画・演劇論 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | 映像メディア論 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 2 |
| | アニメの物語学 | 2 | 1 | | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | 文学創作演習 | 2 | 1 | | | | ◎ | | |
| カルチャー | 伝統文化論 | 2 | 1 | | ◎ | | | | |
| | 地域文化論 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | | | | |
| | サブカルチャー論 | 2 | 1 | | | ◎ | ◎ | | |
| | ジェンダー論 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | | ◎ | | |
| キャリアサポート | 環境文化論 | 2 | 1 | | | | | | |
| | キャリアデザイン演習(就職・編入サポート) | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 2 |
| キャリアサポート | 出版メディア論 | 2 | 1 | | | | ◎ | | |
| | ワークライフバランスと健康 | 2 | 1 | | | | ◎ | | |
| | 秘書実務を学ぶ | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 2 |
| | ビジネス実務を学ぶA | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | ビジネス実務を学ぶB | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | ホスピタリティを学ぶ | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| 大短単位互換科目群 | 他学科・他コース開放科目群 | | | | | | ◎ | | |

| | | | | | |
|-------|---------|----|----|----|----|
| 修得単位数 | 1年次 単位数 | 40 | 40 | 40 | 40 |
| | 2年次 単位数 | 25 | 25 | 25 | 23 |
| | 合計 単位数 | 65 | 65 | 65 | 63 |

※編入希望先に合わせて推奨科目が異なりますので、希望に応じて個別の履修指導を行います。

| (参考) 将来モデルとの対応 | | | |
|----------------|-----------------|-------------|---------|
| オフィスワークモデル | セールス・マーケティングモデル | 編集者・ライターモデル | 共立編入モデル |
| 公務員モデル | 日本語支援者モデル | | 他大編入モデル |

グローバル・コミュニケーションコース

◎必修科目 ○選択科目

| 科目区分 | 授業科目 | 単位 | 年次 | 【履修モデルA】 | 【履修モデルB】 | 【履修モデルC】 | 【履修モデルD】 | 卒業要件 | 修得単位数 | |
|------------|-------------------------------|---|------------------------------------|--|--|--|---|------|-------|---|
| | | | | 国際コミュニケーションモデル | ホスピタリティモデル | オフィスワークモデル | 編入モデル | | | |
| | | | | 国際文化と言語教育を幅広く学ぶと共に、英語コミュニケーション力を身に付け、指導者としてリーダーシップを発揮できるようにする。 | 異文化理解力を身に付け、語学を活かしてインバウンド業界で活躍できるようにする。 | 英語の文章作成能力、プレゼンテーション力を身に付け、必要とされる場面で英語を活用した活躍ができるようになる。 | 言語・文学・国際文化等の専門科目の学修に必要な学力・思考力・表現力を身に付け、主体的に学修できるようにする。 | | | |
| | | | | 英語コミュニケーション能力と指導力を活かし、幼児英語教育や日本語教育の分野で活躍することを目指す。 | 異文化コミュニケーションのスキルを活かし、観光業や接客業で活躍することを目指す。 | 幅広い外国語の知識を活かし、グローバル企業や商社での英語事務等で活躍することを目指す。 | 言語・文学・国際文化等の知識、および文章作成能力、プレゼンテーション力を身に付けて4年制大学への編入を目指す。 | | | |
| 教養教育科目（抜粋） | 自律と努力コア | 基礎ゼミナール | 1 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 1 | |
| | | 論理的思考・文章表現 | 1 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 1 | |
| | | キャリアプランと自己実現 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 1 | |
| | 創造とキャリアコア | | 課題解決のためのリーダーシップ入門 | 1 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 1 |
| | | | データサイエンスとICTの基礎 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 2 |
| | | | 情報処理 | 2 | 1 | | | ◎ | | |
| | | | 英語コミュニケーションI (Basic) | 1 | 1 | | | | ◎ | |
| | | | 英語コミュニケーションI (Intermediate) | 1 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 1 |
| | | | 英語コミュニケーションI (High-Intermediate) | 1 | 1 | | | | ◎ | |
| | | | 英語コミュニケーションI (Advanced) | 1 | 1 | | | | ◎ | |
| | | | 英語コミュニケーションII (Basic) | 1 | 1 | | | | | |
| | | | 英語コミュニケーションII (Intermediate) | 1 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 1 |
| | | | 英語コミュニケーションII (High-Intermediate) | 1 | 1 | | | | ◎ | |
| | | | 英語コミュニケーションII (Advanced) | 1 | 1 | | | | ◎ | |
| | | | 英語コミュニケーションIII (Basic) | 1 | 2 | | | | | |
| | | | 英語コミュニケーションIII (Intermediate) | 1 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | | | 英語コミュニケーションIII (High-Intermediate) | 1 | 2 | | | | ◎ | |
| | | | 英語コミュニケーションIII (Advanced) | 1 | 2 | | | | ◎ | |
| | | | 英語コミュニケーションIV (Basic) | 1 | 2 | | | | | |
| | | | 英語コミュニケーションIV (Intermediate) | 1 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | | | 英語コミュニケーションIV (High-Intermediate) | 1 | 2 | | | | ◎ | |
| | | | 英語コミュニケーションIV (Advanced) | 1 | 2 | | | | ◎ | |
| | | | TOEIC I (Basic) | 2 | 1 | | | | | |
| | | TOEIC I (Intermediate) | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | | TOEIC I (High-Intermediate) | 2 | 1 | | | | ◎ | | |
| | | TOEIC I (Advanced) | 2 | 1 | | | | ◎ | | |
| | | TOEIC II (Basic) | 2 | 1 | | | | | | |
| | | TOEIC II (Intermediate) | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | | TOEIC II (High-Intermediate) | 2 | 1 | | | | ◎ | | |
| | | TOEIC II (Advanced) | 2 | 1 | | | | ◎ | | |
| | TOEIC III (High-Intermediate) | 2 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | TOEIC III (Advanced) | 2 | 2 | | | | ◎ | | | |
| | 中国語 I | 2 | 1 | | ◎ | ◎ | | | | |
| | 中国語 II | 2 | 1 | | ◎ | ◎ | | | | |
| | 中国語 III | 1 | 2 | | ◎ | ◎ | | | | |
| | 中国語 IV | 1 | 2 | | ◎ | ◎ | | | | |
| | 国際関係を学ぶ | 2 | 1・2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | 地域社会と家族を学ぶ | 2 | 1・2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | 企業と社会の仕組み | 2 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 識り-つながり | サービス・ラーニング実践演習 | 2 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| コース専門科目 | コミュニケーションスキル | Speaking (Intermediate) | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 2 | |
| | | Speaking (Basic) | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | | Pronunciation | 2 | 1 | | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | | Writing (Intermediate) | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 2 | |
| | | Writing (Basic) | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | オフィス英語 | TOEIC Listening & Reading I (Intermediate) | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 2 | |
| | | TOEIC Listening & Reading I (Basic) | 2 | 1 | | | | ◎ | | |
| | | TOEIC Listening & Reading II (Intermediate) | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 2 | |
| | | TOEIC Listening & Reading II (Basic) | 2 | 1 | | | | ◎ | | |
| | | ビジネス英語 | 2 | 2 | | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | | プレゼンテーションスキル | 2 | 2 | | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | 国際文化 | 異文化間コミュニケーション | 2 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 6 | |
| | | 映画で楽しむアメリカ文学 | 2 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | | 日英語比較研究 | 2 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | | 映画で学ぶ英語 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | ポップソングで学ぶ英語 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| ホスピタリティ | エアポート・エアライン研究 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 6 | | |
| | ホスピタリティ・ツーリズムの英語 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | 幼児教育・保育英語 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 短期留学 | ハワイ短期留学 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | ニュージーランド短期留学 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | フランス短期留学 | 2 | 1 | | | | ◎ | | | |
| | 中国短期留学 | 2 | 1 | | ◎ | | ◎ | | | |
| | 韓国短期留学 | 2 | 1 | | | | ◎ | | | |
| 卒業研究 | 卒業研究 | 4 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 4 | | |
| 文科共通科目（抜粋） | リテラシー基礎 | 文章表現法 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | | コミュニケーション論 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | | 伝える技術 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | カルチャー | 地域文化論 | 2 | 1 | | | | ◎ | | |
| | | ジェンダー論 | 2 | 1 | | | | ◎ | | |
| | キャリアサポート | キャリアデザイン演習(就職・編入サポート) | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 2 | |
| ホスピタリティを学ぶ | | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 秘書実務を学ぶ | | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| ビジネス実務を学ぶA | | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 2 | | |
| | ビジネス実務を学ぶB | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | 日本語教育を学ぶ | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |

| | | | | | |
|-------|---------|----|----|----|----|
| 修得単位数 | 1年次 単位数 | 40 | 40 | 40 | 39 |
| | 2年次 単位数 | 23 | 25 | 25 | 26 |
| | 合計 単位数 | 63 | 65 | 65 | 65 |

※編入希望先に合わせて推奨科目が異なりますので、希望に応じて個別の履修指導を行います。

| (参考) 将来モデルとの対応 | | | |
|----------------|----------|----------------------------|------------------------------|
| 幼保英語士モデル | 航空・観光モデル | グローバル系オフィスワークモデル 公務員モデル | 共立編入モデル 他大学編入モデル 留学モデル |

心理学コース

◎必修科目 ○選択科目

| 科目区分 | 授業科目 | 単位 | 年次 | 【履修モデルA】 | 【履修モデルB】 | 【履修モデルC】 | 【履修モデルD】 | 卒業要件 | 修得単位数 |
|-----------------------------------|------------------------------------|----|----|----------|----------|----------|----------|------|-------|
| | | | | 対人調整モデル | 対人支援モデル | 公務員モデル | 編入モデル ※ | | |
| 教育教育科目(抜粋) | 基礎ゼミナール | 1 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 1 | 16 |
| | 論理的思考・文章表現 | 1 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 1 | |
| | キャリアプランと自己実現 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 1 | |
| | 課題解決のためのリーダーシップ入門 | 1 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 1 | |
| | データサイエンスとICTの基礎 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 2 | |
| | 情報処理 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | | | | |
| | 英語コミュニケーションI (Basic) | 1 | 1 | | | ◎ | ◎ | 1 | |
| | 英語コミュニケーションI (Intermediate) | 1 | 1 | | ◎ | | | | |
| | 英語コミュニケーションI (High-Intermediate) | 1 | 1 | ◎ | | | | | |
| | 英語コミュニケーションI (Advanced) | 1 | 1 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションII (Basic) | 1 | 1 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションII (Intermediate) | 1 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 1 | |
| | 英語コミュニケーションII (High-Intermediate) | 1 | 1 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションII (Advanced) | 1 | 1 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションIII (Basic) | 1 | 2 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションIII (Intermediate) | 1 | 2 | | | ◎ | ◎ | | |
| | 英語コミュニケーションIII (High-Intermediate) | 1 | 2 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションIII (Advanced) | 1 | 2 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションIV (Basic) | 1 | 2 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションIV (Intermediate) | 1 | 2 | | | ◎ | ◎ | | |
| 英語コミュニケーションIV (High-Intermediate) | 1 | 2 | | | | | | | |
| 英語コミュニケーションIV (Advanced) | 1 | 2 | | | | | | | |
| TOEIC I (Basic) | 2 | 1 | | | | | | | |
| TOEIC I (Intermediate) | 2 | 1 | | | | | | | |
| TOEIC I (High-Intermediate) | 2 | 1 | | | ◎ | ◎ | | | |
| TOEIC I (Advanced) | 2 | 1 | | | | | | | |
| TOEIC II (Basic) | 2 | 1 | | | | | | | |
| TOEIC II (Intermediate) | 2 | 1 | | | | | | | |
| TOEIC II (High-Intermediate) | 2 | 1 | | | ◎ | ◎ | | | |
| TOEIC II (Advanced) | 2 | 1 | | | | | | | |
| 法律を学ぶ(概論) | 2 | 1 | | | ◎ | | | | |
| 政治を学ぶ | 2 | 1 | | | | ◎ | | | |
| 経済を学ぶ | 2 | 1 | ◎ | ◎ | | | | | |
| 数学への招待 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | | | | | |
| サービス・ラーニング実践演習 | 2 | 2 | ◎ | ◎ | | ◎ | | | |
| 文章表現法 | 2 | 1 | | | | ◎ | | | |
| コミュニケーション論 | 2 | 1 | | | | | | | |
| 伝える技術 | 2 | 1 | | | | | | | |
| 心理学概論 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 2 | | |
| 心理測定法(パーソナリティ検査) | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 2 | | |
| 発達心理学I | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 6 | | |
| 発達心理学II | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 認知心理学 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 教育心理学 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 児童福祉論 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 音楽とこころ | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 臨床心理学I | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 6 | | |
| 臨床心理学II | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 健康心理学 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| カウンセリング論 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 精神障害者保健福祉論 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| アートセラピーと化粧の心理学 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 社会心理学 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 6 | | |
| 消費者の心理 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| パーソナリティ心理学 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 心理データ解析演習(SPSS) | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| コミュニケーション心理 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 文学に見る行動心理 | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 心理学ゼミナール | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 2 | | |
| 卒業研究 | 4 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 4 | | |
| 文科共通科目 | 伝統文化論 | 2 | 1 | | | | | 2 | |
| | 地域文化論 | 2 | 1 | | | | | | |
| | サブカルチャー論 | 2 | 1 | | | | | | |
| | ジェンダー論 | 2 | 1 | | | | ◎ | | |
| | 環境文化論 | 2 | 1 | | | | | | |
| | キャリアデザイン演習(就職・編入サポート) | 2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | 出版メディア論 | 2 | 1 | | | | | | |
| | ワークライフバランスと健康 | 2 | 1 | | | ◎ | ◎ | | |
| | 秘書実務を学ぶ | 2 | 1 | ◎ | | | | | |
| | ビジネス実務を学ぶI | 2 | 1 | ◎ | | | | | |
| ビジネス実務を学ぶII | 2 | 1 | ◎ | | | | | | |
| ホスピタリティを学ぶ | 2 | 1 | ◎ | | | | | | |
| 日本語教育を学ぶ | 2 | 1 | | | | | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|--|---|---|---|
| 大短単位互換科目群 | | | | | ◎ |
| 他学科・他コース開放科目群 | | | ◎ | ◎ | ◎ |

| | | | | | |
|-------|---------|----|----|----|----|
| 修得単位数 | 1年次 単位数 | 39 | 39 | 39 | 39 |
| | 2年次 単位数 | 24 | 24 | 24 | 26 |
| | 合計 単位数 | 63 | 63 | 63 | 64 |

※編入希望先に合わせて推奨科目が異なりますので、希望に応じて個別の履修指導を行います。

| (参考) 将来モデルとの対応 | | | |
|-----------------|--|--------|--------------------|
| サポート系オフィスワークモデル | コスメ・ビューティモデル 販売・レセプション・サービスモデル ソーシャルワークモデル | 公務員モデル | 共立編入モデル 他大編入モデル |

■ 短期大学開放科目

短期大学開放科目とは、生活科学科と文科の学生が、両科の垣根を越えて、関心のある科目を履修し、所定の単位を専門科目の卒業要件（単位）に加えることができる制度です。また、年間 40 単位以内であれば、卒業要件に関わらず履修することもできます。是非、この制度を利用して、両学科の専門科目を幅広く学ぶことを期待します。

生活科学科 2コース：他コース・他学科科目として8単位まで卒業要件に含むことができる

文 科 3コース：他コース・他学科科目として8単位まで卒業要件に含むことができる

※上記 `卒業要件、とは、それぞれ「専門教育科目の選択科目」の卒業要件のことを指します。

短期大学開放科目（生活科学科専門教育科目：文科の学生対象）

| 区分 | 科目 ナンバリング | 授業科目 | 年次 | 単位 | 備考 | |
|-----------|---------------|----------------------|-----------|----|---|--|
| コース共通 | ASLa1-1 | 衣生活とSDGs | 1・2 | 2 | | |
| | ASLa2-2 | 食生活とSDGs | 1・2 | 2 | | |
| | ASLa1-3 | 住生活とSDGs | 1・2 | 2 | | |
| | ASLa1-4 | PC 活用演習 | 1 | 1 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| | ASLa1-5 | CG 基礎演習 | 1 | 1 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| | ASLa1-7 | キャリア実務基礎（公務員・SPI 対応） | 1 | 2 | | |
| | ASLa2-9 | リテールマーケティング演習（販売士） | 1 | 2 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| | ASLa2-10 | 医療事務入門 | 1 | 2 | | |
| | ITメディアコース | ASLb1-1 | メディア社会論 | 1 | 2 | |
| | | ASLb1-2 | ポップカルチャー論 | 1 | 2 | |
| ASLb2-3 | | ソーシャルメディア演習 | 1 | 2 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| ASLb2-4 | | メディアカルチャー演習 | 1 | 2 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| ASLb3-5 | | 情報メディア演習 | 2 | 2 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| ASLb4-6 | | サステイナブル社会論 | 2 | 2 | | |
| ASLb1-7 | | 健康メディア論 | 1 | 2 | | |
| ASLb1-9 | | 女性の健康と心理 | 1 | 2 | | |
| ASLb3-11 | | フィットネス&ウェルネス演習 | 2 | 2 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| ASLb4-12 | | ビューティー&ウェルネス演習 | 2 | 2 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| ASLb1-13 | | メディアデザイン論 | 1 | 2 | | |
| ASLb3-18 | | DTP演習 | 2 | 2 | Illustrator・Photoshopの基礎的スキルがあることが望ましい。 | |
| ASLb4-19 | | アニメーション制作演習 | 2 | 2 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| ASLb1-22 | | ITパスポート論 | 1 | 2 | | |
| ASLb2-23 | | ITパスポート演習 | 1 | 2 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| ASLb2-25 | | データ解析演習 | 1 | 2 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| ASLb3-26 | | マーケティングリサーチ演習 | 2 | 2 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| 生活デザインコース | | ASLc1-1 | フードデザイン論 | 1 | 2 | |
| | ASLc2-4 | フードメディア演習 | 1 | 2 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| | ASLc3-5 | フードコーディネート論 | 2 | 2 | | |
| | ASLc2-8 | プロダクトデザイン論 | 1 | 2 | | |
| | ASLc1-9 | ドローイング演習 | 1 | 2 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| | ASLc1-10 | 生活プロダクトデザイン演習 | 1 | 2 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| | ASLc2-11 | 生活プロダクトメディア演習 | 1 | 2 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| | ASLc3-13 | デジタル・イラストレーション演習 | 2 | 2 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| | ASLc4-14 | ユニバーサルデザイン論 | 2 | 2 | | |
| | ASLc2-16 | ファッションデザイン論 | 1 | 2 | | |
| | ASLc1-18 | ファッションデザイン演習 | 1 | 2 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| | ASLc2-19 | ファッションメディア演習 | 1 | 2 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| | ASLc3-21 | ファッションビジネス論 | 2 | 2 | | |
| | ASLc2-24 | 住環境デザイン論 | 1 | 2 | | |
| | ASLc1-25 | インテリア製図演習 I | 1 | 2 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| | ASLc1-27 | インテリアCAD実習 I | 1 | 1 | 演習科目につき定員あり（生活科学科優先） | |
| ASLc3-30 | インテリアコーディネート論 | 2 | 2 | | | |

短期大学開放科目（文科専門教育科目：生活科学科の学生対象）

| 専攻 | 科目ナンバリング | 授業科目 | 年次 | 単位 | 備考 | |
|--------------------|---------------|---|------------|----|--|--|
| 日本文化・表現コース | ALL I a1-1 | ことばの仕組み I | 1 | 2 | | |
| | ALL I a2-2 | ことばの仕組み II | 1 | 2 | | |
| | ALL I a1-3 | 現代のことば I | 1 | 2 | | |
| | ALL I a2-4 | 現代のことば II | 1 | 2 | | |
| | ALL I b1-5 | 日本文学・文化の歴史（古典） | 1 | 2 | | |
| | ALL I b1-6 | 日本文学・文化の歴史（近現代） | 1 | 2 | | |
| | ALL I b2-7 | 物語を読む | 1 | 2 | | |
| | ALL I b2-8 | 近代小説を読む | 1 | 2 | | |
| | ALL I b3-9 | 物語の研究 I | 2 | 2 | | |
| | ALL I b3-10 | 物語の研究 II | 2 | 2 | | |
| | ALL I b3-11 | 近代小説の研究 I | 2 | 2 | | |
| | ALL I b3-12 | 近代小説の研究 II | 2 | 2 | | |
| | ALL I c1-13 | 児童文学論 | 1 | 2 | | |
| | ALL I c1-14 | アニメの物語学 | 1 | 2 | | |
| | ALL I c1-15 | 映画・演劇論 | 1 | 2 | | |
| | ALL I c2-16 | 文学創作演習 | 1 | 2 | | |
| | ALL I c2-17 | 映像メディア論 | 1 | 2 | | |
| グローバル・コミュニケーションコース | ALL II a1-1 | Speaking (Intermediate) | 1 | 2 | プレACEMENTテストに基づいて (Intermedeaite) または (Basic) のレベルを指定する。 | |
| | ALL II a1-2 | Speaking (Basic) | 1 | 2 | | |
| | ALL II a1-3 | Pronunciation | 1 | 2 | | |
| | ALL II a1-4 | Writing (Intermediate) | 1 | 2 | プレACEMENTテストに基づいて (Intermedeaite) または (Basic) のレベルを指定する。 | |
| | ALL II a1-5 | Writing (Basic) | 1 | 2 | | |
| | ALL II b1-6 | TOEIC Listening & Reading I (Intermediate) | 1 | 2 | | |
| | ALL II b1-7 | TOEIC Listening & Reading I (Basic) | 1 | 2 | | |
| | ALL II b2-8 | TOEIC Listening & Reading II (Intermediate) | 1 | 2 | | |
| | ALL II b2-9 | TOEIC Listening & Reading II (Basic) | 1 | 2 | | |
| | ALL II b3-10 | ビジネス英語 | 2 | 2 | | |
| | ALL II b3-11 | プレゼンテーションスキル | 2 | 2 | | |
| | ALL II c3-12 | 異文化間コミュニケーション | 2 | 2 | | |
| | ALL II c3-13 | 映画で楽しむアメリカ文学 | 2 | 2 | | |
| | ALL II c3-14 | 日英語比較研究 | 2 | 2 | | |
| | ALL II c2-15 | 映画で学ぶ英語 | 1 | 2 | | |
| | ALL II c2-16 | ポップソングで学ぶ英語 | 1 | 2 | | |
| | ALL II d2-17 | エアポート・エアライン研究 | 1 | 2 | | |
| | ALL II d2-18 | ホスピタリティ・ツーリズムの英語 | 1 | 2 | | |
| | ALL II d2-19 | 幼児教育・保育英語 | 1 | 2 | | |
| 心理学コース | ALL III b2-3 | 発達心理学 I | 1 | 2 | | |
| | ALL III b2-4 | 発達心理学 II | 1 | 2 | | |
| | ALL III b2-5 | 認知心理学 | 1 | 2 | | |
| | ALL III b2-6 | 教育心理学 | 1 | 2 | | |
| | ALL III b3-7 | 児童福祉論 | 1 | 2 | | |
| | ALL III b3-8 | 音楽とこころ | 1 | 2 | | |
| | ALL III c2-9 | 臨床心理学 I | 1 | 2 | | |
| | ALL III c2-10 | 臨床心理学 II | 1 | 2 | | |
| | ALL III c2-11 | 健康心理学 | 1 | 2 | | |
| | ALL III c2-12 | カウンセリング論 | 1 | 2 | | |
| | ALL III c3-13 | 精神障害者保健福祉論 | 1 | 2 | | |
| | ALL III c3-14 | アートセラピーと化粧の心理学 | 1 | 2 | | |
| | ALL III d2-15 | 社会心理学 | 1 | 2 | | |
| | ALL III d2-16 | 消費者の心理 | 1 | 2 | | |
| | ALL III d2-17 | パーソナリティ心理学 | 1 | 2 | | |
| | ALL III d2-18 | 心理データ解析演習 (SPSS) | 1 | 2 | | |
| | ALL III d3-19 | コミュニケーション心理 | 1 | 2 | | |
| | ALL III d3-20 | 文学に見る行動心理 | 1 | 2 | | |
| | 文科共通科目 | ALL IV a1-2 | コミュニケーション論 | 1 | 2 | |
| | | ALL IV a1-3 | 伝える技術 | 1 | 2 | |
| ALL IV b2-4 | | 伝統文化論 | 1 | 2 | | |
| ALL IV b2-5 | | 地域文化論 | 1 | 2 | | |
| ALL IV b2-6 | | サブカルチャー論 | 1 | 2 | | |
| ALL IV b2-7 | | ジェンダー論 | 1 | 2 | | |
| ALL IV b2-8 | | 環境文化論 | 1 | 2 | | |
| ALL IV c2-10 | | 出版メディア論 | 1 | 2 | | |
| ALL IV c1-11 | | ワークライフバランスと健康 | 1 | 2 | | |
| ALL IV c1-12 | | ホスピタリティを学ぶ | 1 | 2 | | |
| ALL IV c1-13 | | 秘書実務を学ぶ | 1 | 2 | | |
| ALL IV c1-14 | | ビジネス実務を学ぶA | 1 | 2 | | |
| ALL IV c2-15 | | ビジネス実務を学ぶB | 1 | 2 | | |
| ALL IV c1-16 | | 日本語教育を学ぶ | 1 | 2 | | |

Ⅱ 全学科に共通する事項

1. 学籍について

学籍とは、学生として身分を有することを意味し、本学の入学試験に合格して入学手続きを完了した者に、本学への入学が許可され、本学学生としての学籍が与えられます。在学中に本人の氏名・本籍地・現住所・保証人（外国人留学生は在日保証人）等の変更があった場合は、学生支援課にただちに届け出てください。

- (1) 学籍番号は入学時に決定し、原則として在学中は変更しません。学校に提出する書類には、氏名とともに学籍番号を必ず記入することになっています。
- (2) 学籍番号は次のような仕組みになっています。

| | | | |
|------|---------|------|------------|
| 26 | アルファベット | 000 | TA = 生活科学科 |
| 入学年度 | 学科区分 | 個人番号 | TB = 文科 |

2. 学生証

- (1) 学生証は、学生の身分を証明する重要なものです。常に携帯し、本学教職員の請求があった場合は呈示しなければなりません。学生証は、以下の場合に必ず必要になりますので、毎日必ず持参してください。
 - ①授業の出席情報の登録
 - ②試験を受ける際の身分確認
 - ③各種証明書の交付
 - ・証明書や学割証は、本館2階の証明書自動発行機より発行します。
 - （一部の証明書はコンビニエンスストアなどで学外発行が可能です。お急ぎの場合は、そちらも併せてご利用ください。）学外発行の方法については、本学ホームページをご参照ください。
 - ④情報処理演習室における印刷物のプリントアウト
 - ⑤図書館の利用
- (2) 学生証は他人に貸したり、譲ったり、出席情報登録などにおける悪用その他の不正使用をしてはなりません。不正使用した場合、学則（第60条）に反したとして厳しく処分されます。また、紛失、盗難にあって悪用されないよう十分注意してください。卒業、退学等により学生としての身分が消滅した場合は、学生証を教務課に返却してください。
- (3) 学生証の記載事項に変更があった場合、および学生証を紛失した場合はただちに教務課へ届け出てください。特に学外での紛失・盗難の場合は、悪用される危険性があるので、最寄りの警察にも届けておくようにしてください。個人情報が登録されている大変重要なものですから、卒業時まで大切に扱ってください。

3. 学籍異動

長期欠席・休学・退学する場合は、早めに担任または教務課に相談してください。

A 休学・復学（学則第34条、第35条）

- (1) 病気その他やむを得ない理由によって1学期以上就学できない場合は、保証人連署のうえ願い出て、休学の許可を得なければなりません（病気の場合は診断書を添付）。
- (2) 休学期間はその年度内とし、願出によって引き続き1年以内休学することができます。
- (3) 休学期間は卒業するまで通算して2年を超えることはできません。
- (4) 休学期間は学則に定められている修業年限および在学年数に算入されません。
- (5) 休学期間が終了して再び就学を希望する場合は、保証人連署のうえ「復学願」を提出して許可を得なければなりません。復学の時期は学期の始めとします。

B 退学（学則第36条）

病気その他やむを得ない理由によって退学しようとする場合は、保証人連署のうえ願い出て、許可を得なければなりません。ただし願い出た期日を含む学期の授業料等の学費を納入していなければなりません。

C 除籍（学則第38条の2）

次のいずれかに該当する場合は、教授会の議を経て除籍されます。

- (1) 学則に定める期限までに授業料等の学費を納入していない場合
- (2) 学則に定める在学年限を超えた場合
- (3) 学則に定める休学期間を超えた場合
- (4) 長期間にわたって行方不明の場合
- (5) 所定の期日までに履修しようとする授業科目の届け出がない場合

D 再入学（学則第38条）

退学した者または除籍となった者が2年以内に申し出て選考のうえ許可を得た場合は、再入学することができます。ただし、再入学の時期は学年の始めとします。

なお、在学年限を満たして退学または除籍となった場合は該当しません。

E 転学部・転学科・転専攻について

本学では学科相互間において選考のうえ、異動することができます。異動にあたっては同一年次で再度学修するなど2年間での卒業ができない場合もあります。毎年6月ごろ募集要項が完成します。詳細は教務課までご相談ください。

4. 学費

(1) 授業料等の学費の納入期限は次のとおりです。

| | |
|-----|--------|
| 前期分 | 4月30日 |
| 後期分 | 10月20日 |

上記期限内に納入されない時は除籍の対象となり、学生としての身分を失うこととなります。除籍期日は前年度の3月31日または当該年度の9月20日付けとなります。不測の理由で期限までに納入できない場合は、教務課に「学費延納願」を提出し、許可された場合は納入期限を延期することができます。

ただし、延期することができる期限は、前期分は6月30日まで、後期分は12月31日までです。いずれも学費納入期限前に願い出た場合のみに、その理由により許可されます。

(2) 学費納入済みの学期を過ぎて退学を願い出る場合は、4月30日までに「退学願」が提出された場合は3月31日に、10月20日までに提出された場合は9月20日にさかのぼって退学を許可します。

納入額

| | 生活科学科 | 文科 |
|----------------|----------|----------|
| 入学金 | 150,000円 | 150,000円 |
| 授業料(年額) | 800,000円 | 800,000円 |
| 施設設備維持費(年額) | 410,000円 | 380,000円 |
| 実験実習料(年額) | 50,000円 | — |
| 科目等履修登録料 | 16,000円 | 16,000円 |
| 科目等履修料(1単位につき) | 12,000円 | 12,000円 |

納入方法

1. 授業料および施設設備維持費、実験実習料(以下「納入金」という。)は半額ずつ前期分は4月30日まで、後期分は10月20日までに納入するものとする。
2. 休学期間中は在籍料として半期休学の場合は5万円を、1年間休学の場合は10万円を納めなければならない。
3. 標準修業年限を超えた学生の納入金は、上記1にかかわらず、標準修業年限を超えた学期における卒業要件不足単位数に応じて、以下のとおりとし、前期の場合は4月30日、後期の場合は10月20日までに納入する。
 - ①卒業要件不足単位数が10単位以内の場合は納入金の年額の8分の1
 - ②卒業要件不足単位数が11単位から25単位の場合は納入金の年額の4分の1
 - ③卒業要件不足単位数が26単位以上は納入金の年額の2分の1
4. 再入学者の入学金は徴収しない。

◎高等教育の修学支援新制度について

高等教育の修学支援新制度は、2020年4月より始まった大学等が行う入学金・授業料の減免と日本学生支援機構の給付型奨学金を利用して、修学を支援する制度です。申請を検討している方は、学生支援課奨学金窓口へご相談ください。

5. 単位および授業期間

(1) 単位について

大学・短期大学は、高校と同じ単位制度を取っています。大学・短期大学での学修において、単位に応じて「必要な学修時間」の仕組みを必ず理解してください。

国の基準では『1単位は45時間の学修を必要とする』と決められています。単位を取得するためにどのくらいの学修時間が必要なのか、次の例で計算してみましょう。なお、大学の学修時間は慣習として1時間を45分として計算します。

【例】半期（前期もしくは後期）の講義科目=2単位

● 1単位=45時間の学修が必要 ⇒ 講義科目2単位=90時間=4,050分の学修が必要

| | | | | |
|-------------------------|---|-----------------------|---|------------------|
| 授業内の学修時間 | + | 授業外の学修時間 | = | 必要な学修時間 |
| 1,400分(14回) 100分(1回) | | 2,650分 189分(授業1回分) | | 4,050分 授業+授業外 |

単位取得のためには、授業時間に加えて、授業外での学修が求められています。上記の2単位の講義科目例では週に3時間超の授業外学修時間が必要なことが分かります。この授業外での学修は、事前学修・事後学修と言われ、各授業のシラバスにも、学修すべき内容が記載されています。自ら積極的に学修してください。

(2) 授業期間について

本学では学則第6条に示す通り、前期および後期の2学期にわけて実施しています。

| | |
|----|-------------|
| 前期 | 4月1日～9月20日 |
| 後期 | 9月21日～3月31日 |

(3) 開講期間と科目の区分について

授業科目には、開講する期間に応じて次のような区分があります。

| 区 分 | 開 講 期 間 |
|------|-------------|
| 通年科目 | 年間を通して実施 |
| 半期科目 | 前期、または後期で完結 |
| 集中講義 | 短期間に集中して実施 |

6. 授 業

本学の授業方法は、「対面授業」を基本とします。なお、大学が教育上、効果があると認めた一部の科目については、**kyonet**のクラスプロフィールを使用した「オンデマンド型授業」とします。また、「オンデマンド型授業」対象科目については、シラバス等で告知・周知することとします。

天災や感染症のまん延状況等によっては、授業の一部を「オンライン授業」とする対応を行う場合があります。

(1) 授業時間

平常の授業は、授業時間割表に従って次の時間で行なわれます。授業は通常1時限単位で行なわれますが、実験・実習科目等で1.5時限や2時限の授業もあります。

| 時限 | 時間 |
|-----|---------------------|
| 1時限 | 9:00～(9:50)～10:40 |
| 2時限 | 11:00～(11:50)～12:40 |
| 3時限 | 13:30～(14:20)～15:10 |
| 4時限 | 15:30～(16:20)～17:10 |
| 5時限 | 17:30～(18:20)～19:10 |

(2) 休講・補講

授業担当者がやむを得ない理由で授業を休講する場合は、**kyonet**より伝達します。休講情報がなく、始業時より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務課に連絡して、その指示に従ってください。

授業が休講となった場合、補講を行なうことになっています。補講は主として土曜日の午後または補講調整日に行ないます。

(3) 授業への出席と遅刻・早退・欠席の取扱い

《授業への出席》

- ・授業には必ず出席してください。単位を修得するためには、授業に全て出席することが前提となります。
- ・授業に出席したら、出席情報登録システムのカードリーダー（教室のドア付近に設置）に学生証を当ててください。出席の情報は、授業担当者が出席情報を正しく把握するために使用します。
- ・カードリーダーは、教室、演習室、実験・実習室のドア付近にあります。100人以上収容の教室には2つ取り付けてあります。
- ・出席情報登録システムへの「出席」としての登録は、授業開始時刻10分前から授業開始時刻までです。
（例）1限の場合 8:50～9:00
- ・自身の出席情報は、**kyonet**で確認することができます。
- ・授業によっては、カードリーダーによる出席情報の登録ができない場合があります。その場合は、授業担当者の指示に従ってください。
- ・学生証を忘れた場合は、当日の授業時にその旨を直接授業担当者へ申し出てください。

《遅刻・早退》

- ・授業開始時刻から20分を経過するまでは遅刻の扱いとなります。
- ・出席情報登録システムへの「遅刻」としての登録は、授業開始時刻1分後から20分を経過する前までです。これを過ぎると「受付終了」と表示されます。
（例）1限の場合 9:01～9:19
- ・「受付終了」後は、欠席扱いとなりますが、必ずカードリーダーに学生証を当ててください。学生証を当てた時刻が記録されます。
- ・電車などの遅延で遅刻または受付終了となった場合、授業後すぐに授業担当者へ申し出てください（遅延証明書があれば、裏面に学籍番号と名前を記入して提出するようにしてください。なお、取り扱いは授業担当者に任されています）。
- ・止むを得ず授業を早退する場合は授業担当者にその旨を伝えてください。
- ・遅刻・早退は3回をもって欠席1回に換算されます。

《欠席》

- ・本学の試験規程により「当該授業科目の出席時間数が原則として授業総時間数の2/3以上あること」が受験資格の条件の一つとなっています。
- ・本学では公欠の取り扱いはありません。いかなる理由（忌引き、実習、就職活動等）でも欠席を出席とすることはしません。ただし以下の届け出に関しては、試験の受験資格に抵触する場合に授業担当者によって配慮されることがあります。

○病気やけがなどで一週間以上続けて欠席する場合

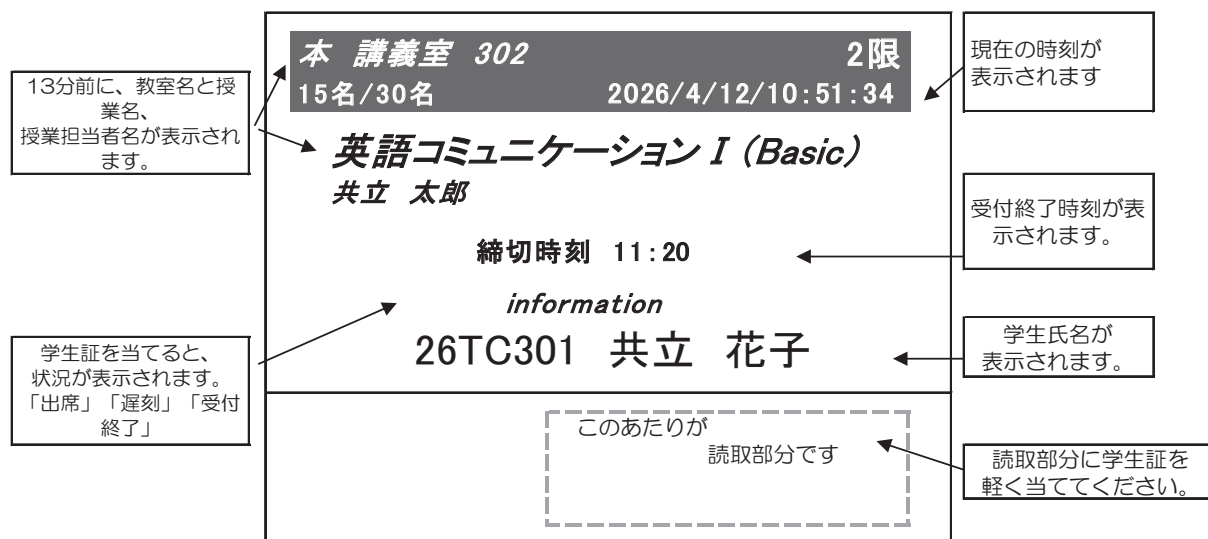
kyonet Web 申請による「欠席届」の提出が必要です。

病気やけがが治り、登校ができるようになってから提出してください。

試験の日程が迫っている場合は、教務課にお問合せください。

○就職活動における欠席届

＜カードリーダーの画面と登録方法＞



★何度学生証を当ててもエラーが出る場合は、カードの不良、または正しく履修登録がされていない可能性があります。すぐに教務課で確認してください。

（４）緊急事態発生時の授業・試験等の取り扱い

緊急事態（天候・交通機関等）が発生した場合の授業・試験等の取り扱いは、**kyonet**、学内放送、ホームページ (<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/>) で伝達します。

停電などの非常時は X（旧 Twitter）を含めて伝達します。

緊急時には上記の方法でかならずご確認ください。

台風接近時等の授業実施の対応について、「開講」または「休講」の通知を一日に 2 回、以下の通り周知することがあります。

| 通知内容 | 通知時間 |
|---|---|
| 「午前授業」（1・2 時限）の実施について または「終日休講」の実施について | 本学ホームページにおいて午前 6：00 までに周知、 kyonet にて午前 6：30 までに通知 |
| 「午後授業」（3・4・5 時限）の実施について | 午前 10：50 までに通知 |

備考：①台風や大雪等、気象状況が時間の経過とともに悪化することが十分予測される場合、また公共交通機関の計画運休等により授業実施が困難と予想される場合は、前日に授業の休講・試験の延期措置の決定を行うことがあります。その場合は、前日の 20：00 までに周知します。

②気象状況等の急変により、その他措置を行う場合は、その都度周知します。

7. 履修登録

履修登録とは

各自が作成した授業時間割をもとに、履修しようとする科目を届け出ることをいいます。

履修登録されていない科目は、授業を受けることも、また試験を受けて単位修得することもできません。

履修登録は、**kyonet** の **Web** 履修登録により行います。

前期開講科目と通年科目については3～4月に、後期開講科目については9月に履修登録期間が設けられます。履修登録期間は、履修しようとする科目や所属する年次等によりあらかじめ指定されますので、期日内に履修登録を確定する必要があります。学内の情報演習室に設置されたパソコンやラウンジ等に設置されたインフォメーションPCから入力できる他、インターネットを利用できる環境でしたら自宅のパソコンやスマートフォンからも入力できます。

「**Web** 履修登録」の詳細は、オリエンテーション期間中のガイダンスやリンク集の資料等で説明します。

履修登録の流れの手順に沿って、履修登録を行ってください。わからないことがあった場合は、教務課へ相談、またはオリエンテーション期間中の「履修相談」の時間を利用してください。

履修登録の流れ

<前期履修登録>

- ① オリエンテーション期間中の各ガイダンスに出席し、注意事項を確認します。
- ② 『履修ガイド』の<卒業に必要な最低単位数>と<カリキュラム表>を熟読します。
- ③ 必修科目や選択必修科目、選択科目を確認し、それぞれの配当年次を考慮しながら、卒業時までの履修計画を立てます。
- ④ 履修しようとする科目の授業内容を共立シラバスで確認します。
- ⑤ 履修しようとする科目の開講曜日・時限を **kyonet** の時間割で確認します。
- ⑥ 前期・後期・通年各科目単位数の合計が履修登録上限単位数内に収まるように、1年間の履修計画を立てます。
(授業の予習・復習する時間を考えて、年間38～40単位を目安に計画することをおすすめします)
(各科で半期ごとに履修できる上限が設定されています。121ページ参照
必ず上限を確認の上、履修計画を立てるようにしてください。)
- ⑦ 履修しようとする科目の履修条件を確認します。
- ⑧ 各自が履修しようとする時間割を下書き用紙に書き出します。必修・選択必修科目→選択科目の順に時間割に書き込みます。
必修・選択必修科目は、高学年に進んでから単位不足に気づき、卒業年次になってから、多くの科目を履修することのないように、配当年次で履修することをおすすめします。
- ⑨ **kyonet** の「学生時間割表」でクラス指定された授業を確認します。
(時限を重複して登録はできませんので、下書き用紙に書き出した時間割に変更が必要か確認し、計画を立て直してください。)

- ⑩ 前期開講科目と通年科目で履修しようとする「抽選登録」の科目を指定された期間中に **kyonet** で履修登録します。(抽選にもれた場合は、他の曜日・時限の科目を選択するか、後期や次年度に履修してください。)
- ⑪ 指定された期間に **kyonet** でその他の前期開講科目と通年科目を履修登録します。
- ⑫ **kyonet** の「学生時間割表」で、再度登録した科目を確認し、必修科目など登録し忘れないかチェックします。
- ⑬ 時間割が確定したら、教科書販売一覧を見て、一覧に載っているテキストは、指定の期間内に指定の方法で購入します。一覧にない科目については、授業担当者に確認してください。
- ⑭ 授業開始4週目経過後(予定)の一定期間内に「履修中止期間」を設けています。履修を中止したい授業科目がある場合、担任(アカデミック・アドバイザー)(122 ページ参照)に履修相談をし、認められた場合に中止できます。(127 ページ参照)

<後期履修登録> ※後期開講科目のみ対象

- ① 履修しようとする科目の授業内容を共立シラバスで確認します。
- ② 履修しようとする科目の開講曜日・時限を **kyonet** またはホームページの時間割で確認します。
- ③ 前期・後期・通年各科目単位数の合計が履修登録上限単位内に収まるように、履修計画を立てます。
(授業の予習・復習する時間を考えて、年間 38 ~ 40 単位を目安に計画することをおすすめします。)
(各科で半期ごとに履修できる上限が設定されています。121 ページ参照
必ず上限を確認の上、履修計画を立てるようにしてください。)
- ④ 履修しようとする科目の履修条件を確認します。
- ⑤ 各自が履修しようとする時間割を下書き用紙に書き出します。必修・選択必修科目→選択科目の順に時間割に書き込みます。
必修・選択必修科目は、高学年に進んでから単位不足に気づき、卒業年次になってから、多くの科目を履修することのないように、配当年次で履修することをおすすめします。
- ⑥ **kyonet** の「学生時間割表」でクラス指定された授業を確認します。
(時限を重複して登録はできませんので、下書き用紙に書き出した時間割に変更が必要か確認し、計画を立て直してください。)
- ⑦ 後期開講科目で履修しようとする「抽選登録」の科目を指定された期間中に **kyonet** で履修登録します。(抽選にもれた場合は、他の曜日・時限の科目を選択するか、次年度に履修してください。)
- ⑧ 指定された期間に **kyonet** でその他の後期開講科目を履修登録します。
- ⑨ **kyonet** の「学生時間割表」で、再度登録した科目を確認し、必修科目など登録し忘れないかチェックします。
- ⑩ 時間割が確定したら、教科書販売一覧を見て、一覧に載っているテキストは、指定の期間内に指定の方法で購入します。一覧にない科目については、授業担当者に確認してください。
- ⑪ 授業開始4週目経過後(予定)の一定期間内に「履修中止期間」を設けています。履修を中止したい授業科目がある場合、担任(アカデミック・アドバイザー)(122 ページ参照)に履修相談をし、認められた場合に中止できます。(127 ページ参照)

履修登録上限単位

- (1) 学科によって、1年間に履修登録できる単位の上限、前期・後期それぞれの学期に履修登録できる単位の上限は以下のように決まっています。

| 学科 | 学年 | 上限単位数 | | | 成績優秀者 | |
|-------|----|-------|----|----|-------|--------------------|
| | | 年間 | 前期 | 後期 | 上限単位数 | 上限緩和の条件 |
| | | | | | 年間 | |
| 生活科学科 | 1 | 40 | 24 | 24 | - | - |
| | 2 | 40 | 24 | 24 | 44 | 前年度までの通算 GPA3.0 以上 |
| 文科 | 1 | 40 | 24 | 24 | - | - |
| | 2 | 40 | 24 | 24 | 44 | 前年度までの通算 GPA3.0 以上 |

<生活科学科・文科共通の注意事項>

- ① 通年科目の単位数は2分の1にし、前期、後期それぞれに算入します。
- ② 各期の上限単位数内であっても、その合計が年間の上限単位数を超えることはできません。
(例) 上限単位数が年間 40 単位、前期 24 単位・後期 24 単位の学科の場合
 - ・前期に 22 単位登録した場合、年間の上限単位数が 40 単位のため、後期は 18 単位までの登録が認められます。
 - ・前期に 10 単位登録した場合、年間の上限単位数が 40 単位のため、後期の登録は 24 単位までとなります。
- ③ 成績優秀者については年間の上限単位数を設け、前期・後期の上限単位数は設けません。
- ④ 認定単位（入学前既修得単位、本学が開設する認定科目の単位）はこの中に含まれません。
- ⑤ 単位互換協定による授業も年間履修登録上限単位数に含まれます。
- ⑥ 転学科した学生は転学科先の上限単位数の適用となります。
- ⑦ 後期に履修登録する場合、前期の不合格（D 評価または X 評価）単位数も年間の履修登録上限単位に含まれますので、注意してください。

<生活科学科の注意事項>

- ① チャレンジ・ゼミナール（就職・編入チャレンジ）の単位は含みません。
- ② 2年次の後期には、通年科目を含めて4単位以上履修しなければいけません。
- ③ 他コース・他学科科目も履修できますが、修得した単位は8単位を上限として専門教育科目選択科目に含めることができます。
- ④ 転コースした者も上記上限単位が適用になります。

<共立女子大学と共立女子短期大学の単位互換制度について>

本学は大学と短期大学間の単位互換協定を締結しています。

これにより所属する大学の学部・短期大学の学科にはない科目を相互に受講することができます。詳細は **kyonet** でお知らせします。

<千代田区キャンパスコンソにおける単位互換制度について>

千代田区キャンパスコンソは、千代田区内の徒歩圏にキャンパスを有する大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、法政大学により、2018年4月1日に設立されたコンソーシアムです（2023年には専修大学が加入し、参加大学は6大学となりました）。千代田区（関係団体等を含む）、地域産業界等が、近接の立地等を生かした連携を図ることにより、学生の学びや社会の人材養成に対する要請など多様なニーズに適切に対応することを目的としています。

上記協定を締結した大学・短期大学の授業を履修し、修得した科目は単位認定を行います。

履修を希望する学生は、教務課で手続きが必要です。詳細は、**kyonet**でお知らせします。

<担任（アカデミック・アドバイザー）について>

本学には、担任（アカデミック・アドバイザー）制度があります。担任（アカデミック・アドバイザー）とは、履修方法や成績を向上させるための方法、進路に関することなど、学生生活全般について相談、アドバイスを行う専任教員のことです。各年次に最低一度は担任（アカデミック・アドバイザー）との面談を実施しますが、面談以外にも学生生活を送るうえで必要な時にいつでも相談することができます。

<オフィスアワー>

本学ではオフィスアワーを定めています。オフィスアワーとは、教員が学生の訪問を受けるために研究室などあらかじめ指定した場所に待機している時間帯のことです。

履修に関することや進路、学生生活全般に関する質問・相談をすることができます。各教員のオフィスアワーは、**kyonet**にて、確認してください。

なお、会議や出張等により在室できない場合もあります。

オフィスアワー以外の時間帯でも教員の研究室等を訪問することができます。

8. 既修得単位の認定

他の短期大学または大学、高等専門学校、その他を卒業または中途退学し、新たに本学科の1年次に入学した場合、修得済みの単位を、生活科学科および文科は30単位を超えない範囲で、本学において修得したものと認定される場合があります。

認定を希望する学生は所定の期日までに教務課まで願い出てください。（入学前に準備する必要あり。「(入学前)やることチェックリスト」参照）

9. 試 験

試験は学則にもとづき大学が学生に対して授業科目所定の課程修了を認定する方法です。試験に合格した場合は授業科目所定の単位を与えます。不合格の場合は再履修して、試験に合格しなければ単位は与えられません。

(1) 試験の方法

試験はそれぞれの授業科目に応じて、筆記・口述・レポート・論文・作品の制作・実技等によって行います。

(2) 試験の種類

試験の種類は次のとおりです。

| 種 類 | 内 容 |
|-----------|--|
| 平 常 試 験 | 授業担当者が学修の到達度を確認するために授業内で行う試験をいいます。 |
| 定 期 試 験 | 授業とは別に設けた定期試験期間に行う試験をいいます。定期試験期間は学年暦（kyonetの「リンク集」に掲載）に示しています。 |
| 追 試 験 | 病気その他やむを得ない理由で定期試験を欠席した学生のうち、所定の手続きをした者に対して行う試験です。 |
| 再 試 験 | 卒業期の学生で試験に不合格となり卒業できない者のうち、教授会の許可を得たものに対して行う試験です。 |
| 再 評 価 試 験 | 1年次で試験または追試験に不合格となった者に対して行う試験です。 (生活科学科のみ) |

(3) 受験資格

受験資格は次の通りです。受験資格のない者が試験を受けても無効であり、単位は与えられません。

- (1) 当該科目の履修登録をしていること。
- (2) 出席時間数が実質授業総時間数の2/3以上あること。なお、遅刻、早退は3回をもって欠席1回に換算します。
- (3) 当該期の学費を納入していること。

(4) 追試験

- (1) 病気、交通機関の事故等による遅れやその他やむを得ない理由により定期試験を欠席する場合は、当該試験科目の**開始前に教務課**へ連絡してください。本人が連絡できない場合は、代理人（父母またはそれに代わる者、ただし友人は不可）でかまいません。

連絡先は本学 HP の「お問い合わせ」を参照してください。

- (2) 該当する科目の定期試験実施日を含めて5日以内（5日目が教務課の閉室日に当たるときは、その翌開室日の正午まで）に **欠席理由を証明するもの**（病気等で医師の診療を受けた場合は試験日当日の病院の領収書等）を添え、教務課に「追試験願」を申請してください。申請受付時間等はkyonetでお知らせします。

なお、欠席理由が学校保健安全法施行規則に定める学校感染症に罹患した場合の「追試験願」提出期限は、本学が定める登校停止の基準に応じて決定します（<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/campus/support/health/> 参照）。ただし、いかなる場合であっても、申請期限を猶予できる限度は、当該申請対象科目の追試

験実施日前日までとします。教務課への連絡時に必ず学校感染症に罹患した旨申し出てください。

- (3) 時間割の見間違い等、本人の怠慢、不注意による場合は、追試験を受けることができません。
- (4) 前期の定期試験の追試験は8月に（通年の科目については実施しない場合もあります。）、後期定期試験の追試験は2月中に行います。
- (5) 追試験の成績は2割以内の範囲で減点されます。

※ 追試験の受験料は1科目につき2,000円です。

(5) 再試験

- (1) 再試験は卒業期学生を対象に行われるものです。原則として最終の試験の結果、卒業要件単位に達しない者のうち、卒業年度の不合格科目（D）の単位数が生活科学科は10単位、文科は12単位以内で、教授会の許可を得た者が受験することができます。
- (2) 出席不良、レポート未提出の理由で評価対象外（^{エックス}X）と判定された科目は再試験の対象となりません。
- (3) 再試験の受験が認められた場合は、2月中旬に教務課から連絡します。再試験は2月下旬に実施されます。
- (4) 受験する者は、教務課に「再試験願」を提出してください。
- (5) 再試験で合格した場合の評価は「C」になります。

※再試験の受験料は1科目につき3,000円です。

(6) 再評価試験（生活科学科）

- (1) 再評価試験は、試験、追試験を受けて、既修得単位数が18単位以上、22単位未満で、不合格科目（評価D）単位数が、既修得単位数とあわせて進級に必要な単位数以上であり、通算GPAが0.6以上の見込みがある1年次の学生が受けることができます。
- (2) 受験できる科目数は、進級に必要な単位数までとします。
- (3) 再評価試験に対する追試験は行いません。
- (4) 受験する学生は、教務課に「再評価試験願」を提出してください。
- (5) 再評価試験で合格した場合の評価は、「C」になります。

※再評価試験の受験料は1科目につき、3,000円です。

夏休み等に海外旅行（研修）をする場合は、試験等と重ならないよう計画を立ててください。旅行等で試験を受けられない者に対して特別の試験や追試験の資格は与えられません。また、期末試験終了後の春休みに海外旅行（研修）をする場合は、オリエンテーション、履修登録に間に合うように注意してください。

(7) 試験中の不正行為

試験中、不正行為があった場合は学則により教授会の議を経て懲戒処分されます。

懲戒処分は、訓告、停学および懲戒処分としての退学とし、当該学生および保証人に対しその旨が通知されます。

懲戒となった学生は次の資格を失います。

- ①不正行為のあった科目の当該年度における受験資格
- ②諸資格に関する科目の履修登録および資格の申請

(8) レポートの提出

レポートの提出は、**kyonet**を使った**Web**提出のほか、紙による提出等があります。詳細については授業担当者の指示にしたがってください。

(9) 受験の際の注意事項

※アラーム時計、携帯電話、スマートフォン、モバイル端末等は、必ずその機能を解除して袋・バッグ等に入れてください。これらは時計としても使用できません。

(1) 試験場においてはすべて監督の指示に従い、これに反した場合は退場を命ぜられます。

(2) 学生証は写真が見えるようにして通路側の机の上に置いてください。

学生証を携帯していない者は、受験が許可されないため、試験当日、学生証を忘れた場合は事前に教務課に申し出て「試験受験許可証」の交付を受けてください。

(3) 机には筆記用具および試験監督の指定したもののみ出してください。

その他の物は袋・バッグ等に入れてください。

(4) 受験中の私語や、物品の貸借は禁止です。

(5) 受験した場合はどのような理由があっても答案用紙を提出してください。提出しない場合は不正行為に準じて処罰されます。

(6) 試験場への入場は不可抗力による場合、試験開始後 30 分以内の遅刻に限り認められます。ただし、試験時間は延長されません。30 分以上遅刻した場合はただちに教務課に連絡してください。

(7) 試験に関する連絡は時間割等発表後も変更する場合がありますので、注意してください。

(10) 成績

<評価>

履修した授業科目の評価は、試験の結果等によって判定され、合格した場合に科目所定の単位が与えられます。評価の基準は下記のとおりです。

| 合否 | 評価 | 点数 | 評価の基準 | グレード・ポイント (GP)(※3) | 成績証明書の記載 |
|-----|----|----------------------|----------------------------|--------------------|----------|
| 合格 | S | 100～90点 | 到達目標を超えたレベルを達成している | 4.0 | S |
| | A | 89～80点 | 到達目標(※1)を達成している | 3.0 | A |
| | B | 79～70点 | 到達目標と単位修得目標の間にあるレベルを達成している | 2.0 | B |
| | C | 69～60点 | 単位修得目標(※2)を達成している | 1.0 | C |
| 不合格 | D | 59点以下 | 単位修得目標を達成できていない | 0.0 | 記載されません |
| | X | 受験資格なし、試験放棄、レポート未提出等 | | 0.0 | |
| 合格 | P | 認定 | 単位認定の要件を満たしている | 対象外 | P |

※1 到達目標…授業で扱う内容を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。

※2 単位修得目標…授業を履修した学生が最低限身につける内容を示す目標です。到達目標を達成するにはさらなる学修を必要としている段階です。

※3 グレード・ポイント(GP)…各科目の成績をその評価に応じて5段階に分けてポイント化したものです。

- (1) 前期終了科目は後期授業開始前後に、通年科目と後期終了科目を含めた当該年度のすべての成績および GPA 値は **kyonet** で確認することができます。
- (2) 単位の修得について疑問のある場合は、指定された期間に教務課に申し出て確認してください。

<GPA>

本学では、学生の主体的な学習を支援し、その学習成果に関しては厳正な成績評価を行っています。さらに学生が自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく真剣な学習に役立つように、履修した全科目の成績の平均を数値で表した GPA (Grade Point Average/ グレード・ポイント・アベレージの略) を算出しています。高等学校の学習成績の状況のように学業結果を総合的に判断する指標となります。

この GPA は、学習の質を評価する成績評価の国際標準となっており、合格した科目だけではなく、不合格や受験不可の科目も成績算出対象となるのが大きな特徴のひとつです。したがって、学生には自分の履修に対して、より真剣に取り組むことが求められます。

また、教員は学生の履修指導に GPA を活用します。履修指導以外にも、進学時・就職時の推薦基準や、奨学金支給等の参考資料として活用します。

(1) GPA の主な内容

GPA は、学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものです。本学の GPA の算出式は下記に示すとおりです。

- ①履修登録科目の成績に応じて与えられた各科目のグレード・ポイントに、各科目の単位数をかけて合計します。
- ②①で得られた値を履修登録科目の総単位数で割り、四捨五入により小数点第一位まで表示したものが GPA となります。

$$\frac{(\text{科目の成績評点 [GP]} \times \text{単位数}) + (\text{科目の成績評点 [GP]} \times \text{単位数}) + \dots}{\text{登録科目の総単位数 (「D」「X」の単位数も含む)}}$$

※ 「P (認定)」は、計算式に含まれません。

※ 不合格科目 (D 評価) や放棄科目 (X 評価) は、計算式に含まれます。

- ③ GPA は **kyonet** の成績照会から確認できます。成績証明書には通算 GPA が記載されます。

※ GPA 計算は GPA 計算期日 (前期は 9 月中旬、後期は 2 月中旬) までに確定した成績に基づいて計算されます。

④ GPA の活用について

1) GPA が低い学生に対しては、次の対応を行います。

- 学期の GPA が 1.4 以下となった学生に対しては、本人を呼び出し、担任 (アカデミック・アドバイザー) による注意と指導を行います。
- 学期の GPA が 2 学期連続 1.4 以下を、または在学期間のうち、3 学期分がそれ以下となった学生に対しては、本人および保証人 (保護者等) を呼び出し、担任 (アカデミック・アドバイザー) による注意と指導を行います。
- 学期の GPA が 3 学期連続 1.4 以下を、または在学期間のうち、4 学期分がそれ以下となった学生に対しては、学生の状況に応じ、卒業の見込みを教授会で審議の上、退学を勧告する場合があります。

2) GPA が高く、学業が特に優秀と認められる学生に対しては、教授会で審議の上、表彰を行うことがあります。

⑤履修中止制度について

履修登録をしたものの、授業内容が学修したいものと異なっていたり、授業を理解するための基礎知識が不足していることなどの理由により、履修を継続することが難しく、単位の修得が困難であると考えられる場合、不合格となることで GPA が下がることを回避するために、履修中止制度が設けられています。

履修中止は、授業開始 4 週目経過後に、本人が所定の手続きにより申請し、担任（アカデミック・アドバイザー）に履修相談をしたうえで認められた場合のみ履修中止ができ、科目の登録が取り消されます。

履修中止の対象科目は、必修科目・選択科目を問わず全ての科目が対象です。前期開講科目および通年科目については前期に、後期開講科目については後期に、それぞれ履修中止を申請することができます。

履修中止を行わず、学期途中で履修を放棄した場合は不合格となります。不合格後に履修中止を行うことはできません。

10. 進 級

1 年次から 2 年次に進級するためには、以下の 2 つの条件をいずれも満たす必要があります。

生活科学科

- ① 卒業に必要な 62 単位のうち 22 単位以上を修得していること。
- ② 通算 GPA が 0.6 以上であること。

なお、既修得単位数が 18 単位以上の場合は再評価試験により、進級できる場合があります。

（詳細は 124 ページ）。

文科

- ① 卒業に必要な 62 単位のうち 22 単位以上を修得していること。
- ② 通算 GPA が 0.6 以上であること。

11. 海外留学・研修

(1) 海外留学

| | 「留学規程」による留学 | | 「休学」による留学 | |
|-----------------------|--|--|--|---|
| | 交換留学・派遣留学・一般留学 | | 単位認定を希望する場合 | 単位認定を希望しない場合 |
| 留 学 先 | 協定校・認定校 | | | 留学先の大学等は限定しません。 |
| 資 格 | 本学に1年以上在学し、留学する前年度までに30単位以上を修得した者 交換留学と派遣留学を希望する学生は募集要項に従って応募し、選考に通過する必要があります。 | | 全学生(学則による「休学」の規程範囲内)に適用 | |
| 手 続 き | (1) 留学許可手続き 留学期間となる本学の学期開始日又は本国出国予定日のうちいずれか早い日の2ヵ月前までに以下の書類を提出する。 「留学願」、「留学計画書」、 「入学又は受入の許可を証明する書類の写し」 ※希望者は履習の特例欄を参照し、「継続履修願」も提出する。 ※認定校への留学の場合は、「留学先機関の概要及び教育内容等がわかる書類(大学案内等)」も提出する。 許可された留学計画を変更する場合は、変更の1ヵ月前までに必要な書類を提出する。 (2) 帰国後手続き 帰国後1ヵ月以内に以下の書類を提出する。 「帰国届」、「在学期間が明記された書類の写し」 ※希望者は単位認定欄を参照し、「単位認定願」等を提出する。 ※手続きについては各様式を確認のうえ、対応してください。 | | (1) 留学3ヵ月前までに教務課に相談する。 (2) アカデミック・アドバイザー(担任)に相談する。 (3) 留学期間となる本学の学期開始日又は出国予定日のうち、いずれか早い日の2ヵ月前までに教務課に以下の書類を提出。 「留学願(休学による留学)」「留学計画書(休学による留学)」「休学願」 ※希望者は「継続履修願(休学による留学)」も提出。 (4) 帰国後1ヵ月以内に以下の書類を教務課に提出し、履修登録の手続きを行う。 「復学願」「単位認定願」「成績証明書」「単位修得した科目のシラバス、授業時間数」 | (1) 留学2ヵ月前までに教務課に相談する。 (2) アカデミック・アドバイザー(担任)に相談する。 (3) 留学期間となる本学の学期開始日1ヵ月前までに教務課に以下の書類を提出する。 「休学願」 (4) 帰国後、学期の始まる1ヵ月前までに以下の書類を教務課に提出し、履修登録の手続きを行う。 「復学願」 |
| 期 間 | 原則として6ヵ月あるいは1年間 本学の学期を単位とする。在学年数に参入できる期間は1年が限度となる。 | | 留学期間の定めなし。ただし、休学の期間については113ページを参照のこと。 <帰国後も同年度> | |
| (希望者のみ) 履 修 の 特 例 | 後期より留学を開始する学生が留学開始の年度始めに履修登録した通年科目について、予め「継続履修願」をもって申請し承認を受けることにより、留学期間終了後の後期より当該授業科目を継続して履修することができます。(科目により許可されない場合があります) | | | |
| (希望者のみ) 単 位 認 定 | 外国の大学等において修得した単位のうち、本学教授会が適当と認めたものは、30単位を超えない範囲で卒業に必要な単位として認められることがあります。 単位認定に必要な書類「単位認定願」「履修した授業科目名等の一覧」「成績証明書及び科目の内容が説明された書類」を帰国後手続き時に提出する必要があります。 | | | |
| 留 学 中 の 本 学 へ の 納 入 金 | 施設設備維持費のみ納入 ※授業料・実験実習料は免除する。 | | 在籍料 | 半期休学 5万円 1年間休学 10万円 |
| 奨 学 金 | 本学の国際交流奨学金等に応募ができます。 | | 本学の国際交流奨学金等は受けられません。 | |

◇交換留学(協定校)

イギリス：ランカシャー大学
 ポーランド：SWPS大学
 中国：中国人民大学、広東外語外貿大学
 フランス：イナルコ(フランス国立東洋言語文化)大学
 スイス：ジュネーブ大学

◇派遣留学(協定校)

アメリカ合衆国：セントラルワシントン大学、ペンシルベニア大学、ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ(★)
 イギリス：リーズ大学
 ニュージーランド：ワイカト大学
 カナダ：カルガリー大学
 オーストラリア：ロイヤルメルボルン工科大学
 中国：北京語言大学 東京校

◇一般留学(協定校・認定校)

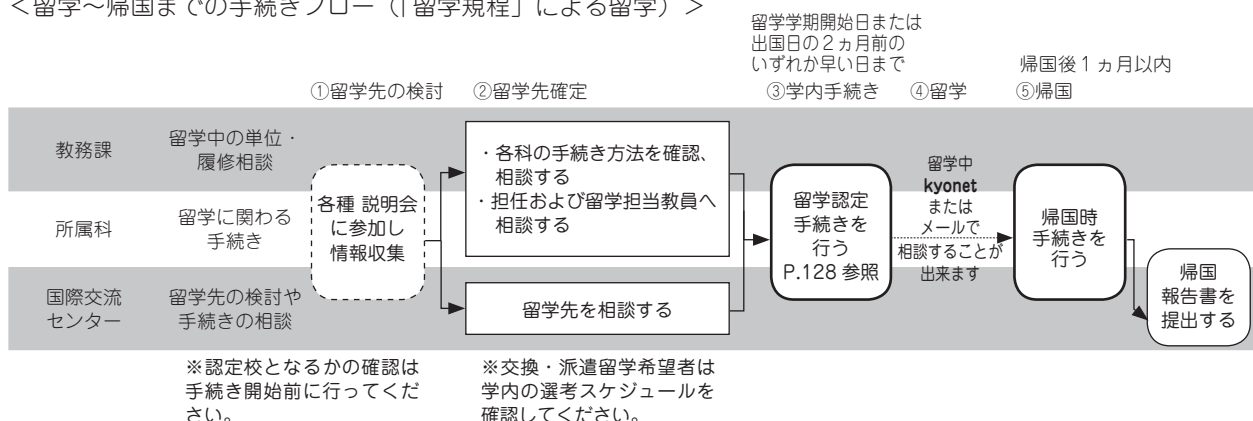
認定校は、大学・短期大学あるいは大学・短期大学の付属の語学学校(もしくはそれに準ずる学校)であることを基本的な要件とし、プログラム内容を勘案して決定します。認定校については留学先の手続き開始前に所属学科の教員に予め相談してください。留学を希望する学校が認定校と認められない場合は、単位認定のされない休学留学となり、卒業期等への影響も大きくなります。

★ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジでは、ダブル・ディグリー取得(留学先の学位も取得)留学も可能です。ご興味のある方は、本学HPを確認してください。

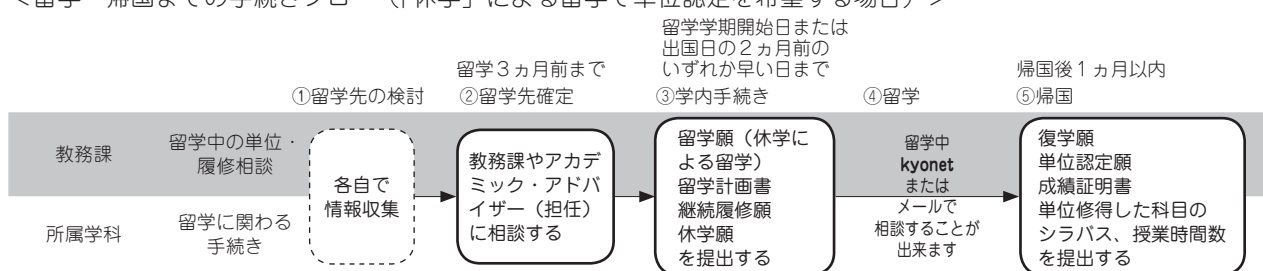
・留学に関する詳細は国際交流センターまでお問い合わせ・ご相談ください。
 ・提出書類は本学HPよりダウンロードして提出してください。

(2) 留学の手続きの流れ

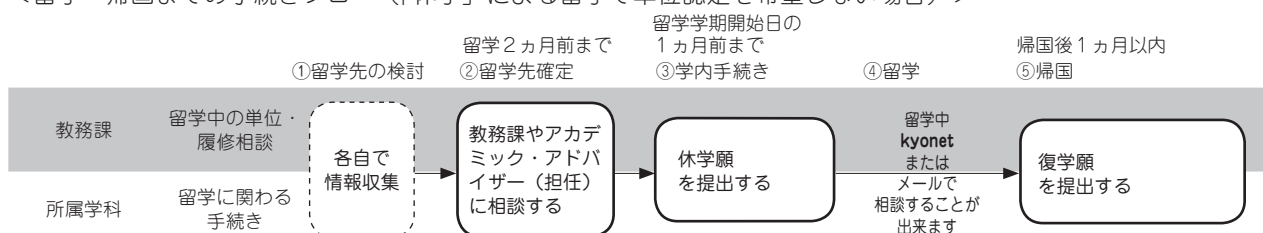
<留学～帰国までの手続きフロー（「留学規程」による留学）>



<留学～帰国までの手続きフロー（「休学」による留学で単位認定を希望する場合）>



<留学～帰国までの手続きフロー（「休学」による留学で単位認定を希望しない場合）>



(3) 海外研修

海外研修は、夏季及び春季休暇中に海外の協定校等で行われる短期集中プログラムです。

1. 目的 外国語の習得と異文化体験
2. 研修地

| | | |
|------|----------------------------|-----------------------------|
| 〈夏季〉 | アメリカ | ハワイ大学 マノア校（ハワイ） |
| | イギリス | オックスフォードジーザスカレッジ*（オックスフォード） |
| | フランス | アンジェ西部カトリック大学（アンジェ） |
| | ★アメリカとイギリスの研修を隔年で実施する予定です。 | |
| 〈春季〉 | 中国 | 広東外語外貿大学（広州） |
| | ニュージーランド | ワイカト大学（ハミルトン） |
| | 韓国 | 高麗大学（ソウル） |

※ただし、研修は CIE Oxford が実施

3. 研修内容 語学研修、アクティビティ
宿泊先：学生寮、ホームステイまたはホテル（研修先により異なります。詳細は募集要項を確認してください。）
4. 単位認定 教養教育科目「自己開発 A」（2単位）として単位の申請を行うことができます。教務課からの案内に従って、「活動報告書」「単位認定願」等を提出してください。授業担当者及び共通教育センター運営会議が内容を審査し、承認されれば単位認定されます。評価は「P」になります。詳細は、共立シラバスを参照してください。
※ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジでのダブル・ディグリー取得留学を検討している場合、申請について予め国際交流センターへご相談ください。
※文科 グローバル・コミュニケーションコースの学生は文科専門科目での認定もあります。詳細は、共立シラバスを参照してください。

- ・心身の状態により団体行動に適さないと大学が判断した場合は、研修開始直前あるいは開始後であっても参加をお断りすることがあります。
- ・世界情勢その他の理由により研修を中止または、内容を変更することがあります。
- ・卒業期の学生については、春季海外研修の単位は認定されません。

12. 全学共通副専攻制度

Major in Anything. Minor in Leadership.[®]

(主専攻は様々な専門分野、副専攻はリーダーシップ)

所属する学部・科等の体系的にまとめられた教育課程に沿って学修する内容を主専攻と呼び、主専攻以外の分野の授業科目を体系的に学修する内容を副専攻と呼びます。教養教育について、以下に記した修了要件を満たすことで、副専攻（Leadership）の修得を証します。

(1) 全学共通副専攻制度の趣旨

本学の教養教育は、大学・短期大学ビジョン（KWU ビジョン）に掲げる「自律と努力」、「創造とキャリア」、「協働とリーダーシップ」を踏まえ、KWU ビジョンの基盤となる能力を養成することを目的に編成しています。科目区分は「自律と努力コア」、「創造とキャリアコア」、「協働とリーダーシップコア」に分かれています。その中で「協働とリーダーシップコア」は3つのコアの中での上位目標であるため、「自律と努力コア」、「創造とキャリアコア」、「協働とリーダーシップコア」の順序で履修年次にも配慮した体系的かつ階梯性のあるカリキュラムとなっています。

副専攻の名称は、上位目標となる「協働とリーダーシップコア」の目標が「他者と協働し、リーダーシップを発揮するための基礎的な能力を養う」としていることを踏まえ、「リーダーシップ」といたします。

(2) リーダーシップの意味

一般的に、リーダーシップというと「リーダーがグループをマネジメントする時に発揮するもの」と考えられ、この場合、命令の出し方と同義語となります。しかし、KWU ビジョンに掲げるリーダーシップは、リーダーというポジションではなく、メンバーであってもチームの成果を生み出すために、皆と目標を共有し、率先して動き、他者を巻き込み、助け合うことで、チームにポジティブな影響を与えていく力を発揮することと捉えております。詳細は、「協働とリーダーシップコア」の科目で学修します。

(3) 全学共通副専攻制度の修了要件

- ・「自律と努力コア」から「基礎ゼミナール」を含む2単位以上修得
- ・「創造とキャリアコア」から「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」を含む8単位以上修得
- ・「協働とリーダーシップコア」から2単位以上修得

上記3点の条件を満たした上で、所属する学部・科等の教養教育の卒業要件を満たし、教養教育の人材養成目的を達成することを修了要件とします。なお、修了証明書の授与にあたっては、学生自身による「振り返り」を求め、これをもって授与とします。修了した学生は、「ディプロマ・サブリメント」*でその旨が証されます。

*「ディプロマ・サブリメント」とは、本学が授与する学位記の補足資料として、皆さんの学修成果や正課外活動を可視化する証明書です。

(4) 全学共通副専攻制度の履修から修了までの流れ

| | |
|-------|---------------------------------|
| Step1 | 全学共通副専攻制度の修了要件を満たす。 |
| Step2 | 「全学副専攻修了希望申請」を行う。 |
| Step3 | 「振り返り」を行う。 |
| Step4 | 「ディプロマ・サブリメント」により修了していることを確認する。 |

※「全学副専攻修了希望申請」「振り返り」「修了証明書の申請、発行、受領」についての詳細は、別途お知らせいたします。

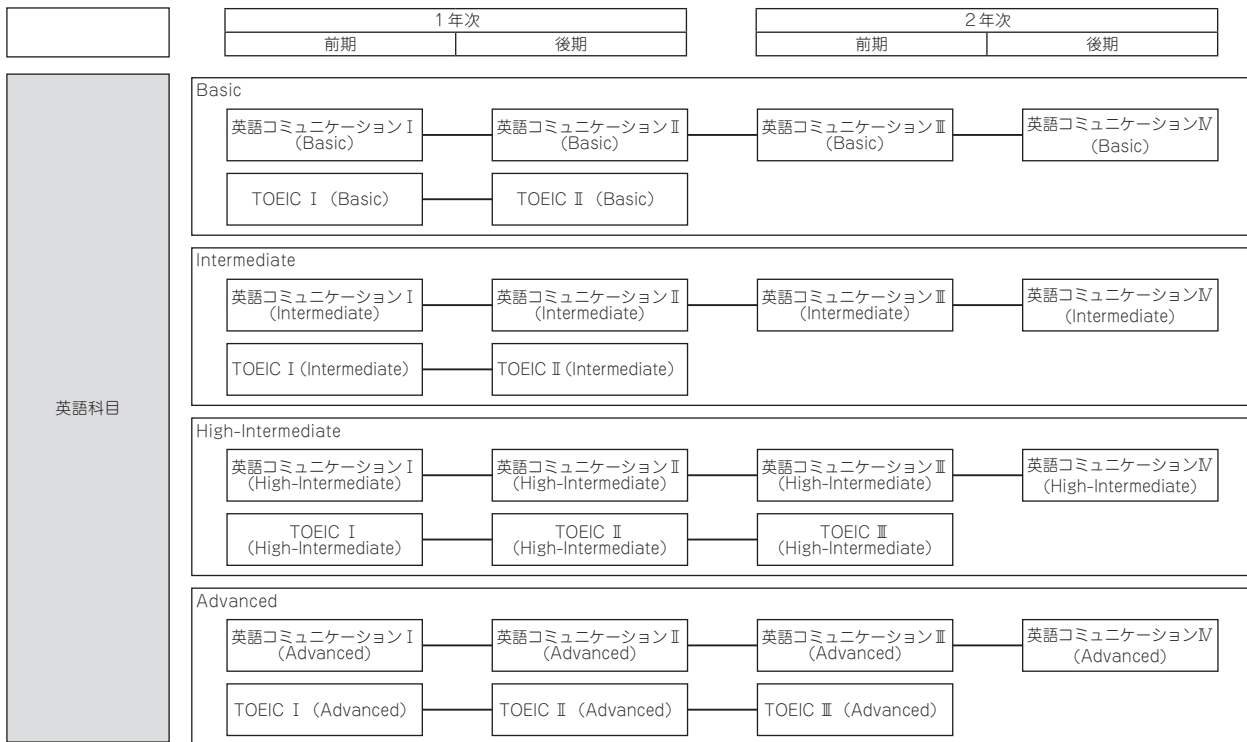
13. 英語教育プログラム (KEIT 〈ケイト〉)

共立女子短期大学では、「日常生活、職場等の社会生活において英語を活用したコミュニケーションを取ることができる女性の育成」を目的として、教養教育科目において英語教育プログラム（「Kyoritsu English Intensive Training (KEIT)」）を開設しています。

(1) プログラム概要

本プログラムは週1回の「英語コミュニケーション」科目および週2回の「TOEIC」科目（オンデマンド授業含む）から構成され、集中的に英語を学習することで高度な英語運用能力の獲得を目指します。また、本プログラムの受講者は入学前に行うプレイスメントテストのスコアによって、4段階のレベル（Basic、Intermediate、High-Intermediate、Advanced）に分けられ、レベルに応じた科目を履修することで効果的に英語運用能力を伸ばすことができます。

【レベルごとの KEIT 履修イメージ】



※ 「KEIT」の履修を希望しない学生は、「英語コミュニケーション I、II」のみの履修となります。TOEIC 科目の履修を希望する学生は「KEIT」への申込が必要となります。なお、履修する科目のレベルはプレイスメントテストのスコアに基づき決定されます。

※ 「KEIT」対象科目を履修し、指定された条件を満たすことで、Kyoritsu サーティフィケート制度の認定を受けることができます。

(2) 英語運用能力の測定方法

各科目終了時にアチーブメントテスト（到達度テスト）を受験し、プレイスメントテスト（入学前実施）との比較によって英語能力の成長度合いを確認します。

(3) レベルごとの英語運用能力の目標

本プログラムを受講する学生はプレースメントテストのスコアに基づき4段階のレベルに分けられます。レベルごとのTOEIC目標スコアおよび英語運用能力の到達目標は下記のとおりです。

- ・ Basic : 500点～（企業が新入社員に期待するレベル）
- ・ Intermediate : 600点～（上場企業の一般社員に求められるレベル）
- ・ High-Intermediate : 700点～（海外部門で働くことができるレベル）
- ・ Advanced : 800点～（海外赴任や英語での会議ができるレベル）

(4) カリキュラム、履修条件、卒業要件

カリキュラム

- ・「KEIT」を受講する学生は、レベルごとに用意された科目を原則としてすべて履修することが必要です。

履修条件

- ・「英語コミュニケーション」「TOEIC」ともに階梯性のあるカリキュラムとなっているため、履修条件が設けられています。履修条件の詳細は、「4. 教養教育科目の履修上の注意点」（16ページ）を参照してください。

卒業要件

- ・「KEIT」を受講する学生は、各学部・科の卒業要件のほか、レベルごとに定められた科目を履修・修得することを推奨しています。「KEIT」の受講を希望しない学生は、「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を履修することで英語科目の卒業要件を満たすことになります。

14. Kyoritsu サーティフィケート制度

Kyoritsu サーティフィケート制度とは、プログラムごとに指定された条件を満たすように授業を履修し単位を修得、または単位を修得し、所定の成績基準を満たした場合に、サーティフィケート（修了証）が授与される制度です。なお、本制度では修了証としてデジタル証明書であるオープンバッジが授与されます。このオープンバッジは、修得した能力の証明を学修歴として可視化するものです。

オープンバッジとは

世界共通の技術標準規格に沿って発行されるデジタル証明書です。様々な機関からのバッジを統一して管理することで生涯学修履歴を構築することができます。また、ブロックチェーン技術を取り入れており、実質的に偽造・改ざんが不可能なため、信頼性の高い証明書として近年国内外を問わず導入されています。さらに、受領したオープンバッジを就職活動などにおいて示すことによって、修得した能力を証明することが可能となり、修得した能力や知識を可視化することにより、学修計画を組み立てる上で参考となることが期待されます。詳細については、**kyonet** リンク集「Kyoritsu サーティフィケート制度」を参照してください。

15. 科目等履修

卒業したのち、在学中に履修できなかった科目を、科目等履修生として履修することができます。

- ・ 手続き場所：教務課
- ・ 出願期間：前期および後期授業開始前
- ・ 手続きに要する費用：科目等履修登録料＝16,000円 科目等履修料＝1単位につき12,000円
手続きを完了した者には、「科目等履修生証」を交付します。
- ・ 授業および試験に関しては正規の学生と同一の規程を適用します。
- ・ 科目によっては履修が認められないこともありますので、手続き時に確認してください。
- ・ 履修することができる授業科目の単位数は、30単位までです。
- ・ 履修した授業科目に出席し、試験（レポートを含む）を受けて合格した場合は、教授会の議を経て単位が与えられ、必要のある場合は単位取得証明書を発行します。
- ・ 短大在学中に学部で1・2年生に開講する科目を科目等履修生として受講し、単位を取得することもできます。詳細は教務課にお問合せください。

16. 編入学

短期大学等を卒業して4年制の大学に中途入学することを編入学といいます。

編入先の大学を卒業するには、卒業に必要な単位数から認定単位数（短大で修得した単位のうち編入学時に認められた単位数）を差し引いた残りの単位数を2年間（または3年間以上）で修得することになります。編入学はおよそ以下のように行なわれます。

共立女子大学へ編入学する場合

入試・広報課が担当しています。学内の編入学制度には、「特別推薦編入学」と「一般編入学」があります。「試験要項」については、**kyonet**でご案内します。

1. 編入学することができる学部、学科、コース、専修

家政学部一被服学科 / 食物栄養学科（食物学専攻のみ）

文芸学部一文芸学科（日本語・日本文学専修 / 英語・英語圏文学専修 / フランス語・フランス文学専修 / 劇芸術専修 / 美術史専修 / 文化専修 / 文芸メディア専修の各コース）

国際学部一国際学科

ビジネス学部一ビジネス学科

建築・デザイン学部一建築・デザイン学科

2. 募集人員、試験方法、認定単位数等の詳細は、「編入学試験要項」を参照してください。

ビジネス学部へ編入する場合は、2年次への編入となります。なお、事前に修得しておく授業科目がありますので、ご確認ください。

他大学へ編入学する場合

学生支援課が担当しています。推薦編入学受験可能な大学の試験情報については、希望者に**kyonet**でご案内します。推薦・一般とも入試時期は大学により異なります。

編入学に関する資料は、キャリアセンターの資料室で閲覧することが可能です。6月と10月には「編入学ガイダンス」を実施し、基本的な情報収集から筆記対策まで詳しい説明があります。

17. 履修に関するQ & A

Q：卒業要件単位について説明してください。

A： 卒業するために必要な最低の修得単位数をいいます。決められた合計単位数を修得するだけでなく、授業科目区分ごとに定められた必要単位を修得しなければなりません。
所属学科の卒業要件「卒業に必要な最低単位数」を参照してください。

Q：選択必修について説明してください。

A： 必ず履修し、単位を修得しなければならない必修科目に対し、指定された複数の科目から決められた単位数を修得する科目をいいます。
卒業に必要な単位以上に修得した分は選択科目単位としてカウントされます。

Q：履修登録科目を変更することはできますか？

A： 原則として、一度登録した科目を変更することはできません。履修登録は十分確かめたうえで手続きをしてください。

Q：2年次で1年次に設置されている科目を履修することができますか？

A： 自分の年次より高年次に設置されている科目を履修することはできません。一方、低年次に設置されている科目は履修することができますが、できるだけ設置されている年次で単位を修得するよう心がけてください。

Q：不合格になった科目を再度登録することはできますか？

A： 不合格になった科目（評価：D、X）は、翌年度以降に登録することができます。また、不合格になった科目が前期科目の場合は、指定期間内に、同年度の後期に追加して登録することもできます。ただし、合格した科目を再度登録することはできません。

Q：授業を欠席しなければならなくなった場合、どうすればいいでしょうか？

A： 本学では、授業欠席に対する特別な扱いはありませんが、やむを得ない理由で欠席しなければならないことが事前に分かっている場合は、授業担当者に連絡してください。また、病気等で急に欠席してしまった場合は、次の授業の際に授業担当者に申し出てください。
1週間以上続けて欠席する場合は、「欠席届」を出してください。期末試験の受験資格に抵触することもありますので、やむを得ない理由以外の欠席はしないよう注意してください。

Q：病気や、やむを得ない理由で試験に欠席するときはどうすればいいでしょうか？

A： かならず**試験開始前に教務課**に連絡をし、指示を受けてください。連絡先は **kyonet** でお知らせします。

Q：「休学」はいつまでに申し出ればよいですか？

A： 原則、各学期の授業期間開始日前日までに申し出てください。1 学期を通して、1 回も授業を受講できない場合（オンデマンド授業含む）が休学の対象となります。1 回でも授業を受講した場合は、当学期の休学対象にはなりません。その他の条件は、113 ページおよび 140 ページ～ 142 ページ共立女子短期大学学則第 9 章を確認してください。

Q：教養教育科目を要件単位以上履修した場合はどうなりますか？

A： 余裕があれば履修するのはかまいませんが、卒業要件になるのは各学科のカリキュラム表に記載してある単位までです。

Q：他学科・他コース科目は制限単位以上履修することはできますか？

A： 他学科・他コースの科目のみならず、共立女子大学と共立女子短期大学の単位互換制度、千代田区キャンパスコンソにおける単位互換制度に該当する科目について、生活科学科では 8 単位まで、文科でも 8 単位まで、専門教育科目の選択科目として卒業要件に含めることができます。それ以上は、卒業要件には入りませんが、履修することができます。

Q：KWU 高大連携プログラムとは何ですか？

A： 本学への進学を検討している提携校の高校生が、入学前に本学の授業を受講できるプログラムのことです。

本学では、24 時間いつでも学生のみなさんからの質問に対応できるよう、公式 AI チャットボット「KWU Chat（キューチャット）」を導入しています。ぜひご利用ください。



Ⅲ 諸規程等

1. 共立女子短期大学学則

第1章 総 則

第1条 本短期大学は、学生の主体的な学びを育み、専門の学芸を教授し、職業または實際生活に必要な能力と幅広く深い教養および総合的な判断力を培うとともに、誠実で豊かな人間性を涵養し、社会に広く貢献する自立した女性を育成することを目的とする。

2 前項の規定に基づき、本短期大学の各科等の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については、第3条に定める。

第1条の2 本短期大学は、前条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行ない、その結果を公表する。

2 前項に関する規定は別に定める。

3 本短期大学は、第1項の措置に加え、本短期大学の教育研究等の総合的な状況について、一定の期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた機関による評価を受ける。

第1条の3 本短期大学は、教育研究活動の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供する。

第2章 学科の組織および修業年限

第2条 第1条の目的を達成するため、本短期大学に生活科学科および文科をおく。

第3条 第1条第2項の規定に基づき、本学の各科等の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的について、以下のとおり定める。

(1) 生活科学科

生活科学科の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子短期大学の人材養成目的に基づき、「学生自身の積極的な学習意欲を引き出し、社会において自立した人間として活躍するために、生活に関する実践的な知識・技能を身につけ、家庭および社会において、生活者としてそれらを活用する能力を養い、豊かな教養に基づき、思いやりのある誠実で協調性に富んだ女性を育成する」ことである。

(2) 文科

文科の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子短期大学の人材養成目的に基づき、「学生自身が自らの将来を切り開いていくために自ら積極的に学ぼうとする意欲を引き出し、ひとりの自立した人間として成長していくための、表現する能力、コミュニケーションの能力、理解する力、豊かな文化的教養、社会に出て役立つ実践的な知識等を涵養し、そして、他者を思いやり人のために尽くす生き方ができるような誠実で友愛に溢れた人間性を持つ女性を育成する」ことである。

第4条 生活科学科および文科の修業年限は2年とする。ただし、在学年数は各修業年限の2倍を限度とする。

第3章 修業年限、学年、学期および休業日

第5条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月20日まで

後期 9月21日から翌年3月31日まで

2 前項の学期は、それぞれ2つの期間（クォーター）に分けることができる。

第7条 休業日は次の通りとし、夏季、冬季、春季の休業日の期間は毎年度学長が定める。

- ① 日曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日
- ② 本学創立記念日（10月18日）
- ③ 夏季休業日
- ④ 冬季休業日
- ⑤ 春季休業日

ただし、休業日においても必要ある場合は、授業を行なうことがある。

2 必要がある場合は、学長は前項の休業日を臨時に変更し、または臨時の休業日を定めることができる。

第4章 教職員組織

第8条 本学に学長をおく。

2 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

第8条の2 本学に副学長および学生部長をおくことができる。

2 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

3 学生部長は、学長を助け、命を受けて学生に関する校務をつかさどる。

第8条の3 各学科に科長をおく。

2 科長は、学科に関する校務をつかさどる。

第8条の4 各学科に主任をおく。

2 主任は、科長を助け、命を受けて学科に関する校務をつかさどる。

第9条 本短期大学に教授、准教授、講師、助教および助手をおく。

第10条 本短期大学に事務職員をおく。

第11条 本短期大学に教授会をおく。教授会は学長および教授をもって構成する。ただし、必要ある場合は准教授、講師および助教を加えることができる。

第12条 教授会は短期大学に関する次の事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- ① 学生の入学、卒業および課程の修了
- ② 学位の授与
- ③ 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。

2 教授会は、前項に規定するもののほか、短期大学の教育研究に関する事項について審議し、および学長、科長

の求めに応じ、意見を述べることができる。

第5章 授業科目および単位数

第13条 生活科学科および文科の授業科目は教養教育科目および専門教育科目に分ける。

第14条 生活科学科の授業科目および単位数は別表第1の通りとする。

第15条 文科の授業科目および単位数は別表第2の通りとする。

第15条の2 削除

第16条 各授業科目の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

- ① 講義および演習については、15時間から30時間までの範囲で本短期大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- ② 実験、実習および実技については、30時間から45時間までの範囲で本短期大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して本短期大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- ④ 前3号の規定にかかわらず、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

第16条の2 1年間の授業を行なう期間は試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

第16条の3 本短期大学は、学生に対して、授業の方法および内容ならびに1年間の授業の計画をあらかじめ明示する。

2 本短期大学は、学修の成果に係る評価および卒業の認定に当たっては、客観性および厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。

第16条の4 本短期大学は、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究を実施する。

第16条の5 本短期大学は、第16条に規定する講義、演習、実験、実習および実技による授業科目について、教育上有益と認めるときは、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

2 前項の授業の方法により修得する単位数は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、30単位を超えないものとする。

第6章 履修方法

第17条 各学科の授業科目は教授会の定める教育課程に従い、各年次に配当する。学生は原則として、各年次に配当された授業科目を履修するものとする。

第18条 学生は履修しようとする授業科目を毎学期始め、所定の期日までに届け出なければならない。

第18条の2 本学は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるものとする。

2 本学は、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生および相当の理由があると認める学生については、前項に規定する単位数の上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

第19条 学生は所属の学科によって、それぞれ次の単位を含めて62単位以上修得しなければならない。

① 教養教育科目

(生活科学科) 14単位

(文科) 16単位

② 専門教育科目

生活科学科 48単位

文科 46単位

2 削除

3 第1項に定める単位数のうち、生活科学科および文科においては、他学科の別に定める授業科目および他短期大学との間で協定を結んだ単位互換科目について修得した単位を、6単位を限度として教養教育科目として認めることができる。

第19条の2 教育上有益と認めるときは、他の短期大学または大学との協議により、学生が当該他の短期大学等において履修した授業科目について、30単位を超えない範囲で本短期大学において修得したものとみなすことがある。

2 前項の規定は、学生が、外国の短期大学または大学に留学する場合および外国の短期大学または大学が行なう通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

3 前2項の規定については別に定める。

第19条の3 教育上有益と認めるときは、学生が行なう短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本短期大学における授業科目の履修とみなし、必要な単位を与えることがある。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項および第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

3 前2項の規定については別に定める。

第19条の4 教育上有益と認めるときは、学生が本短期大学に入学する以前に短期大学または大学において修得した単位(第40条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。)を本学において修得したものとみなすことがある。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する以前に行なった前条第1項に規定する学修を、本学における履修とみなし必要な単位を与えることがある。

3 前2項により修得したものとみなし、または与えることのできる単位数は、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第19条の2第1項および前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。この場合において第19条の2第2項により、本学において修得したものとみなす単位数と合わせるときは、45単位を超えないものとする。

4 前3項の規定については別に定める。

第20条 削除

第7章 別科（生活科学専修）

第21条 削除

第22条 削除

第23条 削除

第24条 削除

第25条 削除

第26条 削除

第27条 削除

第8章 学生定員

第28条 各学科の学生定員は次の通りとする。

| | 入学定員 | 収容定員 |
|-------|------|------|
| 生活科学科 | 100名 | 200名 |
| 文科 | 100名 | 200名 |

第9章 入学、休学、復学、退学、転学、編入学、転科、留学、再入学 および除籍

第29条 入学の時期は学年または学期の始めとする。

第30条 本短期大学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当するものとする。

- ① 高等学校または中等教育学校の後期課程を卒業した者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）
- ③ 外国において学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- ④ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

- ⑤ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ⑥ 学校教育法施行規則第150条4号において文部科学大臣の指定した者
- ⑦ 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（廃止前の大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- ⑧ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

第31条 入学志願者に対しては選抜試験を行なう。

第32条 入学志願者は、入学志願書および出身学校長から提出する調査書を所定の期日までに提出し、本学則第52条に規定する入学検定料を納入しなければならない。

第33条 選抜試験に合格し、所定の期日までに本学則第52条に規定する納入金を納め、保証人連署の誓約書を提出した者に対して入学を許可する。

- 2 保証人は父または母とし、父母のない場合はこれに代わるべき者で、独立の生計を営み、保証人としての責務を確実に果たし得る者でなければならない。
- 3 本短期大学は保証人として不相当と認めるときは、その変更を命ずることがある。
- 4 学生が保証人を変更するときは、新旧保証人連署してただちに届け出なければならない。また、保証人が住所、氏名を変更したときは、ただちに届け出なければならない。

第34条 病気その他止むを得ない理由によって1学期以上就学できない者は、保証人連署のうえ願い出て、教授会の議を経て休学の許可を得なければならない。ただし、休学の期間はその学年度内とし、願い出によって、引き続き1年以内休学することができる。

- 2 休学の期間は通算して2年を超えることはできない。
- 3 休学の期間は本学則第4条に規定する修業年限および在学年数に算入しない。

第35条 休学者が復学しようとするときは、保証人連署のうえ願い出て、教授会の議を経て許可を得なければならない。

- 2 復学の時期は学期の始めとする。

第36条 病気その他止むを得ない理由によって退学しようとする者は、保証人連署のうえ願い出て、教授会の議を経て許可を得なければならない。ただし、願い出た期日を含む学期の授業料その他の学費を納入していなければならない。

第37条 他の短期大学から本短期大学に転学を志願する者があるときは、本短期大学に欠員がある場合に限り、選考のうえ、教授会の議を経てこれを許可することがある。

- 2 本短期大学から他の短期大学に転学を志願する者があるときは、願い出の理由によって教授会の議を経てこれを許可することがある。

第37条の2 本短期大学に編入学を志願する者（学校教育法の規定により、大学への編入学が認められた専修学校専門課程を修了した者。）があるときは、本短期大学に欠員がある場合に限り、選考のうえ、教授会の議を経てこれを許可することがある。

第37条の3 削除

第37条の4 本短期大学の学生で他の学科へ転科を願い出る者があるときは、選考のうえ、教授会の議を経てこれを許可することがある。

2 転科に関する必要事項は、別に定める。

第 37 条の 5 外国の短期大学あるいはこれに相当する高等教育機関に留学を希望する者は、教授会の議を経て留学することができる。

2 前項の留学期間は、1 年を限度として在学年数に算入することができる。

3 留学に関する必要事項は、別に定める。

第 38 条 本学則第 36 条によって退学した者または第 38 条の 2 第 1 号、第 3 号から第 5 号の規定により除籍された者が、2 年以内に再入学を願い出るときは、選考のうえ、教授会の議を経てこれを許可することがある。ただし、入学の時期は本学則第 29 条によるものとする。

2 再入学に関する規程は別に定める。

第 38 条の 2 次の各号の一に該当する者は教授会の議を経て除籍する。

- ① 本学則に定める期限までに授業料等の学費を納入していない者
- ② 本学則に定める在学年限を超えた者
- ③ 本学則に定める休学期間を超えた者
- ④ 長期間にわたり行方不明の者
- ⑤ 本学所定の期日までに履修しようとする授業科目の届け出がない者

2 前項各号の取扱いについては別に規程を定める。

第 39 条 学生が住所、氏名および本籍地を変更したときは、ただちに届け出なければならない。

第 10 章 科目等履修生、単位互換履修生、外国人学生および委託生

第 40 条 次の各号に該当する者が、本短期大学の授業科目中その一部について履修を願い出るときは、学生の学修に支障のない場合に限り、選考のうえ、科目等履修生として入学を許可することがある。

- ① 本学則第 30 条の各号の一に該当する者
 - ② 学長が当該授業科目を履修することのできる十分な学力を有すると認める、学校教育法第一条に定める高等学校に在学する者
- 2 他の大学又は短期大学の学生で、大学間もしくは複数の大学との間の協定に基づき、特定の授業科目を定め履修を希望するものがあるときは、本学の教育に支障のない限り、選考の上、単位互換履修生として許可することがある。
- 3 科目等履修生、単位互換履修生として履修し、試験に合格した者には、その授業科目所定の単位を与えることができる。
- 4 科目等履修生、単位互換履修生に関して必要な事項は別に定める。

第 41 条 科目等履修生として履修を許可された者は、本学則第 52 条に規定する科目等履修登録料および科目等履修料を所定の期日までに納入しなければならない。ただし、第 40 条第 1 項第 2 号に規定する者で、科目等履修生として履修を許可された者は、科目等履修登録料および科目等履修料を徴収しない。

第 42 条 削 除

第 43 条 削 除

第 44 条 外国公館の証明のある外国人で、入学を志願する者があるときは、特別の選考のうえ、外国人学生とし

て入学を許可することがある。

第 45 条 他の大学、短期大学または公共機関から委託生として推薦された者が、学修を願い出るときは、学生の学修に支障のない場合に限り、これを許可することがある。

第 46 条 外国人学生および委託生の授業料その他の納入金については、科目等履修生に準ずる。

第 47 条 科目等履修生、外国人学生および委託生については、本章の規定のほか正規の学生に関する規定を準用する。

第 11 章 課程修了の認定

第 48 条 授業科目修了の認定は試験による。

第 49 条 試験の方法は、筆記試験のほか、口述試験、レポート、論文および実技等による。

2 試験の成績は、S、A、B、C、Dをもって表わし、S、A、B、Cを合格とする。

3 試験に合格した学生には、その授業科目所定の単位を与える。

4 試験に不合格となった授業科目については、再履修しなければ試験を受けることができない。

第 50 条 病気その他止むを得ない理由によって試験に欠席した者は、所定の期日までに願い出て許可を得た場合に限り、追試験を受けることができる。

第 12 章 卒業および学位の授与

第 51 条 本短期大学を卒業するためには、学生は2年以上在学し、本学則第 19 条に規定する単位数を別表第 1 および第 2 の中から修得しなければならない。

第 51 条の 2 本短期大学に2年以上在学し、本学則に規定する授業科目および単位数を修得した学生については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

2 削除

第 51 条の 3 前条の規定により卒業した者には、本学学位規程の定めるところにより短期大学士の学位を授与する。

第 13 章 学費その他

第 52 条 入学金、授業料、施設設備維持費、実験実習料、科目等履修登録料および科目等履修料の納入額並びに納入方法は、別表納入額第 1 の 1 の通りとする。

2 入学検定料は別表納入額第 1 の 2 の通りとする。

第 53 条 本人および保証人の連署で所定の期間内に入学辞退の申し出のあった者に限り入学金以外の納入金を返還する。

第 53 条の 2 経済的理由によって授業料等学費の納入が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者またはその

他止むを得ない事情があると認められる者で、当該学科を経て願い出たときは、授業料等学費の徴収を猶予することができる。

2 授業料等学費の徴収の猶予に関する規程は別に定める。

第53条の3 休学の場合は在籍料として半期休学の場合は5万円を、1年間休学の場合は10万円を納めなければならない。

2 申し出の時期については別に定める。

第53条の4 学期の途中で退学を願い出た場合、納入済みの授業料、施設設備費、実験実習料は返還しない。未納の場合は納入しなければならない。

2 申し出の時期については別に定める。

第54条 本学則において特段の定めがある場合を除き、授業料等の学費を納入していない者は試験を受けることができない。

第55条 削除

第56条 削除

第57条 削除

第58条 削除

第14章 賞 罰

第59条 学業が特に優秀な者または学生の模範となる行為をした者は、教授会の議を経て学長がこれを表彰することがある。

第60条 本短期大学教育の趣旨に背き、または学生の本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て学長がこれを懲戒する。

2 懲戒は訓告、停学および退学とする。

3 退学は次の各号の一に該当する者に対して行なう。

- ① 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- ② 学力劣等で成業の見込がないと認められる者
- ③ 正当の理由がなくて出席常でない者
- ④ 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第15章 附属施設、研究所およびセンター

第61条 本短期大学に図書館、総合文化研究所、その他教育研究上必要な附属施設およびセンターをおく。

2 各附属施設、研究所およびセンターに関する規程は別に定める。

第16章 公開講座

第62条 公開講座は教授会の議を経て随時開設する。

第17章 学生寮

第63条 本短期大学に学生寮を付設する。

2 学生寮に関する規程は別に定める。

附 則

本学則は昭和25年4月1日からこれを施行する。

〈省略〉

附 則

1. この改正学則は平成31年4月1日から施行する。
2. 平成30年度以前に入学した者については、従前の例による。

附 則

1. この改正学則は令和2年4月1日から施行する。
2. 平成31年度以前に入学した者については、従前の例による。ただし、第53条の3はその限りではない。

附 則

1. この改正学則は令和3年4月1日から施行する。
2. 令和2年度以前に入学した者については、従前の例による。ただし、第16条の5についてはその限りではない。

附 則

1. この改正学則は令和4年4月1日から施行する。
2. 令和3年度以前に入学した者については、従前の例による。

附 則

この改正学則は令和4年9月21日から施行する。

附 則

1. この改正学則は、令和5年4月1日から施行する。
2. 令和4年度以前に入学した者については、従前の例による。
ただし、第18条についてはその限りではない。

附 則

1. この改正学則は、令和5年4月1日から施行する。ただし、第52条第2項は令和5年度入学試験から適用する。
2. 令和4年度以前に入学した者については、従前の例による。ただし、第18条についてはその限りではない。

附 則

1. この改正学則は、令和6年4月1日から施行する。
2. 令和5年度以前に入学した者については、従前の例による。ただし、第6条、第7条および第8条、第8条の2、

第8条の3および第8条の4についてはその限りではない。

附 則

1. この改正学則は、令和7年4月1日から施行する。
2. 令和6年度以前に入学した者については、従前の例による。ただし、第52条第1項のうち、納入方法についてはその限りではない。

附 則

1. この改正学則は、令和8年4月1日から施行する。
2. 令和7年度以前に入学した者については、従前の例による。

別表納入額第1の1

納入額

| | 生活科学科 | 文科 |
|------------------|-----------|-----------|
| 入 学 金 | 150,000 円 | 150,000 円 |
| 授 業 料 (年額) | 800,000 円 | 800,000 円 |
| 施設設備維持費 (年額) | 410,000 円 | 380,000 円 |
| 実 験 実 習 料 (年額) | 50,000 円 | — |
| 科目等履修登録料 | 16,000 円 | 16,000 円 |
| 科目等履修料 (1 単位につき) | 12,000 円 | 12,000 円 |

納入方法

1. 授業料および施設設備維持費、実験実習料（以下「納入金」という。）は半額ずつ前期分は4月30日まで、後期分は10月20日までに納入するものとする。
2. 休学期間中は在籍料として半期休学の場合は5万円を、1年間休学の場合は10万円を納めなければならない。
3. 標準修業年限を超えた学生の納入金は、上記1にかかわらず、標準修業年限を超えた学期における卒業要件不足単位数に応じて、以下のとおりとし、前期の場合は4月30日、後期の場合は10月20日までに納入する。
 - ①卒業要件不足単位数が10単位以内の場合は納入金の年額の8分の1
 - ②卒業要件不足単位数が11単位から25単位の場合は納入金の年額の4分の1
 - ③卒業要件不足単位数が26単位以上は納入金の年額の2分の1
4. 再入学者の入学金は徴収しない。

別表納入額第1の2

| | 生活科学科 | 文科 |
|-----------|----------|----------|
| 入 学 検 定 料 | 35,000 円 | 35,000 円 |

* 大学入学共通テスト利用選抜の検定料は20,000円とする。

* 一般選抜（全学統一方式）特別割引について以下の通りとする。

- ・ 複数出願する大学学部の検定料は一学部・学科につき5,000円とする。
- ・ 複数出願する短期大学の検定料は一学科につき5,000円とする。

* 一般選抜（2月日程、3月日程）において、同一試験日で複数出願する場合は一般選抜（全学統一方式）特別割引に準ずる。

*併設高校出身者（既卒者を含む）が共立女子大学・短期大学を受験するにあたって、二つ以上の入学試験もしくは二学部・学科・科以上を受験する場合、検定料として35,000円を超えた検定料は徴収しないこととする。

*一旦納入された入学検定料は返金しない。ただし、下記の事由に該当する場合は申請により返還することがある。

- ・入学検定料を納入したが、出願しなかった場合
- ・出願が受理されなかった場合
- ・入学検定料を誤って二重もしくは過剰に納入した場合

3. 共立女子大学・共立女子短期大学学生懲戒規程

(目的)

第1条 共立女子大学学則第54条、共立女子大学大学院学則第71条および共立女子短期大学学則第60条にもとづき、学生の懲戒に関して必要な事項を定める。

(懲戒の対象となる者)

第2条 この規程において懲戒の対象となる者は、学部、大学院、短期大学各科に所属する学生のことをいう。

2 研究生、科目等履修生、特別聴講学生、外国人学生および委託生の取扱いは、この規程の定めるところによる。

(懲戒の対象となる行為)

第3条 この規程において懲戒の対象となる行為は、次の行為をいう。

- (1) 刑事法上、処罰の対象となる行為
- (2) (1)の対象とはならないが他者に心身の苦痛または財産上の損失を与える行為
- (3) 本学の教育・研究活動、他の学生の学習を妨害する行為
- (4) 論文執筆等における学問的倫理に反する行為
- (5) 試験における不正行為
- (6) 本学の学則および規程に違反する行為
- (7) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反する行為

2 前項各号について、別に規程が定められている場合は、その規程にしたがう。

(懲戒の種類)

第4条 懲戒の種類は、訓告、停学及び退学とし、それぞれの懲戒について以下の通りとする。

- (1) 訓告 学生の行った行為について反省を求め、口頭または書面をもって戒めることをいう。
- (2) 停学 一定期間、通学停止を命じ、自宅で謹慎させることをいう。
- (3) 退学 学生の身分をはく奪することをいう。

(調査委員会の設置および構成員)

第5条 第3条に定める懲戒の対象となる行為またはその疑いとなる行為が発生したときは、学生が所属する学部等の長は、学長にその旨を速やかに報告する。

2 学長は、前項の報告を受けて、調査委員会を設置する。

3 調査委員会の構成員は、以下の通りとする。

- (1) 当該学生が所属する学部長・研究科長・科長
- (2) 当該学生が所属する学科・専攻・コースの主任
- (3) 学生支援課長
- (4) 教務課長
- (5) その他、学長が必要と認める若干名

4 調査委員会の委員長は、前項第1号の委員がこれにあたる。

(懲戒処分の決定)

第6条 調査委員会は、当該学生および関係者から事情聴取等の調査を行い、事実関係を確認する。

2 調査委員会は、原則として当該学生に弁明の機会を与えなければならない。

3 調査委員会は、調査の終了後、調査内容および懲戒処分案を明記した報告書を作成し、学長に提出する。

4 学長は、報告書を受理したときは、教授会または研究科委員会の議を経て、懲戒処分の内容を決定する。

(懲戒処分・通知)

第7条 懲戒は、学長が行う。

2 学長は、学生および保証人に対し懲戒の種類・内容およびその理由を文書により通知する。

(再調査の請求)

第8条 懲戒を受けた学生は、正当な理由があるときは、通知を受けた日から1週間以内に再調査を請求することができる。

2 再調査を請求しようとする学生は、再調査請求書を学長に提出しなければならない。

(再調査の実施)

第9条 学長は、再調査の必要があると認めるときは、調査委員会に対して再調査を指示する。

2 学長は、再調査の必要がないと認めるときは、速やかにその旨を文書により当該学生に通知する。

3 学長は、再調査に必要と認める者を調査委員会に加えることができる。

4 再調査の処理については、第6条および第7条の規定に準ずる。

5 再調査の結果により懲戒処分の内容を変更したときは、学長は既に行った懲戒処分を取り消す等必要な措置を講じなければならない。

(事務の所管)

第10条 この規程に関する事務は、学生支援課が行う。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は、学長の承認を得るものとする。


附 則 この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、2020(令和2)年9月1日から施行する。

IV 伝達 他

学外からの学生の住所・電話番号等に関する問い合わせには一切応じていません。大学からと偽って自宅や留自宅に住所・電話番号を問い合わせたり、学外に呼び出したりするケースもありますが、本学では、学生を学外に呼び出したり、プライバシーに関する内容を電話で連絡することは行なっていません。不審な電話には、決して応じないよう注意してください。

Web ページアドレス

| ページ名称 | URL |
|-----------------|--|
| 共立女子大学・共立女子短期大学 | https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/  |

個人情報の取り扱いについて

学校法人共立女子学園（以下「本学園」と言います。）では「個人情報保護方針」を制定し、本学園ホームページで公開するとともに、学園全体で個人情報保護に取り組んでいます。共立女子大学および共立女子短期大学（以下「本学」と言います。）は、個人情報保護に関する法令ならびに「共立女子学園個人情報保護規程」を遵守し、本学が入学予定者、学生から取得する個人情報を以下の通りに取り扱います。

■ 個人情報の利用目的

取得した個人情報は、下記の目的のために適正に利用いたします。

- ・学籍管理、履修管理、成績管理、学費情報管理、国内外研修および留学等、学生の学修支援を行うため（成績、出席状況についての保証人への情報開示と保証人との連絡、履修・成績・進路相談を含む）
- ・他校との単位互換協定に基づく学生の相互派遣に関する業務のため
- ・学外実習（教育実習、介護等体験、臨地実習等）に関する業務のため
- ・学生生活相談、課外活動支援、奨学金管理、保健衛生管理等、学生生活支援を行うため
- ・進路指導、就職活動支援、進路就職情報管理等、進路就職支援を行うため
- ・学生への通知・連絡（掲示を含む。）のため
- ・学内施設・設備の利用管理、保安管理のため
- ・各種証明書および学生証・学位記発行のため
- ・奨学事業を行う団体、卒業生等で組織する団体、学生等の父母で組織する団体等、に必要情報を提供するため
- ・出身高等学校への学修状況、学生生活状況等の情報提供を行うため
- ・教育内容の広報または PR のため
- ・大学評価（自己点検評価・第三者評価・認証評価等）、各種統計調査のため
- ・教育、研究、FD 活動のため
- ・その他、本学の管理・運営に関する業務に必要な事項を処理するため

上記に加え、本学卒業後、本学園からの情報提供、各種依頼のために利用いたします。

■ 個人情報の管理

個人情報は、法令および共立女子学園個人情報保護規程に則り、漏洩・滅失・毀損等がないよう安全に管理します。

■ 同窓会（一般社団法人共立女子学園櫻友会）への提供

機関誌の発送、櫻友会主催の事業（行事・講習・催し物）に関する連絡、支部との連絡に利用します。

■ 本学園関連会社（株式会社ウイズ・ケイ）への提供

学園に関わる各種業務のために利用します。

■ 個人情報の提供を伴う業務委託

本学は、個人情報の取扱を含む業務の一部を個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結した上で、外部の事業者
に委託することがあります。

■ 個人情報の第三者提供

取得した個人情報は、上記以外には、原則として事前に本人の同意を得ることなく第三者に提供いたしません。

なお、個人情報の保護に関する法律その他の法令に基づき、法令の定める要件を満たし、利用目的の達成に必要な範囲で本法人が承認し、かつ本学ホームページ等を通じて第三者提供に関する事項を公表した場合には、個人情報を第三者に提供することがあります。ただし、同ホームページ上に掲載している第三者提供の停止手続をとった場合は提供しません。

その他諸規程について

本学ホームページ「学則及び諸規程」(<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/culture/curriculum/regulations/>)に掲載していますのでご覧ください。



2026 履修ガイド
共立女子短期大学
(生活科学科、文科)

〒 101-8437 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1

URL <https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/>

学籍番号

氏名

kyoritsu